

---

---

## はじめに

### - シラバスをどう読むか -

経済学部長 中 村 泰 将

#### 1. シラバスとその意義

この経済学部のシラバス (syllabus) は、経済学部の学生に対して 2001 年度に開講される講義科目について、その授業内容の具体的な授業計画を「講義概要」として公表するものである。公表される授業内容は、1 年間で半年ごとに「前学期」と「後学期」に分けて、各授業時間毎に明示され、教員はその授業計画 (シラバス) にそって授業をすすめることになる。

各科目の授業計画をあらかじめ学生に知らせる意味は、諸君がどのような科目を履修するかの手助けになることは言うまでもないが、計画的な授業の準備を行うことによって学習の効果をあげることにもなる。

これらの授業科目の内容の妥当性、有効性は、全学的に実行されている学生による「授業評価」すなわち「授業改善のためのアンケート」により点検・評価される。これらの点検・評価にあたっては、授業科目に関する具体的な内容ないしシラバスが重要な役割をもつので、諸君は常に、シラバスと授業内容について関心を持たなくてはならない。

#### 2. セメスター制と授業の受け方

経済学部では、2001 年度の入学生より、セメスター制を導入します。これまでは通年 1 年を通じて授業を受け単位を取得するのに対して、セメスター制は、1 年を「前学期」と「後学期」とに分け、それぞれのセメスター (学期) ごとに 2 単位を取得する方式である。

セメスター制は、半期ごとに授業評価ができるので 1 年をまたないで自分の学習計画を設定でき、またシラバスからもわかるように、「前学期」と「後学期」の授業について、半年ごとに授業計画が示されるので、より明確なたちで授業を受けることができる。

#### 3. コース制と授業科目の選択

経済学部には、コース制 (選択) を 2001 年度より導入します。コース制とは、1 年次から 4 年次にわたって体系的・系統的な科目履修ができるように、一定のコー

---

---

---

スを設けて、専門科目を系統的に学習できるようにすることである。

学生諸君は 1 年次、および 2 年次に設けられている科目群の中から、一体どのような科目を選択してよいか、また 1、2 年次で選択した科目が 3、4 年次の専門科目とどのように結びつくのかについて何らかの指針が必要なのではなからうか。そのことによって、将来の自分の職業などを考える場合に、どのようなコースが諸君にとって有益であるかを 1 年、2 年次のうちから意識することが必要であると考えている。したがって、各コースの選択やコースに設けられている科目群を参照して、ゼミの教員などに相談しながら選択してほしい。2001 年度より、1 年次に「基礎ゼミ」が新たに開設されるので、科目選択およびコースの選択などについて、ゼミ教員からアドバイスを受けることができる。

経済学部では、コース制を設けることによって、将来どのような進路に興味があり、どのような専門領域を学びたいのかをガイドラインのかたちで諸君に示すことにしたのである。シラバスをみて、どの科目がどのコースに配置されているかを見てみよう。

#### 4. 「授業評価」と「授業改善のためのアンケート」

獨協大学では、経済学部および他の学部でも教育・研究の自己点検の一環として、学生からの教員に対する「授業評価」が実施されている。これは「授業改善のためのアンケート」調査である。評価をする学生側と評価を受ける教員側の文書によるコミュニケーションが図られる一方法である。

アメリカでは、その制度は相当古くから行われていて、学生による授業評価がアメリカでは、その制度は相当古くから行われていて、学生による授業評価が一番の教師は、Education Awards として大学新聞に公表される大学があるほどである。私がアメリカで見たいくつかの大学でのアンケート・データの回収率は 95%以上であった。

したがって、ここで、一番注意しなければならないことは、学生諸君がこのアンケートをどのように考えているかの意識の問題である。学生諸君は、自分が学んでいる大学あるいは学部・学科を本当に良くしたい、そのためには教員だけでなく、学生が一丸となって「授業の改善」をしていくという意識をお互いに共有しあっていかなければならない。受講者である学生はアンケートに対して積極的に、そして建設的な意見を出して欲しい。そしてせめて 70%以上の回答率になってはじめて授業改善のための双方向性が図られるのではないか。

#### 5. 授業方法の改善

授業の実施方法は、各授業科目の内容・性格と学生の理解能力の程度に応じた適切な方法が選択されなければならない。授業方法の適切性は、授業内容の改善と相まって、学生の学修を活性化するためにも必要である。授業を担当する教員は、大教室、中教室、小教室などの授業規模に適切に対応した授業方法や個別的指導をも

---

---

---

含めた授業内容の充実化を図ることが重要であり、教員各自が自発的に教育方法の改善を図るための努力をすることも必要である。教員による教育方法の自己点検、向上のための努力を促進するため、教員の教育能力を啓発するファカルティ・ディベロップメント ( Faculty Development ) が嵩じられていかなければならない。

#### 6. 経済学部の「経済学会」の活動

経済学部では、経済学会（詳しくは、「獨協大学経済学会への入会案内」を参照のこと）が組織されており、その基金でもってこれまでゼミ論文の出版助成金、学生の合宿その他のゼミ活動に対する施設利用の助成金、また、語学（TOEIC 講座）への資金援助等々と学生諸君の教育・研究活動に対して少なからず援助を続けてきた。またさらに今後その基金を学生諸君の教育・研究活動に対していろいろな方面に発展・活用させていきたいと考えている。したがって、学生諸君も、積極的に勉学に活用するよう期待している。

01 科目名	経済学 (経済学科1年必修科目共通シラバス)
98 科目名	
97 科目名	
担当者	経済学担当教員全員

#### 講義の目標

経済学科の学生にとって共通である経済学・経済理論の初等・入門コースがこの「経済学」であり、その故に1年次に配当され、しかも必修科目に指定されている。また、したがって、経済理論の本格的修得を目標として2年次に配当されているミクロ経済学とマクロ経済学(いずれも必修科目)の初等的概論ともなる。

このページは、経済学担当教員全員の共通シラバスであるので、受講する経済学の各担当者のページを併せて読み、共通する事項以外の指示・方針項目は、その担当教員の示す通りとする。

#### 講義概要

講義概要として共通していることは、年間を通じてミクロ・マクロの経済理論の概要が初級的に講義される。年間授業計画の中で、序論とミクロ経済学はほぼ前期に、マクロ経済学と国際経済の問題はほぼ後期に配当される。詳細は各担当教員のページを閲覧すること。

#### テキスト

各担当教員の指示による

#### 参考文献

中谷巖『入門マクロ経済学』日本評論社  
 伊藤元重『入門ミクロ経済学』日本評論社  
 ドーンブッシュ・フィッシャー/廣松訳『マクロ経済学(上・下)』マグロヒル  
 西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社  
 その他各担当教員の指示による。

#### 評価方法

出席状況、受講態度ならびに前期・後期の定期試験の結果等を総合判断して評価されるはずである。

詳細は各担当教員の方針による。

#### 受講者への要望

経済学科の学生にとっては最も基礎的入門コースであることを自覚してほしい。

#### 年間授業計画

1. 講義の内容ならびに年間授業スケジュールについては、各担当教員の方針が尊重されているので、そ

れに従っていただきたい。

2. ただし、各教員が共通して講義すべき内容事項については、以下に示した通りであり、経済学入門コースとして必要不可欠な知識・体系が用意されている。

3. 本学では外国語教育が重視されており、経済学部でもこの方針に従って、入学初年度より専門用語を含めて、できる限り英語を併用している。経済学の授業もこれに従い専門英語・経済英語を授業の中で併用して講義している。

#### 4. {講義の内容：担当教員共通}

- 講義の手順は各担当教員による -

序論 経済と経済学、経済学の目的・役割・方法、経済の循環、現代経済の諸問題

・ミクロ経済学

序 ミクロ経済学序論、価格分析

1. 消費の理論・消費者行動の原理・需要の法則  
 消費の選考、効用・限界効用、消費者の均衡点、価格・所得曲線、需要曲線、需要の法則、所得効果と代替効果、代替財(競争財)と補完財、価格・所得弾力性、消費者余剰、消費者主権

2. 生産の理論・生産者行動の原理・供給の法則  
 経済学上の生産とは、企業の費用分析、平均費用と限界費用、損益分岐点と操業中止点、供給曲線、限界費用曲線、供給の法則、短期・長期供給曲線、長期供給曲線と外部効果、技術進歩、地域経済の外部性と企業行動、技術進歩と長期費用逓減

3. 交換の理論・市場の原理・競争の問題  
 経済学上の市場とは、市場の機能、完全競争市場と不完全競争市場、独占の弊害と市場の失敗

4. 市場の失敗と外部性  
 私有財と公共財、外部経済・不経済、パブリック・グーティリティ、公的独占と公共料金、投票と納税

パレート最適と社会的厚生

・マクロ経済学

序 マクロ経済学序論、所得分析

1. 国民所得の諸概念  
 GDP(GNP)、個人(家計)可処分所得、資本減耗と引当、直接税・間接税、社会保険負担金・給付金  
 租税負担と補助金給付、家計消費支出、家計貯蓄(法人貯蓄、法人留保)

2. 国民所得水準と乗数の理論  
 総需要と総供給(総生産) 家計消費と消費関

数、貯蓄と投資、国民所得の均衡、乗数の理論、  
節換のパラドックス、集計需要・集計供給、潜  
在的産出量水準、完全雇用水準と物価水準、イ  
ンフレとデフレ、インフレと失業、フリップス  
曲線、景気の循環、経済成長、資本累積と技術  
進歩

3. 貨幣・金融市場と政府の経済的役割・金融政  
策

銀行の始まりと近代部分準備制度、金本位制・  
管理通貨（信用貨幣）制、銀行の預金創造、貨  
幣の需要と供給・中央銀行の役割、高馬力貨幣、  
中央銀行券（現金貨幣）、公定歩合政策、公開  
市場操作、準備預金と法定準備率の変更

4. 国民生産物市場と政府の経済的役割・財政政  
策

投資の限界効率表と企業の投資行動、民間企業  
の投資の変動性、不況と不完全雇用、長期停滞  
とスタフレーション、景気循環と赤字財政・  
黒字財政、長期的財政収支の均衡、IS - LM 曲  
線、ポリシー・ミックス

・国際経済の問題

経済の国際化・グローバリゼーション、貿易の利  
益、貿易理論、先進国と発展途上国、資本の移動  
と技術移転、経済総合

01 科目名	経済学 a・b
98 科目名	
97 科目名	
担当者	小林 進

#### 講義の目標

最近では経済学的重要性が増しているにもかかわらず、たとえば若い人の多重債務者の増加にみられるように経済学の基礎が十分に理解できていないことが憂慮されるので、1年生を対象にしたこの講義では特に経済理論の必要性を十分に理解できるように講義を進める。また身近な経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。

#### 講義概要

マクロ経済学を前半にそして後半にはミクロ経済学の初歩的概念を講義する。

#### テキスト

テキストなし

#### 参考文献

講義の中で指示する

#### 評価方法

前期、後期いずれも期末試験と平常の出欠を加味して評価する

#### 前期授業計画

マクロ経済学

国民所得概念

付加価値の定義（単なる所有権の移転だけでは変化しないことに注意）

GNP = 雇用者所得（賃金）+ 営業余剰（利潤）+（間接税 - 補助金）+ 資本減耗分

GNP - 資本減耗分 = NNP（資本減耗分 = 減価償却費）

GNP と GDP（国内総生産）の相違（海外からの要素所得の純受取分）

GNP = C + I + G + X - Q（総需要）

（C：消費、I：投資、G：政府支出、X：輸出、Q：輸入）

主婦の労働と農家の自家消費は国民所得に含まれるか？

消費関数  $C = cY + A$  の性質

限界消費性向  $c = \frac{C}{Y}$ （ $0 < c < 1$  の経済的意味に注意）

貯蓄の定義及び貯蓄関数

国民所得の決定 . 単純モデル ( $Y = C + I$ )

代数解

$$Y = \frac{1}{1-c} (A + I)$$

45度線図による理解

貯蓄と投資の均等による図からの理解

（投資）余剰理論

$$Y = \frac{1}{1-c} I$$

生産関数  $Y = F(K, N)$ （Kは資本、Nは労働）

短期生産関数  $Y = f(N)$ （Kは短期では一定とみなす、したがってNのみの関数）

インフレギャップとデフレギャップ（完全雇用時の国民所得  $Y_f$  と現実の国民所得の乖離）

国民所得の決定 . 政府を含むモデル

( $Y = C + I + G$ )

可処分所得  $Y_d = Y - T$

貯蓄と投資の関係式  $S = S + (T - G)$

均衡予算乗数は  $1/(1-c)$  ( $Y = C + I + G$ )

貯蓄のパラドックス（貯蓄は美徳か？） 合成の誤謬

マネタリストの主張（大恐慌の原因は貨幣量の異常な縮小）

資本の限界効率と投資関数

IS 曲線とその右下がりの性質

貨幣需要関数と LM 曲線

IS・LM 曲線と経済政策の有効性

#### 後期授業計画

貨幣数量説（フィッシャーの交換方程式とケンブリッジ残高方程式）

マーシャルの  $k$  といわゆる「カネ余り」の問題

$$\frac{M}{P} = \frac{k}{P} + \frac{y}{P} \quad (y: \text{実質国民所得})$$

短期及び長期のフィリップス曲線

マネーサプライと信用乗数

ミクロ経済学

経済主体（消費者及び企業）の合理的行動 最大化行動

・消費者行動

効用関数

無差別曲線

限界代替率（MRS）遞減の経済的意味

予算線

最適消費点  $MRS = \text{価格比}$

所得効果、上級財（正常財） 下級財（劣等財）

価格変化と代替効果

下級財の特殊例としてのギッフェン財

個別需要曲線の導出

需要の価格弾力性

応用として豊作貧乏、Jカーブ効果の理論的分析

・企業の理論

総費用 (TC) = 可変費用 (VC) + 固定費用 (FC)

平均費用 (AC) と限界費用 (MC) の関係 (平均概念と限界概念の把握)

MC > AC ならば AC は増加する (逆も真)

MC < AC ならば AC は減少する (逆も真)

利潤最大条件 価格  $P = MC$

個別供給曲線の導出、損益分岐点、操業停止点

完全競争の成立条件

ワルラス的安定条件

01 科目名	経済学 a・b
98 科目名	
97 科目名	
担当者	益山光央

#### 講義の目標

経済学の基礎的な分析概念の習得を目標とする。ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を講義する。より高度な経済分析を学ぶための基礎としても、また経済政策、公共経済学や国際経済学のような、より高度な応用分野を学ぶためにも必須となります。

#### 講義概要

講義の予定は以下の予定ですが、1年24回の講義でカバーする内容としては標準的と思います。教壇からの一方通行の講義ではなく、質問、コメント等で議論できればと思います。受講生の努力を期待します。

#### テキスト

未定

#### 参考文献

中込正樹・平澤典男・大住圭介・松下正弘、「チャートで学ぶ経済学」、有斐閣、1990

福岡正夫、「ゼミナール経済学入門」、日本経済新聞社、1986

#### 評価方法

毎回出席調査します。前期6回以上、後期6回以上の欠席者は定期試験の受験停止とします。

レポート20%、質問・コメント10%、出席10%、定期試験60%

#### 受講者への要望

経済学は高校で学ばない分野だと思います。初めて学ぶのでスタートは全員同じです。また、経済学は一日1時間や2時間の学習で理解できる分野ではありません。地に足のついた予習、復習を心がけて下さい。あと、新聞の経済面、国際面を読んで下さい。

#### 前期授業計画

第1回 はじめに

第1章 消費の理論

第2、3回 需要関数

第4回 労働供給関数

第2章 生産の理論

第5、6回 供給関数

第7回 生産要素の需要関数

第3章 完全競争市場

第8、9回 市場需要曲線

第8、9回 市場供給曲線

第10回 完全競争市場均衡

第4章 不完全競争

第11回 独占

第11回 独占的競争

第12回 複占

#### 後期授業計画

第1章 国民所得

第1、2回 国民所得勘定

第2、3回 消費関数

第3、4回 投資関数

第3、4回 国民所得の決定

第2章 貨幣、利子率

第5回 貨幣需要

第6回 貨幣供給

第6回 利子率の決定

第3章 IS-LM分析

第7、8回 IS曲線

第7、8回 LM曲線

第9回 財政・金融政策

第4章 国民所得と物価の決定

第10回 総供給曲線

第11回 総需要曲線

第11、12回 所得と物価の決定



01 科目名	経済学 a・b
98 科目名	経済学(再)
97 科目名	経済学(再)
担当者	片岡晴雄

#### 講義の目標

近代経済学の基礎知識について講義する。経済学は一般に初学者にとって理解しづらい社会科学の一分野というイメージが強いようである。それは、経済学が必ずしも単に日常の経済現象を理論的に説明することを目的とするのではなく、現代社会の経済的仕組みを体系的に理解しようとする学問であることに由来する。従って本講義では、この様に経済を体系的に理解するとはどういうことかについて分かり易く説明したい。

#### 講義概要

経済学の発生的な順序を考慮してミクロ経済学から講義を始める。ミクロ経済学は、市場経済下における個々人の経済行動を体系化した学問である。このような個々人の合理的経済行動を通じて形成される経済秩序は極めて優れた経済効率を達成している。その経済効率とは如何なるものかについて述べる。後期では、ミクロ経済の限界を超えるものとして誕生したマクロ経済学の基礎について講義する。このマクロ経済学は、その誕生の経緯からにして、非常に現実適用性の高い理論である。

#### テキスト

小野俊夫編「現代経済学の基礎」(学文社)

#### 参考文献

新開陽一・新飯田宏・根岸隆著「近代経済学」(有斐閣)

パウモテル/ブラインダー著 佐藤隆三監訳「エコノミクス入門」(HBJ 出版局)

福岡正夫著「ゼミナール経済学入門」(日本経済新聞社)

#### 評価方法

[前期] 出席と期末テストを見て総合的に判断する。

[後期] 前期と同じ。

#### 受講者への要望

経済学は積み重ねの学問であるので、毎回出席することが望ましい。

#### 前期授業計画

#### 1. はじめに

講義の進め方 / 経済学の目的と役割 / 評価の方法 / 参考文献

#### 2. 近代経済学誕生までの経済学の流れ

古典派経済学 / 限界革命と近代経済学 / ケインズ革命とマクロ経済学

#### 3. 市場と価格

ミクロ的経済循環 / 市場機構 (価格メカニズム)

#### 4. 需要と供給の基礎理論

部分均衡分析と一般均衡分析 / 需給均衡と均衡の安定性 / 市場の諸形態 / 需給曲線の形状と価格弾力性 / 消費者余剰と生産者余剰

#### 5. 家計の行動

効用関数 / 消費者均衡 / 消費財の需給曲線 / 労働の供給曲線 / 貯蓄の決定

#### 6. 企業行動の理論

生産関数 / 技術選択 / 短期の費用曲線 / 短期の供給曲線 / 長期の供給曲線と産業の均衡 / 生産要素の需要

#### 7. 完全競争市場と経済効率

実証分析と規範分析 / パレート最適と完全競争 / 社会的厚生関数 / 投票のパラドックス

#### 8. 所得分配

階層的所得分配 / 所得分布の不平等度の測定 / 機能的所得分配

#### 9. 市場機構の限界

私的財と公共財 / 外部効果 / コースの定理 / 公共財における市場の失敗 / 情報の不完全性と市場の失敗

#### 10. 不完全競争市場の企業行動

独占市場 / 寡占市場 / 独占的競争市場

#### 11. ミクロ経済学の応用

米価問題 / 自由貿易の利益 / 公共地の悲劇

#### 12. ミクロ経済学のレビュー

市場における価格の役割 / 期末テストの説明

#### 後期授業計画

#### 1. マクロ経済循環 (国民経済計算の体系)

マクロ経済循環と国民所得 / 国民所得の諸概念 / 国民所得の三面等価 / マクロ経済循環と産業連関表 / GNP デフレーター

#### 2. 経済学の危機とケインズ革命

新古典派の雇用理論 / ケインズの批判 / 一般理論の体系

#### 3. 国民所得の決定

有効需要の原理 / 均衡国民所得の決定の 45 度線モデル / 均衡国民所得決定の貯蓄・投資モデル /

節約（貯蓄）のパラドックス

4. 投資乗数の理論  
投資の乗数効果 / 乗数過程の中断 / インフレ・ギャップとデフレ・ギャップ
5. 投資の決定  
投資の諸概念 / 投資と資本の限界効率 / 利子率と投資の決定 / トービンの q 投資理論
6. 政府活動と国民所得  
直接税と間接税 / 政府支出乗数 / 自動安定化装置 / 公債負担の問題 / リカード定理
7. 貨幣市場  
貨幣の本質と機能 / 貨幣制度と貨幣の種類 / 貨幣供給 / 貨幣需要（流動性選好理論）
8. 生産物市場と貨幣市場の同時均衡  
生産物市場の均衡と IS 曲線 / 貨幣市場の均衡と LM 曲線 / 財政政策と金融政策
9. 経済のマクロ的一般均衡体系  
労働市場の均衡 / 物価と産出量の同時決定 / 賃金伸縮性と完全雇用 / ビグー効果
10. インフレーション  
超過需要インフレ / コスト・プッシュ・インフレ / フィリップス曲線と雇用
11. 経済の変動と成長  
カレツキー = カルドア モデル / サミュエルソン = ヒックス = グッドウィン モデル / ハロッド = ドマー モデル / ソロー モデル / 新しい経済変動と成長のモデル
12. 開放体系のマクロ経済学  
国際収支 / 外国為替相場と国際収支の調整 / 開放体系のマクロ経済モデル / 国内均衡と対外均衡

01 科目名	
98 科目名	経済学（再）
97 科目名	経済学（再）
担当者	浜本光紹

#### 講義の目標

本講義では、経済学の諸領域を学ぶうえで必要な分析道具である、ミクロ経済学およびマクロ経済学の基礎を修得することを目的とする。

#### 講義概要

前期にミクロ経済理論、後期にマクロ経済理論の講義を行う予定である。また、こうした理論によって実際の経済諸問題がどのように説明されるのか、といったことにも触れていきたい。

#### テキスト

とくに指定しない。

#### 参考文献

西村和雄「ミクロ経済学入門」岩波書店  
 福田慎一・照山博司「マクロ経済学・入門」有斐閣

#### 評価方法

前期・後期の試験、および不定期に課すレポートの提出に基づいて評価する。

#### 受講者への要望

できるだけ継続して出席すること。

#### 年間授業計画

1. 経済学という学問について
2. ミクロ経済学の課題について
3. 消費者行動理論（全2回）
4. 企業行動理論（全2回）
5. 完全競争市場（全2回）
6. 不完全競争（全2回）
7. 市場機構の限界（全2回）
8. マクロ経済学の課題について
9. 国民所得の決定メカニズム
10. 労働市場と完全雇用
11. 不完全雇用経済
12. 家計の消費・貯蓄行動
13. 企業の投資行動
14. 貨幣と経済活動
15. マクロ経済モデル（全2回）
16. マクロ経済政策（全2回）
17. 国際マクロ経済

01 科目名	
98 科目名	経済学(再)
97 科目名	経済学(再)
担当者	松本正信

#### 講義の目標

現代経済の実際と理論を知識すること。経済学・社会科学の面白さの一面に、「個人にとって真なる行動も社会全体から見ると必ずしも真ではない、つまり逆もまた真」とか、「経済学を学ぶ前の常識と学んだ後の常識とは異なる」といった事があります。しかしもっと大切な事は経済理論・経済思想がその時代々々の背景とともに変遷してきた事実を見極める事です。そのうえに立って出来れば現代世界の政治経済的動向を、人類の未来像へのビジョンを、年間の経済学を通じて探ってみたいと考える。

#### 講義概要

年間を通じて、ミクロ・マクロの経済理論の概要を講義します。後記の年間授業計画に示す通り、前期ではほぼミクロ経済学を、後期ではほぼマクロ経済学を配当します。前期のミクロ理論は個人(消費者)や企業など個々の経済主体が経済合理性にしたがって行動するとき、その経済社会はどのような経済状態を実現することになるか。そのキーワードは価格、市場、外部性等である。後期のマクロ理論は個々の経済主体の行動を社会全体の1つの集合体と考え、その行動を1つの集計量としてとらえるとき、社会全体がどのような状態になるかを分析する。そのキーワードは所得、消費、貯蓄、投資、物価水準、利率、政府の財政・金融政策等々である。これらを講義の目標に関連させるようにする。

#### テキスト

・小野俊夫編著『現代経済学の基礎』学文社

#### 参考文献

中谷巖『入門マクロ経済学』日本評論社

伊藤元重『入門ミクロ経済学』日本評論社

#### 評価方法

前期・後期の2回ある定期試験の結果に出席状況・受講態度を加味して評価する。もとより定期試験の結果を最重要視する。かといって試験さえ出来れば出席しなくともよいと思えば大間違い、自身で自学自習すれば受講時間の5倍、10倍の時間を要するであろう。努々忘れ給もうな。

#### 受講者への要望

静かに眠っている分にはさしつかえないが、雑談・私語は真面目で熱心な受講生と講義をしている私にとっては騒音という名の一大外部不経済。排除さるべきは当然。まずは熱心に聴き給え。授業料が不経済。

#### 年間授業計画

つぎの序・終章を含めた12の章を2~3回の講義で進めて行く積もりである。

#### 序章(プロローグ)

経済学と経済系、現代経済の問題：南北問題と環境問題(地球系と人間系) 人類の経済発展：とりわけ産業革命前と後、ならびに経済思想の変遷(アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、シュンペーター、ケインズ等々) 資本主義経済の変遷(とりわけ第二次世界戦争前と後との移り変わり) 現代の経済思想。

1. 消費の理論 (狙いは「需要の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。) 消費者行動の理論、消費選好理論に基づく解説; 消費者の均衡点、価格・消費曲線、個別および社会需要曲線、所得効果と代替効果、代替財(競争財)と補完財、需要の価格(所得)弾力性、消費者余剰。1章に最後にいたっては、工業製品と農産物の需要の違い、特質を考えてみよう。昨今、ガット・多角的貿易交渉(ウルグアイラウンド)において日本の米の輸入自由化問題が宣伝されているのでこの問題も考えてみよう。
2. 生産の理論 (狙いは「供給の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。) 生産とは、企業(生産者)行動の理論、費用分析、平均費用と限界費用、損益分岐点と操業中止点、個別および社会供給曲線、短期および長期供給曲線、技術進歩の供給曲線に与える影響、大都市集中の問題。
3. 市場; マーケット(交換の理論) 市場と取引: その形態、市場における均衡と不均衡、市場機構(マーケット・メカニズム)の果たす役割とその効率性、価格の媒介機能(Parametric function of price)、部分均衡と一般均衡、マーシャル調整とワルラス調整、くもの巣の理論(農産物価格の形成過程)
4. 競争の問題 競争市場と自由市場、完全競争市場の定義、不完全競争市場の諸形態、独占の問題; ここでは売手独占について考える。独占均衡と独占利潤、完全競争均衡との相違(短期・長期)、市場の効率性と資源の最適配分ならびに消費者主権との関

連、生産者余剰と社会的余剰；その完全競争者と独占者の相違、社会的余剰の独占による死重的損失、最後にアメリカの生産者が日本の輸出品に対してしばしばなされるダンピング（廉価販売）提訴について考えてみたい。消費者がとるべき態度、消費者教育の問題も考えよう。

5. 市場の限界と失敗・欠落 市場には大なり小なり不完全、ただその程度が問題だ。非価格競争、品質競争、アフター・サービスはよしとして、ビホアー・サービス（ワイロ） 談合・慣れ合いはかつてアメリカにもあった。日本でも建設業界ばかりではない。もともと、市場での取引にそぐわない財貨・サービスが増大しているのも現代社会の特質。ゴミをだれが金をだして買いますか。負の価格の意味するもの、一般道路で通行料を徴収するか税で賄うかどちらが効率的か火を見るより明らか。外部経済・不経済、公共財（公共サービス） パブリック・ユーティリティ、公的独占と公共料金、投票と納税、パレート最適と社会的厚生。

6. 国民所得の分析 マクロ経済学の生成と意義、大恐慌とケインズ思想、修正資本主義と混合経済、第二次世界戦争後の自由主義圏工業先進国の経済成長と現代経済思想。マクロ的経済循環、国民所得の諸概念、総需要・総供給（総生産）あるいは集計需要・集計供給、消費とマクロ消費関数、貯蓄と投資の意義、その行動主体と動機の違い、投資の変動性；投資の限界効率；投資対象の価値、将来の期待収益と割引利子率、貯蓄と投資の不均衡による均衡国民所得水準の変動、乗数過程、節儉のパラドックス、政府部門と外国貿易を加えた乗数理論、国民所得水準と労働雇用水準との関係。

7. 貨幣・金融市場 金本位制と管理通貨制度；その歴史的意義と機能の違い、銀行のはじまりと近代銀行制度、金融市場における銀行の信用創造過程と貨幣供給、ケインズの流動性選好説と貨幣需要、金融市場の均衡利子率いわゆる市場利子率

8. 中央銀行の機能と役割：金融政策 現金通貨の発行と通貨価値の維持；その社会的意義と責任、その歴史的・現代的素描、中央銀行の金融政策の主たる手段、とりわけ公定歩合操作、公開市場操作とその金融市場に与える効果。

9. 政府の経済的役割：財政政策 政府の経済役割すなわち経済政策には大きく分けて2つ；その1つは将来の国民経済の構造をどのような方向に誘導するか、例えば福祉政策、年金制度、農業問題、租税制度、社会基盤整備等々である。もう1つは、いわ

ゆる景気の変動に対する調整的機能としてのマクロ経済政策である。ここでは後者の役割を狭義の財政政策（フィスカル・ポリシー）として考える。その見本は1930年代前半のアメリカのニュー・ディール政策（当時のルーズベルト大統領による）に見ることができる。政府は財政赤字の時は減税もしくは歳出を増大して短期的には益々赤字が拡大するように、黒字の時には財源があるからといって減税などしないで増税もしくは歳出を削減して益々黒字が拡大するように行動するのが、現代のマクロ経済学の原理なのである。政府も1つの主体、その主体の行動としては不合理である。しかし、社会全体、国民経済にとっては合理的なのである。これはひいては政府にとっても長期的には合理的であるはずだ。逆もまた真、パラドックスなる由縁である。分析：政府財政支出と減税の国民所得水準に与える影響、租税体系の変更と国民所得、ラフファアー曲線、完全雇用政策と物価水準安定（貨幣価値の維持）、フィリップ曲線

10. 財政・金融政策とヒックス＝ハンセン 総合（IS-LM 曲線） ポリシー・ミックスについて、国民生産物市場と貨幣・金融市場の相互作用、これまでのマクロ経済理論の再編とまとめ；IS-LM 分析、古典派の理論；セーの販路法則と完全雇用理論およびその時代的背景、ケインズの有効需要原理と不完全雇用理論、ならびにその時代的背景、現代マネタリストの思想と理論；修正型貨幣数量説、集計供給からみたポスト・ケインズ学派との違い、付論：サブライサイド経済学派とネオ・ケインジアン、景気循環と民主政治、政策のタイム・ラグ。

終章（エピローグ） 結びにかえて

人間社会と経済と政治と価値観と、経済発展と自然環境、国際貿易；古典派リカードの比較生産費税と現代のオーリン・ヘクシャー理論、現代の貿易不均衡問題、技術移転と資本移動、長期的有効需要の拡大と世界規模化

01 科目名	経済学 a・b (経営)
98 科目名	経済学 (経営)
97 科目名	
担当者	米 山 昌 幸

#### 講義の目標

経済学は、経済社会のメカニズムを分析的手法により解明し、不況、貧困、不平等、環境破壊といったさまざまな現実の経済社会の問題を解決して、よりよい社会を実現することを目指す学問です。私たちが経済学を勉強するのは、たんに難しい理論を修得すること自体が目的ではなく、その経済理論を用いて現実の経済社会に対する理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためなのです。

講義の目的は、第一に、現実的な問題を取り上げて、はじめて経済学を勉強する学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい、経済学に興味をもってもらうこと、そして第二に、分析用具としての基礎的な経済理論をできるだけ体系的に理解してもらうこと、この2つです。

この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としていますが、2年生、3年生でまだ経済学を履修していない学生にも履修してもらいたいと思っています。

#### 講義概要

経済学の分野は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。前期には「第一部ミクロ経済学」の分野を中心に扱い、市場経済のなかの個々の家計や企業が価格や技術についての情報をもとに、どのような経済行動をとるのか、またこれらの経済主体が合理的な行動をとるときに市場メカニズムはどのような役割を果たすのか、といったことについて講義します。後期には「第二部マクロ経済」の分野を扱い、個々の経済主体の行動の結果を集計した一國全体としてのマクロの変数の動きや、マクロの経済政策の効果について講義します。ミクロ経済学とマクロ経済学は別々に存在するのではなく互いに密接に関連しており、マクロの経済現象はミクロの経済主体の行動に基づくものでなければなりません(これを「マクロ経済学のミクロ経済学的基礎」といいます)。

講義形式が中心となりますが、できれば報告や討

論を通じて、みなさんが現実の問題を議論する機会も設けたいと思います。

#### テキスト

スティグリッツ, ジョセフ E., 藪下史郎 (他) 訳  
『スティグリッツ入門経済学 (第2版)』東洋経済新報社, 1999年。(予定)

#### 参考文献

第1回目の授業で参考文献リストを配布するので、ここでは次の3冊を挙げておく。

最も定評のあるミクロ・マクロのテキストとして、西村和雄『ミクロ経済学入門 (第2版)』岩波書店, 1995年。

中谷巖『入門マクロ経済学 (第4版)』日本評論社, 2000年。

履修に先駆けて読んでおくといふサブリーダーとして、

林敏彦『ハート&マインド経済学入門』有斐閣アルマ, 1996年。

#### 評価方法

前期：定期試験と小テストや課題によって成績評価を行う。

後期：定期試験と小テストや課題によって成績評価を行う。

#### 受講者への要望

授業は、たんに経済学の理論について講義するだけでなく、学生の興味や好奇心を刺激して現実の経済に興味を抱かせるように心掛けるつもりですので、みなさんも日頃から新聞などに目を通して現実の経済社会の問題に関心を持ち、それらについて経済学を用いて考えることができるようになることを目指して下さい。

講義の本当の意義は成績や単位ではなく、別のところにあるはず。大切なことは、一年間受講してみて、それによって得た知識や、喚起された知的興味をもとに、自ら勉強することによって、どれだけのものがあなたに付加価値として加わったか、ということではないでしょうか。一回、一回の講義を大切に、休まないで下さい。

#### 前期授業計画

イントロダクション - 「経済学」ガイダンス -

経済学とは、授業の形式と学習方法、評価基準、参考文献の紹介

#### 第1章 経済学とは

1. 経済学とは何か
2. 混合経済における市場と政府
3. ミクロ経済学とマクロ経済学

4. 科学としての経済学  
5. なぜ経済学者の意見は異なるのか  
第2章 経済学的な考え方  
1. 基本的競争モデル  
2. 価格・所有権・利潤 - インセンティブと情報 -  
3. 割当て  
4. 機会集合 - 予算制約線と生産可能性曲線 -  
5. 費用 - 機会費用・サンクコスト・限界費用 -  
6. グラフの読み方  
第3章 取引と貿易  
1. 経済的相互依存のもたらす便益  
2. 国家間の取引  
3. 国際相互依存関係の費用  
補論：比較優位と貿易利益  
1. 絶対優位と比較優位  
2. 生産可能性曲線  
3. 貿易開始後の生産調整  
4. 貿易開始後の生産点と消費点の決定  
5. 貿易利益の説明  
第4章 需要・供給と価格  
1. 価格の役割  
2. 需要曲線とそのシフトの要因  
3. 供給曲線とそのシフトの要因  
4. 市場メカニズムの原理と市場均衡  
補論：市場メカニズムと経済厚生分析 - 需要・供給曲線  
分析 -  
1. 部分均衡分析と完全競争市場の仮定  
2. 需要・供給曲線の読み方  
3. 限界分析と余剰分析の基礎  
4. 消費者余剰と需要曲線  
5. 生産者余剰と供給曲線  
6. 競争的市場における資源配分の効率性  
第5章 需要・供給分析の応用  
1. 需要の価格弾力性とその決定要因  
2. 需要の交差弾力性  
3. 需要の所得弾力性と財の分類  
4. 供給の価格弾力性とその決定要因  
5. 需要・供給の価格弾力性の応用  
6. 需要・供給の法則への介入 - 上限価格規制と下限  
価格規制 -  
補論 コメ市場における政府介入の経済厚生分析  
第6章 時間とリスク  
1. 利子と貨幣の時間価値 - 割引現在価値 -  
2. 貸付資金市場  
3. インフレーションと実質利子率  
4. 資産市場と期待形成

5. リスク市場  
6. 企業家精神  
第7章 公共部門  
1. 政府の役割の変遷  
2. アダム・スミスの「見えざる手」と市場の中心的  
役割  
3. 政府と経済の無知  
4. 政府と再分配  
5. 政府と市場の失敗  
6. 政策実現のための選択肢  
7. 政府の失敗  
後期授業計画  
第8章 マクロ経済学と完全雇用  
1. マクロ経済活動の目的と測定  
2. GDPと三面等価の原則  
3. 失業  
4. インフレーション - 物価指数の算定方法 -  
5. 基本的完全雇用マクロ・モデル - 長期マクロ・モ  
デル -  
6. 労働市場  
7. 生産物市場  
8. 資本市場  
9. 一般均衡  
10. 基本的完全雇用モデルの拡張  
第9章 経済成長  
1. 成長の要因  
2. 生産性  
3. 東アジアの奇跡と生産性  
第10章 失業と総需要 - 短期マクロ・モデル -  
1. マクロ経済モデル：再論  
2. 経済不況：概説  
3. 総需要の決定要因 - 所得・支出分析 -  
4. 消費  
5. 投資  
6. 政府と貿易  
7. 総需要曲線：再論  
8. 総需要の再生  
9. 東アジアの経済危機  
補論：所得・支出分析 - 生産物市場における国民所得決  
定の理論：45度線分析 -  
1. 需給の不均衡と調整メカニズム  
2. 閉鎖経済における国民所得決定の理論 - 45度線分  
析法 -  
3. 総需要管理政策と乗数効果  
4. 開放経済における国民所得決定の理論  
第11章 インフレーション

1. インフレーションのコスト
2. インフレーションと失業
3. インフレーションの自己持続性
4. 金融政策
5. 金融政策と財政政策



01 科目名	経済学 a (再)(後期)
98 科目名	
97 科目名	
担当者	米 山 昌 幸

#### 講義の目標

経済学は、経済社会のメカニズムを分析的手法により解明し、不況、貧困、不平等、環境破壊といったさまざまな現実の経済社会の問題を解決して、よりよい社会を実現することを目指す学問です。私たちが経済学を勉強するのは、たんに難しい理論を修得すること自体が目的ではなく、その経済理論を用いて現実の経済社会に対する理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためなのです。

講義の目的は、第一に、現実的な問題を取り上げて、はじめて経済学を勉強する学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい、経済学に興味をもってもらうこと、そして第二に、分析用具としての基礎的な経済理論をできるだけ体系的に理解してもらうこと、この2つです。そして何よりも皆さんに経済学が好きになってもらいたいと思います。

#### 講義概要

この講義はミクロ経済学の分野を扱い、市場経済のなかの個々の家計や企業が価格や技術についての情報をもとに、どのような経済行動をとるのか、またこれらの経済主体が合理的な行動をとるときに市場メカニズムはどのような役割を果たすのか、といったことについて講義します。

この講義は基本的には一度は「経済学 a」の講義を聞いたことのある履修の学生が対象になりますが、初めて「経済学 a」の講義を聞く学生にも配慮し、ポイントを絞って一通り講義していきます。その上でできるだけ練習問題をたくさん解くことによって皆さんに「わかる喜び」を知ってもらい、日常的に勉強する習慣をつけてもらいたいと思います。

#### テキスト

未定(次のようなものを予定している)

マンキュー, N. グレゴリー, 足立英之(他)訳『マンキュー 経済学 ミクロ編』東洋経済新報社, 2000年。

スティグリッツ, ジョセフ E., 藪下史郎(他)訳『スティグリッツ ミクロ経済学(第2版)』東洋経済新

報社, 2000年。

#### 参考文献

第1回目の授業で参考文献リストを配布するので、ここでは次の2冊を挙げておく。

奥野正寛『ミクロ経済学入門(第2版)』日経文庫, 1990年。

西村和雄『ミクロ経済学入門(第2版)』岩波書店, 1995年。

#### 評価方法

定期試験と小テストや課題により成績評価を行う。

#### 受講者への要望

授業は、たんに経済学の理論について講義するだけでなく、学生の興味や好奇心を刺激して現実の経済に興味を抱かせるように心掛けるつもりですので、みなさんも日頃から新聞などに目を通して現実の経済社会の問題に関心を持ち、それらについて経済学を用いて考えることができるようになることを目指して下さい。

講義の本当の意義は成績や単位ではなく別のところにあるはずです。大切なことは、その講義を聞くことによって得た知識や喚起された知的興味をもとに、自ら勉強することによってどれだけ新たな付加価値があなたに加わったか、ということではないでしょうか。一回、一回の講義を大切に、休まないで下さい。

#### 年間授業計画

##### 第1~2週

イントロダクション 「経済学」ガイダンス

経済学とは、授業の形式と学習方法、評価基準、参考文献の紹介

##### 第1章 市場メカニズムと経済厚生 需要・供給曲線分析

1. 部分均衡分析と完全競争市場の仮定
2. 需要曲線と供給曲線
3. 市場メカニズムの原理と市場均衡
4. 均衡の存在と安定性
5. 需要・供給曲線の読み方
6. 限界分析と余剰分析の基礎
7. 消費者余剰と需要曲線
8. 生産者余剰と供給曲線
9. 競争市場均衡における資源配分の効率性
10. 与件の変化と需要・供給曲線のシフト

##### 第3~4週

##### 第2章 需要・供給曲線分析の応用

1. 需要の価格弾力性とその決定要因
2. 需要の交差弾力性

3. 需要の所得弾力性と財の分類
4. 供給の価格弾力性とその決定要因
5. 需要・供給の価格弾力性の応用
6. 需要・供給の法則への介入 上限価格規制と下限価格規制
5. 費用一定産業・費用逓増産業・費用逓減産業
6. 外部経済と不経済

補論 コメ市場における政府介入の経済厚生分析

第5～8週

### 第3章 家計の行動と需要曲線

1. 家計の行動原理
2. 選好順序と無差別曲線
3. 基数的効用と序数的効用
4. 効用関数と無差別曲線
5. 無差別曲線の性質
6. 予算制約線
7. 最適消費点の決定
8. 所得の変化と需要の変化 所得消費曲線
9. 価格の変化と需要の変化 価格消費曲線と個別需要曲線
10. 市場需要曲線と消費者余剰
11. 与件の変化と需要曲線のシフト
12. 代替効果と所得効果 スルツキー分解
13. 賃金の変化と労働供給供給曲線

第9～10週

### 第4章 企業の行動と供給曲線

1. 企業の行動原理 利潤最大化と生産関数・費用関数
2. 利潤と費用 機会費用と経済学上の利潤・会計上の利潤
3. 短期における生産量の調整
4. 短期総生産物曲線と限界生産性逓減の法則
5. 短期費用曲線の導出
6. 短期費用曲線と限界・平均費用概念
7. 限界費用曲線・平均費用曲線・平均可変費用曲線
8. 利潤最大化と短期個別供給曲線
9. 価格の変化と需要の変化 価格消費曲線と個別需要曲線
10. 短期市場供給曲線と生産者余剰 操業中止点と損益分岐点
11. 与件の変化と短期市場供給曲線のシフト

第11～12週

### 第5章 長期供給曲線と長期市場均衡

1. 参入・退出と長期均衡
2. 個別企業の長期費用曲線と長期平均・限界費用曲線
3. 個別企業の規模に関する収穫逓増・一定・逓減
4. 長期個別供給曲線と長期市場供給曲線の導出

01 科目名	統計学 a・b
98 科目名	統計学
97 科目名	統計学
担当者	富田 幸弘

#### 講義の目標

近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達にはデータの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしている。

こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組とその重要性を十分に理解し、応用能力を身につけることを目標としている。

#### 講義概要

出来るだけ具体的な問題を意識しながら教科書にそって進める。その内容は以下のようなものである。また、講義内容を良く理解するために、演習問題に取り組んでもらう。

- 1) 記述的な統計 (データの整理)
- 2) 確率と確率分布
- 3) 統計的推定
- 4) 統計的仮説検定

#### テキスト

『統計学 データから現実をさぐる』内田老鶴園

池田貞雄・松井敬・富田幸弘・馬場善久共著

#### 参考文献

必要に応じて紹介する。

#### 評価方法

前期：定期試験の結果により評価する。出席状況なども考慮する。また、4年生には、レポートを課する場合もある。

後期：定期試験の結果により評価する。出席状況なども考慮する。また、4年生には、レポートを課する場合もある。

#### 受講者への要望

講義内容を理解するための大学ノートと電卓が必要です。また、コンピュータ入門・情報処理概論・情報処理などの科目を併行履修することが望ましい。

#### 前期授業計画

1. 今年度の統計学の講義・評価・受講上の注意など

について・統計学の利用例

キーワード：国勢調査・品質管理

2. 統計学の発展史・統計的な考え方

キーワード：ピアソン・フィッシャー

3. データの整理 (1)

位置の尺度・散布の尺度

キーワード：平均値・標準偏差

4. データの整理 (2)

その他のパラメーター・度数分布表

キーワード：中央値・四分位数

5. データの整理 (3)

簡便法・計算演習

キーワード：平均値・標準偏差

6. データの整理 (4)

相関係数・回帰直線

キーワード：散布図・相関

7. データの整理 (5)

「記述的な統計」のまとめ

昨年の定期試験の解答例 (前半)

8. 確率・順列・組合せ

キーワード：互いに独立・条件付確率

9. 離散型確率分布

キーワード：二項分布・漸化式

10. 連続型確率分布 (1)

キーワード：正規分布・標準化

11. 連続型確率分布 (2)

キーワード：確率計算・その他の確率分布

昨年の定期試験の解答例 (後半)

12. 「確率と確率分布」のまとめ

定期試験について

#### 後期授業計画

1. 前期の復習・後期の概要

キーワード：前期試験の解答例

2. 母集団と標本

キーワード：国勢調査・標本調査

3. 統計的推定 (1)

キーワード：比率の区間推定・サンプルサイズ

4. 統計的推定 (2)

キーワード：母平均の区間推定

昨年の定期試験の解答例 (前半)

5. 統計的仮説検定 (1)

統計的仮説検定の概論

キーワード：帰無仮説・有意水準

6. 統計的仮説検定 (2)

比率の仮説検定・分割表による仮説検定

キーワード：比率の差・2×2 分割表

7. 統計的仮説検定 (3)
  - 母平均の仮説検定
  - キーワード：母平均の差・等分散
8. 統計的仮説検定 (4)
  - 統計的仮説検定のまとめ
9. ノンパラ検定 (1)
  - 順位相関係数・適合度検定
  - キーワード：スピアマン・ケンドール
10. ノンパラ検定 (2)
  - 符号検定・順位和検定
  - キーワード：符号 (サイン)・ウィルコクソン
11. 昨年の定期試験の解答例 (後半)
  - この講義に関する要望・意見
12. 「統計学」のまとめ
  - 定期試験について

01 科目名	統計学 a・b
98 科目名	統計学
97 科目名	統計学
担当者	本田 勝

#### 講義の目標

我々の身の回りには大量のデータが存在する。それらは観測や測定あるいは実験のデータであったり、各種の調査から得られたデータであったり、その種類は様々である。これらのデータを解析し、推論していく、推測統計学を軸とする近代統計学の手法は、経済学や経営学分野でもいろいろな形で応用されている。

この講義では、統計学の基本的考え方と、それらを具体的に応用していく方法について述べていく。

#### 講義概要

講義は年間を通して系統的かつ段階的に進めていく。

- (1) データの整理の方法
- (2) 確率の概念
- (3) 確率分布の考え方
- (4) 特殊な確率分布
- (5) 標本分布の考え方
- (6) 点推定や区間推定の考え方
- (7) 統計的仮説検定の考え方
- (8) 2変量の相関と回帰

#### テキスト

本田 勝：「基本統計学」(産業図書)

#### 参考文献

講義時にそのつど指示

#### 評価方法

前期：前期の定期試験によって評価する。

後期：後期の定期試験によって評価する。

#### 受講者への要望

講義は指定の教科書にそって進めるが、教科書はあくまで補助であり、教室での講義が中心であるから、必ず講義に出席し、ノートに講義内容をまとめて欲しい。

#### 前期授業計画

1. 統計学とは何かについて、統計学の導入を行なう。(母集団、標本、記述統計、推測統計)
2. 標本として得られるデータの整理のしかた(度数分布)について述べる。位置の尺度(平均、中央値、

最頻値)のとらえかたについて述べる。

3. ばらつきの尺度によるデータ特性の把握のしかたについて述べる。(分散、標準偏差、チェビシェフの不等式)
4. データ整理の方法を理解するための演習をおこなう。
5. 確率導入のための準備として、集合および事象について述べる。(和事象、積事象、順列、組み合わせ)
6. 確率を導入し、加法定理、条件付確率および乗法定理について述べる。確率に関する問題演習を行なう。
7. 確率変数と確率分布の考え方を述べ、離散型および連続型の例を考えてみる。
8. 確率分布の数学的定義を、密度関数と分布関数を用いて説明し、分布の平均や分散などの特性値について述べる。
9. 2項分布を例に、確率分布(離散型)の性質を調べる。
10. ポアソン分布の性質を調べる。問題演習。
11. 連続分布とその特性について、一様分布、指数分布、正規分布を例に述べる。
12. 正規分布の確率の求め方と確率度数の標準化について述べる。問題演習。(標準正規分布)

#### 後期授業計画

1. 標本分布とは何か、標本平均はどのような確率分布をするかについて述べ、中心極限定理についても言及する。
2. 標本比率の分布はどのような確率分布をするかについて述べ、2項分布の正規近似についても言及する。
3. カイ2乗分布および学生t分布の説明したあと、標本分散の確率分布について述べる。
4. 母集団パラメータの推定について、点推定、区間推定の考え方を述べる。(不偏推定量、信頼係数)
5. 母平均の区間推定のし方を述べる。問題演習
6. 母集団比率及び母分散の区間推定のし方を述べる。
7. 統計的仮説検定の考え方と母平均の検定法について述べる。問題演習。(帰無仮説、対立仮説、検定の過誤)
8. 2変数間の相関とは何かについて述べる。(共分散、正の相関、負の相関、完全相関)
9. 回帰直線について述べる。(線形回帰、最小2乗法)
10. カイ2乗検定の考え方について述べる。問題演習。(適合度検定、分割表、独立性の検定)

11. ノンパラメトリック検定の考え方について述べる。

(符号検定、順位和の検定)

12. 一年間の総復習を行う。

01 科目名	統計学 a・b
98 科目名	統計学
97 科目名	統計学
担当者	松井 敬

#### 講義の目標

近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学、経営学を含む諸科学に大きく貢献してきた。近年は、コンピュータなどのデータ処理システムの目ざましい発展もあって、人間活動のあらゆる分野で広く利用されている。

本講義は、統計学の基礎的な概念と方法について正確な知識と応用能力を身につけることを目的とする。現実への応用に大きく関わった学問でもあり、出来るだけ具体的な問題を意識し、計算演習やシミュレーション結果などを加えながら進めてゆきたい。

#### 講義概要

前期では記述的な統計から始め、探索的なデータ解析の考え方、単純回帰、現代統計学の枠組み（母集団と標本）データの得られるメカニズムや確率分布などを扱う。後期は、様々な分野で応用されている統計的方法の考え方と具体的な利用法の説明で、推定、検定、ノンパラメトリック法などの理論と方法である。

データは実験、観察、調査などに関連して得られる。講義ではデータの背後にある諸条件を勘案しつつ、適切な統計的方法を選択し、実際にコンピュータなどでデータ処理を行い、それを結果の解釈につなげるまでの一連のプロセスを理解してもらおうつもりである。

#### テキスト

池田貞雄、松井敬、富田幸弘、馬場善久共著「統計学 データから現実をさぐる」内田老鶴園

#### 参考文献

上記テキストは入門書としてはかなり広い範囲をカバーし、しかも分かり易く説明しているので、この講義の段階で特別に参考文献が必要とも思われない。ただし、参考となる本は和書はもちろんのこと洋書や応用のための各論的な本も含め数多い。興味のある学生は関心領域をはっきりさせて、個別に相談してほしい。

#### 評価方法

前期、後期ともに期末の試験によって評価する。

試験の問題は講義で扱う演習問題などが中心になるので、普段からキチンと出席し、テーマ毎に理解しておくことが大事である。

#### 受講者への要望

講義内容をより良く理解してもらうために、適宜演習を取り入れている。そのために、電卓を常に持参してほしい。また、コンピュータを使ってデータの処理やシミュレーションを実際に行ってみることが大事である。

#### 前期授業計画

1. 統計学とは何だろうか：統計学とはどんな学問か、なぜ統計学を学ぶのかなど。ほかに年間の授業の進め方、方針、など。
2. 統計学の考え方、データを記述する尺度：統計的な見方、考え方とはどんなことか。データを測定する尺度についてなど。
3. データを記述する尺度：データを記述する様々な尺度の意味と特徴およびそれらを求める（計算する）上での注意。
4. 探索的なデータ解析：探索的なデータ解析の方法と考え方について解説する。
5. 2つの変数の間の関係をさぐる - 1：身長と体重、需要と供給、打率と打点といった2つの変数の間の関連性を説明する尺度について考える。相関係数。順位相関係数。
6. 2つの変数の間の関係をさぐる - 2：2つないし3つ以上の変数間の"線型"な関係を調べる。回帰直線。
7. 確率：統計と確率の接点。確率の基本的な考え方など。
8. データの得られるしくみを考える：確率の考えを借りて、実験や観察の結果を分布という概念でとらえる。
9. 離散型の分布：二項分布、ポアソン分布など。分布の特徴づけ。データとの関係。
10. 連続型の分布：連続型確率分布。正規分布の形状や特徴など。
11. 正規分布：データ解析の様々な場で見られる正規分布とその周辺のことについて考察する。
12. 分布間の関係ほか：二項分布の正規近似や分布間の相互関係を考える。前期のまとめ。

#### 後期授業計画

1. 現代統計学の枠組み：母集団と標本。データの持つ意味 - データは何を表現しているか、データの得られる機序。
2. 推定 - 1：母集団のパラメータ（母数）を推定す

る方法とその意味について考える。点推定、最尤推定、標本分布など。

3. 推定 - 2 : 母集団比率と正規分布の母平均の推定。  
なぜ標本平均や標本比率を用いるかを通し、推定量の意味、推定量の性質、比較なども。
4. 推定 - 3 : 区間推定。サンプルの大きさを決める方法。
5. 統計的仮説検定 - 1 : 「統計的仮説」の検定を、どんな考え方にそって行うか。
6. 統計的仮説検定 - 2 : 比率の検定 考え方と定式化。1 標本と 2 標本。
7. 統計的仮説検定 - 3 :  $2 \times 2$  表の考え方と方法。  $r \times s$  表。
8. 統計的仮説検定 - 4 : 正規分布の母平均の検定など。
9. ノンパラメトリックな方法 - 1 : ノンパラメトリックな方法とは何か。符号検定など。
10. ノンパラメトリックな方法 - 2 : 順位にもとづく検定など。ノンパラメトリックな検定法の考え方をさぐり、効率なども説明。
11. ノンパラメトリックな方法 - 3 : 適合度検定。
12. 統計的推測 : 統計的方法の枠組みの理解と様々な手法の関連を再考し、後期のまとめを行う。



01 科目名	コンピュータ入門 a・b
98 科目名	情報処理概論
97 科目名	情報処理概論
担当者	各 担 当 教 員

#### 講義の目標

経済学部の学生が 4 年間の学習、研究生生活を通して必要とされる情報処理の基礎を講義およびコンピュータ実習を通して勉学、学習する。授業の予習、復習やレポートの作成、卒業論文製作などの際に、次のような手段を使うことができるようにする。

文章は、ワープロを使用して作成する。必要な資料やデータを、インターネットや外部データベースなどを使って見つけ出す。E-Mail を使って、情報交換、資料のやり取りをする。統計計算や会計計算を行ない、必要があればグラフを作成する。

報告用、発表用の資料を、以上のような手段を組み合わせて作成する。プレゼンテーションをパソコンを使って行なう。住所録など個人用のデータベースを作成し管理する。

#### 講義概要

講義および実習を通して上記の目標を達成するために、ワープロソフト・表計算ソフトの使用方法を始め、現在のコンピュータの持つマルチメディア機能の理解も含め、情報処理全般の基礎的なテーマを扱う。

講義の目標に掲げたテーマを順次こなしてゆくが、各テーマの取り扱われる順序、時間配分についてはこの講義を担当している教員によって若干異なることがある。

#### テキスト

獨協大学情報センター編「コンピュータ入門」

#### 参考文献

必要があれば各担当教員に相談してほしい。

#### 評価方法

前期、後期ともに原則として試験およびレポートを中心に評価する。出席は重要なポイントである。

担当教員によって、評価の仕方が異なるので詳細は各教員に尋ねること。

#### 受講者への要望

最初のうちは“習うより慣れる”で、繰り返しの練習（復習）が必要である。講義に連続性があり、積み重ねが大事なので、欠席や授業中の集中度の不

足が無いように願いたい。

#### 年間授業計画

以下の項目は情報処理の必須として取り上げる項目である。取り上げる順序や時間数は、担当者によって多少異なることがある。

#### 前期授業計画

1. インTRODakション ガイダンス、センター案内、キーボード操作、マウス操作、フロッピーディスク、情報倫理
2. 文字の入力、タイピング練習（ソフト）
3. メモ帳（ソフト）による入力、ファイルを開く、ファイルを保存する
4. インターネット インターネットとは、WWW とは、URL を与えて開かせる、テーマを与えて探させる
5. メール 説明と設定、メールの送信
6. メール メール返信
7. ペイント（ソフト） 拡張子
8. ワープロ 文書の入力、保存：メール 文書の添付
9. ワープロ 文字の編集（切り取り、イタリック、センタリングなど）
10. ワープロ 文書の装飾（網掛け、色など）
11. ワープロ 表の作成
12. ワープロとクリップアート、ワードアートの組み合わせ、印刷

#### 後期授業計画

1. 表計算の概要 ワークシート、ブック、セル、相対番地
2. データの入力 入力（表） 合計、平均
3. データの取り扱い 関数、平均、標準偏差、最大、最小
4. データの取り込み
5. クロス集計、検索
6. グラフ 棒グラフ、円グラフ、レーダーチャート、散布図など
7. エクセルとワードの結合 ワードへの貼り付け（表、グラフ）
8. インターネットとエクセルの結合 ネットワーク上からのデータの取り込み
9. データベース データベースの作成、並べ替え
10. データベース データベースの管理、抽出、フィルタリング、集計
11. プレゼンテーション 文字情報の提示
12. プレゼンテーション 画像、グラフの提示

01 科目名	経営学 a・b (経済)
98 科目名	経営学 (経済)
97 科目名	経営学 (経済)
担当者	富田 忠 義

3. 経営学の研究方法
4. 経営と管理、機能と機関
5. 企業形態
6. 企業体制
7. 企業集団と企業間関係
8. 企業経営の目的と目標
9. 経営社会責任と経営理念
10. 企業の経営環境
11. 市場と経営戦略
12. 授業のまとめ

#### 講義の目標

企業、経営、管理をキーワードとして取り上げて、実践学としての現代経営学について概説する。はじめて経営学を学ぶ受講生を前提にして、最新の内容と入門的易しさを両立させたいと考えている。本講義は「経営学入門の入門」である。

#### 講義概要

ここでは現代企業とその経営の解明を、現代経営学の最新の研究成果の紹介を通して行う。まず経営学の研究対象と研究方法について概説し、この学問が企業の経営と管理を実践学的方法で研究するものであることを明らかにする。次に企業についてその種類や性格、他の企業との関係の仕方について概説する。最後に、現代企業についてその目的や理念、戦略を激動する企業環境と関連させて概説して、全体として、現実の企業行動を専門的に理解するための経営学的見方を教授する。

#### テキスト

河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版

小椋康宏編著『経営学原理』学文社

#### 参考文献

金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣 経済辞典(第3版)』有斐閣

車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版

森本三男著『経営学入門(増補版)』同文館

#### 評価方法

期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価する。

定期試験の際、試験場への教科書・ノート等の持込み無し。

#### 受講者への要望

テキストを利用するが、授業中にテキストの全文を克明に解説するというわけではないので、開講後できるだけ早く、テキストの全文を各自で読了しておくこと。

#### 年間授業計画

1. 授業計画の概説
2. 経営学の研究対象

01 科目名	経営学 a・b
98 科目名	経営学
97 科目名	
担当者	日下泰夫（半期）

#### 講義の目標

入門講座として、経営学の基本的な概念を説明するとともに、最新のトピックスについても紹介する。

《変化の時代》の経営学が極めて興味深い学問領域であることを理解して頂けるような講義を心がけたい。

#### 講義概要

講義の前半（1～6）は経営学の基本的な概念を説明する。後半（7～12）は、現在、経営の重要課題として脚光を浴びている技術経営（Technology Management）を、主に商品開発の視点から考察する。

#### テキスト

特に、使用しない。

#### 参考文献

武藤泰明：「ビジュアル 経営の基本」日経文庫、高梨智弘：「ビジュアル マネジメントの基本」日経文庫。他は、その都度指定する。また、必要に応じて資料を配布する。

#### 評価方法

期末試験を中心に、提出レポートと出席状況などを加味して評価する。

#### 受講者への要望

広範囲の内容を半期で講義するために、内容を要約して説明することになる。したがって、理解を深めるためには、指定した参考文献を事前に読んでおくことが望ましい。

#### 半期授業計画

1. 企業と外部環境、経営資源
2. 企業活動の新動向 その 1：サプライチェーン・マネジメント
3. 企業活動の新動向 その 2：環境経営 - 自動車産業の環境経営 -
4. マネジメントとは
5. 経営戦略
6. 企業組織、企業文化と日本的経営
7. 技術革新（テクノ・イノベーション）と技術経営（テクノロジー・マネジメント）

8. プロダクト・イノベーション：商品開発のパラダイム転換
  9. マーケティング・イノベーション：マーケティングのパラダイム転換
  10. 研究開発（Research & Development：R&D）組織と人材マネジメント
  11. 経営のグローバル化と R&D
  12. 技術経営における経営システム工学（管理工学）の役割
- 経営学を学ぶ皆さんへ - 21 世紀の企業パラダイムについて -

01 科目名	経営学 a・b
98 科目名	経営学
97 科目名	
担当者	黒川文子（半期）

#### 講義の目標

経営学が注目を浴びようになったのは、古いことではない。20世紀に入ってから確立した領域が経営学であろう。そのため、研究対象となる領域も、細分化の方向に向かうと同時に、近年では総合化の方向に進んでいる。経営学の各分野を広く浅く講義する。

#### 講義概要

経営学の発展から、今日生じている問題までの概説を行う。

#### テキスト

なし

#### 参考文献

河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版

河野重榮他編著『現代マネジメント』同文館

#### 評価方法

期末試験を中心とする。レポートも加味する。

#### 受講者への要望

経営学の入門レベルなので、本講義に関心を持つならば、いかに経営学が生きた学問であるかを把握できるようにする。

#### 半期授業計画

1. 新技術の工業化と企業経営の変革
2. 現代の経営学説
3. 企業経営の歴史的展開
4. 企業活動と企業目的
5. 現代企業の経営情報システム
6. 現代企業の管理と組織
7. 現代企業の経営戦略
8. 現代企業のマーケティング活動
9. 現代企業のコミュニケーション活動
10. 現代企業の経営分析
11. 企業経営の国際化
12. 国際化と日本的経営

01 科目名	経営学 a・b
98 科目名	経営学
97 科目名	
担当者	小林哲也（半期）

- 8. 技術革新と新しい国際分業
- 9. 日本企業の海外進出 その1
- 10. 日本企業の海外進出 その2
- 11. 規制緩和とグローバリゼーション
- 12. 日本的経営論の革新

#### 講義の目標

本講義では、現代企業をめぐる、国際化と情報化の働きを中心に、新しい企業理論の展開を議論する。

#### 講義概要

現代企業を取り巻く条件は、急速に変化している。例えば、1980年代に称揚された、長期的雇用慣行などを柱とするいわゆる日本的経営は、今や「グローバル・スタンダード」の視点から大きく見直されようとしている。

本講義では、主として日本企業の経験に学びながら、現代企業をめぐる国際化・情報化の波と、新しい企業理論の流れを紹介していくことにする。

また、日本的経営を考える上で、日本における組織と個人との関係の特質、すなわち日本社会論・日本人論についての考察も不可欠である。こうした社会システムの考察を含めて、幅広く企業経営を考察する術を身につけていきたい。

#### テキスト

特に指定しない。

#### 参考文献

日本経済新聞社編『現代経営学ガイド』日本経済新聞社  
 青木昌彦他『企業の経済学』TBSブリタニカ  
 三輪芳朗他編『会社法の経済学』東京大学出版会  
 明治大学経営学研究会『経営学への扉』白桃書房

#### 評価方法

出席および前期／後期定期試験

#### 受講者への要望

新聞（日本経済新聞など）に毎日目を通す習慣をつけること

#### 半期授業計画

1. 情報技術革命と日米企業
2. 大企業体制の成立とその変遷
3. 経営者革命
4. 技術革新と寡占的競争
5. マイクロ・エレクトロニクス革命とFMS
6. 情報化とネットワーク
7. --経済・経営情報探索術--

01 科目名	経営学 a・b
98 科目名	経営学
97 科目名	
担当者	仙田幸子（半期）

8. 働きぶりの評価と処遇
9. 労使関係の安定と維持
10. 女性従業員の人事労務管理
11. 中高年労働者の人事労務管理
12. まとめ。

#### 講義の目標

この講義は経営学をこれから学ぶ学生に、経営学の一領域である人的資源管理論の鳥瞰図を提供することを目的とする。

人的資源管理論の基本的考え方や用語をマスターすることが第一の目標である。同時に、採用、配置、育成、評価、雇用調整というトピックの一つ一つを雇用される側の立場からみることによって、どのような働き方をしたいのかを自分なりに考える手掛かりを提供することを目的とする。

#### 講義概要

企業は従業員を資源の一つとして活用する。その方法をあつかうのが人的資源管理論である。本講義では、日本の雇用慣行の変遷という視点から雇用管理のあり方を考える。

テキストを中心に、豊富に資料を提示して、日本企業の人的資源管理の現状を具体的につかめるようにする。

#### テキスト

岩出博『これからの人事労務』泉文堂、1999、ISBN 4-7930-0219-6。(変更の可能性あり)

#### 参考文献

井原久光 1999 『テキスト経営学』ミネルヴァ書房

#### 評価方法

定期試験で 60 点以上の受講者に単位を与える。授業中のレポートが特によいものについては得点を加算する。

#### 受講者への要望

遅刻、私語、携帯電話・PHSの使用、その他授業の妨げになることは慎むこと。

#### 半期授業計画

1. ガイダンス
2. 人事労務管理の基礎理論・1
3. 人事労務管理の基礎理論・2
4. 日本型人事労務管理の再編
5. 従業員の採用と雇用調整
6. 従業員の配置と育成
7. 従業員の活用

01 科目名	経営学 a・b
98 科目名	経営学
97 科目名	
担当者	高松和幸(半期)

#### 講義の目標

この講義は、経営学の入門講座としての性格をもつ。すなわち、経営学科で学ぶ専門科目の基礎として、経営学の基本的な考え方、経営学でとりあげられる諸問題についてのトピックを講義する。この講義をつうじて、経営学への興味を高めるように努めたい。

#### 講義概要

前・後期交代による授業のため、開講時に講義レジメを配布して説明する。概ね年間授業内容に従う。

#### テキスト

プリント配布予定。

#### 参考文献

その都度指示する

#### 評価方法

期末定期試験・平常授業の課題など。

#### 年間授業計画

- ベンチャー起業について…ここでは企業創業のプロセスについて学ぶ。企業創業のプロセスは、企業を起こそうとするヒト、つまり企業家の積極的な活動がなければ成立しない。企業家は、いかに創業機会を発見し、それをどのように企業創業に結びつけていくのか。そのあたりに焦点を当て、ビジネス・プランの策定を試みる。
- 現代企業について…ここではアメリカの石油産業を支配したスタンダード・オイル社の歴史をみる。現代企業の誕生を水平的統合と垂直的統合という概念を使って説明する。そして企業の法的形態の変化と、所有と経営のあり方の変化についても言及する。
- 環境と組織について…フォード社がどのようにして大衆車モデルTを開発したのか、そしてアメリカの自動車産業を制覇した。フォード車は、なぜGM(ゼネラル・モーターズ)社に追い越されたのか。企業をとりまく環境と企業が採用する戦略、組織のあり方がどのように関連しているかについて言及する。
- 新事業の創出について…新事業の創造は現代企業の宿命である。企業は新事業を創造し、若返りを

図る。しかし、新しい事業を創造することは「生みの苦しみ」という困難を伴う作業である。ここでは具体例を通じて説明し、新事業を展開するさいの経営管理上の重要性を示唆する。

- 競争戦略について…ここでは「競争戦略」について、具体例を通じて説明する。競争戦略とは、いかに競合他社に対して競争上の優位性を確立し、またそれを持続させていくのかを決定することをいう。戦略では、相手との「ちがいを作りだし、効果的かどうかをみることである。
- M & Aについて…企業は外部資源を利用することで、内部資源の不足を補うことができる。M & Aは、他の企業の一部または全部を買い取ることで外部資源を利用する方法である。ここでは事例を通して、M & Aの効果や経営問題について学習する。
- 日本の経営について…終身雇用・年功序列などによる日本的経営の転換といわれて久しいが、この体制のなにを意味していたのか。少なくとも高度経済成長時には意味を持っていたのか。なぜ日本的という形容が付されるのか。これらについて、具体例を通じてロナルド・ドーアなどの見解をみることにする。
- 寡占について…経済学では、市場に複雑だが少数の売り手が存在するとき、それを寡占と呼ぶ。とくに競争戦略などを考えるときには、この理論が前提とならなければならない。この理論的な問題は、一般にはゲーム理論を用いることになる。これによって、格段の状況理解を深めることをねらいとする。
- よい会社とは何か…それぞれの会社はそうなりたいと願う「良い会社」のイメージがある。良い会社の客観的な基準を作るとなるとそれは難しい。結論からいうと「良い会社」の条件やウエートの置き方は、時代や国によって異なり、これが必要十分条件であるということはないということを探る。
- 製品開発について…キャラクターを交換することで遊びを創出した「ポケットモンスター」は、社会問題まで巻き起こしながら大ヒット商品となった。その製品開発までの軌跡を辿ることで、つまらないものには見向きもしない子供たちを相手に成功した要因を探る。
- ネットワーク組織について…企業が、そのときに市場に求められているモノやサービスを生産し供給することを「マーケットイン」という。そのためには市場に柔軟に対応できる組織が求められる。一般にはこのような仕組みをもつ組織をネットワーク組織と呼んでいる。

12. 会社は誰のものか・・・ここでは現代企業の行動とそのコントロールについて考える。それは株主を重視するアメリカ的公司観と、株主をそれほど重視しない日本の会社観の問題をみることにする。今日の企業経営のあり方において、その支配形態である株式会社は、経営者や株主はどのように位置付けられるのか。
13. 企業文化・・・沈滞している会社の社長や中間管理職が社員たちのムードや考え方の枠組みを変えると、企業全体の活動が見違えるほど生き生きとすることがある。それは企業のトップやミドルたちが組織全体の価値観を変えたりすることで、活性化されるからである。この企業独自価値観や考え方、行動パターンを「企業文化」という。具体例を通じて、企業文化の変遷、組織活性の実態などについて考える。



01 科目名	経営学 a・b
98 科目名	経営学
97 科目名	
担当者	西川純子(半期)

#### 講義の目標

経営学の入門講座。基礎的な知識を与えながら、学生諸君の経営学への興味をかき立てていくような講義を心掛けたい。

#### 講義概要

歴史的な考証、理論的な整理、現状分析など、いろいろな方法を用いながら、企業を中心にその社会における役割を検討する。

#### テキスト

特に定めない。

#### 参考文献

その都度指示する。

#### 評価方法

筆記試験

#### 半期授業計画

1. 企業家、資本家、経営者 / 序論 三題噺
2. 営業の自由 / 企業精神の発露は営業の自由なしには不可能である。
3. 自由と競争 / アダム・スミスの世界
4. 資本家と労働者 / カール・マルクスの世界
5. 株式会社
6. 競争と独占
7. 市場
8. 所有と経営の分離 / バーリー・ミーンズの問題提起
9. 財閥と企業集団
10. 企業系列
11. 多国籍企業
12. 日本的企業

01 科目名	簿記原理 a・b
98 科目名	簿記原理
97 科目名	簿記原理
担当者	井出健二郎

#### 講義の目標

世の中にたくさんある企業を良い・悪い、就職したい・そうでない...と評価するモノサシには何があるでしょうか？色々と考えられますが、どれだけもうかっているか、いくら借金があるかというおカネのモノサシがあるでしょう。そのモノサシを作るもの...それが簿記です。

また、皆さんが就職される際、評価されるモノサシは何でしょうか？おそらく、第一は個人のキャラクターが左右されますが、資格の有無もポイントです。日商検定・税理士・公認会計士などは簿記をもとにした資格です。また、海外志向の方は、アメリカ会計士などもあります。

会社の「通知表」が作れるようになり、皆さんのプラスとなるようにすることが本講義の目的です。

#### 講義概要

前期では、簿記がどうして役立つか、どのような目的があるかを説明します。続いて、簿記の大きな流れをひと通り講義していきます。その場合、用語の説明、手順の紹介を行うと同時に、皆さんにも実際に作業してもらいます。

後期では、前期での簿記の大きな流れをもとにしつつ、細かいポイントについて説明し、作業してもらいます。その結果として総合的な簿記の全体を講義します。さらに、日本商工会議所簿記検定試験 3 級(2 月)向けの対策をも考慮して問題などをできる限り解いていくことにします。

#### テキスト

湯田雅夫共著『商業簿記入門』中央経済社

井出健二郎ほか『3 ステップ基本商業簿記演習』創成社

#### 参考文献

- 染谷恭次郎著『簿記の手ほどき』日経文庫
- 会田一雄・中村泰将・百瀬房徳『現代簿記精説』中央経済社
- 小川 洵共著『簿記会計の基礎』創成社
- 片山覚監修『段階式 日商簿記 2 級』税務経理協会

電卓(10 ケタ以上のもの)を必ず用意してください。

#### 評価方法

前・後期ともに通常の出席状況をもとに試験をふまえたうえで総合評価していきます。評価配分としては、出席 60%、試験 40%を基本としていきます。つまり、出席していただき、講義を聞いてもらいたいと思っています。なお、資格を取得された方についてボーナス評価を行うつもりです。

#### 受講者への要望

何か1つくらい資格を...と考えている他学部の方も歓迎しています。初心者を前提とし、できる限りわかりやすく、皆さんにヤル気をおこさせる講義を心がけます。皆さん自身も"この講義をうけて得ものが多かった"と充実感の残るようにしましょう。

#### 前期授業計画

- 簿記の諸目的と種類について
- 簿記の基本等式と基本概念について
- 簿記上の取引とその記録について
- 簿記上の取引の勘定記入について
- 簿記のプロセス 1: 仕訳について
- 簿記のプロセス 2:(元帳) 転記について
- 帳簿記入と伝票について
- 簿記のプロセス 3: 試算表について
- 簿記のプロセス 4: 精算表について
- 簿記のプロセス 5: 決算手続について
- 簿記のプロセス 6: 財務諸表の作成について
- 簿記のプロセスの復習とまとめ

#### 後期授業計画

- 前期講義内容の復習
- 現金・預金・商品売買取引に関する簿記
- 売掛金、買掛金、その他の債権・債務に関する簿記
- 手形取引に関する簿記
- 貸倒損失・貸倒引当金に関する簿記
- 有価証券、固定資産に関する簿記
- 費用・収益に関する簿記
- 資本と税金に関する簿記
- 決算手続についての簿記 1
- 決算手続についての簿記 2
- 財務諸表の作成について
- 簿記の役割の再確認、会計学とのかかわり

01 科目名	簿記原理 a・b
98 科目名	簿記原理
97 科目名	簿記原理
担当者	内 倉 滋

#### 講義の目標

企業会計は、しばしば「事業の言語」とであると言われる。言葉にはすべて文法があるように、企業会計という1つの言語にも「文法」に相当するものがあるわけであるが、その基本的な原理を習得することが本講義の目標である。そうした、言葉の構造を纯粹に形式的に解明していく分野を、自然言語の世界では「構文論」と呼ぶのであるが、trying みるならば「会計言語」における構文論が本講義である、ということとなる。

#### 講義概要

会計という言葉は、今日では1つの世界共通語である。それゆえその「構文論」として講義すべき中身もまた、講義担当者によって大きく変わるものではない。本講義では、そうした共通的な中身のうちの、とりわけ最大公約数の部分だけを、丹念に議論していきたいと考えている。まず前期（簿記原理 a）で、決算整理を含まない、「分記法」を前提とした（＝要するに基本的で最も簡単な、ということである）「簿記一巡の手続き」までの内容を取り扱う。そして後期（簿記原理 b）に、その内容に「商品3分法」や各種の「決算整理」といったディテールを付け加えていき、その中身を、より実際の会計実践に近い形のものに深化させていくこととしたい。

#### テキスト

未定

#### 参考文献

特に必要とはいたしません。

#### 評価方法

前期（簿記原理 a）：受講生の理解度を知る目的から、しばしば小テストを実施し、そうした平常点を全体の半分程度のウェイトと考え、それに期末試験の結果を加えて評価したい。なおその際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。

後期（簿記原理 b）：前期（簿記原理 a）と同様受講者への要望

検定試験類に、どしどしチャレンジしてみてください。合格した場合は、平常点に加味いたします。そ

れよりも何よりも、自分の一生の道を見つけ出すことができるかもしれません。

#### 前期授業計画

1. 貸借対照表.....簿記の目的、資本、貸借対照表の内容
2. 損益計算書.....簿記の第2目的の達成方法、損益計算書等式（損益計算書）
3. 「取引」の記録.....期首貸借対照表と「取引」の記録からの貸借対照表と損益計算書との作成、「取引」記録のルール
4. 仕訳.....仕訳とは、設例による説明
5. 勘定口座.....その必要性、勘定口座の形式、勘定口座への記入ルール
6. 仕訳帳と元帳.....仕訳帳（形式、「摘要」欄、「元丁」欄）元帳（形式、「仕丁」欄、「摘要」欄、「相手勘定科目」） 3伝票制
7. 試算表.....決算（決算予備手続き、決算本手続、財務諸表の作成）、合計試算表、残高試算表、合計残高試算表
8. 精算表.....仮設例の提示（次回と共通）、精算表の原理
9. 「勘定の振替え」という技法について.....定義、具体例による説明
10. 決算本手続（帳簿決算）その1：純損益の振替...  
...帳簿決算の第1の目的（＝資本金勘定を正しい値に修正）、資本金勘定を正しい値に修正するための第1の方法、その第2の方法
11. 決算本手続（帳簿決算）その2：帳簿の締め切りと繰越試算表.....繰越試算表（その必要性等）、勘定口座の締め切り（参考：大陸式決算法）、仕訳帳の締め切り、財務諸表の作成
12. 前期の総復習.....同形式の問題により、前期末試験の予行演習

#### 後期授業計画

1. 現金・預金の記帳.....現金（簿記上の現金概念、現金過不足の処理）、当座預金（特徴、当座借越、当座預金出納帳）、小口現金（小口現金勘定、小口現金出納帳）
2. 商品売上の記帳（3分法その1）.....設例の提示、「修正された」分記法、3分法（2つの仮定を導入、期末に在庫が有る時の問題、売上時の処理）
3. 3分法（その2）.....3分法の復習、値引・返品処理、諸経費の処理（買主負担の場合〔仕入諸掛〕、売主負担の場合〔発送費〕）
4. 3分法（その3：仕入帳・売上帳）.....帳簿の種類（主要簿、補助簿〔補助元帳、補助記入帳〕）、仕

入帳・売上帳（補助元帳でない理由、記帳上の留意点）

5. 商品有高帳.....その必要性、その位置付け（3分法では存在しない「商品」勘定の「補助元帳」、移動平均法、先入先出法）
6. 掛け売買と固定資産の記帳.....掛け売買の記帳（売掛金〔買掛金〕元帳、貸倒れ）、固定資産の記帳（固定資産の意味、種類、固定資産台帳）
7. 決算整理その1（3分法関係）.....決算整理とは、3分法関係の「決算整理仕訳」と「決算振替仕訳」の例
8. 決算整理その2（貸倒れの見越し・減価償却）...  
...貸倒れの見越し（意義、原理、償却債権の取立て）、減価償却（意義、毎期の減価償却費〔定額法〕、仕訳方法、売却時の処理）
9. 8桁精算表と損益計算書・貸借対照表.....8桁精算表（6桁精算表の限界、8桁精算表の原理）、損益計算書（仕入勘定等の表示、区分式）、貸借対照表（評価勘定の表示等）
10. 手形の記帳.....手形の種類、簿記上の勘定、為替手形振出しの説明、手形の裏書譲渡（意義等、割引）、受取手形記入帳・支払手形記入帳
11. 決算整理その3（収益・費用の繰延べ・見越し）.....設例の提示、収益・費用の繰延べ、収益・費用の見越し
12. その他の期中取引及び決算整理事項等.....その他の債権・債務の処理（商品券等）、個人企業の資本の記帳、有価証券の期末評価、消耗品の処理

01 科目名	簿記原理 a・b
98 科目名	簿記原理
97 科目名	簿記原理
担当者	香 取 徹

#### 講義の目標

簿記は必ず身につけておかなければならない基本的な技術です。どのような職業についても簿記の知識は実社会で不可欠ですから、全学の学生が履修する必要があります。この講義では、日本商工会議所簿記検定 3 級の範囲を完全に網羅します。また、会計学原理、財務会計論、原価計算論、管理会計論などの会計に関連する科目を学ぶ上でとても重要な基礎になります。

#### 講義概要

簿記は難しいものではありませんが、技術ですから、身につけるためには、練習が必要です。そのため、毎回の講義では、一つずつ項目を説明し例題の解説をしてから講義に合わせてプリントを配布して練習します。講義中に練習しながら質問を受けていきますし、プリントでも意見や質問を書いて下さい。また、ワークブックも自宅での練習に利用してください。

日経新聞で会計に関するトピックを毎回コピーして紹介して簡単な解説をします。

#### テキスト

- ・ New Concept 日商簿記検定試験 商業簿記 3 級 税務経理協会
- ・ 同 商業簿記 3 級 ワークブック 税務経理協会

#### 評価方法

前期：5 月（100）と定期試験（200）の 2 回の成績とプリントとワークブック（100）

後期：11 月（100）と定期試験（200）の 2 回の成績とプリントとワークブック（100）

#### 受講者への要望

とにかく講義には休まないで、がんばって練習してください。また、検定試験にどんどんチャレンジして下さい。合格したら試験の点数に加算します。

#### 前期授業計画

1. 1 簿記の基礎概念
2. 2 資産・負債・資本と貸借対照表
3. 3 収益・費用と損益計算書

4. 4 取引と勘定
5. 5 仕訳と転記
6. 6 仕訳帳と総勘定元帳
7. 小テスト
8. 7 試算表と精算表
9. 8 決算手続
10. 11 現金と預金
11. 決算手続 練習
12. 繰上試験

#### 後期授業計画

1. 93 分法による商品売買
2. 10 仕入帳・売上帳・商品有高帳
3. 12 有価証券
4. 13 売掛金と買掛金 14 その他の債権・債務
5. 15 手形、小テスト
6. 16 貸倒れと貸倒引当金
7. 17 有形固定資産 18 資本金と引出金
8. 19 費用・収益の見越・繰延
9. 20 試算表の作成
10. 21 決算整理と仕訳の訂正
11. 22 精算表の作成、23 伝票会計
12. 繰上試験

01 科目名	簿記原理 a・b
98 科目名	簿記原理
97 科目名	簿記原理
担当者	金井 繁雅

#### 講義の目標

複式簿記の計算原理を探究することに主眼を置き、商企業の経済活動つまり取引を正確に記録・計算・整理する能力を身につけることを目的とする。この科目は、会计学原理、財務会計論、原価計算論、経営分析論、上級簿記など会計系統の諸科目の基礎講座として機能するので、会计学の理解にとって不可欠である。

#### 講義概要

複式簿記の原理およびその計算構造を学び、複式簿記の一連の手続を習得し、商企業の日常取引の記帳処理と決算処理を理解してもらう。つまり、資産、負債、資本、収益および費用という 5 つの概念とその相互関係、資本等式や貸借対照表等式を解説し、資本をストックとしてとらえて利益を計算する財産法と資本をフローとしてとらえて利益を計算する損益法の計算原理を理解してもらう。更に、簿記の対象である取引を分解し、仕訳帳に記入し、それを総勘定元帳に転記し、決算において、試算表を作成し、その記録の正確性を検証し、精算表を作成し、帳簿決算の手続を経て、財務諸表を作成するという簿記手続の全体像を把握してもらう。

#### テキスト

未定

#### 参考文献

未定

#### 評価方法

前期試験および後期試験によって成績評価を行う。

#### 受講者への要望

簿記はその性格上、単に頭の中で理解するだけでなく、数多くの練習問題を繰り返し解くという勉強態度が要求され、階段を一步一步登っていくという努力が必要である。

#### 前期授業計画

1. [ 簿記の意義と目的 ] 企業社会において、簿記の果たす機能とその目的について概説する。
2. [ 資産・負債・資本 ] 簿記の基本概念である資産、負債および資本の意味とそれらの相互関係について

説明する。

3. [ 収益・費用 ] 収益と費用の概念を明らかにするとともに、その差額である利益について考察する。
4. [ 財産法と損益法 ] 利益計算の方法としての財産法と損益法の原理について考える。
5. [ 取引と勘定記入 ] 簿記上の取引と一般的な取引の区別および勘定記入の法則について説明する。
6. [ 仕訳と転記 ] 仕訳の意味、仕訳の方法および仕訳帳について説明すると同時に、元帳への転記の方法を概説する。
7. [ 試算表と精算表 ] 貸借平均の原理、試算表の意義および 6 桁精算表の構造と作成方法について説明する。
8. [ 帳簿決算手続 ] 主に英米式決算法を解説する。また、決算振替仕訳について十分に練習する。
9. [ 現金・預金 ] 現金と通貨代用証券、現金過不足勘定、小口現金、当座預金と当座借越について学ぶ。
10. [ 有価証券 ] 有価証券の購入と売却および評価替えについての記帳を解説する。
11. [ 商品勘定の 3 分法 ] 分記法と 3 分法の相違および 3 分法での決算整理について説明する。
12. [ 仕入帳と売上帳 ] 商品の仕入と売上についての明細を記録する補助簿について学ぶ。

#### 後期授業計画

13. [ 商品有高帳 ] 商品有高帳の作成方法、つまり先入先出法や移動平均法等を理解する。
14. [ 得意先元帳と仕入先元帳 ] 売掛金勘定と得意先元帳の関係および買掛金勘定と仕入先元帳の関係について考える。
15. [ 手形取引の記帳 ] 約束手形と為替手形の意味と手形取引の仕訳を学ぶ。また手形の裏書や割引にも触れる。
16. [ その他の債権・債務 ] 前払金と前受金、立替金と預り金、仮払金と仮受金などを学ぶ。
17. [ 貸倒れと貸倒引当金 ] 貸倒れの意味と貸倒引当金の設定（差額補充法）について学ぶ。
18. [ 固定資産と減価償却 ] 固定資産と減価償却の意味および定額法による減価償却の処理について説明する。
19. [ 資本金と引出金 ] 個人企業における資本金勘定と引出金勘定について概説する。
20. [ 収益・費用の繰延 ] 損益の期末整理として、前受収益と前払費用の処理について学ぶ。
21. [ 収益・費用の見越 ] 損益の期末整理として、未収収益と未払費用の処理について学ぶ。
22. [ 試算表の作成 ] 試算表の作成に関する問題を練

習する。

23 . [ 8 桁精算表 ] 8 桁精算表の作成に関する問題を練習する。

24 . [ 財務諸表の作成 ] 財務諸表の作成について総合的に考察する。

01 科目名	簿記原理 a・b
98 科目名	簿記原理
97 科目名	簿記原理
担当者	千葉啓司

#### 講義の目標

以下の項目を講義の主要な目標とする。

- ・簿記、特に商業簿記の意義とその体系の理解
- ・代表的商取引の仕組とその記録方法
- ・決算の意義と方法

このほか、簿記には各種資格試験があるため、その資格試験の意義、取得に向けての勉強方法なども合わせて補足的に講義する。

#### 講義概要

まず第一段階として、簿記の意義について講義する。ここでは、簿記が必要とされる理由、簿記の果たす役割、簿記の分類などの説明をする。第二段階として、簿記の全体像について講義する。ここでは、取引の記録から決算に至るまでの簿記の一連の手続について説明する。第三段階として、主要取引の仕組みとその記録方法を講義する。ここでは、商品売買取引、手形取引等の仕組みとその記録方法について説明する。最後に第四段階として、決算について講義する。ここでは、決算の意義と手続について講義する。

#### テキスト

平松一夫著「ニューコンセプト日商簿記検定試験 商業簿記3級」税務経理協会

平松一夫著「ニューコンセプト日商簿記検定試験 商業簿記3級ワークブック」税務経理協会

#### 参考文献

特に指定しない。

#### 評価方法

前期：前期末試験に平常点を加味して評価する。

後期：前期の成績を勘案しつつ、後期試験を行い、その結果に平常点を加味して評価する。

#### 受講者への要望

講義の時間以外にも、特に復習に力を入れて勉強して欲しい。また、各種資格試験にもチャレンジして欲しい。

#### 前期授業計画

1. 簿記の意義、役割、分類。簿記と会計学その他関連科目との関係

2. 簿記上の取引、資産・負債・資本・収益・費用の意味
3. 簿記の記録方法
4. 試算表と精算表
5. 決算手続、財務諸表の作成
6. 商品売買取引（分記法、総記法、3分法）
7. 買掛金と売掛金、値引・返品
8. 売上原価の算定方法1（仕入勘定で売上原価を算定する場合）
9. 売上原価の算定方法2（売上原価勘定で売上原価を算定する場合）
10. 商品有高帳（先入先出法、移動平均法）
11. 現金・預金、小切手の処理
12. 当座借越の処理と小口現金

#### 後期授業計画

1. 株式及び社債・国債の意義
2. 株式及び社債・国債の取得と売却の仕組みとその記録方法
3. 株式及び社債・国債の評価替
4. 貸付金・借入金、未収金・未払金、立替金・預り金
5. 手形取引。約束手形と為替手形。
6. 手形の裏書譲渡と割引
7. 決算の意義と手続
8. 貸倒と貸倒引当金
9. 減価償却
10. 費用収益の見越・繰延
11. 試算表の作成
12. 精算表の作成



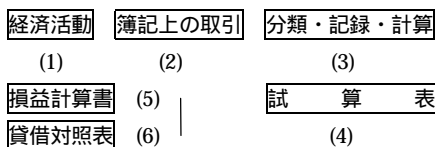
01 科目名	簿記原理 a・b
98 科目名	簿記原理
97 科目名	簿記原理
担当者	中村 泰 将

#### 講義の目標

コンピュータの発達により、計算技術的には迅速かつ正確な計算が可能になったが、経済活動を記録・計算する原理は簿記システムを学ばなければ理解できない。企業の利益の計算、課税所得の計算を始め、すべての経済活動の成果は、簿記によって計算される。この計算構造の原理を学ぶことが本講座の目的である。

#### 講義概要

前期：企業の目的と企業のシステムを学び、そこで行われる経済活動を理解し、簿記がなぜ、そこに登場しなければならないかを考える。経済の活動の結果は、富のフローとストックで表すことが出来るから、その報告書が作成できるようにしたい。



上の一連の行為を簿記の処理として学ぶ。(ワンサイクルの学習と呼ぶ。)

後期：前期で学んだ一連の処理を前提として、前期よりも複雑な取引を対象としてその簿記処理を学ぶ。従って、(2)と(3)の基本的原理は同じだが、(4)から(5)と(6)を作成する過程が複雑になる。どのように複雑になるかは、授業で説明する。

#### テキスト

授業の始めに指定します。

問題のプリントも併せて使用します。

#### 参考文献

簿記検定を受験する希望者は、つぎの問題集をすすめる。

・『検定簿記ワークブック』3級、2級の商業簿記、中央経済社

#### 評価方法

前期：前学期テストによって成績評価を判定する。毎回、10分程度の小テストを行うので、その成績も加算する。

後期：後学期テストによって成績評価を判定する。毎回、10分程度の小テストを行うので、その成績も加算する。

#### 受講者への要望

出欠は自由であるが、簿記の授業は毎回実際に記帳練習するので必ず出席すること。この講義が終了したら、上級簿記を履修することが望ましい。

#### 前期授業計画

- 簿記とは何かを理解する
- (1) 複式簿記の基本等式  
(2) 複式簿記の基礎概念  
(3) 複式簿記の5つの基本要素
- (1) 簿記上の取引の意味と種類
- (1) 「勘定」とは何か  
(2) 勘定でどのような計算をするか
- (1) 「仕訳」とは何か  
(2) 仕訳の仕方  
(3) 「仕訳」から「勘定」へ転記する
- 第5回までの一連のプロセス  
□ □ □ 次へ
- 試算表の作成 (1) 試算表とは何か  
(2) 試算表の目的
- 精算表の作成 (1) 精算表とは何か  
(2) 精算表から損益計算書と貸借対照表を作成する
- ～10.  
決算の仕方を理解する  
(1) 決算とは何か  
(2) 決算の手続 予備手続と本手続  
(3) 元帳の締切
- ～12.  
決算の仕方を理解する  
(1) 費用・収益勘定を締め切る  
(2) 当期純利益を資本金勘定に振り替える  
(3) 資産・負債・資本の勘定を締め切る

#### 後期授業計画

- 現金と預金
- ～4.  
商品の購入・管理・販売の処理  
(1) 商品の売買利益の算定の仕方  
(2) 商品の3分割  
(3) 商品有高帳の作成  
(4) 仕入帳と売上帳の作成
- 有価証券の購入・保有・売却の処理
- 固定資産の購入・利用・修繕・処分処理
- 債権・債務の処理(1)

- 8. その他の債権・債務(2)
- 9. 資本金の処理
- 10. 決算の修正手続(1)
  - (1) 収益と費用の繰延
  - (2) 前払費用と前受収益
- 11. 決算の修正手続(2)
  - (1) 収益と費用の見越
  - (2) 未収収益と未払費用
- 12. 決算の修正手続(3)
  - (1) 8 桁精算表の作成
  - (2) 損益計算書と貸借対照表の作成

01 科目名	簿記原理 a・b
98 科目名	簿記原理
97 科目名	簿記原理
担当者	百瀬 房徳

#### 講義の目標

本講では、特に複式構造を内包した商業簿記を取り上げる。複式構造は仕訳にもとずき勘定システムを通じて事業の資産、負債および資本の増・減を測定する。この勘定システムと事業体の組織との関係で、各勘定の意義および機能と具体的な処理について理解を深めることにする。

#### 講義概要

複式簿記とは、貸方および借方の複式構造を持ち、取引を仕訳帳、元帳および補助簿へ記入する簿記をいう。まず、複式簿記の基本的な勘定システムを前期に修得し、つぎに、基本的な勘定について仕訳帳の記入、元帳における勘定への転記および補助簿への記入について取引を記録する過程を具体的に修得する。

#### テキスト

・中村・曾田・百瀬著『現代簿記精説』中央経済社

#### 参考文献

無し

#### 評価方法

前期：テスト

後期：テスト

#### 受講者への要望

講義のあった日に必ず復習すること。

#### 前期授業計画

1. 一年間の講義内容の説明および複式簿記の解説
2. 複式簿記の体系の説明およびこの簿記における取引とは何か
3. 仕訳の基本原則および取引勘定への転記
4. 補助簿への記入、および試算表の作成
5. 清算表の作成原理、損益勘定および残高勘定への転記
6. 取引パターン別の仕訳例の説明
7. パターン別に仕訳された例の勘定への転記
8. 例題による取引の仕訳、勘定への転記
9. 例題による清算表の作成および決算に際しての損益勘定および残高勘定の完成

10. 練習問題...取引の仕訳帳記入および仕訳帳から元帳への転記

11. 練習問題...試算表の作成および清算表の作成

12. 練習問題...元帳締切による損益勘定および残高勘定の完成

#### 後期授業計画

1. 現金勘定と現金出納帳

2. 当座預金と当座預金出納帳、および小口現金と小口現金出納帳

3. 商品勘定の記入方法...単純な商品勘定、混合商品勘定および商品勘定の分割

4. 仕訳勘定と売上勘定、商品の仕入価額および返品と値引

5. 仕入勘定と仕訳帳および売上勘定と売上帳

6. 繰越商品勘定と商品有高帳、および棚卸減耗費および商品評価損

7. 売掛金勘定と得意先元帳、および買掛金勘定と仕入先元帳

8. 受取手形勘定と受取手形記入帳、および支払手形勘定と支払手形記入帳

9. その他の債券・債務の諸勘定、および有価証券勘定

10. 固定資産の諸勘定...特に減価償却に関する処理

11. 決算前の諸勘定の整理について

12. 決算...勘定の締切、損益勘定および残高勘定の完成、および8桁精算表の作成

01 科目名	簿記原理 a・b
98 科目名	簿記原理
97 科目名	簿記原理
担当者	山崎雅教

#### 講義の目標

簿記は、実社会においても有用な道具です。一般に、この道具を専門的に用いる職業として、公認会計士や税理士があげられます。しかし、それ以外の人も、企業の成績を判断して何らかの意思決定を行う場合に、簿記に関する知識を有していることが役立つことがあります。つまり、「簿記原理」は、社会と密接に結びついた科目といえるのです。

そこで本講座は、初学者を対象に簿記とはどのようなものであるかを理解してもらい、その他の会計関連科目及び上級の簿記を学ぶための基礎知識を習得してもらうことをねらいとします。そして、最終的には、簿記の学習を通して会計的なものの方・考え方を養っていただきたいと思います。

#### 講義概要

一般に簿記という場合、それは企業の経済活動を記録・計算・整理し、その結果を財務諸表を通して利害関係者に報告する技術であるといえます。そのため、実際に練習問題を解きながら理解を深めることが大切となります。

そこで本講座では、前期に上記の簿記の定義に従い、簿記の一巡の手続きを学ぶこととなります。その中心は、簿記の基本的メカニズムを支える約束事の理解 - いわゆる仕訳 - に重点をおくこととなります。後期には、前期の知識を前提として、個別問題に係わる具体的な会計処理に関して説明することとなります。

毎回の講義では、前半に基本事項の説明を行い、後半には練習問題を解いてもらうことを原則とします(別途練習問題のプリントを配布)。

#### テキスト

中村忠『新訂現代簿記(学習版)』白桃書房

#### 参考文献

山本繁『簿記技法(改訂版)』同文館

平松一夫『NEW CONCEPT 日商簿記検定試験 商業簿記3級』税務経理協会

#### 評価方法

前期・後期とも、出席点及び学期末に実施する試

験を総合的に評価する。

#### 受講者への要望

積極的な参加をしている学生に迷惑になるような私語の禁止はいうまでもなく、講義に水をさすために、携帯電話のスイッチはOFFにすること。

履修希望者は、1回目の講義を欠席しないこと。

#### 前期授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.概説
- 3.構成要素の説明(part1)
- 4.構成要素の説明(part2)
- 5.仕訳原理の説明(part1)
- 6.仕訳原理の説明(part2)
- 7.転記の説明
- 8.試算表の作成
- 9.精算表の作成
- 10.帳簿の締切方法の説明
- 11.財務諸表の作成
- 12.前期試験

#### 後期授業計画

- 1.現金・預金取引
- 2.商品売買取引(part1)
- 3.商品売買取引(part2)
- 4.有価証券取引
- 5.手形取引
- 6.貸倒れ処理
- 7.固定資産取引(part1)
- 8.固定資産取引(part2)
- 9.収益費用の見越し繰延べ取引
- 10.その他の取引
- 11.財務諸表の作成
- 12.後期試験

01 科目名	簿記原理 a・b
98 科目名	簿記原理
97 科目名	簿記原理
担当者	湯田 雅夫

#### 講義の目標

簿記は、企業の管理運営を合理的に推進するためにあって、また企業の財政状態や経営成績を外部の利害関係者に正しく報告するうえで、欠くことのできない計算技術である。

本講義は、受講生全員が日本商工会議所検定 3 級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。

なお、受講生の理解力を確かめるために、今年から、定期的に小テストを行うことにする。

#### 講義概要

複式簿記の基礎的な原理と技法を完全に修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行う。簿記は、技術がかなりのウェートを占めている学問であるので、単に書物を読んで学習するだけでは修得できない。各自、授業の進捗度に応じて教科書の「練習問題 A」および「練習問題 B」に取り組み、記帳練習を重ねる必要がある。

#### テキスト

・上田・小川・渋谷・湯田『演習 商業簿記入門』中央経済社

#### 参考文献

- ・渋谷武夫『日商簿記検定 3 級 初級簿記演習』税務研究会出版局
- ・渋谷武夫『日商簿記検定 2 級 初級簿記演習』税務研究会出版局
- ・小川 洵・渋谷武夫『現代工業簿記』税務経理協会

#### 評価方法

前期：定期試験期間中に実施する試験と授業中に行う小テストの成績を基本に評価する。なお、出席状況を素点に加点するために、数回の出席をとる。

後期：定期試験期間中に実施する試験と授業中に行う小テストの成績を基本に評価する。なお、出席状況を素点に加点するために、数回の出席をとる。

#### 受講者への要望

私語をしないこと。予習復習を必ずして出席すること。

#### 前期授業計画

1. イントロダクション：講義概要ならびに授業の進め方
2. 簿記の歴史
3. 第 1 章 簿記の意義と目的；第 2 章 資産・負債・資本と貸借対照表
4. 第 2 章 東京商会の事例解説；第 3 章 収益・費用と損益計算書
5. 第 4 章 取引；第 5 章 勘定
6. 第 6 章 仕訳と転記
7. 第 7 章 帳簿
8. 第 8 章 簿記一巡の手続き
9. 第 9 章 現金預金
10. 第 10 章 商品売買
11. 第 10 章 商品売買
12. 第 11 章 有価証券；第 12 章 売掛金と買掛金

#### 後期授業計画

1. 第 13 章 その他の債権・債務
2. 第 14 章 手形
3. 第 15 章 貸倒れと貸倒引当金
4. 第 16 章 固定資産；第 17 章 資本金と引出金
5. 第 18 章 収益・費用の繰延と見越
6. 第 19 章 決算予備手続
7. 第 19 章 決算予備手続
8. 第 20 章 例題解説
9. 第 20 章 決算本手続
10. 第 20 章 決算本手続
11. 総合問題
12. 本講義の結びとして、「簿記学習の継続」の必要性を指摘。

01 科目名	英 語 ( 会 話 )
98 科目名	英 語 ( 会 話 )
97 科目名	英 語 ( 会 話 )
担当者	各 担 当 教 員

- 17 . Episode 6, Act 2
- 18 . Episode 6, Act 3
- 19 . Episode 7, Act 1
- 20 . Episode 7, Act 2
- 21 . Episode 7, Act 3
- 22 . Episode 8, Act 1
- 23 . Episode 8, Act 2
- 24 . Episode 8, Act 3 の概説及び復習

#### 講義の目標

自然なスピードの英語をビデオから得られる視覚的情報を利用しながら理解し、また、基本的な日常英会話が行なえるようになることを目標とする。

#### 講義概要

ビデオを見てその内容を理解し、テキストにのっているスクリプトで内容の確認を行なう。また、ドリルとして、スクリプトで使われている重要会話表現のリピートをする。さらに、さまざまな疑問文の作り方、文型練習などを行なう。毎回学習した内容の確認として最後に True-False Quiz を行なう。

#### テキスト

*Family Album, USA*

#### 評価方法

前後期定期試験としてビデオを使ったヒアリングテストを行なう。これに加え毎週実施する True-False Quiz、出席、平常点などをもとに評価を行なう。特に遅刻せず授業に出席することが重要である。

#### 受講者への要望

テキスト及び60分のテープを毎回持ってくること。授業外でもたくさんテープを聞くこと。

#### 年間授業計画

- 1 . Episode 1, Act 1
- 2 . Episode 1, Act 2
- 3 . Episode 1, Act 3
- 4 . Episode 2, Act 1
- 5 . Episode 2, Act 2
- 6 . Episode 2, Act 3
- 7 . Episode 3, Act 1
- 8 . Episode 3, Act 2
- 9 . Episode 3, Act 3
- 10 . Episode 4, Act 1
- 11 . Episode 4, Act 2
- 12 . Episode 4, Act 3 の概説及び復習
- 13 . Episode 5, Act 1
- 14 . Episode 5, Act 2
- 15 . Episode 5, Act 3
- 16 . Episode 6, Act 1

01 科目名	英 語 ( 会話特別 )
98 科目名	英 語 ( 会話特別 )
97 科目名	英 語 ( 会話特別 )
担当者	Ｊ . ス ト ー ム

#### 講義の目標

The aim of this course is help improve student fluency in those areas that the student will most likely need when traveling abroad as well as those s/he might require for business within Japan. Stress will also be placed on maximizing present communication skills by introducing new speaking strategies and skills.

#### 講義概要

Students will work in pairs and small groups. There will be some creative mini-presentations made as well as one group, workshop presentation. Students will be encouraged to experiment with applying English to various situations.

#### テキスト

All materials will be provided by the teacher. An English/Japanese dictionary will be necessary.

#### 評価方法

Participation(including attendance) : 50%

2 exams(Summer and Winter) : 30%

2 mid-semester tests, in-class assignment and homework : 20%

\*A HIGH attendance rate is required to PASS this course\*

#### 年間授業計画

Topics covered will include : starting conversations and making "small talk" ; asking and talking about country/culture ; hosting foreign company guests ; giving and getting recommendations ; requesting information ; complaining ; getting around town ; and advanced telephoning. Speaking strategies dealing with meaning clarification ; interruption, and basic persuasion and negotiation will be introduced.

01 科目名	英 語 （ 講 読 ）
98 科目名	英 語 （ 講 読 ）
97 科目名	英 語 （ 講 読 ）
担当者	各 担 当 教 員

#### 講義の目標

国際化が進む中で、英語で情報を得る力が必要性を増してきたといえる。英語（講読）の授業では、英語で書かれた新聞、雑誌、随筆など様々な文章を読みこなすことができる能力を養うことを目標とする。

#### 講義概要

講義は、学生の英語力と興味を考慮した上で決めた教材により行う。教材の内容は、現代英語で平易に書かれたものとし、訳読に偏ることなく、読解力を養うための技術などを総合的に学ぶ。

#### テキスト

各担当教員が決める。

#### 参考文献

各担当教員の指示による。

#### 評価方法

各担当教員による。

#### 受講者への要望

予習、復習を欠かさず、積極的に学習してほしい。  
年間講義予定については、授業時に指示する。



01 科目名	
98 科目名	英 語 （ 講 読 ）
97 科目名	英 語 （ 講 読 ）
担当者	各 担 当 教 員

#### 講義の目標

国際化が進む中で、英語で情報を得る力が必要性を増してきたといえる。英語（講読）の授業では、英語（講読）の授業に引き続き、英語で書かれた新聞、雑誌、随筆など様々な文章を読みながら総合的な読解力を養うことを目標とする。

#### 講義概要

講義は、学生の英語力と興味を考慮した上で決めた教材により行う。教材の内容は、現代英語で平易に書かれたものとし、訳読に偏ることなく、より多くの英文を読みながら読解力を養うための技術などを総合的に学ぶ。

#### テキスト

各担当教員が決める。

#### 参考文献

各担当教員の指示による。

#### 評価方法

各担当教員による。

#### 受講者への要望

予習、復習を欠かさず、積極的に学習してほしい。  
年間講義予定については、授業時に指示する。

01 科目名	
98 科目名	英 語 （総合）
97 科目名	英 語 （総合）
担当者	各 担 当 教 員

#### 講義の目標

国際化が進む中で、英語で情報を発信・受信する力が益々必要性を増してきたといえる。英語（総合）の授業では、読む、書く、聞く、話すの4技能を総合した、現代英語でのコミュニケーション能力の習得を目標とする。

#### 講義概要

講義は、学生の英語力と興味を考慮した上で決めた教材により行う。教材の内容は、現代英語で平易に書かれたものとし、より多くの英語に接しながら総合的な英語力を養う。

#### テキスト

各担当教員が決める。

#### 参考文献

各担当教員の指示による。

#### 評価方法

各担当教員による。

#### 受講者への要望

予習、復習を欠かさず、積極的に学習してほしい。  
年間講義予定については、授業時に指示する。

01 科目名	
98 科目名	英 語 ( 会 話 )
97 科目名	英 語 ( 会 話 )
担当者	K . ミ ー ハ ン

20. Memories(events/emotions)
21. Diet(Vegetarian/meat eater)
22. what's new (recent activities)
23. Test Preparation
24. Final Test

#### 講義の目標

The aim of the course is to improve students English Conversation ability and skills.

#### 講義概要

Classes will be divided into parts: "Listening, conversation topic, Grammar, awareness, Pair interaction, and read and respond.

#### テキスト

To be assigned

#### 評価方法

Final Grade will be attendance(50%),class participation(25%), and tests(25%)

#### 受講者への要望

Students need to bring a Japanese / English dictionary and notebook to each lesson.

#### 年間授業計画

1. Introductions
2. Lifestyles and Activities
3. Living space
4. Family history (expressions)
5. Important people (terms related to personal influences)
6. Personality(preference and actions)
7. Shopping(items / Prices / reasons for needing things)
8. My Mysteries(words and expressions)
9. Different Generations(complaints from parents)
10. Working World(good and bad points of Jobs)
11. Information Age(activities / expressions related to opinions)
12. Quiz
13. Film(discussions/genre)
14. Describing(places/people/ideas)
15. Quiz
16. First Impressions(company ideas)
17. Different Ways(good rules/bad rules)
18. Education(subjects/system/opinions)
19. Quiz

01 科目名	ドイツ語 (第二外国語)
98 科目名	ドイツ語 (第二外国語)
97 科目名	ドイツ語 (第二外国語)
担当者	各 担 当 教 員

進め方・進度等について説明します。

2. 第2週～第24週は、テキストに基づいた練習。

#### 講義の目標

A (基礎) / ドイツ語圏の社会や文化についての基礎的な知識の獲得と、ドイツ語の基本能力の修得を目標とします。

B (読解練習) / 読解に重点を置きながら、ドイツ語の基本的な語彙や構文が理解できるよう指導します。

C (口頭練習) / 日常会話における基本的な表現を使って、ドイツ語での応答ができるよう指導します。

Aを中心に、AとB、またはAとCというように組み合わせて履修して下さい。

#### 講義概要

A (基礎) / ドイツ語圏の社会や文化にさまざまな形で触れた後、発音・数字・日常的な表現等の導入を経て、徐々にドイツ語の基本的な語彙・表現・文法事項を学んでいきます。

B (読解練習) / 易しい文章を読みながら、そこに出てくる基本的な語彙や構文を理解し、修得していきます。

C (口頭練習) / コミュニケーションを意識しながら、日常会話における場面ごとの基本表現を学び、口頭で応答できるように練習を行います。

#### テキスト

詳しくは教科書販売所の掲示を見て下さい。

#### 参考文献

・独和辞典(中型のもの)

#### 評価方法

前・後期定期試験の成績と授業への出席状況などを総合的に判断して評価します。

#### 受講者への要望

練習が主体の科目ですから、授業には必ず出席し、積極的に発言して下さい。

#### 年間授業計画

1. 第1週 テキストの内容を紹介し、今後の授業の

01 科目名	フランス語（第二外国語）
98 科目名	フランス語（第二外国語）
97 科目名	フランス語（第二外国語）
担当者	各 担 当 教 員

#### 講義の目標

「文法」ではフランス語の基礎的文法を習得し、「総合」では文法を応用し簡単なテキストを読む力をつけます。「文法」と「総合」からそれぞれ一科目ずつ選択して履修して下さい。

#### 講義概要

フランス語の基礎を学びます。発音、動詞の活用、文法事項など、最初は複雑に思えるかも知れませんが、ある程度の根気と努力さえあれば、習得できます。予習、復習に力を入れて、その都度マスターするように心掛けて下さい。

#### テキスト

各担当者による

#### 参考文献

初学者のために工夫された仏和辞典がいろいろとありますので、担当者の説明を聞いて購入して下さい。

その他の参考書については、担当者に直接相談して下さい。

#### 評価方法

評価方法については各担当者から説明があります。

#### 受講者への要望

どの学習もそうですが、とくに語学では持続的な積み重ねが大切です。毎日少しの時間でもよいから、フランス語に触れるように努力して下さい。

01 科目名	スペイン語 (総合)
98 科目名	スペイン語 (総合)
97 科目名	スペイン語 (総合)
担当者	各 担 当 教 員

#### 講義の目標

スペイン語入門の授業である。基礎的文法を、基本単語を用いた会話文を通して学ぶ。声に出して練習することによって、あいさつ文、現在形を使う文、過去形を使う文まで学びたい。

#### 講義概要

テキストにそって、第 6 課 (点過去) あるいは第 7 課まで進む。

#### テキスト

¡ Hola, amigos ! (芸林書房)

#### 評価方法

授業への積極的参加。年 2 回のテスト。小テストをおこなう場合もある。

#### 受講者への要望

スペイン語 (会話) との同時履修を望む。

#### 年間授業計画

1. ~ 12. テキストにそって第 1 課から第 3 課あるいは第 4 課まで前期でおこなう。
13. ~ 24. テキストにそって第 4 課から第 6 課あるいは第 7 課まで後期でおこなう。

01 科目名	スペイン語（会話）
98 科目名	スペイン語（会話）
97 科目名	スペイン語（会話）
担当者	各 担 当 教 員

#### 講義の目標

スペイン語会話入門の授業である。基本単語を用いた会話文を練習し、あいさつ文、現在形の文、過去形の文までを使えるようにする。

#### 講義概要

スペイン語（総合）と同じテキストを使い、その進度にあわせながら、会話練習をおこなう。

#### テキスト

¡Hola, amigos! (芸林書房)

#### 評価方法

授業への積極的参加。年 2 回のテスト。小テストをおこなう場合もある。

#### 受講者への要望

スペイン語（総合）との同時履修を望む。

#### 年間授業計画

1. ~ 12. テキストにそって第 1 課から第 3 課あるいは第 4 課まで（前期）
13. ~ 24. テキストにそって第 4 課から第 6 課あるいは第 7 課まで（後期）

01 科目名	ロシア語（文法）
98 科目名	ロシア語（文法）
97 科目名	ロシア語（文法）
担当者	佐藤 千登勢

#### 講義の目標

この授業はロシア語（講読）と併せて受けるもので、まったくの初学者を対象としています。

ロシア語は、習得が難しいと思われがちですが、文法体系はじつにシステムティックな言語です。この講義では、その文法事項を簡潔なかたちで習得してゆき、まずはロシア語文法の全体像をつかみ、ロシア語に慣れることを目標とします。ロシア語の音の響きの美しさ - ロシア人はそれを次のように誇っています。「ドイツ語は男と話すによく、フランス語は女と話すによい、スペイン語は神と話すにふさわしい、ところがロシア語はそのすべてに適している」と。このようなロシア語の美しさ、豊かさに触れてもらうことが、当講義の最終的な目標となります。

#### 講義概要

使用教材で呈示したテキストに基づき、ロシア語文法の基礎を学びます。アルファベットの文字と発音に慣れるところから始め、名詞の格変化、動詞の人称変化、過去の時制、未来の時制をゆっくりと（復習を重ねながら）確実にこなしてゆき、基本的な構文の読解と作文ができるようにします。ロシアの文化や生活習慣についても、活字や映像を通して、適宜、紹介してゆきます。

#### テキスト

諫早勇一他著「セメスターのロシア語」(白水社)

#### 参考文献

博友社「ロシア語辞典」

#### 評価方法

前期、後期に1回ずつ行う定期試験、および出席率を含めた平常点により決定しますが、判断の上でもっともウェイトを占めるのは出席率です。

#### 受講者への要望

とにかく授業に毎回、出席することを心掛けて下さい。継続することが重要です。

#### 年間授業計画

前期：アルファベット（キリル文字）の発音、綴り、簡単な文章のイントネーションの習得。併せて、筆記体の練習も行います。文法事項としては、名詞の性に

ついて、過去の時制、名詞の格の概要、所有代名詞を学んでゆきます。テキストでは最初から第5課までが範囲となります。

後期：疑問詞を用いた疑問文、所有の表現、動詞の体、動詞の人称変化、未来の時制について学んでゆきます。テキストでは、第6課から第10課までが範囲となります。



01 科目名	ロシア語（講読）
98 科目名	ロシア語（講読）
97 科目名	ロシア語（講読）
担当者	齋藤 毅

#### 講義の目標

この授業はロシア語（文法）とセットになっており、まったくの初心者を対象としています。「文法」の授業の進度にあわせて、文字の読み書き、発音や聴き取り、単語や定型表現の習得など、ロシア語を実践的に使う練習を行ないます。

#### 講義概要

「文法」の授業と同じ教科書、およびプリントによる教材を使って進めてゆきます。授業で行なう練習の内容は「年間授業計画」の項をご覧ください。

#### テキスト

諫早勇一他『セメスターのロシア語』（白水社）およびプリント。参考書については授業中に指示してゆきます。

#### 評価方法

出席、授業中に行なう小テスト。（期末試験の実施については未定）

#### 受講者への要望

外国語というのは、それに触れたり、接したりすること自体に意義があるので、とにかく継続して出席してください。評価基準は出席を最も重視します。

#### 年間授業計画

まず、文字の読み書きを覚えた後、以下のような練習を「文法」の授業の進度にあわせて進めてゆきます。

発音：文字の読み書きをマスターした後、教科書の例文の発音・聞き取りの練習をテープ教材を用いて行なう。

単語・表現：教科書の各課に出てくる単語・定型表現の暗記と応用練習。その他、文法問題も行なう。

会話：挨拶など簡単な会話表現の練習をプリントを使って行なう。

01 科目名	中国語 (講読)(文法)
98 科目名	中国語 (講読)(文法)
97 科目名	中国語 (講読)(文法)
担当者	各 担 当 教 員

#### 講義の目標

[ 中国語 の ( 講読 ) と ( 文法 ) は同一担当者による同一曜日の連続コマとして開設されます。評価も同一でおこないます ]

初めて中国語を学ぶ学生を対象とします。中国語の文法についての基礎的な知識を得ること、中国語の文型や会話パターンを知り、語彙の知識を積み重ねることによって、簡単な日常会話ができるようになることをめざします。それとともに、我が国にとってはもっとも古くからの隣国である中国を知る - 表現形式から見た日本語との違いや、現代中国についての知識などを得る - ことも目的とします。

#### 講義概要

最初は発音の基礎から入ります。このテキストは、課ごとに、スキット・文法説明・練習問題・発音練習という構成がとられ、2課ごとに「Review」として復習が入っています。各課において、会話の内容を理解し、文法の要点を理解し、練習することによってそれを定着させ、さらに応用できることをめざします。そのためには講義をただ聞いている・テキストを目で見ているだけではなく、発音練習する・会話練習をするといった双方向の活動を重視します。これらの活動を通じて、文法知識・語彙を積み重ねていきます。

#### テキスト

『学ビテ時二之ヲ習フ』 相原茂・郭雲輝・保坂律子 共著 好文出版

#### 参考文献

辞書 『中日辞典』小学館など(最初の時間に辞書類の紹介もします)

#### 評価方法

2回の定期考査の成績、および、出席率をも含めた授業への取り組み方などにもとづき、小テストの結果なども加味して総合的に評価します。

#### 受講者への要望

中国語は高校で学んだ漢文と同じではありません。第二外国語として、とくに耳で聞きとり自ら発音する練習は欠かせません。また、語学は積み重ねが重

要です。予習や出された課題は当然してきているものとして授業にのぞみます。辞書は必携です。

#### 年間授業計画

テキストは発音編4課、および本編12課から構成されています。二時間で1課というめやすで進めていきますが、前期は発音編から始め、はじめのうちはややゆっくりのペースでスタートし、随時理解度を確認しつつ進みます。課が進むにつれて、とくに後期は次第にペースをあげ、また、理解度に応じて、テキストの他にプリント教材を使用することもあります。

01 科目名	韓国語 (講読)
98 科目名	韓国語 (講読)
97 科目名	韓国語 (講読)
担当者	李 貞 美

#### 講義の目標

日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化等の諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流が進展していくことが期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から本科目では読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌等から時事情報を得る基本的能力の総合的な定着をめざし、多角的な授業を行う。

#### 講義概要

韓国語を初めて学ぶ人を対象とし、読解・作文力の養成を基盤に多様かつ実用的な表現力を身につけることをめざす。その際に韓国語と日本語の共通点・類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させるようにする。そして韓国の典型的文化や生活等を紹介しながら直結する学習内容を精選・組織し、学習内容に臨場感を持たせる。また言語だけでなく、絵・写真・スライド・ビデオ等を提示し、学習の場面の雰囲気や情調を感得させる。

#### テキスト

『韓国語学習 - 基礎から完成まで - 』朴勇俊  
(プリント)

#### 参考文献

後日指定

#### 評価方法

評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

#### 受講者への要望

外国語の学習は持続的な学習や訓練に関する学習者の積極的な興味、関心が大切である。意欲的に熱意をもって取り組んでほしい。

#### 年間授業計画

1. 本講義に対する紹介、概要説明、注意点について
2. 韓国語の特徴と学習への取り組み方の理解・体得
3. 韓国語の文字・文章の理解と解読
4. 韓国語の文字・文章の理解と解読
5. 韓国語の文字・文章の理解と解読

6. 次のような内容を題材に読解・作文力の基礎を定着させる。

「自己紹介」

7. 「あいさつ」

8. 「学校生活」

9. 「学校生活」

10. 「家族」

11. 「家族」

12. 前期末試験

13. 「友人」

14. 「友人」

15. 「買い物」

16. 「買い物」

17. 「趣味」

18. 「趣味」

19. 「海外旅行」

20. 「海外旅行」

21. 「伝統文化」

22. 「衣・食・住」

23. 「衣・食・住」

24. 後期末試験

01 科目名	韓国語 (文法)
98 科目名	韓国語 (文法)
97 科目名	韓国語 (文法)
担当者	朴 勇 俊

#### 講義の目標

韓国語を初めて学ぶ人を対象に韓国語と日本語の共通点、類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させながらハングル文字の読み書き、辞書の活用ができるようにするとともに、実用会話を入門指導する。

会話の学習については、韓国固有の民俗、歴史、生活、芸術、衣食住等のストーリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら反復指導する。また写真、スライド、ビデオ等をも活用することで臨場感を深め積極的に学習に取り組むようにする。

#### 講義概要

(1)韓国語の特徴と学習への取り組み方の理解・体得  
韓国語の特徴、特に「ハングル」の構造を日本語およびその文字との比較からわかりやすく説明する。

(2)韓国語の文字、文章の理解と解読  
辞書の活用による「ハングル」の解読、「ハングル」による表現、「ハングル」の音韻的法則を指導する。

#### (3)実用会話

基本会話文(あいさつ、自己紹介、基本的感情表現、ショッピング、食事の注文等の日常生活に必要な表現)を厳選し、学習者同士が役割を変えながら問答型の会話の反復練習をする。

#### テキスト

『韓国語学習 - 基礎から完成まで - 』朴勇俊  
(プリント)

#### 参考文献

参考書や辞書等は後日指定する。

#### 評価方法

評価は原則として定期試験と授業への取り組み、出席状況等を総合的に判定する。

#### 受講者への要望

外国語の学習は学習者が持続的な学習や訓練に対応する積極的な興味や関心、持続的努力などを一貫して維持できるかどうかによって成果が左右される。意欲を持って主体的に取り組む姿勢を身につけてほ

しい。

#### 年間授業計画

1. 本講義に対する紹介、概要説明、注意点について
2. 韓国語の特徴と学習への取り組み方の理解・体得
3. 韓国語の文字・文章の理解と解読
4. 韓国語の文字・文章の理解と解読
5. 韓国語の文字・文章の理解と解読
6. 次のような多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるような表現力の定着をめざす。

「スーパーマーケット」

7. 「市場」
8. 「薬局」
9. 「喫茶店」
10. 「郵便局」
11. 「洋服店」
12. 前期末試験
13. 「映画館」
14. 「スポーツ」
15. 「図書館」
16. 「クリーニング店」
17. 「銀行」
18. 「役所」
19. 「銭湯」
20. 「美容院」
21. 「趣味」
22. 「国際電話」
23. 「健康管理」
24. 後期末試験

01 科目名	
98 科目名	ドイツ語 (第二外国語)
97 科目名	ドイツ語 (第二外国語)
担当者	各 担 当 教 員

#### 講義の目標

A (読解練習 = ノンフィクション)

B (読解練習 = フィクション)

/ドイツ語 で修得したドイツ語の基礎知識を応用し、辞書さえ使用すれば、大方のドイツ文の内容を正確に読み取れるだけの読解力を養成します。

C (口頭練習)

/基本単語を使用して、何とか自分の意思をドイツ語で相手に伝えられる能力を養成することを目標とします。

#### 講義概要

A (読解練習 = ノンフィクション)

[ドイツの政治・経済・社会・雑誌などに関する文章やエッセイ等、いわゆるノンフィクションをテキストとして使用します。]

B (読解練習 = フィクション)

[小説・童話・説話などのフィクションを教材とします。]

/最初に文法の基本事項の復習と未修事項の学習を行い、その後テキストの読解に入ります。

はじめは文法的な解説を充分に行い、ドイツ文の構造を理解させることに力点を置きます。

それから徐々にテキスト内容の全体的な把握に授業の重点を移し、読解の速度を上げていきます。

C (口頭練習)

/場面に応じて、基本的な文章を聞き取り、反復・応答できるように指導します。

#### テキスト

各担当者の使用テキストは、教科書販売所の掲示を見て下さい。

#### 参考文献

・独和辞典(中型のもの)、ドイツ語 で使用したテキスト。

#### 評価方法

前・後期定期試験の成績と授業への出席状況などを総合的に判断して評価します。

#### 受講者への要望

練習が主体の授業ですから、必ず出席して積極的

に発言して下さい。

#### 年間授業計画

##### 第1週

テキストの内容の紹介と今後の授業の進め方、速度などについて話します。また1年次に使用したテキスト(各自持参)及び既修・未修文法項目の確認と、基本的な文法事項の復習を行います。

##### 第2週~7、8週

文法の復習、未修事項の学習を行います。

##### 第8、9週以降

ドイツ語 A、B ではテキストの読解練習に、ドイツ語 C では口頭練習に入ります。

01 科目名	
98 科目名	フランス語 (第二外国語)
97 科目名	フランス語 (第二外国語)
担当者	各 担 当 教 員

#### 講義の目標

一年次に学んだフランス語の基礎知識を復習しながら、より高度なフランス語の多様な表現の運用を学びます。

#### 講義概要

フランス語 (二外) は、二人の担当者により週 2 コマ開講されます。「総合」ではテキストの講読を通じて語彙、文法知識の充実によって読解力を高めます。「会話」はフランス人教員が担当し、日常会話表現とその運用を学習します。

#### テキスト

各担当者による (場合によっては、二人の担当者が共通の教科書を用いることもありますので、教科書販売所の掲示を確認して下さい。)

#### 評価方法

評価方法については各担当者から説明があります。

#### 受講者への要望

授業の進め方などについて説明がありますので、第一回目には必ず出席して下さい。

01 科目名	
98 科目名	スペイン語 (総合)
97 科目名	スペイン語 (総合)
担当者	各 担 当 教 員

#### 講義の目標

スペイン語 (総合)の既修者を対象にした授業である。1年次にひきつづいて、テキストの第6課以降を学ぶ。二つの過去形(点過去と線過去)および、現在分詞、過去分詞、接続法の活用とその使い方がポイントである

#### 講義概要

テキストにそって、第6課以降を学ぶ。

#### テキスト

¡Hola, amigos!(芸林書房)

#### 評価方法

授業への積極的参加。年2回のテスト。小テストをおこなう場合もある。

#### 受講者への要望

スペイン語 (会話)との同時履修を望む。

#### 年間授業計画

1. ~12. テキスト第6課から9課まで

13. ~24. テキスト第10課から第12課まで

01 科目名	
98 科目名	スペイン語（会話）
97 科目名	スペイン語（会話）
担当者	各担当教員

#### 講義の目標

スペイン語（会話）の二年目の授業である。スペイン語（総合）の進度にあわせて、より高度な会話文（過去形と分詞、接続法が中心となる）を練習し、日常生活に必要な最小限の表現法を身につける。

#### 講義概要

スペイン語（総合）と同じテキストを使い、第6課以降の文法事項の進度にあわせて、練習をおこなう。

#### テキスト

¡Hola, amigos! (芸林書房)

#### 評価方法

授業への積極的参加。年2回のテスト。小テストをおこなう場合もある。

#### 受講者への要望

スペイン語（総合）との同時履修を望む。

#### 年間授業計画

1. ~ 12. テキスト第6課から9課まで（前期）
13. ~ 24. テキスト第10課から第12課まで（後期）



01 科目名	
98 科目名	ロシア語 (総合)
97 科目名	ロシア語 (総合)
担当者	齋藤 毅

#### 講義の目標

ロシア語 の続編の授業です。ロシア語の初歩を学んだ人が、これまで学んだことを基礎に、さらに文法事項を学び、より内容のあるロシア語を理解できるようになることを目指します。

#### 講義概要

ロシア語 を受講した人、あるいはそれに相当するロシア語経験のある人を対象とします。ロシア語 で用いた教科書に従って、さらにロシア語文法を学んでゆきますが、前年度の復習も行ないながら進めてゆきます。名詞の格変化など、日本語にはないロシア語の発想がどのようなものなのかをポイントに学習し、その使い方を練習します。

#### テキスト

桑野隆『はじめてのロシア語』(白水社)

#### 評価方法

出席などの平常点、および前後期それぞれ 1 回の試験。

#### 受講者への要望

外国語と言うのは、それに触れたり、接したりすること自体に意義があるので、とにかく継続して出席してください。評価基準は出席を最も重視します。

#### 年間授業計画

文法：教科書の第 6 課から始め、学生の皆さんの習熟度にしたがって進めてゆきます(教科書を終えることにはこだわりません)。名詞の 6 つの「格」の用法が中心になりますが、この「格」の用法を一通り見ることによって、ロシア語で表現できることが一気に広がることでしょう。

発音：アルファベットの発音がより自由にできるようになるため、毎回の授業で発音練習を重視します。

01 科目名	
98 科目名	ロシア語（講読）
97 科目名	ロシア語（講読）
担当者	佐藤 千登勢

#### 講義の目標

「ロシア語」で学んできた文法事項の理解を深めてゆくとともに、新たな事項や表現の習得を目指して、実用的なロシア語の文章を読み進めます。この授業の最終的な目標は、ロシア語を読んだり話したりする愉しみを味わってもらうところにあります。

#### 講義概要

この授業では、日常に密着した実用のロシア語を、易しい読み物と口語表現を通して学んでゆきます。また、文章を読む際に手助けとなるロシアの文化、生活習慣についても、活字や映像を通して、適宜、紹介してゆく予定です。授業は、ゆっくりと（復習を重ねながら）丁寧に、かつ確実に進めます。

#### テキスト

日野貴夫、ポノマリョーフ・ジナイーダ共著「コンタクト」(ズラトウースト社)[昨年度のテキストに同じ]

#### 参考文献

博友社「ロシア語辞典」

#### 評価方法

前期、後期に1回ずつ行う定期試験、および出席率を含めた平常点により決定しますが、判断の上でもっともウェートを占めるのは出席率です。

#### 受講者への要望

とにかく授業に毎回、出席することを心掛けて下さい。継続することが重要です。

#### 年間授業計画

前期：所有を示す表現、運動の動詞の使い方、義務を表す表現などを習得してゆきます。テキストでは第7課から第10課までが範囲となります。

後期：数を用いた表現、年齢の表し方、仮定法などを学びます。テーマは市内観光やロシア料理について。テキストでは第11課から第15課までが範囲となります。

01 科目名	
98 科目名	中国語（総合）
97 科目名	中国語（総合）
担当者	陳 跡

#### 講義の目標

この授業は、聞く力と会話力の向上を第一目標とします。授業の対象は初心者およびある程度の能力を有している者にも配慮して進める。

#### テキスト

見る、聞く、話す

中国語ネットワーク

荒屋勸 / 尹景春 / 岡部謙治 朝日出版社

#### 評価方法

成績評価に当たっては、平常点と最終試験をほぼ均等に扱う。

#### 受講者への要望

履修者の出席と復習を期待します。

01 科目名	
98 科目名	中国語（講読）
97 科目名	中国語（講読）
担当者	頼 明

#### 講義の目標

中国語を履修した学生、あるいは同等の語学力を持つ学生を対象とします。外国語を学ぶ上で書く力、聞く力、話す力のいずれもが必要不可欠です。この授業では、中国語で学習した文法内容を再確認し、発音の強化と応用練習を行います。

#### 講義概要

教科書に沿って進みます。授業では発音練習を繰り返すとともに、各課で出現する文法内容について、応用練習を行います。授業では毎回小テストを行います。教科書の本文の暗記・暗唱が必要最低条件です。

#### テキスト

『中国語フィットネスエイト』守屋 宏則 他 著  
朝日出版社 2100 円

#### 参考文献

「はじめての中国語」相原 茂 著 講談社現代新書

#### 評価方法

出席を重視し、授業態度、学期末試験と総合して評価します。

#### 受講者への要望

授業は休まず出席してください。

復習を中心に、教科書の本文が暗記・暗唱できるよう、付属の CD を毎日聞いてください。

#### 年間授業計画

教科書に沿って進みます。（詳しくは授業中に指示します。）

01 科目名	
98 科目名	韓国語 (総合)
97 科目名	韓国語 (総合)
担当者	朴 勇 俊

#### 講義の目標

韓国語の多用かつ実用的な表現力を身につけることをめざす。そして韓国の典型的文化や生活等を紹介しながら直結する学習内容を精選・組織し、学習内容に臨場感を持たせる。また、言語だけでなく、絵・写真・スライド等を提示し、学習の場面の雰囲気や情調を感得させる。

#### 講義概要

韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型等を身につけさせる。また、外国語は異文化の典型的集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報等を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。

#### テキスト

『韓国語学習 - 基礎から完成まで - 』朴勇俊 (プリント)

#### 参考文献

参考書や辞書等は後日指定する。

#### 評価方法

評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

#### 受講者への要望

意欲的に熱意を持って取り組んでほしい。

#### 年間授業計画

1. 本講義に対する紹介、概要説明、注意点について  
2~11

次のような内容を題材にクラスをいくつかのグループに分け、会話を交わす実演を通じて会話文を暗唱できるようにしていく

- 入国審査、税関
- 外国人登録、ビザの延長
- 両替、予約便の確認
- 国際電話、伝言
- 地下鉄利用、忘れ物

- ホテル・旅館、病状
- 慶州観光、韓国料理
- 名刺交換、出身地
- 伝統的行事、余暇

#### 12. 定期試験

#### 13~23

以下のような内容の題材をとりあげ幅広い会話力の定着をめざす。

- 名刺交換
- 出身地
- 伝言
- 外国人登録
- ビザの延長
- 健康管理
- 演劇
- 病状
- 伝統的行事
- 余暇
- 韓国料理

#### 24. 後期定期試験

01 科目名	
98 科目名	韓国語 (講読)
97 科目名	韓国語 (講読)
担当者	李 貞 美

#### 講義の目標

韓国語の読解、会話、作文力を基盤に多様かつ実用的な表現力をつけるため、それぞれについて毎時間くわしいプリントを作成配布し、学習を進めていく。また韓国の文学(詩や小説)や映画、音楽等を題材にとりあげることによって文化や芸術に対する理解を深めるとともに多様な表現力の取得をめざす。

#### 講義概要

文章による表現力を養成するために新しい語彙の習得と活用にも力を入れ基礎的な文法をもとに句型練習を反復することで基本構文を定着させる。さらに読解、作文に重点をおき、特に実用文(手紙、日記、メモ等)の活用能力を習得させ、実際に韓国語での手紙のやりとり等ができるようにしていく。また韓国の文学作品(詩や小説、エッセイ、映画の脚本等)、論説等を題材にとりあげることによって、芸術や文化に対する理解を深めるとともに多様な表現力の取得をめざす。特に新聞雑誌等を読みこなして時事情報を得る応用力を身につけさせる。

#### テキスト

「韓国語学習 - 基礎から完成まで - 」朴勇俊  
(プリント)

#### 参考文献

参考書や辞書等は後日指定する。

#### 評価方法

評価は原則として定期試験と授業へのとりくみ、出席状況等を総合的に判定する。

#### 受講者への要望

外国語の学習は持続的な学習や訓練に関する学習者の積極的な興味、関心が大切である。意欲的に熱意をもって取り組んでほしい。

#### 年間授業計画

1. 本講義に対する紹介、概要説明、注意点について  
2~11

次のような内容を題材に読解・作文力の基礎を定着させる。

誕生日、記念日

古宮、能楽

旅行、交通

登山、濟州島

正月の風俗

虎と干し柿(民話)

牛になった怠け者(民話)

韓国の風俗と礼節

民族衣装

#### 12. 定期試験

13~23

次のような内容の題材をとりあげ、読解・作文学習を行っていく。

農薬

端午

世宗大王

交通

記念日

手紙

昔話

牛になった怠け者

濟州島

韓国の風俗と礼節

民族衣装

#### 24. 後期定期試験

01 科目名	高齢化社会論 a・b
98 科目名	高齢化社会論
97 科目名	老年社会学
担当者	奥山正司

#### 講義の目標

現代社会が、情報化、国際化、高齢化の社会であるといわれてから久しい。本講義では、その高齢化や加齢という現象を通して、経済・社会にどのような変化が生じているのかを明らかにしていくことをねらいとする。

なお、高齢化社会を研究するソーシャル・ジェロントロイジ(社会老年学)は、老年学(gerontology)の一領域であるとともに、社会学(sociology)の一領域として位置づけられる。また、ジェロントロイジは「高齢化や加齢現象に関する科学研究」を意味し、社会学とは「社会現象を人間生活の共同という視角から研究する社会科学」である

#### 講義概要

年間を通して、人口高齢化がもたらす社会的インパクトや老年期における高齢者の社会生活の変化及び老人福祉、老後保障の動向などについて学ぶ。

前半では、人口高齢化、エイジズム、家族、居住形態、ライフ・サイクル、就業など高齢者の客観的な生活の様相、後半では、老人福祉、老後保障、介護保険などの側面から講義し高齢(化)社会の全体像を明らかにする。

#### 参考文献

アードマン・B・パルモア著、奥山正司他訳『エイジズム』法政大学出版局、1995

小笠原祐次編『老人福祉論』ミネルヴァ書房、1995

その他の参考文献は授業中にその都度指示する。

#### 評価方法

レポートの提出、出席、試験等の総合的な評価によって行う。

#### 前期授業計画

第1～2週 高齢化社会に関する社会科学と周辺科学

社会学及び社会福祉学など社会科学的視点から高齢者をとらえていくジェロントロイジ(老年学、Gerontology)とはどういう学問か。それは、医学的観点とはどのように異なるのか。また、ジェロントロイジが社会学の代表的理論といわれる離脱理論、

活動理論とは高齢者と社会のあり方をどう見ているのか。

第3～4週 人口高齢化と高齢化社会・エイジズム  
エイジング(加齢、Aging)及びエイジズム(Agism)とはどういう現象か。また、わが国の人口高齢化の進展は、諸外国の高齢化と比較するとどのような特徴が見られるのか。人口高齢化の要因とは何か。人口高齢化の地域的偏在とそこに生起する問題とはなにか。

第5～6週 高齢者と家族、老親子の居住形態  
戦後、イエ制度の廃止により、これまで社会的に承認されてきた子が老親を扶養するという規範が弱体化し、老親と既婚子との生活の結合が徐々に分離してきている。その具体的様相はどのような状況なのか。

第7～8週 ライフ・サイクル、家族周期と老年期  
人間一人ひとりの一生は生物学的な加齢によって規定されるとともに、年齢に結びついた役割と出来事によってつくられる。出生から死亡に至るライフ・サイクルの過程は、戦前と戦後でどのように変化し、それが高齢者の生きかたにどのように影響しているのだろうか。

第9～10週 高齢者と生計

高齢者の生計をとりまく経済状況はどのような状況か。高齢者世帯の所得水準、高齢者世帯の所得構造、高齢者世帯の消費水準、高齢者世帯の消費構造、高齢者の資産・負債などについて。

第11～12週 高齢者と就業・雇用、定年退職

人口の高齢化に伴い、労働力人口も急速に高齢化し、わが国の経済社会の動向にも大きな影響を及ぼしている。高齢者の就業意向とその現実、高齢年齢雇用対策やシルバー人材センターの状況などについて。

#### 後期授業計画

第1週～2週 高齢者と住宅環境

住宅は高齢者にとって安全で健康な生活を支える道具として機能しなければならない。住宅水準の状況、特に首都圏の状況と高齢者の住宅対策、居住環境、福祉のまちづくりなどについて。

第3～4週 高齢者と生涯学習、社会参加

高齢期を快活に生きるためには、趣味や生きがいを持ち、仲間づくりや地域社会における役割分担ができるという状況が必要である。これらの能力や資質は、若中年期からの学習や社会参加によって身につくものであるが、その実状と対応策について。

第5～6週 高齢者と保健・医療

死亡率、有病者率、受療率、国民医療費の動向は

どのような状況なのか。また、健やかに老いるために、従来、老人福祉対策等の一環として行われてきた老人保健医療対策と成人保健対策を一元化した老人保険法とはどのような対策なのか。

#### 第7～8週 高齢者と在宅福祉及び施設福祉

本格的な高齢化社会を向かえ、身近かな市町村による福祉サービスの時代が到来しつつある。在宅福祉 10 箇年計画をかかげたゴールドプラン、新ゴールドプラン、平成 12 年度から開始したゴールドプラン 21 とはどのような計画か。また、ホームヘルパー、ショートステイサービス、デイサービスの現在の水準と将来の達成度などについて。

#### 第9～10週 高齢者と介護保険制度

2000 年 4 月から導入された介護保険法の制度の内容を、保険者、保険給付、保険料、利用料、保健の財源構成、利用者が介護サービスを受けるまでの流れなどについて、また、現状で利用者がどのような問題をかかえているのか等について。

#### 第11週 高齢者及び高齢化対策と社会保障、財政支出

老後生活を送るうえで、経済的基盤の中心となるのは年金である。年金は大別すると公的年金、企業年金、個人年金に分けられる。そのうち、老後保障の柱となるのは公的年金である。その歴史と現状、将来にむけての問題点とは何か。

#### 第12週 諸外国の高齢者対策

福祉先進国といわれるスウェーデン、デンマーク、イギリス、その対極にあるアメリカの高齢者対策の状況について。



01 科目名	社 会 学
98 科目名	社 会 学
97 科目名	
担当者	有 吉 広 介

#### 講義の目標

現代社会の問題は 18 世紀に始まった産業革命に端を発し、現在も進行している産業化、そして引き続いて今世紀に起こる脱産業化、さらにこれらが引き起こした社会構造の変化とおおに関係がある。本講義ではこのような視点から、現代のわれわれの日常生活に見られる諸変化と、そこに起こる様々な社会問題とを考える。

#### 講義概要

豊かで、ゆとりある生活の実現とか、余暇の確保とかがテーマになる時代に、現実には、企業では効率主義的管理体制のもとにサービス残業が求められたり、過労死までもがみられる。その背景には、日本社会の特殊性もあるが、市場原理に結びついた産業化の論理が社会や文化に浸透し、これらを変化させてきた事情がある。核家族化、組織の官僚制化、都市化、流動社会化、学歴主義化、高齢化と少子化、福祉化などもそうした流れのなかに起こる。講義では、産業化が職業生活を含めてわれわれの日常生活のなかで多くの社会問題をどのように生みだしているのかを説明していく。講義の進行は、講義メモを配布して理解を深めることによる。

#### テキスト

プリントを配る。

#### 参考文献

随時紹介

#### 評価方法

評価は、前・後期の定期試験期間中に各一回おこなう試験の成績による。

#### 受講者への要望

講義に出席し、そこで要点を把握すること。

#### 年間授業計画

1. 社会学の先駆者サン・シモンやオーギュスト・コントなどにおける社会学のテーマ
2. 古典的社会学者 F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウェーバーなどにおける近代社会の理解
3. 古典的社会学者 F・テンニース、G・ジンメル、

E・デュルケム、M・ウェーバーなどにおける近代社会の理解

4. 古典的社会学者 F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウェーバーなどにおける近代社会の理解
5. 社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方
6. 社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方
7. 現代の職業構造の分析
8. 雇用社会と職業のキャリア
9. 産業社会における知識の性格と教育
10. 日本の近代化、教育システム、および学歴社会
11. 社会的不平等の諸次元
12. 不平等の構造化
13. 社会移動の現実
14. 日本の階層社会と社会移動
15. 管理社会の中核としての官僚制
16. 近代的経営の社会構造
17. 日本の組織構造
18. 都市化と地域社会
19. 家族の定義・類型、そして核家族化・少子化
20. 家族のライフサイクルの変化
21. 高齢化社会の人口学的および社会学的分析
22. 高齢化社会における社会問題
23. 生活の質を考える
24. まとめ

01 科目名	法 学
98 科目名	法 学
97 科目名	法 学
担当者	一之瀬 高 博

#### 講義の目標

われわれの市民生活に関わる法のしくみについて、その全体像を概観してゆく。「法学」というと、抽象的・専門的な説明のためになじみにくいところがあるが、本講義では、下記のテキストに沿い、法学をなるべく具体的な社会状況と結びつけて理解してゆくこととしたい。

#### 講義概要

下記の授業計画を参照。

#### テキスト

荘子邦雄・監修、白鳥祐司・編集『事例 DE 法学入門』青林書院

#### 評価方法

前期と後期の定期試験の成績を重視する。

#### 受講者への要望

缶ジュース、ペットボトル等の教室持ち込みを禁止する。

#### 前期授業計画

1. "法"ってなんだろう!? 1  
法学の勉強にとりかかる前に
2. "法"ってなんだろう!? 2  
法はどんなものから成り立っているか?
3. "法"ってなんだろう!? 3  
法の実現ってどういうこと?
4. 国家と法 1  
憲法はなぜ、国家の基本法といわれるのか?  
基本的人権が憲法の中で特に重要なのはなぜか?
5. 国家と法 2  
憲法で平和を保障するとはどういうことか?  
国民・住民は違法な行政権の行使をどのように争うことができるか?
6. 国家と法 3  
地方公共団体・住民は地方自治を輝かせるために何が出来るのか?
7. 犯罪と刑罰、およびその手続 1  
「犯罪」が成立するのに必要な要件は何か?
8. 犯罪と刑罰、およびその手続 2  
犯罪にはどのような種類があるか?

9. 犯罪と刑罰、およびその手続 3  
刑事手続きにおける人権の保障
10. 家族と法 1  
結婚すると法的にどうなるのか?
11. 家族と法 2  
離婚はどのように解決するのか?
12. 家族と法 3  
親子とは法的にはどのような関係か?  
相続をめぐる争いはどのように解決するのか?

#### 後期授業計画

1. 財産と法 1  
社会生活をおくるために契約という手段はなぜ重要か?
2. 財産と法 2  
他人から損害を受けた場合どんな救済を求めることができるか?
3. 財産と法 3  
自分のものであるということはどういうことか、他人のものはどのようにして自分のものになるのか?
4. 企業組織と活動 1  
株式会社はどのような者によって構成され、その権利の行使・譲渡はどのようになされるのか?
5. 企業組織と活動と法 2  
株主は、経営者の不正をどのように追及することができるか?
6. 企業組織と活動 3  
手形や小切手による代金の支払いはどのように行われるか?
7. 民事紛争と法 1  
訴訟はどのようにして紛争を解決してゆくか?
8. 民事紛争と法 2  
訴訟以外にどのような紛争解決制度が用意されているか?
9. 民事紛争と法 3  
紛争の現実的解決はどのようにしてもたらされるのか?
10. 国際社会と法 1  
国際法とはどんな法か?
11. 国際社会と法 2  
平和の維持のためにどのような努力がなされてきたか?
12. 国際社会と法 3  
人権の国際的保障のためにどのような努力がなされてきたか?

01 科目名	日本国憲法
98 科目名	
97 科目名	
担当者	元 山 健

#### 講義の目標

日本国憲法の基本原理（基本的人権の尊重、国民主権、平和主義）を理解すること。それを通じて一人一人の人間がかけがえのない存在であること、そうした自律した個人が連帯しあって良き人生を過ごしていくために、お互いに合意した「人間性の実現のための規範」が憲法であることを理解すること。そして核時代の現代では、民主主義も人権も平和なればこそ活かされることを理解すること。外国学部学生のために、諸外国とくにイギリスとの比較を交えて講義します。また教職・公務員志望の人のことも考えて講義します。

#### 講義概要

前期は憲法の総論と統治機構（国会、内閣、裁判所）について学習します。まず憲法とはどういう法かという話から始めます。次に日本の憲法の歴史を幕末・維新から現在まで学習します。そして統治の制度と作用について具体的に学習します。ここではいずれも、日本を理解するためにイギリスの制度を比較の対象にとりあげながら学習を進めます。

後期は平和主義と人権について学習します。ここでは理論だけでなく、具体的な事件やイギリスの例なども素材にして勉強します。

#### テキスト

元山健・倉持孝司編『新版 現代憲法 - 日本とイギリス -』（敬文堂 2000年刊）

#### 参考文献

『小六法』（三省堂刊）

#### 評価方法

前期と後期のテスト。毎回出欠をとり、成績評価に反映させます。

#### 受講者への要望

遅刻、欠席をしないで、自覚的に授業に臨んでください。

#### 年間授業計画

1. 開講にあたって
2. 憲法とは何か
3. 近代憲法の歴史 - イギリスを中心に -

4. 日本憲法史（その1）明治憲法史
5. 日本憲法史（その2）戦後憲法史
6. 国民主権と象徴天皇制
7. 議会制民主主義の歴史と理論
8. 選挙と政党
9. 国会
10. 内閣
11. 司法
12. 地方自治
13. 基本的人権：総論
14. 個人の尊重と幸福追求権
15. 法の下での平等
16. 精神的自由権（その1）総論と思想・良心の自由
17. 精神的自由権（その2）信教の自由
18. 精神的自由権（その3）表現の自由の原理
19. 精神的自由権（その4）表現の自由の諸問題
20. 精神的自由権（その5）学問の自由
21. 社会的経済的権利（その1）経済的自由権
22. 社会的経済的権利（その2）生存権
23. 社会的経済的権利（その3）労働と教育
24. 人身の自由と刑事手続き

01 科目名	現代文化論 a・b
98 科目名	現代文化論
97 科目名	日本文化論（社会）
担当者	柴 崎 信 三

#### 講義の目標

グローバルな標準に対抗するローカルな価値の争いとして「文化」の葛藤はあらわれるが、二十一世紀世界は米国文明の圧倒的な優位性を揺るがすローカルな価値が台頭するのだろうか。「日本」をことさら特殊な形としてみるのではなく、歴史をさまざまな文化の対立と複合の過程としてとらえ、とりわけメディアを介した政治や経済、社会システムや消費、文化表象に至る二十世紀の行動モデルの交渉を具体的に検証しながら、日本と世界をつなぐ文化のダイナミズムを探る。

#### 講義概要

二十世紀は一面で「日本システム」の覇権とその解体の歴史でもあった。そのプロセスで文化の遺伝子が果たした役割と、グローバル化に伴って変容したものを外交、戦争、社会システムやビジネスモデル、文化表現などに探る。ローカルな文化の形は国境を越える情報革命や有限な環境、エネルギーによって統合と拡散の力が同時に強まる。国民国家の揺らぎ、IT革命と企業組織の世界化、カネと人の流動化といった背景に留意しながら、「この国の行方」を同時に考えたい。

#### テキスト

渡航に使用しない。毎回の授業で関連資料を配布する。

#### 参考文献

フランシス・フクヤマ 『「大崩壊」の時代』(早川書房)  
 寺島実郎 『国家の論理と企業の論理』(中公新書)  
 ビデオなどの教材を随時使用する。

#### 評価方法

前期：前期定時試験（小論文）に出席状況を勘案して判定する。

後期：後期定時試験（小論文）に出席状況を勘案して判定する。

#### 受講者への要望

日々のニュースに対する関心と自らが歴史のどんな局面に生きているのかを問う姿勢を求めます。関

連図書、新聞や雑誌など時事的な情報に意欲的に接することが必要です。

#### 前期授業計画

1. 序論（文化をどうとらえるか）
2. 現在への視点
3. 現在への視点
4. 現在への視点
5. イメージの戦争
6. イメージの戦争
7. イメージの戦争
8. イメージの戦争
9. 日本システム
10. 日本システム
11. 日本システム
12. 日本システム

#### 後期授業計画

1. 文化の葛藤
2. 文化の葛藤
3. 文化の葛藤
4. 文化の葛藤
5. 覇権とメディア
6. 覇権とメディア
7. 覇権とメディア
8. 覇権とメディア
9. 現代文化の固有性と普遍性
10. 現代文化の固有性と普遍性
11. 現代文化の固有性と普遍性
12. 結語

\* 講義のテーマはその時々々のニュースやトレンドに合わせて変わることがあります。

01 科目名	文化人類学
98 科目名	文化人類学
97 科目名	
担当者	井上兼行

12. これ以降は事例研究。テーマは未定。これまでの話の脈絡から決めてゆく。

#### 講義の目標

文化人類学は、文明社会から最も遠い位置にあり、現在急速に消滅しつつある未開社会の文化を、異文化として理解し、同時にそれを通してわれわれの文化についても理解を深めようとする学問である。形成の歴史、方法、事例分析を通じてそのおおよそを知る。

#### 講義概要

文化人類学形成の歴史を通して、未開社会に対するこの学問の態度を明らかにし、次いでその独特の研究方法を述べる。そのあと、いくつかの事例を通して異文化理解の仕方を示し、またそこからわれわれの文化をどのように考えることができるかを説明してゆく。

#### テキスト

なし。

#### 参考文献

随時紹介する。

#### 評価方法

定期試験期間中の試験によって評価する。

4年生諸君へ。当然ですが1～3年生と同じ規準で評価を出します。安易には考えないように。

#### 年間授業計画

1. 序 どんな学問か。
2. 学問形成の歴史 (1) スペイン人のインディオ観
3. " (2) "
4. " (3) 16C 後半～18C 後半の西  
欧人の未開人観
5. " (4) 18C 後半～19C 後半の西  
欧人の未開人観
6. 19C 後半 文化人類学の誕生 (1) "文化"の概念
7. " (2) "
8. " (3) "進化"の概念
9. 19C 末～20C 初 現代の文化人類学へ
10. 研究方法としての"実地調査" (1)
11. " (2)

01 科目名	心 理 学
98 科目名	心 理 学
97 科目名	心 理 学
担当者	増 田 直 衛

#### 講義の目標

心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というとTVや雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思い起こすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部なのです。ここでは、心理学が自然科学の一分野として誕生してから、今日までどんな分野の学問と連携しつつ、自らの学問を築いてきたかを考えてみます。その中で心理学の対象、心理学の方法などを具体的に理解しながら、心理学とはどんな学問かを考えます。

#### 講義概要

最初に心理学とはどんな学問か、心とはなんだろうか、心理学の誕生、心理学の分野、心理学の方法、個体と環境との関係、などについて考察します。次に、感覚・知覚心理学を中心に、主として人間の認識機構について講義をします。その次に、行動・学習心理学を中心に、人間以外の動物も含めた行動の発達、変容について講義を、さらに、小集団の社会心理学の問題にも触れていく。OHP、VTRなどAV資料を使って具体的に理解できるようにこころがけます。

#### テキスト

特に指定しません。

#### 参考文献

宇津木 保ほか著「心理学のあゆみ」(有斐閣新書)

野口 薫ほか著「心理学入門」(有斐閣新書)

この2冊は心理学の扱う領域と歴史を概観するのに便利です。

講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。

#### 評価方法

前期：定期テスト

後期：定期テスト

2回の定期テストと随時行う出席調査をかねる小レポートなどにより総合的に評価します。

#### 受講者への要望

岸田 秀「ものぐさ精神分析」(中公文庫)や橋本治「帰ってきた桃尻娘」(講談社文庫)に劇画化されている大学で講義されている心理学の記述にはあらかじめ目を通しておくことをお勧めいたします。

#### 前期授業計画

- 1.ガイダンス 心理学とはなんだろう
- 2.心理学の過去と現在
- 3.科学としての心理学のあり方
- 4.心理学の方法とその実例(1)
5. (2)
6. (3)
- 7.個体と環境 心理学のもののとらえ方
- 8.環境の認知(1)物理的世界と心理学的環境
9. (2)感覚の世界
10. (3)主観のものさし
11. (4)まとめり
12. (5)ゲシュタルト知覚

#### 後期授業計画

- 1.行動とその変容(1)環境への適応様式
2. (2)生得的な行動
3. (3)レスポナント条件付け
4. (4)オペラント条件付け
5. (5)行動分析学とその応用例
6. (6)問題解決
7. (7)推理・記号行動
- 8.社会の中での行動(1)認知
9. (2)態度
10. (3)状況の中で
11. (4)社会的現実の構築
- 12.もう一度、心理学ってなに？

01 科目名	歴史学(日本史)
98 科目名	歴史学(日本史)
97 科目名	歴史学(日本史)
担当者	新井孝重

#### 講義の目標

14世紀の内乱期は、日本の歴史の大きなまがり角であった。社会は南北朝の内乱を通過するなかで、どのように変化したのか。内乱期の諸相をながめながら、歴史の深いところに分け入り、社会の変化の様相をつかまえる。

#### 講義概要

悪党とはどのような人々のことを云うのか。悪党の生態を観察することによって鎌倉末期の社会矛盾をつかまえる。そのさいの視点として、「武勇」と「武装」の問題は重要。つぎに、内乱の諸相を、なるべく具体的に、人間の行動と思想を通して観る。そのあとで、戦乱のなかで安穩をもとめる民衆のすがたを注目したい。

#### テキスト

新井孝重『悪党の世紀』、吉川弘文館、1997年。  
 その他必要に応じてプリントを配布。

#### 評価方法

評価は、定期試験の成績と出席状況をもってする。

#### 受講者への要望

30分以上の遅刻者は出席者とみなさない。

紳士的な態度で気楽に聴いてほしい。(私語、飲み物は遠慮してほしい)

#### 前期授業計画

1. 大仏を領主にする村 伊賀の農村、出作をする人びと。
2. 大仏を領主にする村 奈良寺院社会の風景、南京大衆の周辺  
在地住民の寄人(よりうど)・神人化による「僧兵」の出現
3. 悪党の活動 村の悪党 荘園在地武士の悪党化
4. 悪党の活動 村の悪党 荘園在地武士の悪党化
5. 寺の悪党 武装する僧徒
6. 寺の悪党 預所(あずかりどころ)の僧、悪党になる  
東大寺僧快実について

7. 崩れる一揆の「作法」 中世の一揆とは一揆の淵源である寺僧の衆会について

8. 崩れる一揆の「作法」 荘園体制の一揆的構造 荘民の一揆の「作法」、「武」をともなわない一揆

9. 崩れる一揆の「作法」 悪党の登場  
「武」をともなう悪党の行動様式が荘園制の一揆的構造を破壊

10. 武装の行粧 民間における武装の禁忌性  
甲冑を着ることの意味

11. 武装の行粧 武装すがたの異形性  
中世の祭礼と武装

12. 武装の行粧 悪党の武装……禁忌と異形との関連で武装は「悪」そのものである

#### 後期授業計画

1. 内乱の風景 楠木の勢力  
身体の武装の拡大したすがた……館の武装化……城郭の出現

2. 内乱の風景 楠木の勢力  
在地に城郭がつくられることの意味

3. 内乱の風景 金剛山の攻防  
戦争を社会史的に観察すると

4. 内乱の風景 移動する大軍  
北畠顕家奥州軍長征の実相

5. 内乱の風景 戦いの日々  
内乱期武士の戦争観をみる

6. 内乱の風景 軍忠と恩賞  
武士はなぜ戦うのか

7. 内乱の風景 備われる凡下(ぼんげ)の輩  
凡下と呼ばれる人々の生態をみる

8. 内乱の風景 戦争に疲れて  
合戦にあけくれる武士の人生、負傷・討死・没落

9. 内乱の風景 武士たちの生きるための知恵  
国人(こくじん)一揆

10. 悪党の美学 バサラをみる

11. 地下(じげ)の芸能と民衆 猿楽の形成  
伊賀の猿楽

12. 悪党の終焉 「平和」をもとめる民衆

01 科目名	歴 史 学 (日本史)
98 科目名	歴 史 学 (日本史)
97 科目名	歴 史 学 (日本史)
担当者	新 宮 讓 治

#### 講義の目標

主として明治維新（幕末を含む）期より明治末年までの日本社会近代化の変遷を、下記「講義概要」に示した時期に画し、天皇制確立過程の問題として追う。

そのことを通じ、第二次世界大戦終了までの近代日本社会の特質とともに、「グローバル化」がいわれる現代日本の諸問題を見通すことのできる糧の一端も、学生諸君に学んでもらいたいと意図している。

#### 講義概要

幕末・明治維新时期

西南戦争期

自由民権から帝国憲法体制期

日清戦争期

日露戦争期

戦前の日本

戦後の日本

～ までは史料（地方文書・金石文 碑文・新聞・雑誌その他）を解読しつつ、日本の近代化を探る。

～ は講義とする。

#### テキスト

講義中に指示する。

#### 参考文献

齊藤博『民衆史の構造』新評論。

新宮讓治『戦争碑を読む』光陽出版社。

『普及版・日本史大系』山川出版社（第11巻「幕藩体制の展開と動揺〔下〕」以後）

その他適宜配布、または指定する。

#### 評価方法

前期：論述形式でのペーパーテストによる。

後期：前期に同様。

#### 受講者への要望

まじめな受講と真摯な思考。

#### 年間授業計画

1. 諸史料に出る幕末本百姓体制崩壊の実態 日本における初期資本本源的蓄積期の問題として。
2. 諸史料に表れる明治維新前後の民衆像。

3. 西南戦争と戦後にみられる政府の対応（軍人勅諭を中心に）。
4. 自由民権運動（秩父事件、武相自由民権運動史料を中心に）。
5. 文明開化と福沢諭吉の思想（「時事新報」を中心に）。
6. 自由民権各派の国権主義への傾斜。
7. 或る「日清戦争凱旋記念碑」から、政府の国民強化政策と民衆の動向を考える。
8. 「戦没者碑」に表れた日露戦争後の国民思想（天皇制イデオロギーによる国民生活緊縛の実態）。
9. 「日本資本主義発達史論争」を中心に、戦前日本資本主義の特質について検討。
10. 「戦前と戦後」その政治と経済について（総括として）。



01 科目名	歴 史 学 (東洋史)
98 科目名	歴 史 学 (東洋史)
97 科目名	歴 史 学 (東洋史)
担当者	熊 谷 哲 也

#### 講義の目標

西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、人々が何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。

#### 講義概要

前半は 7 世紀における預言者ムハンマドの出現から 16 世紀にいたるまでの歴史を概観し、イスラーム教の拡大によって広大なイスラーム世界が形成されるまでの様相を理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。

後半はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する、今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係について、関心と理解が深められるよう留意したい。

#### テキスト

とくにさだめない。

#### 参考文献

夏休みあけに読書レポートを提出していただくが、そのためにイスラームに関する新書程度の本を用意してもらおう。詳しくは授業で指示する。

#### 評価方法

試験とレポート。発想のオリジナリティを重視する。

#### 年間授業計画

1. イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。
2. イスラーム教の誕生以前の世界について考える。ユダヤ教やキリスト教に関する知識が必要である。
3. 預言者ムハンマド(マホメット)の出現と、その時代背景について考える。彼の教えと、それがアラビア半島内に広まる経過を理解する。
4. 最初の 4 人のカリフ(正統カリフ)の時代について考える。第一次内乱、シーア派の出現を理解する。
5. ウマイヤ朝の歴史について考える。これがヴェル

ハウゼンの古典理論において「アラブ帝国」と定義される意味を検討する。

6. アッバース朝の歴史について考える。その成立が、古典理論において「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行と定義される意味を検討する。
7. イスラーム教の聖典であるコーラン(クルアーン)預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって成立・発達した初期思想と学問について学ぶ。
8. アッバース朝時代から発達したアラビア科学とその内容について、また、中世イスラーム社会において民衆教化の役割をはたしたイスラーム神秘主義について考察する。
9. アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現しはじめた軍事政権とその展開について概観する。
10. エジプトのマムルーク朝について学ぶ。とくにイクター制と呼ばれる制度が西ヨーロッパの封建制と比較される点を検討する。
11. ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考察する。レコンキスタ、十字軍、大航海時代、これらが作り上げたヨーロッパの人々の歴史観について検討する。
12. 同 その 2
13. オスマン朝の成立と発展について考察する。この王朝が「完成されたイスラーム国家」と呼ばれる点について検討する。また、カピチュレーションの問題をとりあげる。
14. 欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述し、アジアにおける近代化の枠組みをひとまず一般論として把握する。
15. 西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容を考察する。欧化主義や原理主義(復興主義)の基本的メカニズムを理解する。
16. さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・ズーフイズムなどの問題について考える。
17. エジプトの近代化とその過程について考える。
18. トルコの近代化とその過程について考える。トルコ・ナショナリズム、パン・イスラミズムを理解する。
19. 近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて、いくつかの問題をとりあげて考察する。
20. 知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会に固有な事項をとりあげ、近代化との関係について検討する。

21. 近・現代のアラブ世界の文化について考える。
22. 今世紀のイスラーム世界について考える。イスラーム諸国における民族主義とそのゆくえ、マイノリティーの問題をとりあげる。
23. 現在のアラブ諸国のかかえる問題を検討する。ポスト冷戦時代におけるイスラーム諸国と欧米諸国との関係を考える。
24. (予備) まとめをおこなう

01 科目名	歴 史 学 (西洋史)
98 科目名	歴 史 学 (西洋史)
97 科目名	歴 史 学 (西洋史)
担当者	御園生 眞

#### 講義の目標

大航海時代以降のヨーロッパの歴史を、社会経済の歴史に重点をおいて講義します。経済学部で専門科目を学習するときに基礎知識として役立つことを目標に進めます。

#### 講義概要

前期は、近代における社会経済の基本的なシステムの成立過程を中心テーマとして講義します。

後期は、現代の社会経済の出発点となるイギリス産業革命と、19世紀以降のヨーロッパの社会経済的变化とその問題点を中心に講義を進めます。

#### 参考文献

大下尚一・西川正雄・服部春彦・望田幸男編『西洋の歴史 増補版』〔近現代編〕ミネルヴァ書房、1998年。

これ以外の参考書・参考文献については、最初の講義で紹介します。

#### 評価方法

出席と試験（前後期各1回）の成績で評価します。  
比率は、出席 50% 試験 50%。出席は毎回とります。  
出席が少ない場合は単位が認定されません。

#### 受講者への要望

講義中の飲食は禁止されていますので、マナーを守ってください。講義内容や評価方法は、変更される場合があります。

#### 前期授業計画

1. 序論とガイダンス。
2. 大航海時代
3. (続)
4. (続)
5. 絶対王政
6. (続)
7. (続)
8. 市民革命
9. (続)
10. (続)
11. (続)
12. 前期のまとめ

#### 後期授業計画

1. イギリス産業革命
2. (続)
3. (続)
4. (続)
5. (続)
6. 19世紀後半のヨーロッパ
7. (続)
8. (続)
9. (続)
10. (続)
11. (続)
12. 後期のまとめ

01 科目名	哲 学
98 科目名	哲 学
97 科目名	思 想 ( 哲学 )
担当者	谷 口 郁 夫

#### 講義の目標

まず、「哲学」とは何かということから始めます。哲学が他の学問と違うのはここです。哲学とは何かと問うことがすでに哲学なのです。しかも、客観的に問うと同時に、主体的に問うこと、自己自身にかかわる問題として問うことが要請されます。それを通じて、人間とは、自己とは、歴史とは、理性とは、などについて、考えてゆくことにします。

#### 講義概要

いくつかのテーマを取り上げ、それに関連する哲学書を読んでいきます。哲学書を読んだことのある学生はほとんどいないでしょうから、できるだけ易しいものを取り上げ、できるだけ易しく解説していきたいと考えています。資料は用意していますので、利用していただきたいと思います。

#### テキスト

すべてこちらで用意しますが、インターネット上のファイルをダウンロードしていただく場合があります。

#### 参考文献

プラトン「パイドン」、デカルト「方法序説」、パスカル「パンセ」、ヘーゲル「歴史哲学講義」など。インターネット上に準備をしていきますので、ダウンロードしていただくことになります。なお、獨協大学の HP ではありません。アドレスは最初の講義でお知らせします。

#### 評価方法

講義の中で、何回か小論文を書いていただきます。前後期あわせて 6～8 回位を予定していますが、就職活動などで出席できなかった学生には、レポートの提出を課します。メールでお問い合わせください。

#### 受講者への要望

インターネット、メールなどをきちんと利用できるようにしてください。質問は、特に重要な質問に関しては、メールを使ってください。アドレスは講義の中でお知らせします。私語は厳禁です。

#### 年間授業計画

1. 古代ギリシャの哲学者を紹介しながら、哲学とい

う学問において、何が、どういうふうに問われるのか、などについて考えます。

2. ソクラテス以前の哲学者の断片。
3. プラトンの「饗宴」など。エロスについて。
4. プラトン「パイドン」など。死について。
5. 前回のつづき。
6. 前回のつづき。
7. イギリス経験論の祖フランシス・ベーコンの「ノヴム・オルガヌム」を取り上げます。特にイドラについて。
8. 大陸合理主義の祖デカルトの「方法序説」を取り上げます。特に、方法的懐疑について。
9. デカルト「方法序説」2
10. デカルト「方法序説」3
11. パスカル「パンセ」。パスカルにおける人間観について。
12. 前回のつづき。
13. 後期は特に人間理性と歴史を中心に考えていきます。カントの「人間愛からなら嘘をついてもよいという誤った権利に関して」を取り上げます。
14. カントにおける理性概念について。「道徳形而上学原論」の一部を取り上げます。
15. 三回にわたって、歴史哲学の問題を取り上げます。ヘーゲル「歴史哲学講義」
16. フォイエルバッハ「キリスト教の本質」
17. マルクス「共産党宣言」
18. 楽観的哲学と悲観的哲学を取り上げます。ショーペンハウアーの思想を紹介します。
19. 20 世紀は戦争の世紀でした。二度の大戦を通じて、実存主義と呼ばれる思想が流行しましたが、時代背景との関連に留意しながら、この思想を取り上げます。
20. サルトル「実存主義とは何か」を取り上げます。
21. 前回のつづき。
22. 予備 (イスラエル・アウシュヴィッツなどのスライド。)
23. 予備 (イスラエル・アウシュヴィッツなどのスライド。)
24. 予備 (イスラエル・アウシュヴィッツなどのスライド。)

01 科目名	哲 学
98 科目名	哲 学
97 科目名	思 想 ( 哲学 )
担当者	松 丸 壽 雄

#### 講義の目標

諸文化の担い手としての人間存在は存在するかぎり、根源的なレベルから実際のレベルまで様々な問題と遭遇し、これと対決せざるを得ない、その場合に、どのような立場から、どのような方法でこれらの問題に対処するかを、様々な角度から考えることができる基礎力を養うことを目標とする。

#### 講義概要

実地に現代の諸問題の根元を把握し、これらの諸問題に対処する立場と方法を検討し、解決の可能性をディスカッションを通して思索する。実践的な応用哲学を学習する。みずから問題の根源を見つけだし、みずから考究する態度を身につけるべく、課題が与えられて、それを小グループで討議し、解決の方向を検討する講義である。

#### テキスト

なし。

#### 参考文献

講義中に適宜指示。

#### 評価方法

最低年2回のレポートとディスカッションへの積極的貢献度により評価。

#### 受講者への要望

自分で考えようと努力し、ディスカッションに積極的に参加するつもりのある人。ディスカッションという性質上、人数制限もあり得る。

#### 年間授業計画

1. 講義の概要説明。
2. 愛とは何かについての考察。ビデオ鑑賞。
3. 愛についての様々な思想 ( 1 )
4. 愛についての様々な思想 ( 2 )
5. 愛についての様々な思想 ( 3 )
6. グループ分けと小グループによるディスカッション時の諸注意。
7. ディスカッション ( 小グループ )
8. ディスカッション ( 全体でのグループ意見の発表と討議 )
9. 差別についての考察。

10. 障害者と差別。ビデオ鑑賞。
11. ディスカッション ( 小グループ )
12. ディスカッション ( 全体でのグループ意見の発表と討議 )
13. 生と死についての考察。
14. 生と死についての様々な思想 ( 1 ) 宗教と哲学
15. 生と死についての様々な思想 ( 2 )
16. ディスカッション ( 小グループ )
17. ディスカッション ( 全体でのグループ意見の発表と討議 )
18. 脳死と倫理。
19. 生命倫理について。
20. ビデオ鑑賞。
21. ディスカッション ( 小グループ )
22. ディスカッション ( 全体でのグループ意見の発表と討議 )
23. 年間を振り返ってのディスカッション ( 小グループ )
24. 年間を振り返ってのディスカッション ( 全体でのグループ意見の発表と討議 )

01 科目名	文 学（日本文学）
98 科目名	文 学（日本文学）
97 科目名	文 学（日本文学）
担当者	飯 島 一 彦

#### 講義の目標

中世から近世にかけて爆発的に産み出された『お伽草子』群は、日本文学史上においては初の庶民文藝と言ってよいが、庶民文藝であるからこそ、実は長きにわたる日本の文化伝統をそのままに体现していて重要である。今年はその中でも特に親しまれ、昔話としても流布し、学生諸君も小さい頃から知っているはずである「浦島太郎」と「一寸法師」をとりあげて、単なるお伽話としか思っていないものが、どれほど深く長い文化伝統にのっとって作られているものか、それを受け取る読者、つまり我々の感覚がどれだけ伝統的なのか、明らかにしていく。

#### 講義概要

前期は「浦島太郎」、後期は「一寸法師」をとりあげる。どちらの話も記紀万葉から明治時代の国定教科書を経て、現代に至るまでの長い伝承の歴史を持っている。それらを逐一つまびらかにして、歴史的な変容を明らかにすると共に、変わらない点はどこなのかを明らかにしていく。そのために、古文の講読・解釈を毎時間することになる。

#### テキスト

その都度教室で配布する。

#### 参考文献

その都度教室で指示する。

#### 評価方法

年二回のレポート、学年末試験の成績による。

#### 受講者への要望

長大なレポートを課するので、様々な文献を読み、考える覚悟が必要である。

#### 年間授業計画

1. 「お伽草子」とは何か?
2. 「浦島太郎」を読む
3. 「浦島太郎」を読む
4. 「浦島太郎」を読む
5. 奈良時代の「浦島太郎」 日本書紀
6. 奈良時代の「浦島太郎」 万葉集
7. 平安時代の「浦島太郎」
8. 平安時代の「浦島太郎」

9. 昔話・伝説の中の「浦島太郎」
10. 国定教科書の「浦島太郎」
11. まとめ：日本人の異郷意識：異人、幸福、時間
12. 予備日「絵本の中の浦島太郎」
13. 「一寸法師」を読む
14. 「一寸法師」を読む
15. 「一寸法師」を読む
16. 奈良時代の「一寸法師」
17. 奈良時代の「一寸法師」
18. 平安時代の「一寸法師」
19. 平安時代の「一寸法師」
20. 藝能に見る「一寸法師」
21. 国定教科書の「一寸法師」
22. 昔話の「一寸法師」
23. まとめ：日本人の侏儒観、異人と差別意識、畏れと憧れ。
24. 予備日「絵本の中の一寸法師」

01 科目名	文 学 (日本文学)
98 科目名	文 学 (日本文学)
97 科目名	文 学 (日本文学)
担当者	肥田野 昌 之

#### 講義の目標

日本の代表的な古典である『万葉集』を講読する。主として作品の背景をなす万葉の時代・万葉人の生活・歴史的事件などについて解説し、教養として必要な「万葉集入門」となるような講義をしたいと思う。

#### 講義概要

前期は主として、初期万葉の歴史的事件を背景として、有間皇子や大津皇子の悲劇・額田王や但馬皇女の恋などについて、その歌とのかかわりで物語風に概説するとともに代表歌人たる柿本人麿や山部赤人についても考察する。後期は主として、伝説・説話の歌から東歌・防人歌の問題および山上憶良・大伴家持などの有力歌人についても広く検討してみたい。

#### テキスト

小野寛校註『万葉集抄』笠間書院

#### 参考文献

斎藤茂吉『万葉秀歌』上・下(岩波新書)

#### 評価方法

前・後期試験よって決定する。受講者数によって多少の変更がある。

#### 年間授業計画

1. 巻一国歌大鑑1番・雄略天皇の歌について考える。
2. 中大兄の三山歌について、いろいろな角度から考察する。
3. 額田王とその歌についての説明と鑑賞。
4. 柿本人麻呂とその長歌を中心によむ。
5. 大津皇子・大伯皇女について、謀反事件を考察しながら、それらの歌をよむ。
6. 穂積皇子と但馬皇女との悲恋と歌物語について。
7. 有間皇子の謀反と歌について、『日本書紀』を参考にして考える。
8. 再び柿本人麻呂の短歌とその終焉について考える。
9. 前期のまとめとして、プリント二枚を配って前期試験の傾向と対策について説明する。
10. 石川郎女歌物語。
11. 坂上郎女歌物語。

12. 山部赤人「不尽山を望くる歌」を中心によむ。
13. 大宰帥大伴旅人「酒を讃むる歌」を中心にしてよむ。
14. 真間娘子の歌 赤人と虫麻呂
15. 山上憶良とその歌 貧窮問答歌を中心にして
16. 万葉集の歌体について、特に旋頭歌を中心にしての歌と説明。
17. 高橋虫麻呂の伝説歌について 浦島子・菟原処女など
18. 寄物陳思・正述心緒 卷十一の歌を読む。
19. 万葉集の用字法 特に義訓・戯訓
20. 東歌について説明と歌。
21. 中臣宅守と狭野弟上娘子の贈答を中心にして
22. 後期のまとめとして、プリント二枚を配り後期試験の傾向と対策について説明する。
23. 大伴家持とその歌について講読する。
24. 防人歌についての説明と歌。上代特殊仮名遣について

01 科目名	文 学 (日本文学)
98 科目名	文 学 (日本文学)
97 科目名	文 学 (日本文学)
担当者	福 沢 健

#### 講義の目標

奈良時代から鎌倉初期（特に歌集・物語・説話）を取り上げ、その作品の魅力について講義します。日本の古典作品を「文学」として読んでいくことを目標とします。

#### 講義概要

日本の古典の評判はよくありません。古文はワカラナイ・ツマラナイ・古クサイ、などといわれて、毛嫌いされています。しかし、古文の教材ではなく、文学作品として読み直してみると、それぞれの作品の魅力が改めて見出せると思います。具体的には、1時間にひとつの話題を取り上げ、その話題に関連する作品を読むというかたちとなります。

#### テキスト

特に定めません。必要に応じてプリントを用意します。

#### 参考文献

その都度教室で指示します。

#### 評価方法

年2回のレポート。出席・授業態度など、平常点。

#### 受講者への要望

いわゆる古文解釈の技術は必要ありません。日本古典に対する興味を有する学生の受講を希望します。

#### 年間授業計画

1. はじめに
2. 柿本人麻呂 神としての天皇 (万葉集)
3. 天照大神と大国主命 伊勢神宮の誕生 (古事記)
4. 石川郎女と大伴田主 古代都市の文学 (万葉集)
5. 大伴家持と早良親王 武人の末裔 (万葉集)
6. 菅原道真 怨霊登場 (大鏡)
7. 倭健命と在原業平 反逆する皇子 (伊勢物語)
8. 宇多院 流浪の天子 (大和物語)
9. 紀貫之 秩序ある世界 (古今和歌集)
10. 藤原道綱母 不幸な心の発見 (蜻蛉日記)
11. 安倍晴明 平安京と陰陽道 (今昔物語)
12. 中宮定子と清少納言 幸福の記憶 (枕草子)
13. 紫式部 現実の貴族社会 (紫式部日記)
14. 桐壺帝と桐壺更衣 地上世界の天女 (源氏物語)

15. 光源氏と藤壺女御 貴族流離の物語 (源氏物語)
16. 光源氏と薫大将 苦悩する男君 (源氏物語)
17. 菅原孝標女 物語と信仰 (更級日記)
18. 虫めづる姫君 物語の行方 (堤中納言物語)
19. 西洞院の女房 本当にあった話 (今昔物語)
20. 讃岐典侍 衰弱する天皇 (讃岐典侍日記)
21. 崇徳院と鎮西八郎為朝 末法の世のはじまり (保元物語)
22. 平清盛 王権を破壊する者 (平家物語)
23. 後鳥羽院と藤原定家 乱世と芸術至上主義 (新古今和歌集)
24. まとめ



01 科目名	文 学 (世界文学)
98 科目名	文 学 (世界文学)
97 科目名	文 学 (世界文学)
担当者	石 崎 晴 己

#### 講義の目標

フランス文学を中心としたヨーロッパ文学への入門。フランス文学は、ギリシア・ヨーロッパの古典古代の文学を最も正統的に継承しつつ発展したものであり、また中世以来、ヨーロッパ文学をリードしてきた。フランス文学を閉鎖的に捉えるのではなく、そうした「国際的」ないし「比較文学的」側面を重視しながら読んでいけば、ヨーロッパ的な考え方や感性を知ることができるだろう。

#### 講義概要

具体的には、ギリシア神話・伝説のテーマの永続性と展開を、フランス一七世紀古典劇を中心にして、フランス現代演劇まで含めて検討すること、中世の物語の近代への展開をたどること等が、主たる課題となるだろう。学生が読んでもない作品のタイトルを次から次に羅列して教師が一方向的に語るのではなく、じっくりと作品を味わい、分析するという形で進めたい。言及される作品には学生諸君も一通り目を通していただくことが望ましく、後半は発表もお願いすることになるだろう。映画や劇のビデオ等も折り込んで、作品を享受することの楽しさを追求したいと思う。

#### テキスト

なし。必要に応じて、プリントを用意する。

#### 参考文献

教場にて指示。

#### 評価方法

前・後期ともレポートによって評価を決める予定であるが、場合によっては、きわめてレポートに近い形の筆記試験（問題予告による筆記試験）を行なうかもしれない。またできれば学生諸君にも発表をして貰いたいと思っているので、それも評価の手段となるだろう。

#### 受講者への要望

少しでも多く読むこと。

#### 年間授業計画

1. 方針説明。課題図書 の 指定 と 分担 決定。
2. フランス文学史概観

3. ヨーロッパ文学の基層としてのギリシア神話・伝説の典型としてのトロイ戦争
4. ホメロス「イリアス」
5. アイスキュロス「オレスティア」
6. ラシーヌ「アンドロマック」
7. ビデオ鑑賞
8. ジロドゥー「エレクトル」
9. 同上
10. サルトル「蠅」
11. 同上
12. 予備
13. ラシーヌ「フェードル」学生による発表
14. 同上、教師によるまとめ+ビデオ
15. モリエール「ドン・ジュアン」学生による発表
16. 同上、教師によるまとめ+ビデオ
17. 「トリスタンとイゾー」学生による発表
18. 同上、教師によるまとめ
19. ビデオ鑑賞(ワグナー「トリスタンとイゾルデ」)
20. モンテーニュ「エッセ」より
21. ラ・ファイエット夫人「クレーヴの奥方」
22. デカルト「方法叙説」
23. ルソー「告白」
24. 予備

01 科目名	文 学 (世界文学)
98 科目名	文 学 (世界文学)
97 科目名	文 学 (世界文学)
担当者	北 澤 滋 久

#### 講義の目標

文学を味わうことの愉しさを伝え、併せて教養豊かな国際人をめざす者の人間形成の一助とすることを主たる目標とします。

#### 講義概要

英米の文学に観る人間像

英米文学のなかの古典・傑作をいくつかのトピックスに大別して、1 講義、1 作家、1 作品を原則に、定説を踏まえながらも担当者独自の観点から解説してゆきます。毎回聴いていけば「学」はつくでしょうが、文学史的な体系を覚えてもらうつもり科目ではありません。何より受講者の感性に訴えたく思います。文学は本来楽しいもののはずです。この際ちょっと読書好きになってさえもらえれば、美しく感動的に描かれた未知の人生や思想と出会って、心地よい興奮とともに、ずっしりと重く自分の人生への指標が仄かに視えてもくることでしょう。こうした文学へのいざないに、肩のこらない楽しい授業にしたいと思います。

興味ある向きは、最初のガイダンス授業を覗いてみてください。

#### テキスト

テキストは特に定めません。

#### 参考文献

参考文献は、2 回目の授業時間に一覧表にして配布します。

#### 評価方法

前期の講義で扱った作品の中から一編を読んで(翻訳可)、その感想文(小論文)を夏休み後に提出してもらいます。これと後期の試験により評価します。

#### 受講者への要望

毎年多数の受講者の集まるのは結構なのですが、単に単位獲得のみを目的とする方は悪しからずご遠慮ください。因みに毎年 25%以上の不合格者が出ています。

#### 年間授業計画

1. 登録のよすがに: 本講義の内容と目標、そして受講者に願うこと

2. 開講の辞: 言語・文学・芸術、そして言語芸術としての文学

#### 現代文明下のアメリカの少年たち

3. 『ハックルベリーの冒険』: イノセントな魂

**THE ADVENTURES OF HUCKLEBERRY FINN by Mark Twain**

4. 『ブラック・ボーイ』: 人種差別に抗って

**BLACK BOY by Richard Wright**

5. 『ライ麦畑でつかまえて』: 現代社会に生きることの苦悩

**THE CATCHER IN THE RYE by J. D. Salinger**

#### 19 世紀、イギリスの娘たち

6. 『テス』: 汚された? 純潔

**TESS OF THE D'URBERVILLES by Thomas Hardy**

7. 『フロス河畔の水車場』: 新しい女性の生きかたを求めて

**THE MILL ON THE FLOSS by George Eliot**

8. 『ジェーン・エア』: 自立する女性

**JANE EYRE by Charlotte Brontë**

#### 19 世紀、英米文学の驚異

9. 『嵐が丘』: 天国と地獄のパラドックス

**WUTHERING HEIGHTS by Emily Brontë**

10. 『白鯨』: 近代的英雄の悲劇

**MOBY - DICK by Herman Melville**

#### 英雄不在の 20 世紀の英雄たち

11. 『ロード・ジム』: 英雄ならざる英雄の悲劇

**LORD JIM by Joseph Conrad**

12. 『老人と海』: 一老漁師にみる英雄的姿

**THE OLD MAN AND THE SEA by Ernest Hemingway**

#### 海洋(冒険)小説の諸相

13. 『ロビンソン・クルーソー』: 孤島に生きる近代人

**THE ADVENTURES OF ROBINSON CRUSOE by Daniel Defoe**

14. 『ガリヴァ旅行記』: 人間嫌悪の結晶

**GULIVER'S TRAVELLS by Jonathan Swift**

#### 近代芸術観の極致

15. 『月と六ペンス』: 芸術家の狂気

**THE MOON AND SIXPENCE by William Somerset Maugham**

16. 『アッシャー館の崩壊』他: 至上の美を求めて

**THE FALL OF THE HOUSE OF USHER by Edgar Allan Poe**

17. 『ドリアン・グレイの肖像』: 耽美の世界に踏み入

って

**THE PICTURE OF DORIAN GRAY** by Oscar Wilde

**父なるもの、母なるものの原像**

18. 『ハムレット』: 青年の母への愛憎

**HAMLET** by William Shakespeare

19. 『息子たち、恋人たち』: 母と息子の絆

**SONS AND LOVERS** by D. H. Lawrence

20. 『若い芸術家の肖像』: 父なるものを求めて

**A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN** by James Joyce

**倫理と欲望の狭間**

21. 『ねじの回転』: 女性家庭教師のみた幻想

**THE TURN OF THE SCREW** by Henry James

22. 『事件の核心』: 信仰と不倫に揺れて

**THE HEART OF THE MATTER** by Graham Greene

23. 『緋文字』: 姦通と復讐の贖い

**THE SCARLET LETTER** by Nathaniel Hawthorne

24. 閉講の辞: 芸術と人生、そして質疑・応答

01 科目名	国 語
98 科目名	国 語
97 科目名	国 語
担当者	飯 島 一 彦

#### 講義の目標

言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」「考える」などの分野があるが、その中でも、現在の日本の教育課程ではほとんど省みられることのない、日本語を「話す」「聞く」ことを中心に、「考える」にまで至る、表現の基礎的なトレーニングを行う。表現手段を獲得できなければ、十分な表現をなしえることはできず、従って他者とのコミュニケーションを完成させることも期待できない。この授業は、日本語によるコミュニケーションを、口頭表現を中心に、より完全に近づけることが目標となる。

#### 講義概要

基礎的な概念は講義するが、それをもとにした実践、つまり学生諸君の毎時間の表現の、実際のトレーニングが主体となる。毎週出される課題に一週間とりくんで、次の週の授業時にその結果をもとに実践する、といった形式が多くなる。従って、トレーニングは課題を前提になされるから、課題にとりくまなかったものは受講しても無意味である。

#### テキスト

特になし

#### 参考文献

特になし

#### 評価方法

毎回のトレーニングに対するとりくみの深さ、その成果、夏期・冬期休業中に課するレポート他の課題の提出、後期最後に行われる発表の成果、等々平常点の成績が中心となる。

#### 受講者への要望

膨大な課題が出されるので、覚悟して受講すること。欠席すると表現の訓練の連続性が損なわれるので、欠席しないこと。

#### 年間授業計画

1. 授業ガイダンス。
2. 講義：国語とは、表現とは、コミュニケーションのサイクル。
3. }
4. }

5. }
6. }
7. }
8. }
9. }
10. }
11. }

12. 夏休み課題ガイダンス。
13. 夏休み課題提出。後期ガイダンス。

14. }
15. }
16. }
17. }
18. }
19. }
20. }
21. }
22. }
23. }

24. 冬休み課題提出。年間のまとめ。

01 科目名	国 語
98 科目名	国 語
97 科目名	国 語
担当者	小 島 幸 枝

#### 講義の目標

過去の人間の考え方に共鳴したり、未来の人間に語りかけられるのはことばの力である。しかしことばは、ただ通じればよいというものでもない。人の心をうつ美しいことば、的確な表現、それは確かに才能にもよるがたゆまぬ努力と訓練によってある程度習熟できるものである。本講は、社会人予備軍としての大学生の日本語力を培うために、社会の変化に関心をもち情報の収集および判断力を養うこと、実用文を短時間で書きあげる練習、敬語の使い方の修得、手紙の書き方など、国語の運用面について講述する。

#### 講義概要

前期は音声言語表現を中心とし、一分間スピーチの演習、朗読、敬語の使い方など、後期は文字言語表現を中心とし、実用文の実作、相互の添削、手紙のかき方などを学ぶ。評価は平常点をもってする。すなわち課題として社説の要約、800字の作文、読書報告文を提出する。

#### テキスト

岡田啓助他『国語表現法』（おうふう）

#### 参考文献

- ・ 都度、紹介する。

#### 評価方法

提出物による平均点、および出席点。

#### 受講者への要望

授業中に作業することがありますので、無断で2週連続して欠席した場合は受講資格がなくなると思ってください。

#### 年間授業計画

1. 表現者（送り手）と理解者（受け手）のことばにおけるメカニズムを概説
2. 音声言語について、文字言語との差異および特徴の認識
3. 日本語の基礎知識 - 日本語の音韻
4. 日本語の基礎知識 - アクセントの特徴
5. 美しい言葉の条件 - 正確さと品位をどのように獲得するか

6. スピーチ（演習） - 互いのスピーチをきいて評価、および自己評価をする
7. 反省とまとめ（ディベートの予告）
8. ディベート（ビデオ鑑賞）
9. 反省とまとめ
10. 敬語について - 日本語の敬語の特徴と歴史（上代～中世）
11. 敬語について - 日本語の敬語の特徴と歴史（中世末～現代）
12. 漢字テスト
13. 文と文章
14. 文の構造
15. 文章の構造
16. 文章の種類
17. 文字言語 - 文章を書く手順、材料の収集法
18. 主題と題材
19. 材料を集める - 説明文、報告文を書く
20. 材料を並べる - アウトラインを作る（効率よく文章を書くために）
21. 文献、資料を用いて文章を補強する
22. 交換、批評しあう
23. 推敲のポイントを学ぶ - まとめ
24. （予備）

#### 備考

前期は実作を習慣づけるために、宿題形式で社説要約（週1作）読書報告（月1本）作文（週1作）を課すが、後期は実作の習慣をつけるために作文は授業中に完成させる。従って の課題はない。

01 科目名	国 語
98 科目名	国 語
97 科目名	国 語
担当者	高 松 正 毅

#### 講義の目標

文章を読み手として単に享受し味わうというのと、書き手として自ら発信するというのとは、一つの行為の裏表ではない。当然のことながら、よく読めるからといって同様に文章がよく書けるとは限らないのである。特に文学的な文章表現においては天賦の才能が大きく影響するので、努力さえすれば誰でも上手くなれるというものではない。一般の我々が目指すべきなのは、読み手に「わかりやすい文章」を書くことだけである。

本講義では、他者と関わるための手段としての「実感に基づく言語」の再獲得を目標とする。

#### 講義概要

普段からほとんど文章を書かず、文章を書くことが少しも日常化されていない現状にあって、文章を書くのが苦手だなどと嘆くのは馬鹿げている。より良い文章が書きたかったら、より多く書く以外に方法はないのである。

本講義では、提示された課題に従い、できる限り多く実際に文章を書いてもらう実践トレーニングを重視する。

#### テキスト

未定。開講時に決定する。

#### 参考文献

山崎浩一「危険な文章講座」ちくま新書

安本美典「説得の文章術」宝島社新書

樋口裕一「ホンモノの文章力」集英社新書

宮部 修「文章をダメにする三つの条件」丸善ライブラリー

上記以外、適宜指示する。

#### 評価方法

出席は提出物によってカウントする。授業へのとりくみ度はその内容によって量る。評価にあたって出席は重視するが、これは単に教室の中に存在したというだけでは駄目である。すなわち居眠り・内職・私語・白紙提出等は出席とは認めない。

#### 受講者への要望

授業の運営方法は履修者数の多寡により変動する。

授業に真剣にとりくむ意思のない者の履修は断固お断りする。

#### 年間授業計画

1. ガイダンスおよび試験

2. 講義概説、視写による原稿用紙の使い方

3.

4.

5.

6.

7.

8.

9.

10.

11.

12. 前期のまとめ

13. 夏休みの課題提出

14.

15.

16.

17.

18.

19.

20.

21.

22.

23. 冬休みの課題提出

24. まとめ

実践トレーニング

実践トレーニング

01 科目名	国 語
98 科目名	国 語
97 科目名	国 語
担当者	肥田野 昌 之

#### 講義の目標

日本語への関心を深め、日本語による表現を豊かにしようとするものである。また常用漢字の練習や日本語・日本文学の基本的な知識などの学習を通して、大学生としての教養も深めたいと思う。

#### 講義概要

論理的な文章表現の習得を目的とし、文章の構成・段落の問題、表記法、原稿用紙の使い方などの基礎的事項についての講義と実習を行い、文章による効果的な伝達の技能を養うようにしたい。

また、文字の問題・仮名づかいなど日本語に関する知識や教養としての日本文学に関連する基本的知識についても言及したい。

#### テキスト

特に使用せず、その都度プリント配布。

#### 評価方法

実作および年度末試験によって決定する。受講者数によって多少の変更がある。

#### 年間授業計画

1. 国語表現についての意義と一年間の講義概要を説明する。
2. 現代社会における文章の機能についての考察とともに文章上達法についても考える。
3. 「文は人なり」について考えるとともに文章と文体についても言及する。
4. 文章表現のプロセスとして、文章の目的・主題の選定・主題の限定などについて説明する。
5. 文章表現のプロセスとして、材料の意義・材料の源泉などについて説明する。
6. 文章表現のプロセスとして、材料の順序と構成・アウトラインについて説明する。
7. 豊かな内容とは 物の見方や読書などについて考える。
8. 国語表記の問題 段落の分け方や送りがななどについても言及する。
9. 原稿用紙の使い方や校正などについても説明する。
10. 作文を書く（添削と採点）
11. 作品を返還して、感想や注意事項を述べる。誤字

の問題、常体・敬体の混在など。

12. 学生が黒板に出て、漢字かなづけ・漢字書き取りを行う。
13. 教養として能・狂言の入門 熊野・附子など
14. 教養としての歌舞伎入門 勸進帳・与話情浮名横櫛など
15. 文字について 特に「漢字御廃止之儀」から常用漢字までを概説する。
16. 仮名づかいについて 仮名づかいの歴史、特に歴史かなづかいと現代かなづかいに力点を置いて説明する。
17. 標準語と方言について説明し、女房詞や忌詞などについてもふれる。
18. 文章のさまざま 実用性の濃い文章と芸術性の濃い文章など
19. 手紙の書き方 手紙の形式を中心にして説明する。
20. 課題作文を書く（添削と採点）
21. 作品を返還し、感想や注意事項を述べる。
22. まとめとしてプリントを二枚を配布し、年度末試験について傾向と対策を説明する。
23. 学生が黒板にでて、四字句の完成などを行う。
24. ことばと社会について ことばの乱れや敬語法について考える。

01 科目名	国 語
98 科目名	国 語
97 科目名	国 語
担当者	福 沢 健

#### 講義の目標

言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能がある。この4技能に関わるさまざまなタスクの実施を通して、日本語表現の基礎的なトレーニングを行う。表現手段を獲得できなければ、十分な表現をなし得ることはできず、したがって他者とのコミュニケーションを完成させることはできない。この授業は、日本語によるコミュニケーションの能力を総合的に向上させることを目標とする。

#### 講義概要

基礎的な概念は講義するが、それをもとにした実践、つまり学生諸君の実際のトレーニングが主体となる。具体的には、概説・練習問題を通して国語表現の基礎力を身につけたあと段階を追って小論文レポートなどを実際に書いてもらう。また、社会生活に不可欠な敬語の正しい使い方の練習、手紙文の書き方などについても触れる。

#### テキスト

特に定めない。プリントを使用する。

#### 参考文献

授業時にその都度指示する。

#### 評価方法

毎回の出席状況、授業の参加の度合い、課題の提出など平常点評価及び授業時の試験によって評価する。

#### 受講者への要望

熱意を持って授業に参加してほしい。授業中の私語は、厳に慎んでもらいたい。

#### 年間授業計画

1. はじめに
2. 語彙・熟語
3. 同義語・類義語・対義語
4. 同音異義語・同音異義語
5. 四字熟語
6. 用字法
7. 句読法
8. 文法1 主語と述語
9. 文法2 修飾語

10. 比喩表現
11. 文章展開の表現技法
12. 文章伝達の表現技法
13. 常体と敬体 1
14. 常体と敬体 2
15. 表現上の推敲 1
16. 表現上の推敲 2
17. 文章の構成
18. 段落の構成
19. レポートの作成 1
20. レポートの作成 2
21. レポートの作成 3
22. レポートの作成 4
23. 手紙文
24. まとめ



01 科目名	地球環境論
98 科目名	地球環境論
97 科目名	自然科学概論
担当者	鈴木 滋

#### 講義の目標

人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題を地球科学・資源環境科学・一般科学技術の立場からその内容の把握を目的とする。また、この問題は国際的な文化・経済・社会等に大きな影響を与えていることの理解を深める。

#### 講義概要

我々の環境は目まぐるしく変化している。それは自然科学も社会・人文科学も同様である。地球環境を自然科学的側面から捉え、環境におけるその位置づけや地球規模の問題として資源と環境がどのような因果関係にあるのかを考察する。さらに、地球環境に生じる具体的現象、その問題の原因ならびに対策について資源論・環境論を交えて検討する。受講者が自然科学を専門としない学生であることを十分に考慮し、地球環境問題を取り巻く資源・環境・科学技術がなぜ重要な意味を持っているのかも理解できるようにする。さらに、自然科学の持つ客観的な物の見方を養い、経済への一助とする。

#### テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

#### 参考文献

国内外ともに多数の文献がある。講義内容によって、適時指示する。なお、グローバルなものの見方を養うため、場合によっては、地球環境に関する諸問題について最近の英文記事を紹介し、内容を検討する。

#### 評価方法

定期試験（2回）と平常点により総合評価する。

#### 受講者への要望

できるだけ平易に内容を説明するので熱心な受講姿勢を期待する。また、講義の進度に連れて、地球環境を身近な問題と捉え、各自が自分なりの意見を持つことができるよう要望する。

#### 前期授業計画

1. オリエンテーション：授業内容・受講姿勢等について説明。

2. 地球環境論は今なぜ必要か？
3. 地球環境の歴史。
4. 地球環境の構造等：地球という惑星について。
5. 地球環境と地球システム。
6. 地球環境と資源（ ）：資源の特性。
7. 地球環境と資源（ ）：エネルギー。
8. 地球環境と材料：地球材料学とは。
9. 地球環境と科学技術：科学技術は地球環境に何をもたらしたか？
10. 環境：地球環境と広域・地域環境との比較。
11. 地球環境問題概論。
12. 前期のまとめ。

#### 後期授業計画

1. 後期の概要説明。
2. 地球環境問題各論（ ）。
3. 同上
4. 同上
5. 地球環境問題各論（ ）。
6. 同上
7. 地球環境問題各論（ ）。
8. 同上
9. 地球環境の保全：文化・経済・社会等の今後のあり方。
10. 地球環境論を通しての意見交換。
11. 地球環境論と科学論の関係について。
12. 総合的まとめ。

備考：授業の進度により若干の変更がある。

01 科目名	数学 a・b
98 科目名	数 学
97 科目名	数 学
担当者	遠 藤 信

#### 講義の目標

経済学は、多かれ少なかれ、数学的な学問である。或る程度の数学の知識がなければ、経済学を学ぶことは難しいと云っても過言ではない。また、経済学でよく使われる基本的な概念が、数学で扱われる問題の特殊な場合であることが多い。

この講義では、経済学を学ぼうとする学生にとって必要最小限と思われる基礎的な数学の知識と数学的な考え方を身につけ、学生が経済学をより深く理解できることを目標とする。扱う分野は、線形代数と微分である。

#### 講義概要

前期では、行列と行列式を講義する。これらは、数学の基礎であるとともに、例えば線形計画法、産業連関分析のように、経済学部が実社会に出て、応用することが多い分野である。

後期では、微分を講義する。これは、応用分野が広範であるとともに、経済学の発展の上で極めて重要性をもつものである。

定理の証明や公式を導くにあたっては、数学の厳密さよりも分かり易さを第 1 とし、数学的な考え方を中心に、複雑な計算をできるだけ避けるように心がける。

#### テキスト

特に定めない。必要に応じて、プリント使用。

#### 参考文献

参考書の類いは枚挙にいとまがない位ある。授業の際に、適当と思われるものを示す。

#### 評価方法

出席状況と授業中におこなう演習での平常点と、授業中におこなう何回かのまとめの小テストの成績を総合して成績評価をする。数学では、きちんと出席して、演習問題を解くことが非常に大切なので、欠席の多い者（全授業数の 3 分の 1 以上を欠席した者）は単位が取れない。

#### 受講者への要望

第 1 回目の授業には必ず出席して、大切な注意事項をよく聞くこと。

#### 前期授業計画

1. 行列の定義 行列の演算
2. 行列の演算
3. 行列の性質
4. 行列式の定義
5. 行列式の計算
6. 行列式の性質
7. 行列式の性質と行列式の計算
8. 余因子とその性質
9. 余因子とその性質
10. 余因子を用いて逆行列を求める方法
11. 連立 1 次方程式 Cramer の公式
12. 補充とまとめ

#### 後期授業計画

1. 関数と関数の極限
2. 関数の極限 関数の連続
3. 微分係数と導関数の定義
4. 微分法の公式 関数の和、積、商の微分 いろいろな関数形の微分
5. 微分法の公式 関数の和、積、商の微分 いろいろな関数形の微分
6. 関数の極大・極小
7. 関数の極大・極小
8. 高次導関数 平均値の定理
9. 偏微分の定義 偏微分の計算
10. 偏微分の計算
11. 微分の社会科学への応用
12. 補充とまとめ

01 科目名	地 理 学
98 科目名	地 理 学
97 科目名	地 理 学
担当者	秋 本 弘 章

#### 講義の目標

地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、第一に、人間と自然環境がどのようなかわりをもっているかを、具体的事例をもとに検討していく。第二に、人間の生活空間の地域的な単位になっている集落の機能と空間構造、そこにみられる生活様式の特徴などについて扱う。これらを通じて、地理学の基本概念を身につけることと目標とする。

#### 講義概要

年間の講義を前後期に分け、前期には地表面の自然の特色を概観し、自然的基盤の上で繰り広げられている人々の生活様式を地域的に説明する。後期は、人類の約半数が居住している都市の地理学を講義する。

#### テキスト

なし、適宜プリント等を配布する。

#### 参考文献

山本正三（他）著「世界の自然環境」大明堂  
 久馬一剛著「食糧生産と環境」化学同人  
 渡部忠世著「農業を考える時代」農山漁村文化協会

Bayliss-Smith, T. P.; "The Ecology of Agricultural System." Cambridge Univ.Press

高橋伸夫（他）著「都市地理学入門」原書房  
 杉浦芳夫著「文学の中の地理空間」古今書院

#### 評価方法

前期：定期試験、出席、および授業時の出される課題を総合的に評価する。

後期：定期試験、出席、および授業時の出される課題を総合的に評価する。

#### 受講者への要望

高校時代に用いた地図帳を持参すること。

#### 前期授業計画

##### 1. オリエンテーション

地理学とは、どのような学問か

##### 2. 自然と人間とのかかわり - 環境論、風土論への招待 -

##### 3. 環境の諸要素(1) - 地形環境 -

##### 4. 環境の諸要素(2) - 気候環境 -

##### 5. 環境の諸要素(3) - 自然地域 -

##### 6. 人間生活と自然地域(1)熱帯地域

##### 7. 人間生活と自然地域(2)アジア・モンスーン地域

##### 8. 人間生活と自然地域(3)乾燥地域

##### 9. 人間生活と自然地域(4)ヨーロッパの風土

##### 10. 人間社会と自然地域(5)新大陸の風土

##### 11. 人口増加と食糧問題

##### 12. まとめ - 文明と風土についての考察

#### 後期授業計画

##### 1. 都市の概念、都市の発達

##### 2. 都市の立地 - 自然環境とのかかわり

##### 3. 都市の機能 - 都市機能による都市の分類

##### 4. 中心地理論

##### 5. 都市の内部構造(1) - パージェスのモデル

##### 6. 都市の内部構造(2) - 都市内部のモザイク

##### 7. 都市化と郊外の変容(1) - チューネン圏

##### 8. 都市化と郊外の変容(2) - 郊外住宅地の成立

##### 9. 大都市圏と都市計画 - ハワードの田園都市構想から大ロンドン計画へ

##### 10. 都心と郊外 - 郊外の独立とインナーシティ問題

##### 11. メガロポリスと世界都市

##### 12. まとめ - 私たちの暮らしと都市

01 科目名	地 理 学
98 科目名	地 理 学
97 科目名	地 理 学
担当者	犬 井 正

#### 講義の目標

熱帯雨林の破壊は単に森林資源の消失問題としてではなく、全地球的な環境、経済、文化の問題としてとらえなければならない。熱帯雨林の生態と開発問題について広い視野から検討し、人間と風土とのかかわり方を考察する。

#### 講義概要

熱帯雨林とはなにかという問いを端緒に、熱帯雨林がどこに存在し、どのような特徴をもった森林なのかを明らかにし、地球上で最も重要な生態系と言われている理由を考察していく。なぜ熱帯雨林が開発されるようになったのか、その開発の形態と規模、開発過程、開発の結果どのようなことが生起しているのか。なにが適切な解決策なのかなどについて考えていく。テキストを用いながら、随時、VTR なども援用しながら講義をすすめる。

#### テキスト

・クリス・C・パーク著『熱帯雨林の社会経済学』  
1994、農林統計協会

#### 参考文献

・T・C・ホイットモア著『熱帯雨林総論』1993、  
築地書館  
・ジョン・C・クリッチャー著『熱帯雨林の生態学』  
1992、どうぶつ社  
・四手井綱英・吉良竜夫監修『熱帯雨林を考える』  
1992、NHK ブックス

#### 評価方法

前期、後期各 1 回ずつの定期試験による。

#### 受講者への要望

「経済地理学(犬井担当)」、およびその「演習」を履修する予定者は、本講義を履修しておくことが望ましい。

#### 前期授業計画

1. 本講義の 1 年間の受講の心構え、講義方法、講義内容についてのオリエンテーションをおこなう。
2. 1 次生産者としての森林の重要性について。
3. 世界の森林の分布と熱帯雨林地域の気候条件。
4. 熱帯雨林成立の過程と特質。

5. 熱帯雨林の森林としての構造。
6. 熱帯雨林の動植物と食物連鎖。熱帯雨林の土壌の特質。
7. 熱帯雨林の生態学的多様性。
8. VTR『熱帯雨林の生態』視聴。
9. 熱帯雨林の開発の過程と破壊の核心地域。
10. 様々な開発形態と開発速度。
11. 薪炭材の生産と焼畑農耕 伝統的焼畑農耕は破壊か？
12. 人口爆発と集落再編計画。

#### 後期授業計画

1. 商業的木材生産による森林破壊。
2. プランテーション経営と牧畜業。
3. ダム・道路建設、鉱産資源開発などの大規模開発による森林破壊。
4. VTR『緑を守る男たち』視聴。
5. 熱帯雨林破壊による環境保全機能の低下。
6. 熱帯雨林破壊の気候変化と地球の温暖化。
7. 熱帯雨林破壊の経済と生態系の損失。
8. 熱帯雨林で暮らす森林の民の苦境 アマゾンのヤノマミ族とカヤポ族。
9. VTR『熱帯雨林とサラワク先住民族』視聴。
10. 日本の熱帯材輸入と森林破壊。
11. 熱帯雨林破壊をくい止める可能な解決策は？
12. まとめ 再考「人間と自然のかかわり」。

01 科目名	精神衛生論
98 科目名	精神衛生論
97 科目名	地域精神衛生論
担当者	佐々木 雄 司

#### 講義の目標

「精神衛生学」イコール精神医学ではない。後者の中核が「医療の場」における治療なのに反し、前者は、あらゆる「生活の場」(地域社会、職場、学校)における実践といえよう。

私は、精神科医で、メンタルヘルスとくにコミュニティメンタルヘルスのパイオニアの 1 人として日本の各地で活動を重ねてきている。その日頃の実践の中で、精神衛生の基礎知識をもつ社会人の仲間が 1 人でもいたら……と思うことの連続である。産業精神衛生は、現代の企業の重大問題の 1 つ。本授業を、そのよき社会人モデルを育てる基礎訓練の場としたい。

#### 講義概要

「暮らしの中の健康学、とくに精神衛生学概論」と集約できるかもしれない。身近に起こっている、生命や健康に関するありふれた出来事あるいは特異な出来事などをとりあげる。

授業は精神科医としての 40 余年間の私自身の実践や研究やフィールドワークの体験を縦軸とし、学生サンの討論などを横軸として進める。ビデオや新聞記事などを授業時間の最初に使用し、それをもとにした「グループ討論」をできるだけ頻回にとり入れたい。

本授業が、上記のよき社会人モデルへの途となるとともに、人間・家庭・地域社会・学校・企業・社会福祉・行政・信仰・日本文化などを考える緒の 1 つともなれば幸いである。

#### テキスト

なし

#### 参考文献

佐々木 雄司「宗教から精神衛生へ」金剛出版、1986  
厚生省精神保健課「我が国の精神保健福祉」厚健出版(最新版)

福祉士養成講座編集委員会編集「新版介護福祉士養成講座 10 精神保健」中央法規、2001

#### 評価方法

2 回の期末テストだけでなく、ミニテスト、出欠や

発言などの参加姿勢を、平常点として重視する。期末テストのみ受けても、単位として認定しない。

#### 受講者への要望

「精神衛生学」は人間関係の学であり、約束を重んずることと参加することが基本要件。先述した講義形態でもあり遅刻は厳禁。なお、ゼミ生(精神衛生論)は本授業も受講されたい。

#### 前期授業計画

1. オリエンテーション
2. グループ討論「最近の新聞記事など」をとりあげる
3. いのちと医療 (1) 新聞記事、グループ討議
4. " (2) まとめ
5. そこで起こっている現象の捉え方、考え方 (1) Video、グループ討論
6. " (2) まとめ
7. 信仰と精神衛生 (1) 具体例、新聞記事、グループ討論
8. " (2) スライド、(3) Video、まとめ
9. 精神医学の知識 (1) 具体例、新聞記事、グループ討論
10. " (2) スライド、(3) Video、まとめ
11. 新しい精神医学、コミュニティ・メンタルヘルス (1) 具体例、グループ討論
12. " (2) スライド、(3) Video、まとめ

#### 後期授業計画

1. 地域社会の精神衛生
2. 家庭の精神衛生
3. 学校の精神衛生 (1) 具体例、新聞記事、グループ討論
4. " (2) まとめ
5. 職場の精神衛生 (1) 具体性、新聞記事、グループ討論
6. " (2) まとめ
7. 加齢と精神衛生 (1) 具体例、新聞記事、グループ討論
8. " (2) まとめ
9. 日本の医療ことに精神科医療の現状
10. 医師、医療機関の選び方
11. 総括 (1) 新聞記事、グループ討論
12. " (2) まとめ

01 科目名	医療・福祉概論 a・b
98 科目名	医療・福祉概論
97 科目名	保健論
担当者	藤井賢一郎

#### 講義の目標

以下の～を講義の目標とします。  
 わが国の医療・福祉の現在及び今後の環境（人口、社会、家族の状況）を理解する。  
 わが国の医療・福祉の制度の概要を理解する。  
 わが国の医療・福祉の課題を理解する。  
 医療・福祉に関する経済学の視点を理解する。

#### 講義概要

医療や福祉の制度は、我々いつかは必ず利用する制度です。現在、急速な高齢化もあって、今後の医療や福祉制度のあり方について、国民全体で真剣に議論することが問われています。しかし、我々の多くは、このような状況を知らないで生活しています。

本講義では、このような状況をふまえ、できるだけ皆さんに医療や福祉について興味を持ってもらいながら、我々が今何を考え、議論する必要があるのかについて学び取ってもらえることを目指しています。また、単に教養としてではなく、経済学の視点から整理することで、より焦点を絞り、理解を深めます。

具体的な内容としては、医療保険制度と介護保険制度及び精神障害者の医療・福祉が中心となっています。（授業計画は一部変更される可能性があります。）

#### テキスト

三菱総合研究所「図解 福祉・介護を読む辞典」東洋経済新報社（全講義の半分程度は、本書をもとに授業します。特に、図表を参照するため、必ず用意してください。）

#### 参考文献

次の～の順で本講義と関連深い内容となっています。は比較的手軽な読み物、は経済学科学生であれば、一読を期待します。広井良典「日本の社会保障」岩波新書、厚生省「厚生白書（平成12年版）」、春山満「介護保険・何がどう変わるか」講談社現代新書、池上直己、JCキャンベル「日本の医療」中公新書、福祉士養成講座編集委員会編「精神保健」中央法規、J E スティグリ

ッツ/藪下訳「公共経済学上」東洋経済新報社、小塩隆士「社会保障の経済学」日本評論社、OECD「OECD諸国・活力ある高齢化への挑戦」ミネルヴァ書房

#### 評価方法

前期：前期終了後の試験結果点に出席点を付加します。出席点は、各講義後レポート及び講義中発言でカウントします。詳細は前期1回目に説明します。出席点の取り扱いは、出席状況により若干変更します。

後期：後期終了後の試験結果点に出席点を付加します。出席点は、各講義後レポート及び講義中発言でカウントします。詳細は後期1回目に説明します。出席点の取り扱いは、出席状況により若干変更します。

#### 受講者への要望

講義中には発言を求めますので、積極的に議論に参加して下さい。分からないことは、どんなことでも恥ずかしながら、どんどん聞いて下さい。特別な勉強や予習・復習等はありませんが、医療・福祉に係る新聞・雑誌記事やテレビ番組は興味を持って接してください。

#### 前期授業計画

##### 1. オリエンテーション

高齢化社会の要因（なぜわが国は高齢化が進んでいるのか、高齢化が進む要因とはなにか）

##### 2. 将来人口推計のゆがみ

（政府の発表する将来人口推計とは何か、どうやって人口推計を行うのか、将来人口推計がなぜ当たらないのか）

##### 3. 将来の人口構成と世代間の不公平感

（合計特殊出生率の人口置換水準と安定人口構造、後期高齢者比率の収束値）

##### 4. 変貌する社会・家族

（核家族化、子どもと同居しない高齢者の増加、女性の社会進出の状況と影響、「新しい高齢者像」）

##### 5. わが国の医療・福祉の水準

（わが国の医療・福祉の水準は先進諸国の中でのどの程度の水準にあるのか、どの分野で劣っているのか）

##### 6. わが国の医療費の現状

（上昇し続ける国民医療費の水準、医療費上昇の原因、地域差）

##### 7. Physician induced theory と医療費の適正化

（病床数と医療費、平均在院日数、薬剤費と医療費の適正化、保健医療計画）

8. 医療ニーズの特徴  
(需要の価格弾力性、不確実性、保健の必要性)
  9. 逆選択と社会保健の必要性  
(被保険者の逆選択による保険者の逆選択による非、モラルハザード)
  10. 不完全情報と政府の関与  
(不完全情報と市場の失敗、政府の関与、資格制度 accreditation、事後的チェック(監査・裁判)、診療報酬制度)
  11. 社会保険と税  
(先進諸国及びわが国の保険料・税の状況、社会保険料と税の性格の相違、社会保険料のメリット・デメリット)
  12. 医療保険制度と高齢者医療制度  
(わが国の医療保険制度の概要、保険料と自己負担、老人保険制度)
- 後期授業計画
1. オリエンテーション  
福祉の新しい考え方  
(「施し」から権利としての福祉、社会福祉基礎構造改革)
  2. 福祉の潮流 消費者概念の導入  
(ノーマライゼーション、アドボカシーとエンパワーメント、住民参加とコミュニティオーガニゼーション)
  3. 福祉の潮流 競争・市場原理の導入  
(管理市場とは、既存のサービス機関、規制緩和と多様なサービス機関への門戸開放、第三者評価、苦情処理の強化、オンブスマン制度)
  4. 精神障害者の医療・福祉 精神障害の理解  
(精神障害の種類・頻度と必要な援助)
  5. 精神障害者の医療・福祉 精神障害の医療  
(入院・通院、服薬治療、生活療法、再発の危険性)
  6. 精神障害者の医療・福祉 精神障害の福祉  
(障害年金・生活保護、社会復帰施設、雇用)
  7. 介護保険制度 概況  
(高齢者の介護とは、高齢者の介護を社会化する必要性、障害者の介護と一体化しなかった理由、保険と税の選択、負担者)
  8. 介護保険制度 サービス内容  
(必要な予算の想定、財源構成、被保険者の区分、保険者の保険料の決め方と集め方)
  9. 介護保険制度 保険料と介護報酬  
(必要な予算の想定法、財源構成、被保険者の区分、保険者の保険料の決め方と集め方、介護報酬)
  10. 介護保険制度 要介護認定とケアプラン  
(サービス利用の手続きと流れ、要介護認定及びケアプランの内容)
  11. 介護保険制度 課題  
(要介護認定の正確性、営利法人の参入と「市場原理」、ヘルパーの諸問題(家事援助と身体介助、医療行為))
  12. まとめ  
(医療と福祉の今後、課題)

01 科目名	スポーツ・健康論 a・b
98 科目名	スポーツ・健康論
97 科目名	体育理論（半期）
担当者	和田 智

#### 講義の目標

健康・生涯スポーツの創造に向けて、自己のライフステージや心身の状態に適した運動・スポーツを生活の中に取り入れ、健康で豊かなライフスタイルを形成できる能力を身に付けるため、健康・生涯スポーツの考え方・実践の仕方を学ぶ。

#### 講義概要

前期には、我々を取り巻く、スポーツ、自由時間、健康などの現状を把握し、プレー・レジャー論についての文化的視点から、その考え方・価値について話し合う。後期では、健康づくりのための運動・スポーツを科学的視点で話し合う。

受講生人数によって、授業形態を変える場合がある。

#### テキスト

必要に応じプリントを配布する。

#### 参考文献

中野孝次、「清貧の思想」、草思社

松田義幸、「人生 80 年時代のライフスタイル」、日経マーケティング

ミヒヤエル・エンデ（大島かおり訳）、「モモ」、岩波書店

#### 評価方法

前期：出席状況（40％）、テストの結果（40％）プレゼンテーション（20％）で評価する。

後期：出席状況（40％）、テストの結果（40％）プレゼンテーション（20％）で評価する。

#### 受講者への要望

いくつかのグループに分け、それぞれのグループでのプレゼンテーションをしてもらう。

学生による工夫に富んだプレゼンテーションを期待する。

#### 前期授業計画

1. オリエンテーション
2. あなたの自由時間の現状
3. レジャーとレクリエーション
4. 古典的解釈から知るレジャー
5. 人生 80 年時代のレジャー

- プレゼンテーション準備のための話し合い
6. あなたレジャーライフデザイン  
プレゼンテーション準備のための話し合い
  7. シンプルライフとレジャー  
プレゼンテーション準備のための話し合い
  8. 自由時間に関わるトピック 1  
プレゼンテーション準備のための話し合い
  9. 自由時間に関わるトピック 2  
学生プレゼンテーション
  10. 自由時間に関わるトピック 3  
学生プレゼンテーション
  11. 学生プレゼンテーション
  12. 学生プレゼンテーション  
まとめ

#### 後期授業計画

1. 身体計測、体力測定についてのガイダンス
2. 身体計測、体力測定
3. 身体計測、体力測定の解説
4. 運動しないとどうなってしまうのか
5. 肥満について  
プレゼンテーション話し合い
6. 運動と栄養について  
プレゼンテーション話し合い
7. エアロビクスとはなにか  
プレゼンテーション話し合い
8. 筋力アップの方法  
プレゼンテーション話し合い
9. 環境と健康について  
学生プレゼンテーション
10. 健康に関わるうわさについて  
学生プレゼンテーション
11. 学生プレゼンテーション
12. まとめ



01 科目名	基礎演習(半期)
98 科目名	
97 科目名	
担当者	各担当教員

この科目は、すべての1年生が1年次の前学期・後学期のどちらかで履修できる半期完結2単位の科目です。15名程度の少人数演習で次のようなアカデミック・スキルを身につけ、2年次以降の専門演習(ゼミナール)や専門講義への準備をします。

文献講読, 資料調査, 研究計画の作成  
 フィールドワーク, 工場見学  
 ディスカッション  
 ノートの取り方, レジユメの書き方, レポートの作成, プレゼンテーション  
 その他

複数の基礎演習の選択, あるいは前期と後期の重複履修は原則として認められておりません。

下表の担当者の今年度専門演習(3年生)のテーマや主要担当科目などを参考に, 希望する基礎演習と前後期の区分を選択し, 所定の方法に従って履修登録を行ってください。(開設学期に注意し3次希望まで選択してください。開設学期が異なれば別の選択とします。)

#### 2001年度経済学部基礎演習担当者一覧

今年度専門演習(3年生)テーマ

主要担当科目

#### 経済学科

阿部 正浩(前期・後期)

経済学応用 理論と実証

経済政策 マクロ経済学

伊藤 爲一郎(前期・後期)

公共サービスに関する研究

公共経済学 地方財政史

犬井 正(前期・後期)

経済地理

経済地理学 地理学

岡田 博(前期・後期)

交通経済問題研究

交通経済論

小林 進(前期・後期)

理論及び応用経済学

ミクロ経済学 経済学

斉藤 美彦(前期・後期)

金融経済論

金融経済論 金融システム論

鈴木 勇(前期・後期)

経済学史の研究

経済学史

千代浦昌道(前期・後期)

経済開発と国際協力

経済開発論 アフリカ経済論

全 載旭(前期・後期)

東アジア・中国経済論

東アジア・中国経済論

波形 昭一(前期・後期)

『日経』を読んで日本経済に強くなろう

日本経済論

浜本 光紹(前期・後期)

環境政策研究

環境経済学 経済学

藤山 英樹(前期・後期)

数理モデル分析

計量経済学 ミクロ経済学

本田 浩邦(前期・後期)

経済的不平等の構造 日米比較

アメリカ経済論

益山 光央(前期・後期)

国際経済研究

国際経済論 経済学

松本 正信(前期・後期)

現代経済研究

経済変動論 経済統計論 経済学

御園生 眞(前期・後期)

近代・現代ヨーロッパの社会経済史

西洋経済史 歴史学(西洋史)

山越 徳(前期・後期)

変わる経済構造

産業構造論 労働経済論

山本 美樹子(前期のみ)

国際マクロ経済学

国際金融論 マクロ経済学

#### 経営学科

大久保 貞義(前期のみ)

経営戦略の研究

行動科学論 マーケティング論

岡村 国和

保険の自由化と保険契約者保護

保険論

梶山 皓（前期・後期）  
マーケティングと広告  
広告論

香取 徹（前期・後期）  
キャッシュフローと管理会計  
管理会計論 上級簿記（工業） 簿記原理

日下 泰夫（前期・後期）  
経営と意思決定管理工学  
経営学 コンピュータ入門

黒川 文子（後期のみ）  
経営管理論  
経営管理論 経営学

小林 哲也（前期のみ）  
現代世界経済と多国籍企業  
経営学 国際経営論

高松 和幸（前期・後期）  
経営組織の研究（NPO研究）  
経営学 経営組織論

高柳 敏子（後期のみ）  
オブジェクト指向コンピューティング  
データベース論 プログラミング論

立田 ルミ（前期・後期）  
インターネットと教育システム情報  
マルチメディア論 プログラミング論 コンピュータ入門

富田 幸弘（後期のみ）  
ビジネス・ゲームの研究  
コンピュータシミュレーション論 統計学

中村 泰将（前期・後期）  
企業会計と会計情報  
財務会計論 簿記原理

西川 純子（後期のみ）  
営利組織と非営利組織  
企業論 経営学

松井 敬（前期・後期）  
データ解析の方法  
統計学 標本調査論

湯田 雅夫（前期のみ）  
環境会計の研究  
社会会計論 簿記原理 会計学原理

米山 昌幸（前期のみ）  
国際経済理論と諸問題の研究  
貿易論 経済学

和田智（前期のみ）  
スポーツ健康論 体育実技（インラインスケート・アウトドアレクリエーション・エクササイズ・フリスビー）

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	阿部正浩

#### 講義の目標

この講義は、新聞・雑誌やインターネットで流通している英文経済記事の内容を把握する力を養うことを目的としています。

#### 講義概要

興味深い英文経済記事を配布し、順番に受講者がその内容を報告する形で講義をすすめる。これとは別に、現在の経済社会で何が起きているかを知るために、授業の最初に英文雑誌記事の見出しを訳していきます。

#### テキスト

なし

#### 参考文献

なし

#### 評価方法

授業への出席

期末テスト

#### 受講者への要望

授業の予習をして、毎回出席してください。

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	伊藤 爲一郎

#### 講義の目標

経済ニュースや学術論文を読み、読解力・専門用語の理解等を深めることを目標とします。

#### 講義概要

教材に沿って内容を深く理解できるように解説します。教材の一部を受講者が論読する形で進めます。

#### テキスト

開講時にプリントを配布します。

#### 評価方法

前期：平常点と期末試験の成績を加味して評価します。

後期：前期と同じ。

#### 受講者への要望

予習をしておいてください。授業には辞書を持参してください。

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	岡村国和

#### 講義の目標

本講義の目的は、将来履修する専門科目や外国語文献を用いて研究する学生諸君のためにその方法を準備することにあります。内容の理解とその検討が主目的であって、翻訳が主目的ではありません。さしあたり経済的福祉に関する概説書を用いて、それらを輪読します。そして輪読後に討論を行い、さらに関連事項を各自調べて報告するというステップを繰り返し行うことを予定しています。資料は主としてインターネット上から取得できるものを指示します。資料の解説・分析を自力で行うには日本語による最低限の専門用語の知識が要求されることを理解して下さい。これも本講義の目標の一部担っています。

#### 講義概要

まず福祉をめぐる一般の用語を理解し、福祉の特徴を知る上で必要な知識の習得を目指します。特に自由、平等、公平の問題を取り扱います。何故に自由や平等とそれらを強制・抑制してまで「社会的に不遇な人々に手厚い保障をしなければならぬか」について、それを正当化する枠組みを検討します。福祉の真の姿を理解するには多面的な考察が必要ですが、本講義では主として基本的な分析用具を紹介し、将来の学習に備える工夫ができるようになることに配慮します。なお、希望により実践的な表現を修得するためのCDを聞きながら表現力を養えるような時間を設けることもあります。

#### テキスト

さしあたり当方で経済福祉などに関する文献や最近のトピックなどをインターネット上から入手して配布します。

#### 参考文献

必要に応じて紹介します。特に邦語の文献は必ず見るようにして下さい。

#### 評価方法

前期：出席を重視し、輪読時の自主発表で評価します。

後期：出席を重視し、輪読時の自主発表で評価し

ます。

#### 受講者への要望

出席を重視します。輪読書の予習と年数回程度自主報告によって成績を評価しますので、積極的な参加者を歓迎します。また、図書館などで邦文の参考書なども検討する必要があります。(ただしテキストやトピックは翻訳のないものを使用します。)

#### 前期授業計画

1. 講義の進め方などの確認と数回分のテキストまたはトピックの配付。特に最初の要約部分と全体の構造について講義します
2. テキストまたはトピックの輪読と検討。
3. テキストまたはトピックの輪読と検討。
4. テキストまたはトピックの輪読と検討。
5. テキストまたはトピックの輪読と検討。
6. テキストまたはトピックの輪読と検討。
7. テキストまたはトピックの輪読と検討。
8. テキストまたはトピックの輪読と検討。
9. テキストまたはトピックの輪読と検討。
10. テキストまたはトピックの輪読と検討。
11. テキストまたはトピックの輪読と検討。
12. 前期のまとめ。

#### 後期授業計画

1. 後期の学習計画と講義の進め方について。
2. テキストまたはトピックの輪読と検討。
3. テキストまたはトピックの輪読と検討。
4. テキストまたはトピックの輪読と検討。
5. テキストまたはトピックの輪読と検討。
6. テキストまたはトピックの輪読と検討。
7. テキストまたはトピックの輪読と検討。
8. テキストまたはトピックの輪読と検討。
9. テキストまたはトピックの輪読と検討。
10. テキストまたはトピックの輪読と検討。
11. テキストまたはトピックの輪読と検討。
12. 後期の総まとめ

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	小川 剛

#### 講義の目標

社会科学にかんする基本的な思想を体系的に示してくれる文献を読むことによって、社会科学にかんする基礎的知識ならび基本的な考え方を、正確に学ぶ。

#### 講義概要

イギリスにおいて、外交官生活を経て、国際政治学者として、多くの著作をもつ E. H. カーの晩年の著作を丹念に読みほぐすことによって産業革命、フランス革命によって招来された「近代市民社会」そして、第二次世界大戦を経て、「新しい社会」が模索されている状況を知る。21世紀を迎えるにあたって新しい方向性を得るのに適切な内容である。

#### テキスト

E. H. Carr "The New Society" Macmilan, 1956  
(テキストは授業の際、コピー配布)

#### 参考文献

適宜、紹介する。

辞典としては、『リーダーズ英和辞典』程度のものを使用することが望ましい。

#### 評価方法

出席点、定期試験による。

#### 受講者への要望

少し難解な著作であるが論理は明解。“勉強した”という感を懐かせる。自分自身のためにも、欠席しないこと。

#### 年間授業計画

本書は、以下の内容から成っている。

- . The Historical Approach
- . From Competition to Planned Economy
- . From Economic Whip to Welfare State
- . From Individualism to Mass Democracy
- . The World Transformed
- . The Road to Freedom

本年度は、. を中心に、理念としてのデモクラシーから大衆デモクラシーの問題について、政治思想、文化論の問題を中心に検討していく。各校時の進度は授業の性格からいって、事前に示しがたい。

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	梶 山 皓

#### 講義の目標

マーケティングと広告に関する基礎的な理論を英語で学びます。

#### 講義概要

マーケティングの基礎的な理論、すなわちマーケティング計画の立案、製品開発と管理、流通システム、プロモーション政策、製品の価格設定、特定分野のマーケティング等を学びます。他に広告理論を概観します。授業は学生が英文を訳出し、教員が内容を解説する形式で進めます。

#### テキスト

James E. Finch: The Essentials of Marketing Principles, Research and Education Association, 1992.

#### 参考文献

P. コトラー、ゲイリー・アームストロング著、恩蔵直人監修『コトラーのマーケティング入門・第4版』、ピアソン・エデュケーション、1999。

#### 評価方法

前期：「発表」「定期試験」「出席状況」を総合的に判断して評価を行います。

後期：「発表」「定期試験」「出席状況」を総合的に判断して評価を行います。

#### 受講者への要望

授業には辞書を必ず持参してください。なお、欠席が半期で4回以上の方は、原則として評価を不可とします。

#### 前期授業計画

1. 授業の概容
2. マーケティングとは
3. マーケティング情報システム
4. 市場分析
5. マーケティング・セグメンテーション
6. 消費者行動
7. ビジネス・マーケティング
8. 製品開発
9. 製品ミクス
10. 流通システム

11. 物的流通

12. 卸売業

#### 後期授業計画

1. 小売業

2. プロモーション戦略

3. 広告

4. PR (パブリック・リレーションズ)

5. 人的セールス

6. セールス・プロモーション

7. 価格決定

8. 価格政策

9. マーケティング評価

10. 国際マーケティング

11. 非営利機関のマーケティング

12. ダイレクト・マーケティング

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	黒川文子

- 4 . Strategic and operations management
- 5 . The Chandlerian perspective
- 6 . Management as a problem-solving cycle
- 7 . Manager archetypes
- 8 . General manager as the man of the moment
- 9 . The firm of the future
- 10 . The work of general managers
- 11 . Developing expertise in using experts
- 12 . Toward multiple general managers

#### 講義の目標

本講義では、経営学の入門から専門書、論文までの読解できる能力を身につけることが目標である。

この分野の読解は、単なる表面的な語句上の意味を学ぶのではなく、その語の背景となっている経営状況を理解しなければ、正しい読解は不可能である。

#### 講義概要

経営に関する基本的文献をまず輪読し、ある程度、経営学用語を用いた英文に慣れた後に、論文を配布して、講義を進める。

#### テキスト

Igor Ansoff, "Implanting Strategic Management"  
2<sup>nd</sup> ed. Prentice Hall, 1990.

#### 参考文献

野田信夫編『経営英和辞典』ダイヤモンド社。

#### 評価方法

平常点、および前期、後期の定期試験を総合的に判断して評価する。

#### 受講者への要望

予習・復習をすることが望ましいが、予習だけは必ず行ってから、授業に出席のこと。

#### 前期授業計画

- 1 . The mass production era
- 2 . The mass marketing era
- 3 . The postindustrial era
- 4 . Acceleration of change
- 5 . Evolution of management systems
- 6 . Long range planning and strategic planning
- 7 . Strategic posture management
- 8 . Strategic issue management
- 9 . Weak signals and graduated response
- 10 . Strategic surprise management
- 11 . Choosing the management system for firm
- 12 . Managing complexity

#### 後期授業計画

- 1 . Two styles of organizational behavior
- 2 . Entrepreneurial behavior
- 3 . Differences in organizational profiles



01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	小林 進

#### 講義の目標

理論経済学を中心に、できるだけ大量の英文の読破を目指したい。経済学の重要性は近年非常に高まってきており、その学習においては翻訳書に頼るだけでは不十分で、原書で読むことの必要性が増している。受講者は、途中で脱落することなく毎週必ず出席し、経済学の用語に早くなれて研鑽(ケンサン)を積んでほしい。昔の賢人いわく「努力しない者が成功することは、ラクダが針の穴を通るよりも難しい」

#### 講義概要

米国の標準的な経済学テキストの購読

#### テキスト

未定

#### 参考文献

未定

#### 評価方法

平常の出欠と受講態度を重視し、さらに前期と後期の二回の試験を加味して評価する。

#### 受講者への要望

英語 が履修済みであること

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	小林 哲也

#### 講義の目標

経済関係のニュースを、自分で収集し分析するための、基礎的な英語読解力の涵養。

#### 講義概要

日本で報道されるニュースの中には、国内と海外とで非常に大きな視点の差異があるものが多い。例えば、1999年に盛んであった国内銀行の提携や合併は、海外ではほとんど新味のあるものとしては、報道されなかった。企業の競争力や株主の利益に影響を及ぼさない、単なる延命策としか、評価されなかったためである。日本の新聞社の質を鑑みると、事態の正確な把握には、「視点」の異なるニュースソースを、自力で確保することが、さらに必要となる。

本講義では Business Week などの英字新聞や雑誌を中心に、時事的な話題の読解を通じて、現代人に必要な英語力の向上をめざす。

#### テキスト

Business Week 各号。その他の教材は、適宜教室で配布する。

#### 参考文献

マーク・ピーターセン 『日本人の英語』 岩波書店  
西村肇 『サバイバル英語の勧め』 ちくま新書

#### 評価方法

出席などの平常点および前期/後期定期試験成績による。

#### 受講者への要望

10万語レベルの英和辞典、例えば小学館『プログレッシブ英和中辞典』など、を必ず毎回持参すること。

#### 年間授業計画

1. ニュースにおける、「英語」と「日本語」
2. サバイバル英語とは
3. News in the world bussiness
4. News in the world bussiness
5. News in the world bussiness
6. News in the world bussiness
7. News in the world bussiness
8. News in the world bussiness

9. News in the world bussiness
10. Economic analysis on the U.S. economy
11. Economic analysis on the U.S. economy
12. Economic analysis on the U.S. economy
13. Economic analysis on the U.S. economy
14. Financial issues
15. Financial issues
16. Financial issues
17. Financial issues
18. Financial issues
19. Science and Technology
20. Science and Technology
21. The corporations of the world
22. The corporations of the world
23. The corporations of the world
24. The corporations of the world

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	斉藤美彦

#### 講義の目標

専門書の読解のために必要な基本的な英語力を身につける。

経済学部の学生としての常識を身につける。

#### 講義概要

本年度は物価変動についての英文テキストを輪読します。報告者にはレジュメを作成してもらい、それに基づき参加者に議論をしてもらいます。必要に応じて講義・解説を行う予定です。

#### テキスト

Boote, Roger [ 1996 ] The Death of Inflation, Nicholas Brealey Publishing.

#### 評価方法

定期試験および出席・報告等を総合的に勘案して成績評価を行う。

#### 受講者への要望

基本的に毎回出席すること。あらかじめテキストを読み、議論には活発に参加すること。

#### 前期授業計画

- 1 . Introduction
- 2 . The Death of Inflation,  
7 Rise and Fall: The History of Inflation and Interest Rates  
\* From Classical Beginnings to Spanish Gold
- 3 . The Death of Inflation,  
7 Rise and Fall: The History of Inflation and Interest Rates  
\* The Evolution of Gold Standard
- 4 . The Death of Inflation,  
7 Rise and Fall: The History of Inflation and Interest Rates  
\* Long-run Price Stability
- 5 . The Death of Inflation,  
7 Rise and Fall: The History of Inflation and Interest Rates  
\* Hyperinflation
- 6 . The Death of Inflation,  
7 Rise and Fall: The History of Inflation and

Interest Rates

\* Depression and Falling Prices

7 . The Death of Inflation,

7 Rise and Fall: The History of Inflation and Interest Rates

\* Inflation After 1945

8 . The Death of Inflation,

7 Rise and Fall: The History of Inflation and Interest Rates

\* The Collapse of the International Monetary System

9 . The Death of Inflation,

7 Rise and Fall: The History of Inflation and Interest Rates

\* The Commodity and Oil Price Explosions of 1972-3

10 . The Death of Inflation,

7 Rise and Fall: The History of Inflation and Interest Rates

\* Interest Rates Ancient and Modern

11 . The Death of Inflation,

7 Rise and Fall: The History of Inflation and Interest Rates

\* The American Story

12 . The Death of Inflation,

7 Rise and Fall: The History of Inflation and Interest Rates

\* The Switch to Anti-inflation at All Costs

#### 後期授業計画

1 . The Death of Inflation,

7 Rise and Fall: The History of Inflation and Interest Rates

\* A peculiar Phase in History

2 . The Death of Inflation

8 The Need for a Rethink by Economists

\* Theory Without History

3 . The Death of Inflation

8 The Need for a Rethink by Economists

\* Money in Hyperinflation

4 . The Death of Inflation

8 The Need for a Rethink by Economists

\* Not All Monetary Expansions Are the Same

5 . The Death of Inflation

8 The Need for a Rethink by Economists

\* The Economic Battle

6 . The Death of Inflation

- 8 The Need for a Rethink by Economists
  - \* Monetarism in Practice
- 7 . The Death of Inflation
- 8 The Need for a Rethink by Economists
  - \* A Historical Perspective on Monetarism
- 8 . The Death of Inflation
- 8 The Need for a Rethink by Economists
  - \* Monetarism's Enduring Appeal
- 9 . The Death of Inflation
- 8 The Need for a Rethink by Economists
  - \* Curves and Menus
- 10 . The Death of Inflation
- 8 The Need for a Rethink by Economists
  - \* How Many Angels Can Dance on the Head of a Pin?
- 11 . The Death of Inflation
- 8 The Need for a Rethink by Economists
  - \* Explaining Twenty Years of Non-acceleration
- 12 . The Death of Inflation
- 8 The Need for a Rethink by Economists
  - \* A Different Theoretical Approach

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	仙田幸子

#### 講義の目標

英語力の基本は「読む」能力である。そこで、英語の文献を読みこなす力の養成を目的とし、1つの文献を速読と熟読という2つの方法で読む。速読ではある程度の量を一度に読み、論文の構成と重要な点を正確につかむことを心がける。熟読では逐語訳を行い内容を深く理解することを心がける。

使用するテキストは組織心理学の入門書である。組織心理学の系譜を英語で学習することができる。

#### 講義概要

あらかじめ分担を決め、担当者のレポートをもとに内容を検討する。報告の際にはレジメを用意し、それをもとに報告する。

文法規則に従って文章を理解する力をつけることを重視する。

#### テキスト

Terry A. Beehr "Basic Organizational Psychology"  
Allyn and Bacon, 1996; ISBN 0-215-14811-5

#### 評価方法

前期：担当部分についてのレジメと報告内容（70%）および授業態度（30%）を100点満点に換算し、合計で60点以上の受講者に単位を与える。

後期：担当部分についてのレジメと報告内容（70%）および授業態度（30%）を100点満点に換算し、合計で60点以上の受講者に単位を与える。

#### 受講者への要望

- 毎回必ず出席すること。
- 予習を必ずしてくること。
- 英和辞典を持ってくること。
- 担当制なので履修の変更は2週目までにすること。

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	高松和幸

#### 講義の目標

現代経営学に影響を与えた名著を読む。

英語文献を正確に読むには、英語力と専門知識の両方が必要である。前者は、すでに持っている知識を生かして精読することによって英語力をつけることを目標とする。後者は、解説や練習問題を解くことで習得を目指す。

#### 講義概要

組織を構成する諸種の体系を学習できるように配慮するとともに、前編を読まなくとも理解できるように解説を加えることにする。

#### テキスト

James G. March & Herbert A. Simon, Organizations, John Wiley & Sons.

(本書は入手困難なため、コピーを配布する。なお、他にも必要に応じて他文献のコピーも配布する。)

#### 評価方法

レポート・授業出席状況による総合評価。

#### 受講者への要望

予習・復習をすること。

#### 前期授業計画

- 1 . The literature of organization theory
- 2 . same as above
- 3 . same as above
- 4 . Some types of propositions
- 5 . same as above
- 6 . Taylor's Scientific management
- 7 . same as above
- 8 . Operational and empirical problems of classical administrative science
- 9 . same as above
- 10 . Theory of bureaucracy
- 11 . same as above
- 12 . Conclusion

#### 後期授業計画

- 1 . Motivation to produce
- 2 . The evoked set of alternative
- 3 . same as above

- 4 . Individual goals
- 5 . same as above
- 6 . The theory of organizational equilibrium
- 7 . same as above
- 8 . Employee participation : The participation criterion
- 9 . same as above
- 10 . Employee participation : The general model
- 11 . same as above
- 12 . conclusion

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	富田忠義

#### 講義の目標

経営学の原書が読めるようになること。

#### 講義概要

テキストの講読。順番で訳していきます。

テキストは経営戦略の学習の際の重要文献です。

すでに翻訳がでております。

#### テキスト

H.Igor Ansoff ( 1965 ) "Corporate Strategy"

#### 評価方法

期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価します。

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	中村泰将

#### 講義の目標

1. 英文の意味内容を的確に理解することが第一の目標である。
2. 専門用語をできるだけ身につけることが第二の目標である。
3. 辞書は、必ず引き、アクセントおよび発音記号にも気を配ることが第三の目標である。

#### 講義概要

私の専門は会計学であるが、必ずしも会計領域に限定しない。

本講義では、アメリカのビック・ビジネスの代表的な企業を選び、その経営戦略および成功への道のりを英文で講読することによって、アメリカの企業文化・経済について広く学ぶことを目的とする。

ファーストフードのマクドナルド、自動車のフォード、ドリンクのコカ・コーラ、航空機のボーイングを代表するアメリカのトップ企業の歴史と発展を、フルカラー写真、イラストを見ながら読み進められるテキストを用いる。

本書の特色は、Business Matters という項目があり、マーケティング、市場調査、多国籍企業、財務、会計、多角化、労働問題、経営管理などの経営全般にわたる基本問題も英文を通じて易しく学べることです。

#### テキスト

BUSINESS IN ACTION (アメリカのビック・ビジネスのすべて)

William Gould 他 SEIBIDO

#### 評価方法

テスト、出席状況、授業中の発表、レポートの総合点で評価する。

#### 受講者への要望

辞書は、必ず毎回持参すること。

授業の進め方：授業では、全員があらかじめ予習してきて、だれがあてられても良いように準備しておくことが要求されます。

#### 前期授業計画

1. The adventure of business

2. "
3. "
4. "
5. McDONALD'S (マクドナルド社)(pp. 9 - 30)
6. "
7. "
8. "
9. FORD (フォード社)(pp. 31 - 57)
10. "
11. "
12. "

#### 後期授業計画

1. COCA - COLA (コカ・コーラ社)(pp. 59 - 79)
2. "
3. "
4. "
5. BOEING (ボーイング社)(pp. 81 - 101)
6. "
7. "
8. "
9. その他、IBM、AT&T、Xerox 等を選びます。
10. "
11. "
12. "



01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	波形 昭一

#### 講義の目標

テキストの著者が INTRODUCTION で 'The purpose of this book is to give the reader a chance to learn some basic yet useful ideas about economics through the study of English' と述べているように、本講義の目標は、英語の読解を通じて経済学の基礎的知識および基礎的センスを習得することにある。テキストの英語レベルは、中学 3 年生クラスの英語力で十分対応できるであろう。

#### 講義概要

##### CONTENTS

1. A MATTER OF CHOICE
2. MEANING OF MICRO
3. MEANING OF MACRO
4. POLITICS & POLICY
5. AT LEAST IN THEORY
6. THE INTERNATIONAL ARENA
7. THE DEVELOPING ECONOMIES
8. CONCLUSION

#### テキスト

John Tilmant ; ECONOMICS IN OUR LIFE  
( 日常の経済 ) ・ ( 新井恵理 ・ 注解 ) 成美堂 , 1997 年

#### 評価方法

前期・後期ともに定期試験時に試験をおこない、出席状況、積極性等を加味したうえで総合評価する。

#### 受講者への要望

勉強、特に外国語関係の勉強は継続性が重要であるから、欠席病にかからないようにすること。

英和辞典を必ず持参すること。辞典なしで英語文献がよめるほど、諸君は英語に強くない。

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	西川純子

#### 講義の目標

経営学の古典に親しむことによって経営学の思想の面白さに触れてみたいと思います。

#### テキスト

Peter Drucker , *Nonprofit Organization Management*

#### 受講者への要望

必ず予習をしてくること。欠席をしないこと。

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	浜本光紹

#### 講義の目標

本講義では、環境問題、あるいは環境政策に関連する英語の文献を読んでいく。

#### 講義概要

テキストを輪読しながら、現代社会の大きな課題となっている環境問題の現状やそれに対する様々な取り組みに関して知見を深めていきたい。

#### テキスト

未定。コピーを配布する予定である。

#### 評価方法

出席状況、および前期・後期の試験によって評価する。

#### 受講者への要望

必ず予習を行ってこよう。

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	藤 山 英 樹

#### 講義の目標

ミクロ経済学の応用分析の英文文献に慣れることを目的とする。

#### 講義概要

テキストの輪読をおこなう。

#### テキスト

Carl Shapiro and Hal R. Varian "Information Rules", 1999, Harvard Business School Press (テキストの必要部分をコピーして、配布する。また、適宜他の文献もとりあげる。)

#### 参考文献

授業中に適宜紹介します。

#### 評価方法

前期：授業への積極性と試験で評価する。授業期間中に小テストを行うこともある。その時はその成績も評価に加える。

後期：前期と同じ。

#### 受講者への要望

ある概念がわからないとき、単に漠然と考えても、理解は深まりません。どうしてわからないかをわることができる、もしくは、わかるうとする姿勢を望みます。

#### 前期授業計画

一回の授業で、一つのトピックの修得と英文解釈の練習ができたと思っています。英文解釈の練習とは以下のようなものです。主語と述語だけを押さえて、おおざっぱな意味をつかむ。段落内でキーとなる文章を押さえる。文章の精読を試みる。予備知識の重要性を知る。どうしてもわからない部分は著者のせいにして気を楽しみ、その部分を想像で補う。

#### 後期授業計画

前期の授業計画と同様です。

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	益山光央

#### 講義の目標

前期は経済学、国際経済学の専門書を読みます。

後期は新聞、雑誌等から経済問題に関する記事を選び読みます。

#### 講義概要

前期は英文の専門書を正しく読む訓練となります。

後期は、テーマごとの要約となります。

#### テキスト

テキストは指定しません。講義資料は配布します。

資料によってはネットを使って配布することもあります。また、レポート提出もネットをつかいます。指定の英和辞典を毎回持参のこと。辞書は下記の辞書を指定します。

「プログレッシブ英和中辞典」、小学館

#### 参考文献

なし

#### 評価方法

毎回出席調査します。前期 6 回以上、後期 6 回以上の欠席者は定期試験の受験停止とします。

レポート 20%、質問・コメント 10%、出席 10%、年度末試験 60%

#### 受講者への要望

予習、復習をすること。講義は休まないこと。

#### 前期授業計画

- 第 1 回 消費の理論
- 第 2 回 生産の理論
- 第 3 回 完全競争
- 第 4 回 不完全競争
- 第 5 回 厚生経済学
- 第 6 回 国際貿易
- 第 7 回 国際貿易
- 第 8 回 国際収支
- 第 9 回 国際収支
- 第 10 回 国際経済問題
- 第 11 回 国際経済問題
- 第 12 回 国際経済問題

#### 後期授業計画

- 第 1 回～12 回 未定

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	御園生 眞

#### 講義の目標

経済に関する英文の読解力を養うことが目標です。

#### 講義概要

易しい英語で書かれたイギリス産業革命に関する英文を読むことから始めます。

毎回全員で分担して読み進めます。レポートを課す場合があります。

#### テキスト

Robert Unwin, "The Industrial Revolution", Hutchinson, 1980。コピーを配布します。

#### 参考文献

中型の辞書を用意し必ず授業の時に持ってきてください。ポケット判や簡単な電子辞書は役にたちません。

#### 評価方法

出席と試験（前後期各1回）の成績で評価します。  
なお、5回以上欠席した場合は単位が認定されませんので注意してください。

#### 受講者への要望

必ず予習をして出席してください。最初の授業でテキスト（コピー）を配布しますので欠席しないでください。予定が変更になる場合があります。

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	百瀬 房徳

EC Council Directives  
The Proposals for Future Harmonisations  
Commission's Proposals for a Single Market  
The 1987 Proposals of The Commission  
Removal of Fiscal Barriers  
The Clearing System  
The Approximation of VAT Rates  
Services

#### 講義の目標

講義の目標ヨーロッパ経済共同体が 1993 年より形成され、現在では欧州連合になろうとしています。この形成のために種々の制度が統一されてきました。そのうちの付加価値税を通じて統一過程を眺めてみようと思う。

#### 講義概要

付加価値税は導入以来ほぼ 100 年になろうとしている。ヨーロッパ経済共同体の財源となって以来、非常に大きな役割を果たすようになってきた。付加価値税の歴史、付加価値税の基礎概念、計算方法、付加価値税を全加盟国に導入するための障壁の除去等について文献を通じて理解する。

#### テキスト

Ernst & Young ; VAT in Europe

#### 参考文献

無し

#### 評価方法

前期：テスト

後期：テスト

#### 受講者への要望

講義のあった日に必ず復習すること。

#### 前期授業計画

下記の項目にしたがって授業をすすめる；

The European Economic Community

The Aims of the European Community

The White Paper

The Community's Institutions

The European parliament

The Council of Ministers

The Court of Justice

The Financial Means of The Community

The Value Added Tax

VAT in The Community

#### 後期授業計画

下記の項目にしたがって授業をすすめる；

Harmonisation of VAT in The European Community

General

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	森 健

#### 講義の目標

比較的平易な英文経済記事を辞書なしで読み、知っている語句を手掛かりに、自分の持っている知識を総動員して大意を掴む（推測する）ことができるように訓練することが目的である。英文を読んでいることを忘れる程集中することによって英文に対する抵抗感も薄れる。知識がある課題ならば推測も楽になる。日頃から新聞、経済誌、TVなどで経済問題に触れていることを期待する。

#### 講義概要

上記の目標に沿った英文を配布するので、各自、先ず、辞書なしで文の趣旨の推測に努める。次に、自分の推測を交えてその概要を発表し、相互に意見を述べ合う。最後に辞書を用いて、徹底的に読み直す。さらに記事と関連する問題について教員が解説する。

#### テキスト

プリントを配布する。

#### 評価方法

前期：普段点と定期試験の結果を参考にして総合的に評価する。

後期：普段点と定期試験の結果を参考にして総合的に評価する。

#### 受講者への要望

予習は必要ないが、復習を怠らないようにする。「推測力」を高めるために新聞、経済誌など「見出し」だけでも読んでおくこと。



01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	山 越 徳

#### 講義の目標

英文の文献を通して経済、社会および経済学の知識や理解を深めるとともに専門用語に触れ、これを身近なものにする。とくに最近の状況をより理解するため、国際化、経済統合、国際労働力移動あるいはプロスポーツの経済や時間・空間の経済学などの文献を扱っていくことにする。

#### 講義概要

数多くの事柄や言葉に触れること、1つ1つを読み終えることの条件を充たすために、4~5 篇のペーパーを共に読んで、議論し、理解していくことを目指す。

また関連事項について調べてくるよう指示することがある。

#### テキスト

ペーパーのコピーしたものを配布する。

#### 参考文献

授業中辞書は必ず持参すること。

#### 評価方法

前期テストに代わるレポート（夏休み中に与えられたペーパーについてのもの）と、後期テストの結果による。

#### 受講者への要望

ペーパーのテーマに関連した文献（日本語文献や訳本でもかまわない）を数多く読み、知識や言葉をより多く蓄えること。

#### 年間授業計画

1. ペーパーの分量にもよるが、できれば1つのペーパーを4~5週で読み終える予定で進めたい。

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	山本 美樹子

#### 講義の目標

日ごろ経済に関連したさまざまな新聞記事を英語で読めるようにする。

#### 講義概要

この経済外国書講読を初歩，3年次に選択する外国書講読を応用編と考えてもらいたい。この講義では経済に関連する英字新聞のうち基礎的なテクニカルタームを多く含み日本経済に関わる記事を取り上げて読んでいきたいと考えている。

#### テキスト

特に定めない。使用文献は毎回配布する。

#### 評価方法

授業時間中の予習具合と学期末試験

#### 受講者への要望

演習形式の授業なので出席を必ずとる。また，演習形式とは学生が積極的に参加（具体的には予習）をすることにより，初めて学生にも有益なものとなるので，予習を必ずしてくること。

#### 年間授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2～11 週 英字記事を読む
- 12 週 前期テスト
- 13～22 週 英字記事を読む
- 23 週 講義のまとめ
- 24 週 後期のテスト

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語
97 科目名	外国書研究
担当者	湯田雅夫

- 8. プリントの輪読
- 9. プリントの輪読
- 10. プリントの輪読
- 11. プリントの輪読
- 12. プリントの輪読

#### 講義の目標

環境マネジメントの内容の把握と理解につとめる。

#### 講義概要

環境マネジメントに関するテキストを採用して、各自の予習を前提に、輪読形式で進める。

#### テキスト

未定

#### 参考文献

その都度指示する

#### 評価方法

前期：担当個所の訳と授業への貢献度による評価

担当個所の訳を受講生全員に配布すること

後期：担当個所の訳と授業への貢献度を勘案し、後

期試験期間中に行う後期試験によって評価

担当個所の訳を受講生全員に配布すること

#### 受講者への要望

私語厳禁。予習復習を必ずしてくること。

#### 前期授業計画

1. オリエンテーション
2. プリントの輪読
3. プリントの輪読
4. プリントの輪読
5. プリントの輪読
6. プリントの輪読
7. プリントの輪読
8. プリントの輪読
9. プリントの輪読
10. プリントの輪読
11. プリントの輪読
12. プリントの輪読

#### 後期授業計画

1. 後期オリエンテーション
2. プリントの輪読
3. プリントの輪読
4. プリントの輪読
5. プリントの輪読
6. プリントの輪読
7. プリントの輪読

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語（ドイツ語）
97 科目名	外国書研究（ドイツ語）
担当者	大島通義

#### 講義の目標

ドイツの経済についての理解を深めることを目的とするが、そのためには、ドイツ語を正確に読めることが不可欠であり、また、経済についてのドイツ語特有の表現にもなれることが求められる。そのような趣旨の講読をおこないたい。

#### 講義概要

ドイツの政治経済にかんする基本的な文献について講読をおこなう。テキストとしては、この趣旨にかなう種々の書物や論文、文書などからの抜粋を配布し、使用する。どのようなテキストを選ぶかについては、講義の最初の回に説明するが、たとえば、ドイツ語で書かれた経済学の古典の一部、主な政党の綱領や政見における経済政策にかんする記述、現代ドイツの経済制度や実態にかんする新聞記事、等々を取り上げる予定である。

#### テキスト

開講後、教室にて順次配布する。

#### 参考文献

必要に応じて、随時配布する。

#### 評価方法

配布したテキストについて毎回和訳を作成して提出すること。教室では、各自これにもとづいて報告をおこなうこととする。提出の件数とその出来具合で成績を評価する。

#### 受講者への要望

ドイツ語の文法の基本を理解していること。

#### 年間授業計画

開講時に配布する。

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語（フランス語）
97 科目名	外国書研究（フランス語）
担当者	千代浦 昌 道

#### 講義の目標

比較的やさしいフランス語の経済関連文献の講読を通じて、フランス・ヨーロッパ等を中心とする世界経済の現状を理解すること。

#### 講義概要

前期には、フランス経済の現状に関するフランスの高校テキストを購読する。後期には、新聞、雑誌等に掲載されたやさしい経済関連記事を講読する。授業内容の難易度は、受講者のフランス語修得レベルに合わせて調整する予定。

#### テキスト

コピーを随時配布する。

#### 参考文献

- 松本 正 『実務に役立つ経済フランス語』（第三書房、1971）  
 松本 正 『時事経済フランス語』（第三書房、1973）  
 小林 茂 『新聞のフランス語』（白水社、1984）

#### 評価方法

前期、後期の終わりの課題についてのレポート（仏文和訳）によって評価する。出欠は成績評価の参考資料とする。

#### 受講者への要望

新聞、雑誌の政治・経済記事を読む習慣をつけること。

#### 年間授業計画

##### 第1回

（1）授業の進め方、テキスト・参考文献、成績評価方法などについての説明

（2）最近のフランスの政治経済情勢の基礎知識

第2回以降は、随時に配布するフランス語テキストを使用して授業を行う。

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語（中国語）
97 科目名	外国書研究（中国語）
担当者	全 載 旭

#### 講義の目標

この授業では中国語の初級段階を終え、さらに中国語の学習を継続しようとする学生、特に中国経済に関心のある学生を対象にする。中国経済が抱えているいろいろな問題を、原典から理解できるように授業を進めていきたい。

#### 講義概要

テキストに沿って授業を進める。基本的には受講者の輪読で授業を進めるが、必要に応じて講義もする。事前に報告者を決め、報告してもらうことにする。履修者の状況によっては、扱う素材を変更する可能性もある。

#### テキスト

佐々木信彰編『原典で読む現代中国経済』東方書店

#### 参考文献

授業のなかで、適宜紹介する。学生の水準に合わせて決める。

#### 評価方法

前期及び後期の筆記試験と報告によって成績評価を行う。

#### 受講者への要望

中国語を履修した学生を対象にする。受講者は必ず予習をしてほしい。初回の授業に必ず出席すること。

#### 前期授業計画

1. 四つの現代化
2. 中国共産党第 11 期 3 中全会公報(1)
3. 中国共産党第 11 期 3 中全会公報(2)
4. 建国以来の党の若干の歴史的な問題についての決議(1)
5. 建国以来の党の若干の歴史的な問題についての決議(2)
6. 当面の農村経済政策に関する諸問題(1)
7. 当面の農村経済政策に関する諸問題(2)
8. 経済体制改革に関する決議(1)
9. 経済体制改革に関する決議(2)
10. 深圳特区的発展戦略目標
11. 経済特区の若干の問題に関して討議する

#### 12. 中国の企業破産法

#### 後期授業計画

1. 社会主義初級段階論(1)
2. 社会主義初級段階論(2)
3. 正しい長期発展戦略の選択(1)
4. 正しい長期発展戦略の選択(2)
5. 沿海地区の経済発展戦略
6. 沿海地区の経済発展の加速化及び経済の安定
7. 90 年代における改革と建設の主要任務(1)
8. 90 年代における改革と建設の主要任務(2)
9. 中国の人民所有制工業企業法(1)
10. 中国の人民所有制工業企業法(2)
11. 中国の私営企業暫定条例
12. 鄧小平「南巡講和」

01 科目名	
98 科目名	経済・経営外国語（留学生用） Aクラス・Bクラス
97 科目名	外国書研究（留学生用） Aクラス・Bクラス
担当者	本田 浩 邦

#### 講義の目標

外国人学生用の経済英語の授業。文法・ボキャブ  
ラリー・会話表現の基本的な内容を修得するための  
科目です。

事前にクラス分けのテストを行いますが（新 3 年  
生はすでに終了）学年に関わらず、基本的に母国で  
あまり英語を学習していない人はAクラスを、中学  
高校と 6 年以上学習した人はBクラスをそれぞれ履  
修登録してください。

#### 講義概要

第 1 回目の授業で、出席者の要望にもとづいて内  
容を決めます。

授業の形式は、文法 30 分、読解 30 分、会  
話表現 30 分です。内容は、生活英語と経済英語をと  
りまぜて行います。

#### テキスト

英語辞書を必ずご持参ください。毎回プリントを  
配布します。

#### 評価方法

前期：出席および前期定期試験

後期：出席および後期定期試験

#### 受講者への要望

好むと好まざるとに関わらず、英語能力はこれか  
らのみなさんの進路にとって不可欠ですので、がん  
ばって履修してください。

01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	青木雅明

#### 講義の目標

経済学の基本的な英文が読めるようになる。

#### 講義概要

下記のテキストについて、音読してもらう、  
専門用語および基本となる事実と理論を解説する、  
日本語訳を書いて提出してもらう、提出された  
訳文をときどき講評する、という翻訳教室です。

#### テキスト

Stiglitz, J. E. (1997), *Trade Policy, Chapter 38*  
*in Economics / Joseph Stiglitz, 2nd Edition*, W.  
W. Norton. 毎回 1~2 ページのコピーを配布します。

#### 参考文献

中型英和辞典（毎回持参して下さい）

#### 評価方法

前後期とも、毎回提出される翻訳文の成果、出席  
及び遅刻の状況によります。欠席 8 回超で単位権喪  
失（遅刻または早退 3 回 = 欠席 1 回）。欠席 1 回はほ  
ぼ 5 点減に相当します。

#### 受講者への要望

授業中における私語、やむを得ない場合以外の教  
室への出入りは禁止します。

#### 年間授業計画

毎回 1 ページの進度を予定します。



01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	井出 健二郎

#### 講義の目標

最近、アマゾン、シティバンクなど外資系の企業が日本に参入しています。そうした企業から情報を得るには、自然と英語力が必要とされるでしょう。

また、テレビや新聞などでは IT をはじめとしてカタカナ（原語）で綴られている経済・経営に関するコトバがあふれています。それらのコトバはどのような意味をもつかをしっかりと理解しておくことが必要となるはずです。

英書を読むことを通じて、そうしたコトバにふれること、意味を理解すること、そして必要なときには使えるようになることを目標にしていきます。その結果として、英語力が少しでもアップできれば...皆さんのニーズとこちらの想いが一致するはずです。

本講義は、経営外国語・経済外国語のステップとして、あるいは国際的ビジネスでの不可欠な学習として、リンクしていければと思います。

#### 講義概要

経済学（Economics）、経営学（Management）、会計学（Accounting）あるいはマーケティング（Marketing）など皆さんがこれまでの大学の授業で学んだ領域があるでしょう。この分野の外国書をもとに講義していきます。ただし、初級・中級レベルのテキストを使用して、抵抗なく学べるような態勢をとります。外国書講読は講義科目ですが、皆さんにも努力していただくことが中心となるでしょう。

よって、進め方は、テキストを読むにあたって、専門用語（テクニカルターム）を訳し、覚えてもらう、それをもとに本文について担当者を決めて、（事前に・予習して）訳をつけてもらう、必要とあればこちらから補足説明をする、といったかたちをとります。

また、皆さんにとって役立つような情報（主として日本経済新聞を主とする新聞記事）などを随時とり入れていく予定です。

#### テキスト

開講時にこちらからプリントを配布します。

#### 参考文献

経済・経営・会計など専門の分野の英書を読むには、英和の経済・経営・会計に関連する辞書を用意する必要があるでしょう。これらについては開講時にそのいくつかを紹介することにします。

#### 評価方法

（前・後とも）出席を中心に評価をします。出席することは自然と訳するというチャンスがあり、最大の評価の場となるからです。また、成果としての前期試験・後期試験なども重要な評価のポイントとなります。

#### 受講者への要望

積極的に参加してください。自分で選択したのですから、出席をし、担当となった箇所については責任をもってやりとげをお願いしておきます。授業とそこに集まる皆さんとは理想としてゼミのような雰囲気で見たいと思っています。

#### 前期授業計画

1. 講義をはじめめるにあたって
- 2～11. 講義概要の 、 、 の反復
12. 前期のまとめ

#### 後期授業計画

1. 講義をはじめめるにあたって
- 2～11. 講義概要 、 、 の反復
12. 後期のまとめ

01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	岡村国和

#### 講義の目標

本講義の目標は、主として英国の社会保障分野の専門書を講読し、その内容を理解した上で討論することにあります。さしあたりテキストの輪読を行いますが、翻訳することが主要目標ではなく内容の検討が主要目標であることを十分に認識してください。区切れごとに、あるいは適宜、トピックなどを取り上げてディスカッションやディベートすることを予定しています。専門用語が多い分野なので、受講希望者は、テキストにより一層の理解を深めるために講義中に紹介する関連文献（主として日本語）を参考に予習して下さい。

#### 講義概要

本年度は1998年のイギリスのグリーン・ペーパーを用いて、英国型福祉国家の基本理念及びそれに基づく福祉政策を研究する予定です。さしあたり社会保障改革をめぐる経済・社会環境の変化を検討するため、同書の抄訳部分を時間をかけて検討します。本講義は英国の社会保障とくに年金や医療について論及されることが多いので、基本理論について別途学習する機会を設けます。なお、時間に余裕があれば日本とイギリスの社会保障の比較研究を行います。

#### テキスト

New ambitions for country; A New Contract for Welfare, Green Paper, Cm3805, 1998. ただしプリントして配布します。その他、必要に応じて関連文献を紹介します。

#### 参考文献

必要に応じて紹介する。特にこの分野は日本語の文献も多く、勉強し易いと思いますが、英国政府と国民との新しい福祉契約に関しては新しい考え方も入っていますので、図書館などで各自探してみてください。英国の基本的な社会保障制度の概要などについての参考文献は豊富です。

#### 評価方法

前期：出席を重視し、輪読時の報告と関連事項の自主研究の発表で評価します。

後期：出席を重視し、輪読時の報告と関連事項の

自主研究の発表で評価します。

#### 受講者への要望

出席を重視します。輪読書の予習と年数回程度、関連事項の自主研究を報告してもらいます。また、図書館などで邦文の参考書なども検討する必要があります。（ただしテキストの翻訳は出版されていません。）

#### 前期授業計画

1. 講義の進め方などの確認と数回分のテキストの配付。ただし軌道に乗れば、インターネットからテキストをダウンロードするよう指示します。
2. テキストの輪読と検討。特に最初の要約部分と各章の構造について検討します。
3. テキストの輪読と討議。
4. テキストの輪読と討議。
5. テキストの輪読と討議。
6. テキストの輪読と討議。
7. テキストの輪読と討議。
8. テキストの輪読と討議。テキストの内容に関連し、特に関心のある部分について各自の意見をまとめます。
9. 関連部分の報告と討議。
10. 関連部分の報告と討議。
11. 関連部分の報告と討議。
12. 関連部分の報告と討議。前期の総まとめ。

#### 後期授業計画

1. 前期の確認と後期の授業計画。
2. テキストの輪読と討議
3. テキストの輪読と討議。
4. テキストの輪読と討議。テキストの内容に関連し、特に関心のある部分について各自の発表を行います。
5. テキストの輪読と討議。テキストの内容に関連し、特に関心のある部分について各自の発表を行います。
6. テキストの輪読と討議。テキストの内容に関連し、特に関心のある部分について各自の発表を行います。
7. テキストの輪読と討議。テキストの内容に関連し、特に関心のある部分について各自の発表を行います。
8. テキストの輪読と討議。テキストの内容に関連し、特に関心のある部分について各自の発表を行います。
9. テキストの輪読と討議。テキストの内容に関連し、特に関心のある部分について各自の発表を行います。
10. テキストの輪読と討議。テキストの内容に関連し、特に関心のある部分について各自の発表を行います。
11. テキストの輪読と討議。テキストの内容に関連し、特に関心のある部分について各自の発表を行います。
12. 年間の総まとめ

01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	奥山正司

#### 講義の目標

21世紀を目前にして本格的な高齢社会をむかえようとしている日本社会では、高齢化や高齢者に関しては、社会福祉や健康・医療だけでなく、経済的、法律的な問題などさまざまな視点から論ぜられるようになってきている。こうした中で、特に寝たきり老人や痴呆老人など要介護老人を対象とした介護にかかわる狭義の福祉や保健・医療などについては、今後どのようにしていくかというきわめて重要な課題がある。本年度はそれらの課題を視野に入れながら、高齢化について考える力を身につけさせる。

#### 講義概要

エイジング総合研究センターが作成した日本の高齢化に関する態様についての小冊子を輪読し、さらにはそれぞれの課題について、講義と討論を併用し、多少なりとも専門用語や課題について深めていくことにしたい。

講義の内容は、日本における高齢者への保健・福祉サービスの変遷や現状について及び介護保険制度などを含めた社会保障に関するものである。

#### テキスト

Aging in Japan, 2000

Part Social Security, Health Care, and Social Service for the Elderly in Japan

(日本における社会保障、高齢者への保健福祉サービス)

受講者にはコピーして配布する

#### 評価方法

予習、復習、発表、出席などの総合点で評価する。

#### 受講者への要望

こつこつと予習をしていくこと。基本的には受講生が輪読し、それぞれの課題について多少討論できるようなかたちで進めていきたい。また、専門用語の習得や課題についても深めていくことにしたい。したがって、受講者全員に予習を義務づける。

#### 前期授業計画

1. 年間の計画について
2. ~4. 高齢社会の課題それへの挑戦

4. ~6. 高齢化社会の人口学的な側面と課題

6. ~8. 日本における高齢化の特徴

8. ~10. 人口の高齢化と家族および世帯の変化

11. ~12. 現代日本における家族組織と価値・規範の変化および性別役割

#### 後期授業計画

1. ~3. 高齢化と巨視的な経済問題

4. ~6. 結婚と子供の出生動向と少子高齢化

7. ~9. 第2次大戦後の保険・福祉サービスの変遷と現状

10. ~12. 高齢者に対する保険・福祉サービス及び介護保険等の社会保障

01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	金井 繁雅

#### 講義の目標

国際会計に関する基本的な文献を素材にして、その内容を正確に把握できる読解力を高め、専門用語を学ぶとともに会計基準のあり方を考える。

#### 講義概要

会計の国際化はますます進展しており、国際会計基準（IAS）のわが国への導入も現実味をおびてきた。ここでは会計基準の国際的調和化の意義をテキストを精読しながら、各国の会計制度の比較という視点から考えてみる。

#### テキスト

未定（コピーを配布）

#### 評価方法

前期：授業の発表内容、定期試験、出席状況等の総合点によって評価する。

後期：授業の発表内容、定期試験、出席状況等の総合点によって評価する。

#### 受講者への要望

必ず予習を行ってくることは当然であり、欠席をしないこと。

01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	亀川雅人

11 . Risk Management

12 . Financial Analysis

#### 講義の目標

##### 外国書講読

米国の経営財務のテキストを読み、企業の資本調達と運用の基礎について学ぶ。

#### 講義概要

経営財務の基礎を理解するために、株式会社の仕組みや財務管理者の役割、正味現在価値、機会費用、株式評価モデルなどを学ぶ。

#### テキスト

Brealey & Myers, Principles of Corporate Finance, Irwin McGraw - Hill

#### 評価方法

平常点、出席と毎回の翻訳により評価する。

#### 前期授業計画

- 1 . 経営財務の基本
- 2 . 資本市場とは何か
- 3 . Finance and the Financial Manager
- 4 . Present Value
- 5 . Opportunity Cost
- 6 . How to Calculate Present Value
- 7 . The Value of Common Stocks
- 8 . Why Net Present Value Leads to Better Investment Decisions than Other Criteria
- 9 . Net Present Value
- 10 . Risk, Return, and the Opportunity Cost
- 11 . Capital Budgeting and Risk
- 12 . Practical Problems in Capital Budgeting

#### 後期授業計画

- 1 . A Project is not a Black Box
- 2 . Where Positive Net Present Values Come from
- 3 . Financing Decisions and Market Efficiency
- 4 . An Overview of Corporate Financing
- 5 . How Corporations Issue Securities
- 6 . Divident Policy and Capital Structure
- 7 . Dose Debt Policy Matter ?
- 8 . How Much Should a Firm Borrow ?
- 9 . Financing and Valuation
- 10 . Debt Financing

01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	黒川文子

#### 講義の目標

ビジネスで用いられる英語を中心とした語学を学ぶと同時に、さまざまなビジネスの状況を英語で把握することが目標である。

#### 講義概要

外国企業との取引となると、英語圏の国々を考える人が多い。しかしながら、英語圏以外でも近年では重視されつつある。とりわけ、企業が EU 諸国との取引をする上で、どのような商慣習を知ることが必要であるかについて、英語文献を通じて学ぶ。

#### テキスト

Johnson, Debra and Turner, Colin, "European Business" Routledge, 2000.

#### 参考文献

野田信夫編『経営英和辞典』ダイヤモンド社

#### 評価方法

平常点、および前記、後期の定期試験を総合的に判断して評価する。

#### 受講者への要望

毎回予習した上で出席のこと。前もって割り当てを決め、決められた人は、翻訳をすることで授業を進める。

#### 前期授業計画

- 1 . The evolving European business environment
- 2 . The evolution of the EU and its institutions
- 3 . The single European market: Assessing and extending its impact
- 4 . Taxation and the European business environment: Themes and issues
- 5 . European industrial policy: Meeting the challenges of international competitiveness
- 6 . EU competition policy: Complementing the Internationalization of business
- 7 . Regional policy: Promoting even development for European business
- 8 . European enterprise policy: Realizing the potential of small and medium-sized enterprises
- 9 . The emerging challenges for Europe's SMEs

10 . Co-operation between SMEs

11 . Trans-European networks: Business and the Emerging network economy

12 . Transport policy: Towards efficient and effective mobility

#### 後期授業計画

1 . The importance of transport to European business

2 . Energy policy: Developing competitive, clean and secure energy supplies for business

3 . The European information society: Stimulating the information revolution for business

4 . Developing a European information industry

5 . European labor markets: A flexible response for European business

6 . Trends in EU labor markets

7 . Environment policy: A green light for competitiveness?

8 . Economic instruments: The case of environment taxes

9 . Central and Eastern Europe - Transition to a stable business environment

10 . Economic and monetary union: The challenges for the European business environment

11 . European business in a global context

12 . European business policy and its changing environment

01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	郡 司 淳

#### 講義の目標

1950年代、E.O.ライシャワー、W.W.ロスター、J.ホールらアメリカの歴史学者・経済史家によって提起された、いわゆる近代化論の批判的検証をとおし、日本近代史に対する理解を深める。

#### 講義概要

報告者による下記テキストの講読を中心に、教師が適宜注釈・説明を加える。報告者は予め指名するが、全員が予習をしていることを前提に授業を進めていく。

#### テキスト

Edwin O.Reischauer “ Japan:the story of a nation ” McGraw-Hill Publishing Company, 1990(Part two Modernizing Japan の部分をコピーで配布)

#### 参考文献

講義の内容に則し、適宜紹介する。

授業のさいには各自英和辞典を持参すること。

#### 評価方法

前後期とも出席回数、報告内容およびペーパー形式の期末試験の成績を総合的に評価する。報告は単に和訳するだけでなく、歴史用語をはじめとして内容を理解していることが評価の基準になる。

#### 受講者への要望

将来学び続ける土台として、まめに辞書・事典を引く習慣を身につけてほしい。

#### 前期授業計画

1．近代化論について

2～12．

The Transition to a Modern State

Constitutional Government and Empire

#### 後期授業計画

1～11．

Economic and Political Growth

The Rise of Militarism

12．まとめ

01 科目名	
98 科目名	外国語講読
97 科目名	外国書研究
担当者	小 林 進

#### 講義の目標

英語の力を一層向上させたいか、または現在の英語力を維持させたい人の受講が望ましい。英語の能力は努力を怠ると簡単に下がってしまうので、受講者は日頃の予習を十分に行うことが大切である。なお、英語の基礎能力のない人の受講は歓迎されないが、経済学部以外でも経済学の文献を英語で学習したい諸君の受講は歓迎したい。

#### 講義概要

講読を中心とする

#### テキスト

未定（プリント配布の予定）

#### 評価方法

平常の出欠と受講態度を重視する。さらに前期と後期の二回の試験を加味して評価する。

#### 受講者への要望

英語 と が履修済みであること



01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	齋藤正章

#### 講義の目標

外国語で書かれた良書は日本語で読めることが少なくありません。最近、海外で出版されるのとはほぼ同時に翻訳されたりします。また、インターネットの急速な進展によって翻訳支援ツールも充実してきています。こうした状況は、読解のための語学力はさして高める必要はないと感じさせるかもしれません。しかし、それらはあくまでも「他人の訳」であって自分のものではありません。原著にある微かなニュアンスは、原著を読んだ人にしか分からないものです。本講義では、原著の内容を自分の言葉で理解するための読解力の養成を目標としています。

#### 講義概要

経営関係の外国書を読むにはスピードと正確性が要求されます。しかし、この2つをバランスよく両立させることはなかなか容易ではありません。そこで、講義の始めに正確性を重視した読解を行い、次にスピードを重視した読解をし、また最後に正確性の読解をトレーニングする3部構成をとります。

講義を進めていくと、問題なのは英語力ではなく、経済や経営あるいは社会に関する問題意識の欠如や知識不足が原因で読みこなせないという場面に出くわすことがあります。こういう場合は、基礎概念を平易に解説しながら進めていきます。

#### テキスト

開講時に指示します。

(経営をとりあげたテキストや雑誌を広く読む予定です)

#### 参考文献

特にありませんが、経営、経済、会計関係の英和辞典を手許に置いておくとよいと思います。

#### 評価方法

定期試験の結果に出席率、平常点を加味して評価します。

#### 受講者への要望

辞書を引く手間を惜しまないようにしましょう。

授業には必ず英和辞典を持参してください。

01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	齊藤美彦

#### 講義の目標

金融関連の専門書を読みこなすことができるレベルの英語力を身につける。

金融機関の収益分析ができるだけ力を身につける。

#### 講義概要

本年度は、アメリカの銀行の収益分析をした論文を輪読します。報告者にはレジュメを作成してもらい、それに基づき参加者に論議をしてもらいます。必要に応じて講義・解説を行う予定です。

#### テキスト

"Profits and Balance Sheet Developments at U.S. Commercial Banks in 1999", Federal Reserve Bulletin, June 2000

#### 評価方法

定期試験および出席・報告等を総合的に勘案して成績評価を行なう。

#### 受講者への要望

基本的に毎回出席すること。あらかじめテキストを読み、議論には活発に参加すること。

#### 前期授業計画

- 1 . Introduction
- 2 . Profits and Balance Sheet Developments  
\* Balance Sheet Developments
- 3 . Profits and Balance Sheet Developments  
\* Loans to Businesses
- 4 . Profits and Balance Sheet Development  
\* Loans to Households
- 5 . Profits and Balance Sheet Developments  
\* Other Loans and Leases
- 6 . Profits and Balance Sheet Developments  
\* Securities
- 7 . Profits and Balance Sheet Developments  
\* Liabilities ( 1 )
- 8 . Profits and Balance Sheet Developments  
\* Liabilities ( 2 )
- 9 . Profits and Balance Sheet Developments  
\* Capital ( 1 )

10 . Profits and Balance Sheet Developments  
\* Capital ( 2 )

11 . Profits and Balance Sheet Developments  
\* Trends in Profitability ( 1 )

12 . Profits and Balance Sheet Developments  
\* Trends in Profitability ( 2 )

#### 後期授業計画

1 . Profits and Balance Sheet Developments  
\* Interest Income and Expense ( 1 )

2 . Profits and Balance Sheet Developments  
\* Balance Sheet Developments ( 2 )

3 . Profits and Balance Sheet Developments  
\* Noninterest Income and Expense

4 . Profits and Balance Sheet Developments  
\* Loan Performance and Loss Provisioning

5 . Profits and Balance Sheet Developments  
\* International Operations of U.S. Banks

6 . Profits and Balance Sheet Developments  
\* Recent Developments ( 1 )

7 . Profits and Balance Sheet Developments  
\* Recent Developments ( 2 )

8 . Profits and Balance Sheet Developments  
\* Recent Developments ( 3 )

9 . Profits and Balance Sheet Developments  
\* Report of Income,

10 . Profits and Balance Sheet Developments  
\* Portfolio Composition

11 . Profits and Balance Sheet Developments  
\* Interest Rates

12 . Profits and Balance Sheet Developments  
\* Income and Expense

01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	仙田幸子

#### 講義の目標

語学力の基本は「読む」能力である。そこで、英語の文献を読みこなす力の養成を目的とし、1つの文献を速読と熟読という2つの方法で読む。速読ではある程度の量を一度に読み、論文の構成と重要な点を正確につかむことを心がける。熟読では逐語訳を行い内容を深く理解することを心がける。

#### 講義概要

あらかじめ分担を決め、担当者のレポートをもとに内容を検討する。報告の際にはレジメを用意し、それをもとに報告する。

文法規則に従って文章を理解する力をつけることを重視する。

#### 評価方法

前期：担当部分についてのレジメと報告内容（70%）および授業態度（30%）を100点満点に換算し、合計で60点以上の受講者に単位を与える。

後期：担当部分についてのレジメと報告内容（70%）および授業態度（30%）を100点満点に換算し、合計で60点以上の受講者に単位を与える。

#### 受講者への要望

毎回必ず出席すること。

予習を必ずしてくること。

英和辞典を持ってくること。

担当制なので履修の変更は2週目までにすること。

01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	高松和幸

- 9 . same as above
- 10 . Communication
- 11 . same as above
- 12 . まとめ

#### 講義の目標

現代経営学に影響を与えた名著を読む。

英語文献を正確に読むには、英語力と専門知識の両方が必要である。前者は、すでに持っている知識を生かして精読することによって英語力をつけることを目標とする。後者は、解説などを加えることで習得を目指す。

#### 講義概要

前期は Simon の Models of Man の中でてくる有名な概念「Bounded Rationality」を取り上げる。それは、「Rationality and Administrative Decision Making」や「A Behavioral Model of Rational Choice」などである。

後期は James G. A March & Herbert A. Simon の Organizations の中でてくる有名な概念「Cognitive limits on rationality」を取り上げる。

#### テキスト

本書は入手困難なため、コピーを配布する。なお、必要に応じて他文献のコピーも配布する予定である。

#### 評価方法

レポートの結果などにより、成績評価する。

#### 受講者への要望

予習・復習をすること。

#### 前期授業計画

- 1 . 「Rationality and Administrative Decision Making」と「A Behavioral Model of Rational Choice」の概要説明
- 2 . ~ 11 . 毎回 1 ~ 2 頁程度の進捗予定
- 12 . まとめ

#### 後期授業計画

- 1 . 「Cognitive limits on rationality」の概要説明
- 2 . The concept of Rationality
- 3 . same as above
- 4 . Performance programs in organizations
- 5 . same as above
- 6 . Perception and identifications
- 7 . same as above
- 8 . The division of work

01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	千葉啓司

#### 講義の目標

アメリカの会計基準設定団体である FASB が公表した『財務会計概念報告書第 6 号：財務諸要素』は、国際会計基準にも影響を及ぼした重要な文献である。この文献を検討することにより、会計学における基本的な専門用語の意味・内容および、現在進行中である会計の国際化の背景にある会計理論を習得する。

#### 講義概要

前期には、財務諸表の諸要素間の結びつきおよび貸借対照表に表示される諸要素、すなわち資産、負債、持分について検討を加える。後期には、損益計算書に表示される諸要素、すなわち包括利益、収益、費用、利得、損失について検討したうえで、損益計算に関する基本思考、資産概念の詳細についても学習を進めていく。

#### テキスト

FASB , Statements of Financial Accounting Concepts.2000 2001.

#### 参考文献

広瀬義州 他訳 『FASB 財務会計の諸概念』中央経済社  
津守常弘 監訳 『FASB 財務会計の概念フレームワーク』中央経済社

#### 評価方法

前期 ほぼ毎回行う予定の小テストと期末試験によって成績を評価する。

後期 前期同様、ほぼ毎回行う予定の小テストと期末試験によって成績を評価する。

#### 受講者への要望

会計学について基本的な知識を習得していて欲しい。また、予習・復習を欠かさず行って欲しい。

#### 前期授業計画

- 1 . Scope and Contents of Statements
- 2 . Objectives , Qualitative Characteristics , and Elements
- 3 . Interrelation of Elements / Definition , Recognition , Measurement , and Display
- 4 . Definitions of Elements

#### Assets Characteristics of Assets

- 5 . Assets Transactions and Events That Change Assets

#### - Valuation Accounts

- 6 . Liabilities Characteristics of Liabilities

- 7 . Liabilities Transactions and Events That Change Liabilities

#### - Valuation Accounts

- 8 . Effects of Uncertainty

- 9 . Equity Characteristics of Equity

- 10 . Equity Equity and Liabilities

#### - Transactions and Events That Change Equity

- 11 . Investments by and Distributions to Owners

- 12 . Summary

#### 後期授業計画

- 1 . Comprehensive Income Concepts of Capital Maintenance

- 2 . Comprehensive Income Characteristics , Sources , and Components of Comprehensive Income

- 3 . Revenues / Expenses / Gains and Losses

- 4 . Transactions , Events , and Circumstances

- 5 . Accrual Accounting / Accrual and Deferral

- 6 . Realization and Recognition

- 7 . Background Information

- 8 . Characteristics of Assets - Overview

- 9 . Characteristics of Assets Future Economic Benefits

- 10 . Characteristics of Assets Control by a Particular Enterprises

- 11 . Characteristics of Comprehensive Income

- 12 . Summary

01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	全 載 旭

#### 講義の目標

アジア経済は危機から完全に立ち直っていないものの、回復の兆しがあらわれ、世界経済の成長を牽引する大きな存在となりつつある。かつては貧しく停滞的だとみなされてきたアジアが、高度成長を実現するや一転して「東アジアの奇跡」なる賞賛を受けるに至った。ところが1997年に一部で通貨危機に直面すると、「奇跡」の賞賛は再度反転し、否定的評価がマスコミを賑わすこととなった。その舌の根も乾かぬうちに、マスコミはまたアジア経済の力強さを強調する。こうした毀誉褒貶は、アジア経済に対する基礎的理解の欠落によってもたらされている。

この授業ではマスコミの安易な評価に流されない確たる視点を養うことを目的として、英文テキストを通してアジア経済を学ぶ。

#### 講義概要

テキストに沿って授業を進める。基本的には受講者の輪読で授業を進めるが、必要に応じて講義もする。事前に報告者を決め、報告してもらうことにする。

#### テキスト

受講者と相談した上で決める。

#### 受講者への要望

本授業の詳細は開講時に説明するので、初回に必ず出席すること。

01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	西川純子

#### 講義の目標

古典を原語で読むことによって、何かをやり遂げたような気分になって欲しいと思います。

#### テキスト

Edward Bellamy, *Looking Backward*

#### 受講者への要望

必ず予習をしてくること。欠席をしないこと。

01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	平井文子

#### 講義の目標

英語を楽しく学ぶためには、何より平易な文章でしかも生きた英語であることが肝要と考える。さらに本科目である外国書講読としての要件をそなえることを考慮に入れた授業をする。

#### 講義概要

滞日期間の長いイギリス人によるユーモアとウィットに富んだ「エッセー集」を読む。折に触れてエッセーの話題に関連する学問的なテーマ例えば環境問題、外国人労働者問題、女性問題等についての短文ないし専門用語を紹介し読んでみる。学生諸君には毎回テキスト内の数行を和訳し提出してもらおう。

#### テキスト

Brian W. Powle, "My Humorous Japan", NHK 出版

#### 評価方法

前後期年 2 回の定期試験による。毎回提出の和訳も考慮に入れる。

#### 受講者への要望

辞書を毎回必ず持参すること。

#### 前期授業計画

- 1 . Introduction
- 2 . The Daily Fight on Japanese Trains
- 3 . Britain and America Are Divided by English!
- 4 . About Tokyo Noise Pollution
- 5 . Secrets of Success at Viking Buffets
- 6 . The "Girl Shortage" Is a Problem for Japanese Men!
- 7 . My Zen Experience Was Wonderful
- 8 . Television Viewers See the Summit of Mount Everest
- 9 . New Yorkers like Japanese Lifestyle
- 10 . Midori Goto Is the Heroine of a U.S. Textbook
- 11 . Four Interesting People From Japan
- 12 . What is Japan's Biggest Problem in the Future?

#### 後期授業計画

- 1 . Japanese Bosses and American Workers
- 2 . The British Art and Lifemanship

- 3 . When Is a British Public School Not a Public School ?
- 4 . Hardship of the British Army
- 5 . Scuba Diving in the Philippines
- 6 . Exotic Adventure Holidays
- 7 . Adventures in The USSR
- 8 . Strange and Funny Happenings
- 9 . Michael Jackson's Difficult Situations
- 10 . Unhappiness Made These People Famous
- 11 . The Killer Bees Are Coming!
- 12 . Who is the Mystery Boy Who Can't Speak or Hear?



01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	森 澤 拓

#### 講義の目標

インターネット，パーソナルコンピュータなどを扱った情報関連の英文雑誌等を取りあげ，読解を行う。雑誌の英文なので，事実関係を明確に把握し，全体をすばやく理解することをめざす。日々生まれる情報関連の Technical term は，情報処理の新たなパラダイムを具現していると同時に，社会全体に大きな影響をあたえていることを学んでほしい。

#### 講義概要

コンピュータ英文雑誌，インターネット上の英文などで比較的安易な文章を大量に読解していきたい。読解を行うことが主であるが，背景となる情報処理技術，概念についての解説を行うので，情報処理の基本的枠組みの理解を深めてほしい。演習として，インターネット上のデータの活用方法等について解説し，海外の英文ホームページ等からデータを収集する。

#### テキスト

随時英文コピーを配布する。

#### 参考文献

特になし

#### 評価方法

前期：出席および，講義の際の読解，そして前期レポート提出により総合的に判定する。

後期：出席および，講義の際の読解，そして後期レポート提出により総合的に判定する。

#### 受講者への要望

情報処理概論を履修済の学生の参加に限る。情報処理に積極的に興味を持っている学生の参加を希望する。

01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	森 健

#### 講義の目標

このシラバスに記載されている「経済・経営外国語」の上級クラスであり、より専門性が高く、文章も長めの経済関連論文や新聞・雑誌記事の内容を辞書なしでもある程度理解ができるようになるための訓練をする。

#### 講義概要

日本経済の国際化に関わるような課題（貿易、投資、対外援助など）やアジア・太平洋地域を中心とする海外の経済動向を理解する上で重要と思われる学術論文、経済誌、新聞記事の最新のものを教材として配布する。各自、先ず、辞書を使わないで、自分の持っている全ての知識を動員して、内容の把握・推測に努め、それを発表し意見を述べ合う。最後に辞書を用いて徹底的に読み直す。さらに、教員が解説を加える。予習は必要ないが、プリント読了後に、概要提出が求められる。即ち、復習が義務付けられる。3ヶ月経過するとほとんどの学生が英文に対する心理的抵抗がなくなり、英文を読むスピードが速くなる。

#### テキスト

プリントを配布する。

#### 参考文献

特にないが、収録語数が多い辞書を必ず持参すること。

#### 評価方法

普段点と定期試験の結果を参考にして総合的に評価する。

#### 受講者への要望

辞書なしで英文経済論文（記事）の概要を「推測」するためには経済事象に関する知識を増やす必要がある。普段から新聞、経済誌など「見出し」だけでも眼を通すよう努めること。

01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	山 崎 静 光

#### 講義の目標

英語商業通信文の形式（レイアウト）と内容（構成）の最低限を身につけ、貿易に使われる特殊な用語と技術をある程度身につけること。その過程で英語一般を使う能力も向上すること。

#### 講義概要

テキストに従って貿易取引の時間的順序を追って商業通信文の書き方を説明した後、課題を与えて手紙を書かせ提出させ、次回の講義その講評を行う。手紙のみならず契約書裏面約款、信用状などの読解を課し、用語に親しませる。

#### テキスト

物産研修センター編「ザ ビジネスレター」(有斐閣刊)

#### 参考文献

山崎静光「輸出入手続きハンドブック」(中央経済社刊)

#### 評価方法

試験の成績による。

#### 受講者への要望

授業中に理解することを心がけ、質問、教師に対する批判を活発にし、双方向の発信のあるクラスにするのに寄与してください。前期の終わりと学年末に、教務部のものとは別に授業評価を求め、feedbackしている。

高校程度の英語は心得ておくこと（これは見くびってはならない：この水準にある者は毎年寥寥たるものである）

#### 前期授業計画

##### 1. orientation

簡単な手紙を書いてもらう。その場で公表をし、授業のやり方を知ってもらい、受講するか否の参考にしてもらう。

2. 前回書いた手紙の詳しい講評、採点したものを渡す。テキスト「ビジネスレターの構成要素」の説明

3. 「ビジネスレターの構成要素」についてのテスト（手紙を書く）前回テストの講評の続き。

4. 前回テストの講評。「ビジネスレターの本文」の

説明。

5. 「ビジネスレターの本文」についてのテスト（以下2～5の循環）

6. カバーリング レター

7. カバーリング レター テスト

8. 新商売の開拓

9. 新商売の開拓 テスト

10. 引き合いとその返事

11. 引き合いとその返事 テスト。 前期授業の評価。

12. 前回テストの講評。授業評価に対する回答

#### 後期授業計画

1. 前期試験の答案返しと講評。オファーと見積もりの説明。

2. オファーと見積もり テスト

3. カウンター オファー

4. カウンター オファー テスト

5. 受諾と拒絶

6. 受諾と拒絶 テスト

7. 受諾後の手続き。契約書裏面約款を読む。

8. 受諾後の手続き。テスト

9. 苦情とクレーム。信用状を読む。

10. 苦情とクレーム テスト。

11. 前回テストの講評。苦情とクレームに対する返事。後期授業の評価。

12. 苦情とクレームに対する返事 テスト、その場で講評。授業計画に対する回答。

01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	山 崎 雅 教

#### 講義の目標

本講座では、会計の国際化に伴いボーダーレスになってきている状況の中、特に会計の先進国であるアメリカにおける財務会計に関する文献を通して、その現状を認識すると同時に、将来における日本の財務会計に対する影響やあるべき姿を考えることをねらいとしています。

#### 講義概要

企業の経営破綻がこれまで以上にクローズアップされている現在、それを会計の観点から考えると、問題は企業内容開示（ディスクロージャー）にあるといえます。例えば、三菱自動車、そごう、雪印等の問題を考えてみればわかるでしょう。

これだけ企業活動の場が国際的になるうとしている現在では、日本国内のみにとどまり活動を続けるには限界があります。トヨタや SONY のような大企業だけではなく、活力のある中小企業は、資金調達だけでなく活動の場を積極的に海外移しています。そのような状況の中、ビジネスチャンスを物にするためには情報の的確な理解と判断が重要となることはいうまでもありません。

そこで本講座では、アメリカにおける情報開示規制に焦点を当てることにします。単に、横文字を日本語にするだけではなく、その内容について検討を加えることになります。

#### テキスト

SEC : Selective Disclosure and Insider Trading  
(予定)

#### 参考文献

- 英和会計用語辞典を準備すること。
- ・新井編 『英和・和英会計経理ハンディ辞典（第2版）』 中央経済社
- ・小川、鎌田編 『現代英和会計用語辞典（第2版）』 同文館
- ・中島 『英和・和英会計用語辞典』 中央経済社
- ・山田 『英文会計用語辞典』 中央経済社

#### 評価方法

出席、発表、レポート及び学期末試験の結果を総

合的に評価する。

#### 受講者への要望

積極的な参加をしている学生に迷惑になるような私語の禁止はいうまでもなく、講義に水をさすために、携帯電話のスイッチはOFFにすること。

履修希望者は、1回目の講義を欠席しないこと。また、毎回の予習を欠かさないこと。

#### 前期授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.テキストの概略説明（part1）
- 3.テキストの概略説明（part2）
- 4.学生による発表と補足説明
- 5.学生による発表と補足説明
- 6.学生による発表と補足説明
- 7.学生による発表と補足説明
- 8.学生による発表と補足説明
- 9.学生による発表と補足説明
- 10.学生による発表と補足説明
- 11.学生による発表と補足説明
- 12.前期試験

#### 後期授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.学生による発表と補足説明
- 3.学生による発表と補足説明
- 4.学生による発表と補足説明
- 5.学生による発表と補足説明
- 6.学生による発表と補足説明
- 7.学生による発表と補足説明
- 8.学生による発表と補足説明
- 9.学生による発表と補足説明
- 10.学生による発表と補足説明
- 11.学生による発表と補足説明
- 12.後期試験

01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	山田浩一

#### 講義の目標

本講義においては、英語の文献を通じて会計学に関する基礎的理解を得ることを目的としている。したがって、語学力を高めることのみではなく、会計学の概念を英文の平易なテキストを通じて把握してもらうこととしたい。

#### 講義概要

予めプリントを配布し、報告箇所を分担してもらった上で、担当者のレポートに沿って内容を検討していく。

テキストの概要については年間授業計画欄に目次を記載してあるので参考にされたい。

本年は、テキストの Chapter13 を読む予定である。

#### テキスト

"Financial Accounting-third edition"Harrison & Horngren(Prentice Hall International Inc)を利用するが、受講生諸君の要望により変更もあり得る。

#### 参考文献

簿記、会計学に関する一般の参考書を併読することが理解を早めることとなろう。

#### 評価方法

講義への出席と報告、意見発表等を重視する。定期試験等は行わない予定である。

#### 受講者への要望

受講生は必ず予習をして講義に臨むことが求められる。また関連授業として、簿記論、会计学原理、財務会計論等の履修が望まれる。

#### 年間授業計画

- 1 . Chapter 1 : Summarizing Business Activity and using the Financial Statements
- 2 . Chapter 2 : Processing Accounting Information
- 3 . Chapter 3 : Accrual Accounting and the Financial Statements
- 4 . Chapter 4 : Internal Control and Managing Cash
- 5 . Chapter 5 : Accounting for Short-Term Investments and Receivables
- 6 . Chapter 6 : Accounting for Merchandise Inventory, Cost of Goods Sold, and the Gross

Margin

- 7 . Chapter 7 : Accounting for Plant Assets, Intangible Assets, and Related Expenses
- 8 . Chapter 8 : Accounting for Current and Long-Term Liabilities
- 9 . Chapter 9 : Measuring and Reporting Stockholders' Equity
- 10 . Chapter 10 : Accounting for Long-Term Investments and International Operations
- 11 . Chapter 11 : Using the Income Statement and the Financial Statement Notes : Additional Corporate Reporting Issues
- 12 . Chapter 12 : Preparing and Using the Statement of Cash Flows
- 13 . Chapter 13 : Financial Statement Analysis for Decision Making
- 14 . Appendix A : The Annual Report of Land's End, Inc.
- 15 . Appendix B : Time Value of Money : Future Value and Present Value
- 16 . Appendix C : Summary of Generally Accepted Accounting Principles (GAAP)
- 17 . Appendix D : Accounting for Partnerships
- 18 . Appendix E : Modern Accounting Information Systems
- 19 . Appendix F : Special Accounting Journals
- 20 . Appendix G : Check Figures

01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	山本美樹子

#### 講義の目標

日ごろ経済に関連したさまざまな新聞記事を英語で読めるようにする。

#### 講義概要

この経済外国書講読を初歩、3年次に選択する外国書講読を応用編と考えてもらいたい。本稿ではとくに financial times とかを使い、また英字新聞で経済に関係のある社説を取り上げて読んでいきたいと考えている。

#### 評価方法

授業時間中の予習具合と学期末試験

#### 受講者への要望

演習形式の授業なので出席を必ずとる。また、演習形式とは学生が積極的に参加（具体的には予習）をすることにより、初めて学生にも有益なものとなるので、予習を必ずしてくること。

#### 年間授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2～11 週 英字記事を読む
- 12 週 前期テスト
- 13～22 週 英字記事を読む
- 23 週 講義のまとめ
- 24 週 後期のテスト

01 科目名	
98 科目名	外国書講読
97 科目名	外国書研究
担当者	湯田雅夫

- 8. プリントの輪読
- 9. プリントの輪読
- 10. プリントの輪読
- 11. プリントの輪読
- 12. プリントの輪読

#### 講義の目標

環境マネジメントの内容の把握と理解につとめる。

#### 講義概要

環境マネジメントに関するテキストを採用して、各自の予習を前提に、輪読形式で進める。

#### テキスト

未定

#### 参考文献

その都度指示する

#### 評価方法

前期：担当個所の訳と授業への貢献度による評価

担当個所の訳を受講生全員に配布すること

後期：担当個所の訳と授業への貢献度を勘案し、後

期試験期間中に行う後期試験によって評価

担当個所の訳を受講生全員に配布すること

#### 受講者への要望

私語厳禁。予習復習を必ずしてくること。

#### 前期授業計画

1. オリエンテーション
2. プリントの輪読
3. プリントの輪読
4. プリントの輪読
5. プリントの輪読
6. プリントの輪読
7. プリントの輪読
8. プリントの輪読
9. プリントの輪読
10. プリントの輪読
11. プリントの輪読
12. プリントの輪読

#### 後期授業計画

1. 後期オリエンテーション
2. プリントの輪読
3. プリントの輪読
4. プリントの輪読
5. プリントの輪読
6. プリントの輪読
7. プリントの輪読

01 科目名	
98 科目名	外国書講読（ドイツ語）
97 科目名	外国書研究（ドイツ語）
担当者	大 島 通 義

#### 講義の目標

ドイツの経済についての理解を深めることを目的とするが、そのためには、ドイツ語を正確に読めることが不可欠であり、また、経済についてのドイツ語特有の表現にもなれることが求められる。そのような趣旨の講読をおこないたい。

#### 講義概要

ドイツの政治経済にかんする基本的な文献について講読をおこなう。テキストとしては、この趣旨にかなう種々の書物や論文、文書などからの抜粋を配布し、使用する。どのようなテキストを選ぶかについては、講義の最初の回に説明するが、たとえば、ドイツ語で書かれた経済学の古典の一部、主な政党の綱領や政見における経済政策にかんする記述、現代ドイツの経済制度や実態にかんする新聞記事、等々を取り上げる予定である。

#### テキスト

開講後、教室にて順次配布する。

#### 参考文献

必要に応じて、随時配布する。

#### 評価方法

配布したテキストについて毎回和訳を作成して提出すること。教室では、各自これにもとづいて報告をおこなうこととする。提出の件数とその出来具合で成績を評価する。

#### 受講者への要望

ドイツ語の文法の基本を理解していること。

#### 年間授業計画

開講時に配布する。



01 科目名	
98 科目名	外国書講読（フランス語）
97 科目名	外国書研究（フランス語）
担当者	千代浦 昌 道

#### 講義の目標

比較的やさしいフランス語の経済関連文献の講読を通じて、フランス・ヨーロッパ等を中心とする世界経済の現状を理解すること。

#### 講義概要

前期には、フランス経済の現状に関するフランスの高校テキストを購読する。後期には、新聞、雑誌等に掲載されたやさしい経済関連記事を講読する。授業内容の難易度は、受講者のフランス語修得レベルに合わせて調整する予定。

#### テキスト

コピーを随時配布する。

#### 参考文献

- 松本 正『実務に役立つ経済フランス語』（第三書房、1971）  
 松本 正『時事経済フランス語』（第三書房、1973）  
 小林 茂『新聞のフランス語』（白水社、1984）

#### 評価方法

前期、後期の終わりの課題についてのレポート（仏文和訳）によって評価する。出欠は成績評価の参考資料とする。

#### 受講者への要望

新聞、雑誌の政治・経済記事を読む習慣をつけること。

#### 年間授業計画

##### 第1回

（1）授業の進め方、テキスト・参考文献、成績評価方法などについての説明

（2）最近のフランスの政治経済情勢の基礎知識

第2回以降は、随時に配布するフランス語テキストを使用して授業を行う。

01 科目名	
98 科目名	外国書講読（留学生用） Aクラス・Bクラス
97 科目名	外国書研究（留学生用） Aクラス・Bクラス
担当者	本 田 浩 邦

#### 講義の目標

外国人学生用の経済英語の授業。文法・ボキャブ  
ラリー・会話表現の基本的な内容を修得するための  
科目です。

事前にクラス分けのテストを行いますが（新3年  
生はすでに終了）、学年に関わらず、基本的に母国で  
あまり英語を学習していない人はAクラスを、中学  
高校と6年以上学習した人はBクラスをそれぞれ履  
修登録してください。

#### 講義概要

第1回目の授業で、出席者の要望にもとづいて内  
容を決めます。

授業の形式は、文法30分、読解30分、会  
話表現30分です。内容は、生活英語と経済英語をと  
りまぜて行います。

#### テキスト

英語辞書を必ずご持参ください。毎回プリントを  
配布します。

#### 評価方法

前期：出席および前期定期試験

後期：出席および後期定期試験

#### 受講者への要望

好むと好まざるとに関わらず、英語能力はこれか  
らのみなさんの進路にとって不可欠ですので、がん  
ばって履修してください。

01 科目名	
98 科目名	マクロ経済学
97 科目名	経済原論
担当者	阿部正浩

#### 講義の目標

経済成長と経済循環、失業とインフレーション、マクロ経済政策、について理解を深めることを目標にしています。

#### 講義概要

ミクロ経済学的基礎を重視しながら、最近のマクロ経済学の問題を考察していきます。

#### テキスト

とくにありません。

#### 参考文献

ジョセフ・E・スティグリッツ『マクロ経済学』(第2版、藪下史郎他訳) 東洋経済新報社

福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門』、有斐閣

#### 評価方法

授業時間中の小テスト

期末テスト

#### 受講者への要望

楽しく、わかりやすく、ためになる、をモットーに授業を行いますので、がんばって勉強してみてください。そして、わからないことがあったら、授業中でもすぐに質問してみてください。

#### 前期授業計画

1. マクロ経済学って何?
2. ケインズ派と新古典派の考え方
3. SNA体系(その1)
4. SNA体系(その2)
5. 消費行動
6. 貯蓄
7. 企業行動
8. 投資行動
9. 企業の資金調達行動
10. 株式市場と株価の決定
11. 乗数理論とIS-LM(その1)
12. 乗数理論とIS-LM(その2)

#### 後期授業計画

1. マクロ経済政策(その1)
2. インフレーション(その1)

3. インフレーション(その2)
4. 失業(その1)
5. 失業(その2)
6. マクロ経済政策(その2)
7. 経済成長(その1)
8. 経済成長(その2)
9. オープン・マクロ経済(その1)
10. オープン・マクロ経済(その2)
11. 最近のマクロ経済学(その1)
12. 最近のマクロ経済学(その2)

01 科目名	
98 科目名	マクロ経済学
97 科目名	経済原論
担当者	山本美樹子

#### 講義の目標

マクロ経済理論の基礎知識の認識を深め、応用経済学の分野である財政論、金融論等を理解する上で礎を築く。

#### 講義概要

マクロ経済学は（一国の）経済全体の動きを説明する経済学である。マクロ経済学では物価、雇用、失業率、国民所得、GNP、利率……といった、日常生活で聞きなれた経済用語が分析対象となる。これらの経済用語はその国の経済的な体力を示すと考えられるからである。本講義ではこれらの経済用語の説明をした上で、一国のマクロ経済政策がその国の経済的体力にどのような影響を与えるかについて考えていく。

#### テキスト

テキストは特に定めない

#### 参考文献

中谷巖「入門マクロ経済学」  
 マンキュー「入門マクロ経済学 1」  
 幸村千佳良「マクロ経済学事始」  
 岩田規久夫「基礎コースマクロ経済学」等

#### 評価方法

平常講義中の小テストと学年末試験

#### 受講者への要望

きちんと出席すること。

#### 年間授業計画

- はじめに -

#### 序章 マクロ経済学とは何か

- 第一節 ミクロ経済学とマクロ経済学の違い
- 第二節 マクロ経済学の枠組

#### 第一章 国民総生産、国内総生産、三面等価の原則

- 第一節 付加価値とは何か
- 第二節 国内総生産、国民総生産の違い
- 第三節 国民純生産、減価償却
- 第四節 国民所得
- 第五節 国内総支出
- 第六節 分配国民所得

#### 第七節 三面等価の原則

#### 第二章 国民総生産の決定

- 第一節 古典派 VS ケインズ派
- 第二節 45 度線による国内総生産の決定メカニズム
- 第三節 独立投資の変化 - 投資乗数モデル -
- 第四節 政府支出乗数と租税乗数 - 均衡財政乗数 -
- 第五節 海外部門の存在する場合

……まとめの小テスト……

#### 第三章 投資の決定と利率

- 第一節 投資の種類
- 第二節 投資の期待収益
- 第三節 資本の限界効率と利率の関係

#### 第四章 貨幣とは何か

- 第一節 貨幣の機能
- 第二節 日本における貨幣の分類
- 第三節 貨幣の需要と需要関数
- 第四節 貨幣の供給とハイパワードマネー
- 第五節 信用乗数と貨幣乗数の違い
- 第六節 利率の決定

……まとめの小テスト……

#### 第五章 IS 曲線と LM 曲線

- 第一節 貯蓄と投資の関係
- 第二節 貯蓄と投資の均等と IS 曲線の導出
- 第三節 LM 曲線

#### 第六章 財政政策と金融政策

- 第一節 公共投資の増減に代表される財政政策の効果
- 第二節 金融政策の効果
- 第三節 流動性トラップ
- 第四節 日本の金融政策の現状と量的緩和について

#### 第七章 おわりに

01 科目名	
98 科目名	ミクロ経済学
97 科目名	近代経済学
担当者	小林 進

#### 講義の目標

受講者が経済理論を理解して現実の経済問題に応用できる水準に達することを目標とする。ただし受講者のレベルは必ずしも高いとはいえないので、場合によっては初歩的な経済理論にも随時触れる予定である。参考書については（原則として本学図書館にあるものを）必要に応じて推薦し、受講者の一層の学習努力を促すようにする。

#### 講義概要

経済学（必修）をすでに学習した受講生を対象にしてミクロ経済学を講義し、講義の最後ではミクロ経済学とマクロ経済学の関係についても、方法的個人主義や合成の誤謬の立場から触れることにする。なお最初の講義でアダム・スミスからケインズまでの簡単な経済学の歴史について述べ、市場経済の歴史的役割を簡潔に説明する。

#### テキスト

なし

#### 参考文献

講義中に指示する。

#### 評価方法

前期と後期の二回の試験によって評価する

#### 年間授業計画

消費者は効用関数を最大にするように行動する。  
 効用関数  $U = U(X, Y)$  の定義とその性質  
 （辞書的順序の場合には効用関数が存在しないことに触れる）  
 無差別曲線と予算線の接点  $MRS = P_X / P_Y$   
 予算線 所得はすべて消費する、もし貯蓄を経済的合理性から説明するならば二期間モデルが必要である。  
 所得効果と代替効果  
 （ミクロ経済学ではこの概念の理解が重要である）  
 労働の供給曲線の導出、代替効果が支配的などときの賃金率と供給量の関係  
 不労所得がある場合の労働供給曲線  
 失業保険と労働供給曲線  
 二期間モデルと貯蓄、現在割引価値の概念、利子率と貯蓄の関係

#### 効率賃金理論

需要の価格弾力性  $e$  と支出額  $Z$  の関係

$$\frac{dZ}{dp} = x(1 - e) \quad (x \text{ は数量を示す})$$

この関係の J コーブ効果への応用

競争市場の企業の最適化行動  $P = MC$

完全競争の成立条件

ワルラス的安定条件

総余剰分析（消費者余剰 + 生産者余剰）と完全競争の最適性

応用として自由貿易の問題、関税と補助金の効果の比較

パレート最適

ボックスダイアグラムと契約曲線

生産可能性曲線

供給独占者の利潤最大条件  $MR = MC$ （限界収入 = 限界費用）

$$MR = P \left( 1 - \frac{1}{e} \right)$$

ラーナーの独占度  $1/e$

二つの分離した市場に直面した独占者  $MR_1 = MR_2$  より  $e_1 > e_2$  ならば

$P_1 < P_2$ （需要の価格弾力性の高い市場のほうに低い価格をつける）

その応用として映画の学生割引の経済的意味

カルテル（価格協定）

独占と余剰分析

独占と規制 上限価格の設定

寡占と屈折需要曲線

ゲームの理論、囚人のディレンマ、ナッシュ均衡、両性の戦い、チキンゲーム

無限繰り返しゲームによる囚人のジレンマの解消、トリガー戦略

市場の失敗として、費用逓減産業、外部経済、公共財、不確実性

ミクロとマクロの境界

01 科目名	
98 科目名	ミクロ経済学
97 科目名	近代経済学
担当者	藤山英樹

#### 講義の目標

ミクロ経済学の基礎を修得する。より具体的には、第1に諸概念の直感的な理解を得る。第2に諸概念の抽象的な記号表現をマスターする。第3にミクロ経済の至る所で用いられる関数の最大化の計算手法を修得する。以上は専門過程に進み、応用をおこなうときに必要不可欠となる。

#### 講義概要

できるだけ予備知識を前提とせず、授業内で自己完結した形で講義を行う。前期に完全競争市場、後期に不完全競争市場を講義する。

#### テキスト

特に指定をしない。

#### 参考文献

現在は、ミクロ経済学については、基礎的な内容は定まっている。そして、一般に評価の高いテキストが、必ずしも個人的な好みにあうとはかぎらない。したがって、参加者の好みに合わせて購入もしくは図書館から借りてくれば良い。また、多くのテキストの巻末に他のテキストについての簡単なコメントが載っているので、それを参考にするのも良い。

#### 評価方法

前期：試験で評価する。授業期間中に小テストを行うこともある。その時はその成績も評価に加える。

後期：前期と同じ。

#### 受講者への要望

ある概念がわからないとき、単に漠然と考えても、理解は深まりません。どうしてわからないかをわることができる、もしくは、わかろうとする姿勢を望みます。

#### 前期授業計画

参加者が講義内容を着実に理解をし、最終的には自学自習でミクロ経済学を学べてゆけるようになることが何よりも大事だと考えます。したがって、講義のペースは受講者の状況に合わせて、調整されることとなります。よって、必ずしも授業計画通りに進むとは限らないので、この点はあらかじめご了承ください。

1. イン트로ダクションおよび最大化の計算の仕方。
2. 最大化の計算の仕方つづき。
3. 消費者行動1：消費者の選考の理論
4. 消費者行動2：効用最大化問題（需要関数の導出）
5. 消費者行動3：需要関数による財の特徴づけ
6. 企業行動1：生産の理論
7. 企業行動2：利潤最大化問題（供給関数の導出）
8. 企業行動3：費用関数について
9. 市場の分析1：部分均衡分析（政策の影響）
10. 市場の分析2：一般均衡分析（厚生経済学第一定理）
11. 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。
12. 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。

#### 後期授業計画

参加者が講義内容を着実に理解し、最終的には自学自習でミクロ経済学を学べてゆけるようになることが何よりも大事だと考えます。したがって、講義のペースは受講者の状況に合わせて、調整されることとなります。よって、必ずしも授業計画通りに進むとは限らないので、この点はあらかじめご了承ください。

1. イン트로ダクションおよび最大化の計算の仕方。（夏休みで忘れてしまった人、もしくは後期から目覚めた人のために復習します。）
2. 最大化計算の仕方のつづき。（夏休みで忘れてしまった人、もしくは後期から目覚めた人のために復習します。）
3. 独占市場1：完全競争市場との違い
4. 独占市場2：独占企業の利潤最大化行動
5. 寡占市場1：完全競争市場、独占市場との違い
6. 寡占市場2：寡占企業の利潤最大化行動の落ち着く先としてのナッシュ均衡
7. 寡占企業3：さまざまな寡占モデル
8. 不完全競争に関するその他のトピックス
9. 公共財について
10. 不確実性について
11. ゲーム理論について
12. 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。

01 科目名	
98 科目名	経済学史
97 科目名	経済学史
担当者	鈴木 勇

#### 講義の目標

この講義では、「価値論の史的考察」を中心テーマに、労働価値論と効用価値論の二大思潮を、古代および中世の経済理論にまで溯って考察する。講義の目標は、マルクス労働価値論の批判とその再検討にある。したがって講義では、一先ず、19世紀後半の資本主義の拡大発展期までの時期を研究の対象範囲として限定し、この期間に成立した主要な経済理論を取り上げて考察する予定である。過去の知的努力がどのように受け継がれ、そのときどきの経済的現象をどう解釈し、どのようにそれと係わり合い、影響してきたかを知ることが現在を知るうえで重要な意味をもつ。特に、社会主義の崩壊という歴史的な転換期に立つ現代世界を洞察し、未来社会を展望するためには、原点に立ち返り歴史の大きな流れの中で現代を捉える必要がある。その意味では、この講義で取り扱う対象は古くても受講者の知的関心は現代の問題にも向けられねばならない。講義では、このような観点から経済学史を考えていきたいと思っている。

#### テキスト

鈴木勇『資本主義の発展と経済理論』新評論、1977年

鈴木勇『経済学前史と価値論的要素』学文社、1991年

#### 参考文献

その都度指示する。

#### 評価方法

評価は定期試験の成績に出席状況を考慮して行う。

#### 前期授業計画

1. 講義の目標と概要について
2. アリストテレスの経済学
3. 聖トマス・アクィナスの経済学とスコラ学者の価値論
4. 近世への転換：資本主義の興隆と宗教改革
5. ヘイルズの王室重商主義論
6. マンの貿易差額論と国富増進論
7. ペティの財政論と価値論

8. ロックの所有論と利子論

9. 16 - 17 世紀の効用説……自然法哲学者と経験主義者

10. カンティロン of 経済学と価値論

11. ステュアートの重商主義論

12. ケネーの重農主義論

#### 後期授業計画

1. イギリス産業革命と経済社会の変化

2. スミスの道徳哲学体系と市民社会観

3. スミスの経済学と価値論

4. 産業革命期の経済学

5. ヘーゲルとマルクスの市民社会観(1)

6. 同上 (2)

7. マルクスの労働価値論と資本主義崩壊の論理(1)

8. 同上 (2)

9. 同上 (3)

10. 同上 (4)

11. メンガーの限界効用説

12. まとめ

01 科目名	
98 科目名	経済変動論
97 科目名	経済変動論
担当者	松本正信

#### 講義の目標

経済成長と景気循環のメカニズムの理論的枠組を、現代ケインズ派・古典派ならびに現代マネタリスト・合理的期待形成学派・新古典派などの諸説について年間に渡って講義するなかで、全体として理解して貰うのが目標である。今日の世界経済や日本の国内経済をみると、景気循環のメカニズムの本質がどのように関連しているかを示唆することも本講の大事な役割だと考えているが、これは第 2 の目標としたい。

#### 講義概要

詳しくは年間講義予定（後述）を御覧あれ。

はじめに景気変動の歴史的素描とその時代々の諸説を対称させてみて行き、景気変動の現代的意義を考えることから出発する。本論では「講義の目標」で示したような諸説を順次紹介しながら現代景気循環論を構成して行く積りである。

また、諸説の随所にカオス動学的視点の解釈を試みたいと考えている。

#### テキスト

私の「講義ノート」による。

#### 参考文献

講義の都度、指示する。

#### 評価方法

後定期試験によって評価する

#### 受講者への要望

最近の景気変動にも言及するし、また諸説の理論を聴講する上にも大事なことであるから、このところの現実の経済の動きにも日頃関心をもつことを要望します。

#### 年間授業計画

以下の講義内容を年間を通じて行なう。

「経済成長と景気循環」に関する講義。ケインズならびにポスト・ケインズ学派以降今日までの有力諸説を中心としながら、現代経済の現状に即した理論分析を講義する。

#### 序論 経済変動論の現代的課題

1 はじめに 現代の経済成長と景気循環

- 2 経済変動の歴史的素描 産業革命前夜とアダム・スミス、産業革命と資本主義経済の勃興、資本主義経済の発展と問題
- 3 経済変動の諸要因：その学説史的素描 資本蓄積論、恐慌論にみるマルクス、革命論、動態的経済発展論にみるシュンペーター、長期停滞論
- 4 ケインズ経済思想とニュー・デール、The Great Depression, New-Deal policy; New-Economics、修正資本主義と混合経済体制、市場の不完全性、公共経済の拡大、社会保障、金本位制から管理貨幣制度へ、WTO 体制と自由貿易、民主制政治と現代経済、ハーバー・ロードの前提崩壊
- 5 経済変動要因の理論的類別
- 6 有効需要拡大の「拡大」解釈 グローバル化 均衡成長とその不安定性論
  - 1 経済成長の不可避的要素と必要性 古典的マルサスにみる循環的成長論と長期定常経済、アダム・スミスの市民社会の定常状態、シュンペーターの動態経済発展論、現代における経済成長の不可避的要素と必要性、ゼロ経済成長とその意義
  - 2 ハロッド・ドマーの均衡成長理論
  - 3 独立投資と誘発投資
  - 4 外生要因と内生要因 景気循環のメカニズム
    - 1 定常状態の経済
    - 2 新投資の循環（更新投資循環）
    - 3 在庫投資の循環
    - 4 ヒックスの景気循環モデル
    - 5 カレッキーの景気循環論
    - 6 カルドアの景気循環論
    - 7 景気変動への安定化要因
    - 8 景気循環論の類型と循環の局面
    - 9 景気循環と経済諸変数
    - 10 景気の転換点と景気動向指数 経済成長と景気循環
      - 1 成長経済における「定型化された事実」
      - 2 新古典派成長理論の登場
      - 3 新古典派の経済成長理論
      - 4 技術進歩と資本蓄積（技術移転と資本移動） 現代景気循環論
        - 1 経済ケインズ学派とマネタリスト・合理的期待形成学派
        - 2 経済成長軌道は安定か不安定か
        - 3 現代諸説の経済社会に対する考え方と経済制度の問題
        - 4 これからの景気循環論への展望



01 科目名	経済統計論 a・b
98 科目名	経済統計論
97 科目名	経済統計
担当者	松本正信

#### 講義の目標

経済統計は現に経済現象のほとんどあらゆる方面に関連し、また実際調査もなされているから、これを全て講義の対象としたのではとても時間が足りないし、また大学の経済学講義の一環としての意義も乏しい。それらは実社会にあって実際に必要になってから参照すればよい。本講では「経済統計」をば、むしろその体系的、方法的ならびに経済理論的な対応において、つぎの三部構成でなされよう。すなわち経済統計学の理論的枠組を理解していただくことが、講義の狙いである。

#### 講義概要

第 部 指数の問題、その成り立ちと理論的根拠

第 部 国民所得統計と産業連関表

第 部 時系列分析と回帰分析

以上、詳しくは後の年間講義予定を見られよ。ただし、講義の順序はこの通りとは限らない。また、例年時間的余裕があるので、教科書の付録にしたがって、付論「オペレーションズ・リサーチとゲームの理論」を現代の経済・経営の実際応用と経済戦略という有意義な視点で講話します。

#### テキスト

・森田優三『経済統計読本』東洋経済新報社、1991年(21刷)

#### 参考文献

・講義の都度指示

#### 評価方法

前期：定期試験の結果に、出席状況・受講態度を加味して評価する。

後期：前期と同じ。

#### 受講者への要望

まずは講義を聞き給え。きっと面白いぞ。

#### 年間授業計画

以下の、序論を含めた 19 の項目を前期・後期を通じて 1~3 回にわたる講義で進める予定である。

#### 序 論

経済と経済統計と経済学

#### 第 部 指数

- 1 指数について(指数理論)
- 2 平均値について
- 3 物価指数と数量指数
- 4 消費者物価指数(付論：消費者選好理論とヴォルトケウイッチの関係式)
- 5 その他の物価指数の例と各種デフレーター
- 6 生産数量と生産指数 いくつかの代表例

#### 第 部 国民所得統計と産業連関表

- 1 国民所得統計と国民所得分析
- 2 社会会計の考え方とマトリックス  
(2の付論：コンピュータ通信システムの発達と国民総背番号制)
- 3 新 SNA
- 4 産業連関表
- 5 産業連関分析とその応用

#### 第 部 時系列分析と回帰分析

- 1 時系列データとその解析
  - 2 時系列分析 トレンド(趨勢、傾向線)、循環変動、季節変動、不規則変動
  - 3 時系列分析の方法 移動平均法、趨勢線のあてはめ、他
  - 4 景気動向指数 ディフュージョン・インデックス
  - 5 回帰分析と回帰方程式
  - 6 計量経済学の方法
  - 7 構造推計と将来予測
- 付 論 OR の話；オペレーション・リサーチとゲームの理論

01 科目名	
98 科目名	計量経済学
97 科目名	計量経済学
担当者	藤山英樹

#### 講義の目標

計量経済学の標準的な諸概念を修得する。理論的に得られた経済モデルと現実経済との距離を測るために計量経済学は不可欠なツールです。特に諸概念の理論的な意味を把握することが主たる目標となります。

#### 講義概要

原則として、テキストに準拠して授業を進めてゆく。ただし、できるだけ予備知識を前提とせず、授業内で自己完結した形となるようにする。前期に「基礎編：回帰分析」、後期に「応用編：計量経済学」を講義する。

#### テキスト

山本拓『計量経済学』、新世社、1995年。

#### 参考文献

白砂提津耶『[例題で学ぶ] 初歩からの計量経済学』、日本評論社、1998年。

#### 評価方法

前期：試験で評価する。授業期間中に小テストを行うこともある。その時はその成績も評価に加える。

後期：前期と同じ。

#### 受講者への要望

統計学も既習もしくは、並行履修が望ましい。

#### 前期授業計画

参加者が講義内容を着実に理解をし、最終的には自学自習でマイクロ経済学を学べてゆけるようになることが何よりも大事だと考えます。したがって、講義のペースは受講者の状況に合わせて、調整されることとなります。よって、必ずしも授業計画通りに進むとは限らないので、この点はあらかじめご了承ください。

1. 計量経済学とは。

2. から 4. 最小二乗法について。

主たる内容は、直線のあてはめ。あてはまりの尺度。計算の手順など。

5. から 9. 単純回帰分析。

10. から 12. 多重回帰モデル。

主たる内容は、多重回帰モデル、多重共線性、変数

の過不足についての問題など。

#### 後期授業計画

参加者が講義内容を着実に理解をし、最終的には自学自習でマイクロ経済学を学べてゆけるようになることが何よりも大事だと考えます。したがって、講義のペースは受講者の状況に合わせて、調整されることとなります。よって、必ずしも授業計画通りに進むとは限らないので、この点はあらかじめご了承ください。

1. から 2. 多重回帰モデル。

主たる内容は前期のものと同様。(夏休みで回帰分析を忘れてしまった人にはその復習、後期に目覚めた人にはその概要を提示するためにもう一度、同様の内容を講義します。)

3. および 4. モデルの関数型と特殊な変数。

5. および 6. F検定と構造変化の検定。

7. および 8. 分散ラグ・モデル。

9. および 10. 不均一分散。

11. および 12. 攪乱項の系列相関。

もし時間があれば、説明変数と錯乱項の相関、同時方程式モデルについても解説する。

01 科目名	
98 科目名	経済政策論
97 科目名	経済政策
担当者	阿部正浩

#### 講義の目標

ますます重要性を増しているミクロ経済政策を主とした講義を行います。最近では経済構造改革の議論が盛んで、なかでも規制緩和をすることで日本の競争力を高めようとする考え方が流行っているようです。この講義では、こういった条件の下で規制緩和が威力を発揮するのか、逆に規制緩和しないほうが経済にとっては効率的な場合があるのか、といった問題についても考えていきます。また、経済政策を論ずるにあたっては、法律や制度の役割も重要ですから、法律や制度が経済にどのような影響を与えているのかについて考えていきます。

#### 講義概要

ミクロ経済学のおさらいをしながら、経済政策の諸問題について考えていきます。授業は各項目について二コマずつ割り振っています。

一コマ目ではその項目の理論的なフレームワークを講義します。二コマ目で、一コマ目の最後に提示する演習問題を全員で分析していきたいと思います。演習問題は、新聞やTVで一度は目にしたことのある経済問題を取り上げてみたいと思います。

#### テキスト

特にありません。

#### 参考文献

授業中に指示します。

#### 評価方法

前期：授業時間中の小論文と夏季休暇中のレポート

後期：授業時間中の小論文と筆記テスト

#### 受講者への要望

この授業はミクロ経済学の教科書の後半部分に出てくる問題を扱っていますので、ちょっと難しいかもしれませんが、出席すれば理解できるよう楽しい授業を志しますので、受講者もがんばって勉強してみてください。

#### 前期授業計画

1. 経済学的思考とは（その1）
2. 経済学的思考とは（その2）
3. 完全競争市場

4. 完全競争市場（演習）
5. 市場の失敗と政府の役割
6. 市場の失敗と政府の役割（演習）
7. 独占の理論
8. 独占の理論（演習）
9. 囚人のジレンマと寡占
10. 囚人のジレンマと寡占（演習）
11. コースの定理
12. コースの定理（演習）

#### 後期授業計画

1. プリンシパルとエージェントの関係
2. プリンシパルとエージェントの関係（演習）
3. 完備契約と不完備契約
4. 完備契約と不完備契約（演習）
5. 裁量とルール
6. 裁量とルール（演習）
7. 情報の問題
8. 情報の問題（その1）
9. 公的企業の民営化
10. 公的企業の民営化（演習）
11. 法と経済
12. まとめ

01 科目名	
98 科目名	経済開発論
97 科目名	経済開発論
担当者	千代浦 昌 道

#### 講義の目標

経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば、健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。

#### 講義概要

前期は、経済開発論の学問的位置づけ、発展途上国の現状と経済開発に関連する基礎知識の充実を図る。後期には、経済発展の理論的解明、国際経済関係における発展途上国問題の位置づけなどを中心に講義する。

#### テキスト

特に指定しない。

#### 参考文献

総務庁統計局編『2001 世界の統計』(大蔵省印刷局、2000)

西垣 昭、下村恭民『開発援助の経済学(新版)』(有斐閣、1997)

E. F. シューマッハー『スモールイズビューティフル』(講談社、1986)

C. キンドゥルバーガー、B. ヘリック『改訂 経済発展論』(好学社、1981)

M. トダロ『M. トダロの開発経済学』(国際協力出版会、1997)

TODARO, Michael P., "Economic Development; 7<sup>th</sup> edition", Addison Wesley Longman, Inc. 2000.

#### 評価方法

前期、後期の定期試験によって評価する。随時に出欠をとり成績評価の参考資料とする。

#### 受講者への要望

新聞の政治・経済記事を読む習慣をつけること。

#### 年間授業計画

1. 経済開発論の基礎的概念(経済発展の意味、経済開発論の学問的位置づけ、経済発展は望ましいか、絶対的貧困と相対的貧困、経済発展の尺度)
2. 発展途上国の基本問題(発展途上国の分類、経済発展の自然条件、歴史的背景、貧困と所得分配、人

口問題と扶養負担、失業と低雇用、産業構造、貿易構造と対外依存)

3. 発展の非経済的側面(経済発展の政治的側面、経済発展の社会的・文化的要因、発展の社会的把握)
4. 発展の非経済的側面(家族単位と経済発展、階級構造、民族・人種と経済発展、宗教と経済発展)
5. 発展の非経済的側面(開発と女性の役割、発展途上国の環境問題)
6. 先進工業国経済発展の教訓(先進工業国の工業化とその波及、イギリスの工業化、フランスの工業化)
7. 先進工業国経済発展の教訓(ドイツの工業化、アメリカの工業化、ロシアの工業化、日本の工業化)
8. 人口と経済開発(人口問題への接近、人口増加と経済発展、人口問題論争、人口政策)
9. 雇用と失業(発展途上国の雇用問題、失業と低雇用、失業とインフォーマル部門、雇用と生産性、ルイス・モデルと雇用)
10. 教育と発展(教育と人的資源、発展途上国の教育水準、教育と経済発展、教育機会と貧困)
11. 教育と発展(教育と国内移住・出生率、教育と頭脳流出・知的従属、教育と農村開発)
12. 都市と農村(発展途上国の都市と農村、農村都市間移住問題、人口都市化に起因する問題、都市のインフォーマル部門)
13. 経済発展のモデル(古典派の成長モデル、マルクスの発展段階モデル、ハロッド=ドマーの成長モデルとロストウの発展段階説)
14. 経済発展のモデル(新古典派の成長モデル、チエネリーの経験的発展モデル、プレビッシュ=シンガー・テーゼと従属理論、経済開発と構造調整)
15. 農業と開発(農業と経済発展、先進工業国の工業化と農業、発展途上国農業の停滞、農地改革と農業の発展、農業の規模と生産性、農業発展と農村開発)
16. 工業化と開発戦略(均整成長論とビッグプッシュ、不均整成長論と連関効果)
17. 貿易と発展(絶対生産費の理論と比較生産費の理論、輸入代替工業化と輸出促進工業化)
18. 貿易と発展(南北問題とプレビッシュ=シンガー・テーゼ、従属理論と新国際経済秩序)
19. 貿易と発展(自由貿易と NIES の発展、南々貿易と地域経済統合、関税効果と実効保護、為替レートと経済発展)
20. 多国籍企業と発展途上国(直接投資の利益、多国籍企業についての利害損失、新国際経済秩序と多

籍企業)

21. 国際収支と債務問題 (国際収支構造と経済発展、  
累積債務問題の原因と実態)
22. 発展途上国債務問題への国際的対応 (世銀・IMF  
の融資、債務 = 環境スワップ)
23. 国際援助と経済開発 (途上国援助の歴史と現状、  
プロジェクト援助から基本的ニーズの充足へ、参加  
型援助と民主化の波、構造調整融資と持続可能な発  
展)
24. 国際援助と経済開発 (草の根援助と NGO の役  
割、援助の功罪、これからの国際援助)

01 科目名	日本経済史 a・b (後期集中)
98 科目名	日本経済史 (後期集中)
97 科目名	日本経済史 (後期集中)
担当者	中 村 政 則

#### 講義の目標

外国人留学生から、私は何度となく次のような質問を受けてきた。「日本はなぜ明治維新で近代化に成功し、戦後は高度経済成長を達成することができたのか?」。ところがバブル経済の崩壊以後になると、「あれだけ目覚ましい発展を遂げた日本経済はなぜ沈滞してしまったのか、これから日本経済はどこへ向かっていくのか?」というように変わってきた。いずれも重要な質問であり、答えるのは難しい。本講義では、この質問に対して経済史の立場から、私なりの回答を与えたいと思う。

#### 講義概要

明治維新から戦後改革をへて高度経済成長に至る約 150 年間の歴史を講義するが、単なる概説で終わらないよう、本講義では「経済発展と民主主義」を切り口に、日本の歴史的経験を総括してみたい。

#### テキスト

中村政則『経済発展と民主主義』岩波書店、1993 年

中村政則『明治維新と戦後改革』校倉書店、1999 年

#### 参考文献

最低限、テキストは読んでほしい。その他の文献についてはその都度指示する。

#### 評価方法

学期末に筆記試験をおこなう。出席回数を成績に加味する。

#### 受講者への要望

講義を聴かないと理解は深まらない。講義中に随時質問をするので、遠慮をせず、意見を述べること。

#### 後期授業計画

1. なぜ経済発展と民主主義か
2. 明治維新の世界史的 position - イタリア、ロシア、日本の比較史
3. 明治維新の世界史的 position - イタリア、ロシア、日本の比較史
4. 明治前期における資本主義体制の構想 - 官僚の経済構想：大久保利通、大隈重信、松方正義
5. 明治前期における資本主義体制の構想 - 民間人の経済構想：徳富蘇峰、田口卯吉と福沢諭吉

6. 日本の産業革命
7. 日本資本主義確立期の政治と経済 - 日清戦後経営論
8. 帝国意識と民衆運動 - 日比谷焼打ち事件
9. 第一次世界大戦と日本経済
10. 大正デモクラシー
11. 昭和金融恐慌
12. 世界恐慌襲来 - 金解禁と井上準之助
13. 必死の代案 - 高橋是清と恐慌からの脱出
14. 15 年戦争 - 満州事変・日中戦争・太平洋戦争
15. 総力戦と戦時体制
16. 米国の対日占領政策
17. 象徴天皇制の成立
18. 敗戦と戦後改革 - 農地改革・労働改革・財閥解体
19. サンフランシスコ体制の成立から朝鮮戦争
20. 高度経済成長の開始 - 1950 年代
21. 高度経済成長の本格化 - 1960 年代
22. バブル経済の形成と崩壊 - 1980 ~ 1990 年代
23. 国際的に見た経済発展と民主主義 - 「2000 ドルの壁」仮説
24. 国際的に見た経済発展と民主主義 - 「1 万ドルのワナ」仮説

01 科目名	日本社会史 a・b
98 科目名	日本社会史
97 科目名	日本社会史
担当者	新井孝重

#### 講義の目標

13 世紀の中頃から畿内を中心にあらわれる盗賊武士団 = 悪党を、鎌倉時代の体制がもつ矛盾と関連づけて観察し、彼らの活動が客観的にはたした歴史的意味をさぐる。

#### 講義概要

鎌倉体制の崩壊とそれにつづく建武政権・南北朝の内乱の過程を民衆の視点から詳論する。北条得宗専制の体制は、地方農村にいかなる重圧を加えていたのか、その体制に反抗する悪党と呼ばれる集団は、いかなる人びとであったのか、建武政権はどのような政策をとったのか、そしてこの政権に対する武士の対応はどのようなものであったか、さらに南北朝内乱期の民衆の武力がいかなる特質をもっていたのか、などのことがらを見る。

#### テキスト

新井孝重『中世悪党の研究』吉川弘文館

#### 参考文献

網野善彦『蒙古襲来』小学館、日本の歴史

佐藤進一『南北朝の動乱』中央公論、日本の歴史（中公文庫にあり）

#### 評価方法

前期：評価は、前期の試験成績と出席状況をもってする。

後期：評価は、後期の試験成績と出席状況をもってする。

#### 受講者への要望

30 分以上の遅刻は出席と認めない。

紳士的な態度で聴いてほしい。（私語・飲み物は遠慮してほしい）

#### 前期授業計画

1. 東大寺荘園の成立 平安時代の堂舎修造事業と財源としての荘園の関係をみる。

2. 東大寺荘園の成立 堂舎修造過程でみられる寺内権力の再編と荘園制の確立をみる。

#### 大衆勢力の勃興

3. 東大寺荘園の成立 治承4年の東大寺焼討ちとその後の堂舎再建造営のうごきを追う。

4. 東大寺荘園の成立 大勧進重源の蓄積せる財を寺家はその内部に組み込む過程を見る。

この組み込みを画期に東大寺荘園制は完成する。

5. 荘園制下の在地構造はいかなるものか。(1)中世成  
立期荘園制の概容をながめる。

6. 荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに名主 と名田 に対する権力の統制装置を「没官」を通じて考える。

7. 荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに下司・公文など 荘官層のかかえもつ矛盾を剔出する。

8. 荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに 荘園 を構成する寺院権力の在地とのかかわり方をみる。

9. 幕府権力の動態(1)鎌倉幕府の成立と將軍専制のありようを概観する。また、地方の行政権力としての守護、地頭を発生経路と役割の面からみる。

10. 幕府権力の動態(2)鎌倉幕府の内部における執権と評定制にみられる権力の安定性と、武家政治の充実をみる。

11. 幕府権力の動態(3)鎌倉幕府の得宗家の専制化と権力の不安定化を、モンゴル襲来、御家人窮乏、霜月騒動を通じてながめる。

12. 悪党の跳梁は、鎌倉時代政治史に何をもたらしたか。前期授業の総括を兼ねて北条得宗専制と公家、寺社の伝統的・門閥的支配に反抗する悪党を観る。

#### 後期授業計画

1. 南北朝内乱期悪党の群像(1)伊賀国黒田荘悪党金王兵衛盛俊の動きを追う。

2. 南北朝内乱期悪党の群像(2)伯耆の土豪・武装商人であった名和長年の動きを追う。

3. 南北朝内乱期悪党の群像(3)河内の土豪武装芸能民であった楠木正成の動きを追う。

4. 建武政権の崩壊(1)後醍醐天皇はいかなる権力の樹立をめざしたか、理念と現実をみる。

5. 建武政権の崩壊(2)政権を崩壊にみちびいた足利尊氏・直義の動きを観察する東国足利荘を基盤として成長した豪族領主足利氏を観る。

6. 建武政権の崩壊(3)南北両朝の大分裂、足利族内抗争(観応の擾乱)の政治過程を通観する。

7. 内乱を通じて何が変わったか。(1)変わる戦争の形態、騎馬から徒歩立の戦闘、悪党の傭兵化、足軽の発生。

8. 内乱を通じて何が変わったか。(2)変わる村の生活、旧名体制がくずれて、新たな小百姓らをつむぐむ惣村が形成された。

9. 内乱を通じて何が変わったか。(3)民衆の発言力の増大。荘園にくらす農民たちは、みずからの結合組織をバックに、さまざまな戦いを開始する。
10. バサラと芸能(1) 内乱期の文化表現にバサラというのがある。バサラ大名の佐々木道誉、土岐頼遠の行動様式を通じてバサラについて考える。
11. バサラと芸能(2) 中世を貫徹する「狂」の表現(バサラをも通底する)を、“悪”なるものを基礎にして考える。寺院大衆の延年、猿楽などを観察。
12. 中世の終焉。中世的な世界を、地侍の一揆体制という形で実現していたかつての悪党の巢窟伊賀国は、近世の先駆的権力織田信長に滅ぼされた。



01 科目名	西洋経済史 a・b
98 科目名	西洋経済史
97 科目名	西洋経済史
担当者	御園生 眞

#### 講義の目標

18 世紀以降におけるヨーロッパの産業革命・工業化の過程を分析し、産業革命・工業化の前提条件、具体的展開過程とその特徴、社会経済的結果などの問題について考察する。

#### 講義概要

前期：イギリス産業革命を中心テーマとして講義する。産業革命の前提条件、技術革新の要因と展開過程などについて分析する。

後期：ヨーロッパ大陸諸国の産業革命・工業化について講義する。イギリス産業革命と比較しながら分析を進め、大陸での工業化の特徴について考察する。

#### 参考文献

石坂昭雄・船山榮一・宮野啓二・諸田實『新版西洋経済史』有斐閣、1986 年。

その他の参考文献・参考図書については最初の講義で指示する。

#### 評価方法

出席および試験（前期・後期の計 2 回）の成績で評価する。比率は出席 50%、試験 50%。出席回数が少ない場合は単位が認定されないので注意すること。

#### 受講者への要望

講義中の飲食は禁止されていますので、マナーを守ってください。講義内容や評価方法は、変更される場合があります。

#### 前期授業計画

1. 序論とガイダンス
2. 産業革命とはなにか
3. (続)
4. 産業革命の前提条件
5. (続)
6. イギリス産業革命 1 前提条件の成熟
7. (続)
8. 2 展開過程
9. (続)
10. (続)
11. 3 特質と社会経済的結果

12. (続)

#### 後期授業計画

1. ヨーロッパ大陸諸国の産業革命・工業化
  - 1 前提条件の形成
2. (続)
3. (続)
4. 2 イギリス産業革命の波及
5. (続)
6. 3 ドイツ産業革命
7. (続)
8. (続)
9. 4 その他諸国の産業革命・工業化
10. (続)
11. (続)
12. まとめと展望

01 科目名	
98 科目名	国際経済論
97 科目名	国際経済論
担当者	益山光央

#### 講義の目標

この講義では、国際経済を理解するために最低限必要と思われる基礎的な事柄を学びます。また、国際金融、経済開発論などの関連分野を効率よく学ぶために必要な諸概念を学ぶという側面もあります。前期は国際貿易とその関連領域を扱います。後期は主に固定相場制と変動相場制という国際収支調整メカニズムが中心となります。

#### 講義概要

前期の中心となるテーマは、比較優位説、貿易政策、国際生産要素移動です。後期は開放経済下の所得決定メカニズムを講義しますが、外国為替相場、財政・金融政策が中心的なテーマです。講義の形式は通常の講義と同じですが、質問、コメントは歓迎します。国際経済学の守備範囲は大変に広く、複雑です。1年24回の講義で国際経済学の全てを学び、理解することは不可能です。したがって講義で学ぶのは最低限必要な内容であると認識して下さい。

#### テキスト

テキストとして下記を指定しています。テキストは講義に必要な最低限の内容をカバーするものです。したがって、その内容を予習、復習でマスターしてください。講義中にテキストの特定ページに言及することはありません。あくまでも講義前に学ぶべき最低限の知識と心得てください。

仙頭佳樹「あなたにもわかる国際経済学」多賀出版

#### 参考文献

ホームページにリストアップしています。講義中に随時指示します。

#### 評価方法

レポート 25%、質問・コメント 10%、出席 5%、年度末試験 60%

#### 受講者への要望

国際貿易理論、生産要素移動論はミクロ経済学の応用であり、国際収支調整メカニズムや国際資本移動の分析はマクロ経済学の応用です。受講生はミクロ経済学やマクロ経済学を履修済みか、あるいは基礎的な理解を持っていることを希望します。もちろん十分な

予習、復習が必要です。

#### 前期授業計画

##### 第1部 国際貿易

##### 第1章 リカード的貿易理論

第1回 1. 比較生産費の数値例

第2回 2. 比較優位と特化パターン

第2回 3. 貿易利益

##### 第2章 要素比率理論

第3回 1. 経済学的準備

第4回 2. リプチンスキー定理

第5回 3. ストルパー・サミュエルソン定理

第6回 4. ヘクシャー オリン定理

##### 第3章 国際価格の決定

第7回 1. オフファーカーブ

第8回 2. 交易条件

第8回 3. 国際均衡

##### 第4章 国際生産要素移動

第9回 1. 国際貿易と生産要素移動

第9回 2. 国際資本移動

第9回 3. 国際労働移動・移民、外国人労働者

##### 第5章 貿易政策

第10回 1. 関税

第10回 2. 最適関税

第11回 3. 輸入数量制限

第11回 4. 輸出自主規制

#### 後期授業計画

##### 第2部 国際収支調整メカニズム

##### 第6章 外国為替市場

第12、13回 1. 国際収支勘定

第14、15回 2. 外国為替相場

##### 第7章 国際収支調整メカニズム

第16、17回 価格調整

第18、19回 所得調整

##### 第8章 経済政策と資本移動

第20回 1. 財政と金融政策・完全資本移動

第21回 2. 財政・金融政策・資本不移動

##### 第9章 トピックス

第22回 1. 国際金融市場（予定）

第23回 2. 経済統合・関税同盟、自由貿易圏（予定）

第24回 質問・復習

01 科目名	
98 科目名	国際金融論
97 科目名	国際金融論
担当者	山本美樹子

#### 講義の目標

金融とはお金を融通しあうことである。これは国内であっても、国際間であっても同じことである。が、国際間では通貨単位が異なるために国内金融では発生しない問題が生じてくる。

本講義では国際金融取引の基礎となる事柄についての説明、国際金融取引になくてはならない為替レートの決定についての理論的な考察、さらにこの為替レートを操作することによる開放経済での政策問題について考えていく。

国際金融取引は昨今のIT技術の進歩に伴い、日々進化している。そのような点についても取り上げていきたい。

#### 講義概要

これから国際金融を学ぶ上で最低限覚えておいてほしい事柄について、たとえば為替レートとは何か、どのようにして決定するのか、為替投機とは何か、貿易のヘッジングとは？といった点についての説明をはじめにしていく。

そのうえで応用的な事柄として、開放マクロ経済理論の基礎、日々進化しつづける国際金融商品について、さらに3年目を迎えたヨーロッパの通貨統合の成果、問題店頭について触れていく。21世紀にはいり本格的な金融ビックバンを迎える日本にとってあるべき通貨政策の姿について考えていきたい。

#### テキスト

特に定めない

#### 参考文献

講義の際に指示する

#### 評価方法

後期の試験

夏休みのレポート

#### 受講者への要望

出席をきちんとすること

#### 年間授業計画

講義をはじめに当たって

#### 第一部 国際収支

##### 第一章 国際収支とは何か

##### 第一節 国際収支表

##### 第二節 経常収支とは

##### 第三節 経常収支の金融的メカニズム

##### 第四節 経常収支の変動メカニズム

#### 第二部 外国為替取引と為替レート

##### 第二章 外国為替取引と為替レート

##### 第一節 外国為替市場と為替レート

##### 第二節 為替リスクとヘッジング

(外国為替法改正による企業の外貨決済、ネットिंगについてもふれる)

##### 第三節 為替投機

##### 第四節 政府の外国為替市場への介入

##### 第五節 新外為法がわれわれの日々の生活に与える影響について

個人消費、企業の決済、開国為替取引銀行のあるべき姿について

#### 第三章 為替レートの決定と変動の理論

##### 第一節 購買力平価説

##### 第二節 フローアプローチ Sアセットアプローチ

#### 第四章 固定相場制

##### 第一節 金本位制とIMFのブレトンウッズ体制について

##### 第二節 固定相場制のメカニズム

##### 第三節 世界の通貨制度

##### 第四節 欧州新通貨制度とEUROについて

#### 第三部 開放マクロ経済政策

##### 第五章 開放マクロ経済政策

##### 第五節 外国貿易乗数の理論

##### 第六節 固定相場制での開放マクロ経済政策

ティンバーゲンの理論と国際収支均衡曲線について

##### 第七節 変動相場制での開放マクロ経済政策

##### 第八節 政策手段と通貨制度について

#### 第四部 国際資本移動の拡大

##### 第六章 国際金融取引拡大の背景

##### 第九節 国際取引とは何か

##### 第十節 国際資本移動とは何か

##### 第十一節 国際投資と為替レート

##### 第十二節 外国為替のスワップ取引の具体的な形態

##### 第十三節 オプション取引

##### 第十四節 さまざまな国際金融商品とその危険性について

#### 第七章 途上国の債務不履行問題、アジアの通貨危機

##### 第一節 発展途上国の累積債務不履行問題

##### 第二節 90年代後期のアジアの通貨危機

第三節 通貨危機と投機アタックについての理論  
的考察

第五部 まとめ

01 科目名	日本経済論 a・b
98 科目名	日本経済論
97 科目名	日本経済論
担当者	波 形 昭 一

#### 講義の目標

「日本経済論」と銘打った書物は沢山あるが、学生諸君に推奨できるものは意外と少ない。もちろん、良書がないというのではない。だが、それらの多くは概して現状分析の専門書であり、難解にすぎるのである。「日本経済論」としては、当然それでよいのだが、どうも学生諸君には不向きのような。若い諸君は未来志向が強い反面、歴史知識に乏しいためか、現状分析の意味そのものがよく理解できないように見うけられる。こうした観点から、本講義では、日本経済の歴史と現状の両者をバランスよく「総合」することを目指したい。

#### 講義概要

【前期】日本経済の近代化過程における資本主義的システムの成立、およびその動揺・再建、さらに戦時統制経済、敗戦後の経済復興へと展開した、いわば歴史的側面を中心に講義する。

【後期】1950年代半ばに発進した高度経済成長とその成長システム、さらに70年代における高度成長の終焉、80年代後半のバブル経済から90年代の「失われた10年」に言及し、日本経済の現状と問題点を論じてみたい。

#### テキスト

統計資料等のプリントを配布して授業を進める。

#### 参考文献

竹内宏著「昭和経済史」筑摩書房、1988年

橋本寿朗ほか著「現代日本経済」有斐閣、1998年

#### 評価方法

前期： 定期試験の成績で評価する、競争原理に基づく相対評価を原則とする、成績評価は4段階(A, B, C, F)に分け、受験者の約25%を不可(F)とする。

後期：前期と同じ

#### 受講者への要望

講義中の「私語」と「飲食」は固く禁ずる。大学の教室内はサッカー場ではない。

#### 前期授業計画

1. 日本経済の近代化と産業・貿易構造

2. 日本経済の近代化と金本位制の成立
3. 恐慌時代の到来、そして金本位制崩壊へ
4. 井上財政から高橋財政への転換
5. 高橋財政の経済学的意味
6. 高橋財政下の経済発展
7. 忍び寄る戦時統制経済
8. 戦時統制経済の実態
9. GHQの対日占領政策と4大経済改革
10. 戦後復興を目指す生産力拡大策
11. ドッジ・ラインとシャープ勧告
12. 朝鮮特需と戦後復興からの脱皮

#### 後期授業計画

1. 高度成長時代の到来
2. 高度成長の構造
3. 大衆消費社会の歴史的意义
4. 高度成長の精神的土台
5. 高度成長の終焉と経済構造の転換
6. レーガノミックス
7. プラザ合意と対外経済構造の激変
8. バブル経済の要因と構造
9. バブル経済の崩壊と「複合不況」
10. 金融システムの動揺
11. 財政システムの動揺
12. 迫られるIT革命への構造転換

01 科目名	アメリカ経済論 a・b
98 科目名	北アメリカ経済論
97 科目名	地域経済論(1)
担当者	本田浩邦

#### 講義の目標

1990年代のアメリカの持続的景気拡大は、「ニューエコノミー」とよばれるアメリカ経済に対する新しい見方を生みだしました。失業率と物価上昇率は低水準で推移し、新しい情報技術産業を中心に産業の競争力が回復し、さらに連邦財政は黒字に転化しました。世界中の資金を巻き込んだ株式市場の活況は、投機的バブルに対する懸念を生みつつも持続しています。過去と比べてアメリカ経済のなにがどのように変化したのか、その国民生活への影響はなにか、また日本や世界にとっての意義はなにか この講義では、こうしたアメリカ経済の現代的な争点をニューディール以来の長期的な視野に位置づけ、歴史と理論の両面から検討します。専門的な知識がない方でも、基本的なことから説明しますので受講してください。

#### 講義概要

現代アメリカ経済の展開を歴史的にフォローし、各々の時代の理論政策上の問題を説明するという形式を取ります。前期に1920年代から70年代まで、後期に80年代以降を扱います。

#### テキスト

年度の初めに前後期をつうじたレジメ集を配布します。

#### 参考文献

平井規之他『概説アメリカ経済』有斐閣  
その他、講義中に適宜指定します。

#### 評価方法

前期：前期定期試験  
後期：後期定期試験

#### 受講者への要望

専門的な予備知識に自信のない人は参考文献と合わせて毎年出版されている日本経済新聞社編『経済新語辞典』を活用してください。

#### 前期授業計画

1. はじめに 講義の構成 / すすめ方と注意事項 / 評価方法 / 参考文献
2. ニューディールと第2次大戦(1) 20年代の

ブームと大恐慌の発生

3. ニューディールと第2次大戦(2) ニューディールの登場
4. ニューディールと第2次大戦(3) 29年恐慌論争
5. ニューディールと第2次大戦(4) 軍事経済下のアメリカ
6. 冷戦時代の幕開け(1) 戦後世界体制の中のアメリカ
7. 冷戦時代の幕開け(2) 「ゆたかな社会」
8. 資本主義の黄金時代とその終焉(1) 60年代
9. 資本主義の黄金時代とその終焉(2) 「ベトナムの衝撃」
10. 安定化政策をめぐる論争(1) ケインジアンとマネタリズム
11. 安定化政策をめぐる論争(2) 旧ケインジアンと新ケインジアン
12. 安定化政策をめぐる論争(3) 物価安定と景気後退

#### 後期授業計画

1. レーガノミックスの時代(1) 「大きな政府の時代は終わった」
2. レーガノミックスの時代(2) 財政政策と金融政策
3. レーガノミックスの時代(3) 「双子の赤字」・ブラザ合意・途上国累積債務問題
4. 1990年代のマクロ経済 概観
5. 経済格差の拡大(1) 富と貧困の現状を見る
6. 経済格差の拡大(2) それをめぐる論争
7. 労働市場の変化と人種・移民問題
8. 産業の「空洞化」と「再工業化」(1) 産業再編と国際競争力
9. 産業の「空洞化」と「再工業化」(2) 主要産業の再編
10. マクロ経済政策(1) 財政赤字はどのようにしてなくなったか
11. マクロ経済政策(2) 金融市場と株式市場
12. まとめにかえて 「ニューエコノミー」と日本にとっての含意

01 科目名	ラテンアメリカ経済論 a・b
98 科目名	ラテンアメリカ経済論
97 科目名	地域経済論 ( 6 )
担当者	松本栄次

#### 講義の目標

日本経済と深いつながりをもつラテンアメリカ諸国および諸地域の経済事情と特性を、自然環境の基盤、歴史的発展過程、政治的社会的特性などの分析の上にならって考察する。また、この地域の経済の将来展望、日本との関連についても扱う。

#### 講義概要

前期にはラテンアメリカ経済の基盤をなす、自然環境、歴史的経緯、社会と住民などについて概観したうえ、変革期にあるラテンアメリカ経済の現状と特性との関連を説明する。後期には、とくにラテンアメリカ経済の一つの中核をなすブラジルをとりあげ、その特異な産業経済の発展史および諸地域における経済活動の特質、経済発展の現状と将来性、日本との関連などについて述べる。

#### テキスト

使用しない

#### 参考文献

小池洋一・西島章次編「ラテンアメリカの経済」新評論社、1993年  
 加茂雄三ほか編「ラテン・アメリカ事典」1996年版  
 A・ギルバート/山本正三訳「ラテンアメリカ入門」二宮書店、1996年  
 湯川摂子「ラテンアメリカ経済論」中央経済社、1999年

#### 評価方法

定期試験の成績に出席状況を加味して行う。

#### 受講者への要望

地図帳を持参することが望ましい。

#### 前期授業計画

1. ラテンアメリカの地域と経済の特徴
2. ラテンアメリカ経済の自然的基盤 ( 1 ) 土地条件と資源・災害
3. ラテンアメリカ経済の自然的基盤 ( 2 ) 農牧林業環境
4. ラテンアメリカ経済の歴史的背景 ( 1 ) 先住民文化とその影響
5. ラテンアメリカ経済の歴史的背景 ( 2 ) ヨーロッパ

パ人による植民地の開発

6. ラテンアメリカ経済の歴史的背景 ( 3 ) 住民と社会の形成
7. ラテンアメリカ経済の発展過程 ( 1 ) 植民地期の経済
8. ラテンアメリカ経済の発展過程 ( 2 ) 輸出経済期の経済
9. ラテンアメリカ経済の発展過程 ( 3 ) 輸入代替工業化期の経済
10. 現代ラテンアメリカ経済の構造
11. 世界経済の変化とラテンアメリカ経済
12. ラテンアメリカ諸国の経済政策と地域開発

#### 後期授業計画

1. ブラジル経済の地理的基盤
2. ブラジル経済の歴史的発展過程
3. ブラジル農牧業の地域性
4. ブラジルにおける資源・エネルギー開発
5. ブラジルにおける工業化の進展
6. ブラジル経済の地域格差 ( 1 ) 先進経済地域 - 南東部・南部地方の経済活動
7. ブラジル経済の地域格差 ( 2 ) 開発停滞地域 - 東北部地方の経済活動
8. ブラジル経済の地域格差 ( 3 ) 開発途上地域 - 北部・中西部地方の経済活動
9. ブラジルの地域開発と環境問題
10. 構造調整下のブラジル経済
11. ラテンアメリカ経済と日本 ( 1 ) 日系人の経済活動
12. ラテンアメリカ経済と日本 ( 2 ) 貿易、企業進出、経済援助

01 科目名	西ヨーロッパ経済論 a・b
98 科目名	西ヨーロッパ経済論
97 科目名	地域経済論 ( 2 )
担当者	大 西 健 夫

#### 講義の目標

西ヨーロッパは、アメリカ、アジアとともに世界経済における三極を形成している。西ヨーロッパ経済の中核をなすのはEUであり、戦後の石炭鉄鋼共同体から地域経済共同体へと発展し、現在は通貨共同体のみならず外交・安全保障を共通政策とする政治共同体への途を進んでいる。EUの生成・発展、その構造と機能を明らかにする。

#### 講義概要

前期においては、戦後世界の経済・政治秩序形成のなかでヨーロッパ統合が進んだ背景とその統合過程を分析する。

後期においては、地域共同体としてのEUの構造、制度、機能を解説し、EUの統合が経済と市民生活にどのような役割を演じているかを説明する。

#### テキスト

大西・岸上編「EU統合の系譜」、早稲田大学出版部

#### 参考文献

中沢靖史「図解EU大欧州のしくみ」、中経出版

#### 評価方法

前期と後期に論文問題形式での期末試験を実施し、その成績で評価する。

#### 受講者への要望

経済原論と国際経済の授業を履修していることが望ましい。

#### 前期授業計画

1. 戦後国際政治秩序の形成
2. 戦後国際経済秩序の形成
3. GATTからWTOへ
4. GATTにおける地域経済共同体
5. 地域統合の諸段階
6. ヨーロッパ統合の理念
7. 冷戦構造下のヨーロッパ経済
8. 石炭鉄鋼共同体
9. 経済共同体
10. 関税同盟
11. ECからEUへ
12. EUの拡大

#### 後期授業計画

1. EU, NAFTA, AFTA
2. EUの連邦主義
3. EUの制度(1)
4. EUの制度(2)
5. 域内貿易
6. 統合市場の完成
7. マーストリヒト条約
8. 通貨統合
9. 共通政策(1)
10. 共通政策(2)
11. 共通政策(3)
12. 市民のヨーロッパ



01 科目名	東アジア・中国経済論 a・b
98 科目名	東アジア・中国経済論
97 科目名	
担当者	全 載 旭

#### 講義の目標

今日の世界経済において、東アジアの重みが増え、ますます増している。なかでも、中国の動向は、21 世紀の世界経済の新たな秩序の形成を左右する最大のファクターの 1 つである。中国の WTO 加盟は、短期的には、国有企業の倒産、失業の増加など、否定的な影響を国内に及ぼすであろうが、長期的には産業構造の高度化、競争力の強化、市場開放の拡大などによって改革・開放が加速化され、ひいては経済成長を促進するものと思われる。この授業では、東アジア全体に目を配りつつ、中国経済を中心に考察する。日本もまた東アジアにあって、この地域の諸国と相互に密接な連関をもっている。本科目の履修を通じて、この地域のあり方に関心を向けてもらいたいと思う。

#### 講義概要

下記のテキストを用い、東アジアの中での中国経済の歴史、発展可能性などを学ぶ。中国において 1970 年代末から始まった改革・開放を中心に講義を進めて行きたい。

必要に応じて新たなテーマについて議論する。

#### テキスト

渡辺利夫、加藤弘之、白砂堤津耶、文大宇『図説 [第 2 版] 中国経済』日本評論社、1999 年

#### 参考文献

渡辺利夫、小島朋之、杜進、高原明生『毛沢東、鄧小平そして江沢民』東洋経済新報社、2000 年

#### 評価方法

前期：筆記試験を行う。

後期：筆記試験を行う。

#### 受講者への要望

中国の経済システムは通常の資本主義国とは異なるところがあるので、中国経済の状況を実態にそくして理解するためには、テキスト及び参考文献を事前に読んで授業に出席してほしい。

#### 前期授業計画

1. 中国及び中国人
2. 改革・開放以前における中国の計画経済

3. 改革・開放以降における中国経済の発展
4. 人口動態 (1) 人口移動のコントロール
5. 人口動態 (2) 人口流動化に伴う都市問題
6. 農業発展 (1) 農業部門における生産性の向上
7. 農業発展 (2) 人民公社の解体
8. 郷鎮企業 (1) 社隊企業との違い
9. 郷鎮企業 (2) 農村工業化
10. 工業発展 (1) 重工業育成政策
11. 工業発展 (2) 非国有企業の発展
12. 中国の WTO 加盟と東アジアの経済協力

#### 後期授業計画

1. エネルギーと交通・運輸 インフラストラクチャ部門のボトルネック
2. 財政と金融 (1) 国家財政の構造
3. 財政と金融 (2) 金融改革
4. 地域発展 (1) 不均衡成長理論
5. 地域発展 (2) 西部大開発戦略
6. 貧困と環境 絶対的貧困層の減少と環境破壊
7. 貿易と直接投資 (1) 輸出・輸入構造の変化
8. 貿易と直接投資 (2) 直接投資の構造
9. 華南経済圏 (1) 台湾
10. 華南経済圏 (2) 香港
11. 華南経済圏 (3) 中国の広東省とマカオ
12. 21 世紀における中国経済の行方

01 科目名	オセアニア経済論 a・b
98 科目名	東南アジア・オセアニア経済論
97 科目名	地域経済論 ( 4 )
担当者	森 健

#### 講義の目標

世界の国は、それぞれ固有の自然条件、歴史、種族構成、文化を持つ。したがって、各国の経済活動もそれぞれの固有性を反映し、多様な形態を示す。しかし、このような多様な形態を持つ経済活動も、深く観察すれば、その根本には各国に共通する普遍的な論理が働いていることが確認できる場合が多い。この講義では、日本経済との結びつきが強く、また、この 2 - 30 年の間に自由貿易主義と多文化主義社会化の政策を急速に進めてきたオーストラリアを取り上げ、この国がかかる政策変更を採用するに至った要因を分析する。

#### 講義概要

近年、オーストラリアは極めて大胆な政策転換を行った。現在、同国は、アジア太平洋経済協力会議 (APEC) の結成を主唱し、自国およびこの地域の貿易・投資の自由化に熱心な国として、また、アジアの難民、移民、留学生を多数受け入れ多様な文化の維持、発展に努める国として知られる。しかし、同国は、かつては、名だたる保護貿易主義国家であり、有色人種の移民を排除する国であった。オーストラリアがこのような政策変換を進めた理由は何か。新政策はどのような変化をこの国に及ぼしているのか。この講義では、上記のような問題を様々な切り口 (自然条件、歴史的条件、文化、政治・社会体制、経済条件など) から解明する。

#### テキスト

竹田いさみ、森健 (共編)「オーストラリア入門」、東京大学出版会、1998 年。および、これを補完するプリント (特に前期)。

#### 参考文献

・ジェフリー・ブレイニー著、加藤めぐみ・鎌田真弓訳、「オーストラリア歴史物語」、明石書店、2000 年。

・関根政美著、「多文化主義社会の到来」、朝日新聞社、2000 年。

・竹田いさみ著、「物語オーストラリア」、中公新書、中央公論新社、2000 年。

#### 評価方法

前期：定期試験

後期：定期試験

#### 受講者への要望

他の国の経験を知ることで、社会現象を多面的に、相対的に見る眼が養われること (複眼的思考) を期待しています。

#### 前期授業計画

1. ビデオ等を使ったイントロダクション
2. 講義内容の総括的な説明
3. 歴史 (1): 囚人労働とステープル産業としての羊毛産業
4. 歴史 (2): 流刑制度をめぐる問題
5. 歴史 (3): ゴールド・ラッシュとその影響
6. 歴史 (4): 仲間主義、平等主義、綱領なき社会主義
7. 歴史 (5): 1860 年代から 1880 年代にかけての長期高度成長
8. 歴史 (6): 1890 年代の恐慌と連邦結成
9. 歴史 (7): 保護貿易主義と中央集権的賃金決定制度
10. 歴史 (8): 経済ナショナリズムの形成
11. 文化 (1): エトス、アイデンティティ、アボリジニ
12. 文化 (2): ヒーロー、文学テーマ

#### 後期授業計画

1. 社会 (1): 多文化社会化
2. 社会 (2): 多文化社会化の悩み (1)
3. 社会 (3): 多文化社会化の悩み (2)
4. 社会 (4): 労働、社会制度
5. 政治 (1): 政治構造と制度; 80 年代以前の基本政策
6. 政治 (2): 80 年代以降の政策変更
7. 外交・安全保障 (1): 冷戦時代
8. 外交・安全保障 (2): 冷戦末期以降
9. 経済構造の特色: 輸入代替工業化とオランダ病
10. 経済政策
11. 貿易と投資
12. 日豪経済関係

01 科目名	アフリカ経済論 a・b
98 科目名	中東・アフリカ経済論
97 科目名	地域経済論 (5)
担当者	千代浦 昌 道

#### 講義の目標

世界の中でも、現在、経済的にもっとも停滞しているとされるアフリカ地域を、経済面のみならず政治・社会・文化面からも多角的に捉えて、まずこの地域に関する正確な知識によって歴史と現状を十分に把握し正しく理解した後、経済問題を中心とする現在のさまざまな問題の解決へ向けて、世界の国々に、とりわけ日本などを中心とする先進諸国がどのような関わりを持つことができ、またどのような関わりを持つのが望ましいかを探る。

#### 講義概要

アフリカの経済論 a ではアフリカ大陸の全体像、アフリカ経済の歴史的背景に次いで、第二次世界大戦後に独立を迎えたアフリカ諸国の経済発展と経済の現状について講義する。アフリカ諸国の経済問題と表裏一体をなす近代の複雑な国際政治関係、国内政治、社会的文化的諸条件についても、できるだけ触れる。

アフリカ経済論 b では、アフリカ地域についての最重要課題である食糧・人口・難民・環境等についてテーマ別に講義する。日本をはじめとする先進諸国の対アフリカ支援の現状についても述べる。アフリカ各国別の詳しい経済事情についてはあまり多くの時間を割くことはできないが、南ア、マダガスカル、カメルーン、ブルキナファソ、アルジェリアの 5 カ国を取り上げる。

a、bとも、ビデオ映像、OHP、スライド、PC などを使った多角的・立体的な講義を行う。

#### テキスト

小田英郎他著『アフリカ(第2版)』(国際情勢ベースシックスシリーズ) 自由国民社、1999。

#### 参考文献

雑誌『月刊アフリカ』(アフリカ協会)

雑誌『アフリカレポート』(アジア経済研究所)

伊谷純一郎・小田英郎・川田順造・田中二郎・米山俊直共同監修『アフリカを知る事典(改訂版)』(平凡社、1999)

『アフリカ現代史 ~ 』(山川出版社、1978 ~

1982)

#### 評価方法

セメスター末の定期試験による。

#### 受講者への要望

アフリカならびに一般に発展途上国の経済社会問題に関する新聞や雑誌の記事を見逃さないこと。

#### 年間授業計画

##### アフリカ経済論 a

1. 授業の進め方、テキスト・参考文献の紹介、成績評価方法の説明

アフリカ概観 (アフリカと世界、世界史におけるアフリカ、現在アフリカの国々)

2. アフリカ概観 (アフリカの気候/地理/天然資源/住民と文化/宗教/民族と言語)

3. アフリカ概観 (アフリカの地域区分/現在のアフリカ諸国/政治情勢/地域統合の現状)

4. アフリカ概観 (アフリカの経済展開/農業/鉱工業/貿易/外国人投資/旧植民地宗主国資本)

5. アフリカ経済の歴史的背景 (15世紀以前のアフリカ: 先史時代、諸民族の移動、アフリカ諸国王の興亡、アラブ商人の活躍)

6. アフリカ経済の歴史的背景 (奴隷貿易時代のアフリカ: 大航海時代と重商主義、大西洋三角貿易、奴隷貿易がアフリカに遺したものの)

7. アフリカ経済の歴史的背景 (アフリカの植民地化: フランス・イギリス・ベルギー・ポルトガルの植民地と植民地政策)

8. アフリカ経済の歴史的背景 (アフリカの独立と国家建設: 独立のさまざまな形、多民族モザイク国家の形成、開発独裁の問題)

9. 現在アフリカの経済 (国際政治経済の変遷とアフリカ: アフリカ社会主義の実験と結末、国際援助と経済開発、石油危機の影響)

10. 現在アフリカの経済 (アフリカの構造調整: アフリカの債務問題、世銀・IMF のアフリカ経済支援、アフリカ諸国の構造調整計画とその成果)

11. 現在アフリカの経済 (アフリカ諸国の民主化と経済開発: 南アフリカ共和国、エチオピア、カメルーン、ケニア、コートジボアール、ザイール、ザンビア、ブルキナファソ、ベナン、マダガスカルなど)

12. 現在アフリカの経済 (アフリカの政治・経済の現状と将来)

##### アフリカ経済論 b

1. アフリカの食糧問題 (アフリカの食糧生産潜在能力、農業と気象条件、植民地農業と一次産品輸出特化、輸入代替工業化と農業、食糧価格管理と食糧問

題、環境問題と農業、食糧価格管理と食糧問題、食糧援助の弊害、食糧輸入問題)

2. アフリカの人口問題 ( 貧困と人口、出生率と従属人口比率、幼児死亡率、人口増加と衛生・医療問題、文化・教育と人口問題、女性の社会的地位と出生率)
3. アフリカの都市問題 ( 人口の都市化現象、農村と都市、都市のスラム化とインフォーマル部門の拡大、政治権力と都市住民、都市公害)
4. アフリカの政治と難民問題 ( ルワンダ、エチオピア、スーダン、ソマリア、エリトリア、リベリア、シエラレオネなど)
5. アフリカの環境問題 ( 干ばつ・砂漠化の原因、木材輸出と森林乱伐、都市公害)
6. 対アフリカ国際支援の現状 ( DAC 諸国の援助、国際諸機関の援助、NGO 活動)
7. アフリカ経済と日本 ( 貿易、援助、NGO、直接投資)
8. アフリカ各国の経済 ( 南アフリカ共和国)
9. アフリカ各国の経済 ( マダガスカル)
10. アフリカ各国の経済 ( カメルーン)
11. アフリカ各国の経済 ( ブルキナファソ)
12. アフリカ各国の経済 ( アルジェリア)

01 科目名	中東経済論 a・b
98 科目名	
97 科目名	
担当者	平井文子

#### 講義の目標

イスラエル・パレスチナ紛争、石油問題、イスラーム原理主義運動などで国際政治・経済の焦点になっている中東地域の政治・経済・社会・文化を包括的にとらえ、グローバル化・グローバリゼーション下の中東経済開発の実態と方向性を探る。

#### 講義概要

まず、中東の概念、歴史、社会、文化の特徴を講義する。中東各国の政治経済事情、パレスチナ問題、中東石油、イスラーム復興、中東の開発といった個別テーマをより深く追求する。出来る限りビデオを利用する。

#### テキスト

武藤幸治『中東経済概説』、中東経済研究所

#### 参考文献

永井道雄監修、板垣雄三編『新・中東ハンドブック』、講談社

栗田禎子『<南>から見た世界04 中東』、大月書店

板垣雄三編『中東アナリシス』、第三書館

平井文子「中東の開発」、土生長穂編『開発とグローバリゼーション』、柏書房

#### 評価方法

前期：定期試験

後期：定期試験

#### 受講者への要望

メディアに取り上げられる中東での出来事を注意して見聞きする事

#### 前期授業計画

1. 講義概要についての説明  
中東地域の地理と風土
2. 中東の歴史 1  
古代～中世
3. 中東の歴史 2  
植民地化～独立
4. 中東各国の政治経済事情（各国事情） 1  
エジプト、トルコ、スーダン
5. 各国事情 2

#### 湾岸産油諸国

6. 各国事情 3  
シリア、ヨルダン、レバノン
7. 各国事情 4  
イラク、イラン、アフガニスタン
8. 各国事情 5  
マグレブ諸国、中央アジア共和国
9. パレスチナ問題 1  
その起源～イスラエル建国
10. パレスチナ問題 2  
第3次中東戦争～レバノン戦争
11. パレスチナ問題 3  
インティファダ～湾岸戦争
12. パレスチナ問題 4  
オスロ協定～今日までの和平プロセス

#### 後期授業計画

1. 中東石油 1  
OPEC (OAPEC) の成立、第4次中東戦争と石油戦略
2. 中東石油 2  
オイルグラット、湾岸戦争
3. 中東石油 3
4. イスラームについて 1
5. イスラームについて 2
6. イスラームについて 3
7. イスラームについて 4
8. 中東の開発 1
9. 中東の開発 2
10. 中東の開発 3
11. 中東の開発 4
12. 予備日

01 科目名	
98 科目名	金融経済論
97 科目名	金融論
担当者	斉藤美彦

#### 講義の目標

金融経済論の基礎を理解し、種々の金融事象や金融政策に関連した新聞記事が読め、議論が理解できるようになることを目標とする。

#### 講義概要

講義は、金融の基本的原理から始まり、貨幣供給の仕組み、銀行業の基本、金融政策、国際金融、金融問題をひろく取り上げる。そのなかで銀行の不良債権問題や破綻、大型合併、ゼロ金利政策の解除等、近年話題となった事柄についてもその経済学的意味について解説していきたい。

#### テキスト

辻信二「新版 金融と銀行」学文社、1995年

#### 参考文献

建部正義「はじめて学ぶ金融論」大月書店、1999年

#### 評価方法

前期はレポートを課す。後期は筆記試験を行なう。両者を総合的に評価する。

#### 受講者への要望

新聞の金融関連の記事に目を通すこと。とくに金融政策に関係する記事には注意し、自分なりの情勢判断をするよう心がけること。

#### 前期授業計画

1. 金融のフローとストック(1)  
\*なぜ金融が必要か
2. 金融のフローとストック(2)  
\*金融業の役割
3. 金融のフローとストック(3)  
\*金融ストックの形成
4. 金融のフローとストック(4)  
\*金融取引・金融資産の全体図
5. 金利・資産価格・利回り(1)  
\*シグナルとしての金利
6. 金利・資産価格・利回り(2)  
\*資産市場における金利
7. 金利・資産価格・利回り(3)  
\*株式と株価

8. 金利・資産価格・利回り(4)  
\*金利を動かしているもの
9. マネー(貨幣)と銀行業(1)  
\*現代のマネーと決済システム
10. マネー(貨幣)と銀行業(2)  
\*銀行の信用創造機能
11. マネー(貨幣)と銀行業(3)  
\*マネーの価値とインフレーション
12. マネー(貨幣)と銀行業(4)  
\*マネーの変遷

#### 後期授業計画

1. 中央銀行の役割(1)  
\*内生的貨幣供給説と外生的貨幣供給説
2. 中央銀行の役割(2)  
\*金融政策の目的と波及経路
3. 中央銀行の役割(3)  
\*金融政策の手段と準備預金制度
4. 中央銀行の役割(4)  
\*マネーサプライ論争、ゼロ金利政策と量的緩和論
5. 金融の国際的側面(1)  
\*為替相場の形成
6. 金融の国際的側面(2)  
\*国際通貨制度の変遷
7. 金融の国際的側面(3)  
\*国際金融
8. 金融の国際的側面(4)  
\*銀行の国際業務
9. 金融問題(1)  
\*金融自由化の進展
10. 金融問題(2)  
\*金融の「証券化」
11. 金融問題(3)  
\*リーテイルとホールセール
12. 金融問題(4)  
\*銀行の収益とリスク

01 科目名	
98 科目名	金融システム論
97 科目名	
担当者	齊藤美彦

#### 講義の目標

世界各国において金融システムは大きく変化してきている。その基調となる金融自由化が金融サービス業の変貌とどのような関連をもっているのかを理解できるようになることを目標とする。

#### 講義概要

本年度はイギリスと日本の金融システムを比較し、両者の共通点および相違点を学び、今後の変化の方向性を探る。イギリスは1986年にビッグバンを実施したが、国内証券業者（マーチャントバンク）のほとんどが外国業者に買収されウィンプルドン現象という言葉まで生まれた。他方、日本はバブル崩壊後、1997 - 8年の危機後、大型の再編が相次いでいる。講義では、これらの事例を紹介しつつ、法整備や行政のあり方等についても検討する。

#### テキスト

齊藤美彦「イギリスの貯蓄金融機関と機関投資家」日本経済評論社、1999年。（前期）後期テキストは講義中に指示する。

#### 参考文献

齊藤美彦「英国金融サービス・市場法について」『金融』（全国銀行協会）2000年11月号  
 齊藤美彦「1990年代のイギリス四大銀行」『証券経済研究』（日本証券経済研究所）第28号（2000年11月）  
 渋谷・丸山・伊藤編「パクス・アメリカーナと日本経済・社会」東京大学出版会、2001年春出版予定。

#### 評価方法

前期はレポートを課す。後期は筆記試験を行なう。両者を総合的に評価する。

#### 受講者への要望

新聞の金融関連の記事に目を通すこと。

#### 前期授業計画

1. イギリスの金融システム
  - \* 金融システムの長期的動向
2. イギリスの金融システム
  - \* 金融サービス法から金融サービス・市場法へ
3. イギリスの金融システム

\* 商業銀行

4. イギリスの金融システム

\* マーチャントバンク

5. イギリスの金融システム

\* 商業銀行と貯蓄金融機関

6. イギリスの金融システム

\* 住宅金融組合

7. イギリスの金融システム

\* 信託貯蓄銀行

8. イギリスの金融システム

\* 国民貯蓄銀行

9. イギリスの金融システム

\* 機関投資家の発展

10. イギリスの金融システム

\* 年金基金

11. イギリスの金融システム

\* 保険会社

12. イギリスの金融システム

\* 投資信託

#### 後期授業計画

1. 日本の金融システム

\* 専門金融機関制度

2. 日本の金融システム

\* 普通銀行（都市銀行・地方銀行）

3. 日本の金融システム

\* 長期信用銀行・信託銀行

4. 日本の金融システム

\* 中小企業金融機関

5. 日本の金融システム

\* 金融制度改革

6. 日本の金融システム

\* 日本版ビッグバン

7. 日本の金融システム

\* 金融危機と金融再生法

8. 日本の金融システム

\* 金融大再編の動き

9. 日本の金融システム

\* 銀行業への新規参入

10. 日本の金融システム

\* 預金保険制度

11. 日本の金融システム

\* 日本版金融サービス法

12. 日本の金融システム

\* 金融監督機関（金融庁・日本銀行）

01 科目名	
98 科目名	財 政 学
97 科目名	財 政 学
担当者	大 島 通 義

#### 講義の目標

政府は年々予算を組み、巨額の税金を家計や企業から徴収し、これをさまざまな政府としての活動にあてている。「財政学」は、このような公共部門の経済活動を対象とする学問である。「政府」の「経済活動」を対象とする学問である以上、これを理解するには経済学の基礎的な知識を備えていると同時に、政府の意思決定にかかわる政治や行政にも目を向けることが必要である。このような観点から現代財政についての理解を深めることに努めたい。

#### 講義概要

前期においては、政府の経済活動全般を視野に入れながら、現代までの財政論の主な潮流、政府部門の収支の構成をみたらうで、主として政府の支出活動に焦点を合わせた講義とする。政府による公共財の供給、高齢社会における財政の役割、分権化と財政、国際化時代の財政などの問題を取り上げる。後期には、政府の収入調達、すなわち租税（所得税、法人税、消費税など）の理論、その現状について講義する。

#### テキスト

佐藤進・関口浩『財政学入門』（改訂版）同文館。  
大島他編『日本が直面する財政問題』八千代出版。  
その他、講義の必要に応じて、資料等を配布する。

#### 参考文献

講義内容との関連において適宜指示する。

#### 評価方法

前期後期の期末試験を実施する。前・後期とも受験した者のみ成績評価の対象とする。場合によっては、講義内容についての短いレポートの提出を求められることがある。

#### 受講者への要望

経済学についての基礎的な理解を前提して講義をおこなうので、これを欠いている場合には、各自でそれを補うようにつとめること。

#### 前期授業計画

1. 講義の概要と方法、最近の日本の財政について
2. 財政思想の発展、財政学の課題と方法

3. 財政の歴史的発展 - 「安上がりの政府」、「高くつく政府」、「干渉国家」
4. 現代財政の仕組みと役割
5. 予算の制度と過程、予算政策
6. 予算の計画機能
7. 中央と地方の行財政関係
8. 地方分権の財政制度
9. 政府支出の構成、その分析手法
10. 政府支出政策（公共投資を中心に）
11. 財政赤字とその調達 - 公債について
12. 福祉国家財政の国際比較

#### 後期授業計画

1. 租税論の基礎（租税とは何か、租税原則論）
2. 租税の体系と分類
3. 個人所得に課される租税 - 総合所得税と分類所得税
4. 同上：所得とは何か（包括的所得の概念とその問題点）
5. 同上：税率の構成、所得控除と税額控除
6. 企業に課される租税 - 法人税と事業税、法人とは何か
7. 同上：法人課税の仕組み
8. 消費と課税 - 消費課税の構成
9. 同上：直接消費課税
10. 同上：間接消費課税
11. 資産課税
12. ふたたび、日本財政の現状と課題について



01 科目名	
98 科目名	公共経済学
97 科目名	公共経済学
担当者	伊藤 爲一郎

#### 講義の目標

わたしたちの日々の生活は公共部門の活動と切っても切れない関係にある。水・清掃・教育・道路・警察・消防など様々な公共サービスによって便益を受けている。政府の活動と民間部門の活動とはどういう関係にあるか。政府の活動は大きすぎるのか。介入するとすればどういう方法であるべきか。政府の活動を効率化するにはどんな改革が必要か。政府は国民の福祉にどのように関係すべきであるか。このような公共部門の活動についての基礎的な理解を深めることが本講の課題である。

#### 講義概要

公共部門が経済活動や社会生活にどのように連動しているか、図や表を多用しながら講義を進める予定である。

国民経済の発展とともに公共部門の機能も大きく変動してきたが、その経過をたどることによって、現代の政府活動の特徴を明らかにする。

#### テキスト

講義のはじめに指示する。

#### 参考文献

講義のなかでその都度指示する。

#### 評価方法

前期：期末テストおよび中間での小テストの成績によって評価する。

後期：前期と同じ。

#### 前期授業計画

1. はじめに  
文献紹介
2. 公共部門の成長と国民経済  
政府（中央・地方）の範囲
3. 公共部門存在の理論的根拠  
公共財・外部性・公的供給と公的生産  
市場の失敗・政府の失敗
4. 政府の機能  
資源配分・所得分配・経済安定・経済成長
5. フィスカルポリシー  
ケインズ理論とフィスカルポリシー・ビルトイン・

#### スタビライザー

6. 公共経費論  
公共経費の発展・経費構造
  7. 公共経費論（続）  
わが国の経費構造の変遷と特徴
  8. 社会資本と経済発展  
高度成長と社会資本充実政策・新しい社会資本
  9. 経費便益分析  
公共投資の費用便益分析・PF1
  10. 地方政府  
地方財政の拡大・地方公共財の供給・財政危機
  11. 都市問題 - 一極集中  
土地と住宅・交通・ゴミ・財政危機
  12. まとめ
- #### 後期授業計画
1. はじめに  
文献紹介
  2. 公共サービスの供給と財源調達  
なぜ租税が必要か・租税原則・公平な租税とは
  3. 租税原則と租税配分  
租税利益説・租税能力説・租税犠牲説
  4. 租税構造  
わが国租税構造の変遷とその特徴
  5. 現代の租税と分類  
所得税・法人税・消費税・資産税・目的税
  6. (続)
  7. (続)
  8. 公債  
租税国家の危機・公債の増大・公債の機能  
累積公債と財政再建
  9. 地方政府と財政危機  
地方税・地方交付税・国庫支出金・地方分権から地方主権へ
  10. 高齢化社会と財政  
高齢化の進展・年金財政の破綻・負担とサービスのバランス・賦課方式と積立方式
  11. 環境問題と財政  
市場の失敗と環境政策・課徴金か補助金か・環境税
  12. まとめ

01 科目名	
98 科目名	地方財政論
97 科目名	地方財政論
担当者	伊藤 爲一郎

#### 講義の目標

地方財政は「行政のデパート」といわれるように、福祉、教育、警察、消防などの行政サービスから上・下水道、経済振興策などまで多様なサービスを供給している。地方公共団体のこのような活動をとらえたものが地方財政である。住民の日常生活と深く関連している地方財政の役割を明らかにすることが課題である。

#### 講義概要

都道府県から市町村まで 3200 余もある地方団体は社会経済的条件が様々であり、一律に論ずることは不可能であるが、マクロ的に地方財政の分析を行い、その特徴や問題点を指摘し、将来を展望する。

#### テキスト

講義のはじめに指示する。

#### 参考文献

講義の中でその都度指示する。

#### 評価方法

前期：期末テストおよび中間での小テストの成績によって評価する。

後期：前期と同じ。

#### 前期授業計画

- はじめに  
文献紹介
- 地方財政の重要性  
地方財政の役割・国民経済と地方財政・国と地方の財政  
・歴史の変遷 ・諸外国では
- .( 続 )
- 地方公共団体・地方財政の多様性  
都道府県・市町村・社会経済条件の多様性
- 地方自治・財政の歴史  
明治期・大正期・昭和 10 年代
- シャープ勧告から高度成長期の財政  
第一次・第二次シャープ勧告・町村合併と財政・高度成長期の地方財政・オイルショック
- 低成長経済と財政  
オイルショック後・バブル期・90 年代の財政

#### 8 . 公共支出の拡大と役割の変化

公共支出の機能・地方公共財の供給・範囲の拡大と規模の膨張・支出構造の変化・財政赤字

#### 9 .( 続 )

#### 10 .( 続 )

#### 11 . 国と地方の役割分担再考

事務と税の再配分・政府間関係・地方主権

#### 12 . まとめ

#### 後期授業計画

- はじめに  
文献紹介
- 地方政府サービスと財源  
財政機能の配分・地方と国の財源配分・財源配分をめぐる対立の歴史
- 地方税  
地方税体系・地方税の構造
- 地方財政調整制度 ( 1 )  
地方財源の偏在・地方交付税・地方譲与税
- 地方財政調整制度 ( 2 )  
国庫支出金 ( 補助金・負担金・委託金 )
- 地方財政調整制度 ( 3 )  
地方消費税
- 地方税・公債以外の地方収入  
受益者負担・料金・使用料・手数料・その他
- 地方債  
地方債の制度・地方債の累増・地方債の償還と負担
- 過密と過疎  
都市の財政需要増大と財政危機・農山村部の過疎化と地域開発
- 地方公営企業の現状  
地方公営企業の経営状況・独立採算性・公企業の財政再建
- 行政改革と地方主権の動き  
地方分権の動き・行政改革への取り組み
- まとめ

01 科目名	
98 科目名	環境経済学
97 科目名	
担当者	浜本光紹

5. 環境税の理論と実際
6. 廃棄物とリサイクルの理論と実際
7. 環境政策の決定過程
8. 環境保全型社会経済システムの構築に向けて

#### 講義の目標

近年の環境問題の深刻化とともに、環境保全と経済活動の調和を求めて、新たな社会経済システムの構築への模索が試みられている。本講義では、経済学の立場から、環境破壊が進行する要因を検討し、環境保全型社会経済システムの構築のために環境政策はどのように設計される必要があるのかについて考えていく。

#### 講義概要

前期は、環境経済学の理論的基礎について、とくに環境政策の設計という課題を中心に講義を行う。後期は、現実の環境政策の諸事例を検討しながら、環境政策設計のあり方に関する政策的含意を導き出していく。

#### テキスト

植田和弘「環境経済学」岩波書店

#### 参考文献

植田和弘「環境経済学への招待」丸善ライブラリ

—

宮本憲一「環境経済学」岩波書店

#### 評価方法

前期：定期試験による。

後期：定期試験による。

#### 受講者への要望

講義内容についてわからない事項があれば積極的に質問するなど、理解に努めること。

#### 前期授業計画

1. イントロダクション：環境経済学の課題
2. 環境と開発
3. 環境評価手法
4. 環境政策の目標と諸手段
5. 環境資源管理
6. 国際環境協定

#### 後期授業計画

1. イントロダクション：環境政策の理論と実際
2. 日本の環境政策
3. 米国の環境政策
4. 地球温暖化

01 科目名	
98 科目名	経済地理学
97 科目名	経済地理
担当者	犬井 正

#### 講義の目標

経済地理学は経済の諸事象の地理的配置を説明し、経済地域の成立・構造・機能を明らかにすることを目的とする。経済事象は農業、工業、商業など多岐にわたるので、本講義では農業地理学を主体にしながら、経済地理学の方法と内容を学んでいく。

#### 講義概要

単に講義による農業地理学の理論だけでなく、フィールドワークをおこなうとともに、スライドなどを用いできるだけ農業の具体的な現実のすがたが把握できるように努める。また、適当なトピックスを選んで、ディベート形式などもとり入れ、受講者の意見を発表する場も設定する。さらに受講者は前期・後期各1回(それぞれ4000字程度)の小論を提出し、レポート・論文の書き方の基本を習得する。

#### テキスト

D. グリッグ著『農業地理学』1997年、農林統計協会

#### 参考文献

- ・ D. グリッグ著『西洋農業の変貌』1996年、農林統計協会
- ・ 定本正芳著『農業地理学の理論』1983年、大明堂
- ・ 山本正三他編著『日本の農村空間』1990年、古今書院
- ・ 山本健児著『経済地理学入門』1993年、大明堂

#### 評価方法

年間指定小論、およびフィールドワークのレポート結果と講義への貢献度などから総合的に判定する。

#### 受講者への要望

毎回必ず講義に積極的に出席できる勉学意欲旺盛な者に限る。

#### 前期授業計画

1. 本講義の1年間の受講の心構えおよび、講義方法、講義内容等についてのオリエンテーションを行い受講者数を決定する。
2. 経済地理学の研究方法と研究対象について、経済学と地理学の方法の相違をふまえながら講述する。

3. 経済地理学研究のためのデータの収集とその活用する方法。特にセンサスデータ、地図の活用などを中心として。
4. 農業活動と自然環境との関係を、具体的な農業地域を事例にして考察する。
5. 農業生産と農業労働力を中心として、専業・兼業別農家の経営形態の地域的差異を考察する。前期小論提出
6. 農業経営規模と土地の保有形態を中心として、農業経営形態や他産業との競争を視点として考察する。
7. 農産物と市場・流通・輸送形態の関係について具体的な農業地域を事例として考察する。
8. 国家と農業政策、土地利用と土地利用計画・政策について考察する。
9. 日本と世界の諸地域の農業経営形態の差異と農業地域区分の方法を考察する。
10. 東京近郊洪積台地上の農業地域のフィールドワーク実施(日曜日に振り替えて実施する)
11. 同上
12. 前期のまとめと評価。フィールドワークのレポート提出

#### 後期授業計画

1. 日本の農業の特色と農業地域の概観。
2. 首都圏の農業地域の構造と特色。
3. 輸送圏芸農業地域の構造と特色。
4. 米作地域の農業経営の特色と問題点。後期小論提出
5. 農産物の自由化と日本の農業の関係を文化、経済の視点からみる。
6. イギリスの農業の特色と農業地域の概観。
7. イギリスのLFA地域と集約農業地域の特色を考察する。
8. イギリスの工業化する農業と農業地域の特色。
9. 農産物の過剰生産と農業補助金政策をイギリスの小麦、日本の米を対象にして考察し、それぞれの国の農業地域の対応の仕方を考察する。
10. 同上
11. パネルディスカッションの実施。
12. 後期の講義のまとめと評価。パネルディスカッションのレポート提出。

01 科目名	
98 科目名	交通経済論
97 科目名	交通経済論
担当者	岡田 博

#### 講義の目標

現代の経済は高度に発達した交換経済であり、多くの経済システムの相互依存関係を通じて運営されている。交通サービスを供給する交通システムも現代の社会経済活動を支えている重要な経済システムである。

本講義においては交通を国民経済活動との関連において捉え、国民経済において交通が果たしている機能と役割について分析を行う。交通の経済学的分析とともに現代の交通問題に対する交通政策的アプローチについても意を注ぎたい。

#### 講義概要

本講義は交通を研究対象として、これに経済理論の分析用具を用いて分析を行うものである。

講義の主な内容：交通経済論のアプローチの方法について、交通需要の特性、交通サービス供給について、交通市場の構造と特性、運賃の理論と実際、交通調整問題、交通と環境問題、交通政策等々について。

#### テキスト

未定、講義の最初に指示する

#### 参考文献

岡野行秀編『交通の経済学』有斐閣

#### 評価方法

前期：期末テストと授業のときに提出させるレポートによって評価する。

後期：前期と同じ

#### 受講者への要望

授業には必ず出席して、ノートをとること。また授業で勉強したことについて、図書館で関連の書物を読み、さらに知識を深め確かなものとするのを習慣化してもらいたい。

授業中、私語は行わないこと。欠席の多い学生には単位を与えない。

#### 前期授業計画

1. 交通経済論について、研究の方法、交通の概念、交通の生産物について
2. 交通需要 交通需要の特性、交通需要の弾力性

について

3. 交通需要 交通需要の予測とその方法
4. 交通サービスの供給 交通サービス供給の史的概観
5. 交通サービスの供給 交通サービス供給の3要素、交通基礎施設サービスの供給形態の変化
6. 交通市場 交通市場の特性
7. 交通市場 交通市場の構造
8. 運賃理論 運送価値説
9. 運賃理論 独占運賃と差別運賃 1
10. 運賃理論 独占運賃と差別運賃 2
11. 運賃理論 運賃費用説
12. 運賃理論 限界費用運賃

#### 後期授業計画

1. 交通の社会的費用 交通の社会的費用の概念
2. 交通の社会的費用 交通の社会的費用の実態と対策
3. 交通の社会的費用 交通の社会的費用の内部化
4. 交通投資と資金調達 交通投資の経済効果
5. 交通投資と資金調達 資金調達の方法について
6. 国民経済と交通 交通の発達と経済成長、近年におけるGDPと輸送量の乖離とその要因
7. 国民経済と交通 交通の発達と地域開発
8. 国民経済と交通 交通の発達と生産物市場圏の変化
9. 国民経済と交通 交通システムの発達と企業形態、多頻度少量輸送の増大と問題点
10. 交通政策 交通政策の理論
11. 交通政策 交通安全政策
12. おわりに

01 科目名	
98 科目名	産業組織論
97 科目名	産業組織論
担当者	青木雅明

#### 講義の目標

経済学の 1 分野である産業組織論 (Industrial Organization) は、財貨・サービスの生産者あるいは供給者の行動とそれに影響を与える市場の構造、政府の規制について研究し、その成果を、経済政策の重要部分となった「競争政策」に応用します。

この授業では、産業組織論の基本的考え方、手法、応用分野を学ぶことによって、現代経済の「心臓」に相当する企業活動とこれを補正する政府の正しい役割を認識してもらいます。

#### 講義概要

第 1～5 回はミクロ経済学のうち産業組織論の基礎にあたる完全競争市場の企業行動や独占・寡占市場の経済的非効率性などについて復習します。第 6～24 回は下記のテキストにそって最近の産業組織論の考え方、成果を講義します。

#### テキスト

長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』日本評論社 1998 年 (2800 円)

#### 参考文献

ジョセフ・E・スティグリッツ『スティグリッツ ミクロ 経済学 第 2 版』東洋経済新報社 2000 年

後藤晃・鈴木興太郎編『日本の競争政策』東京大学出版会 1999 年

上杉秋則他「21 世紀の競争政策」東京布井出版 2000 年

#### 評価方法

毎回、「学んだことの要旨」、「理解できなかった点、質問事項」、「その他(感想、意見、気がついた点など何でもよい)」についてミニレポートの提出を求めます。このミニレポートの成果、2001 年 1 月提出の中レポートの成果、および出席、授業中の私語、遅刻、早退の状況によって評価します。

#### 受講者への要望

授業中の私語、遅刻、早退、教室への出入は禁止。欠席は最小限。テキストを購入してよく読むこと。

#### 年間授業計画

1. 完全競争市場における企業行動について費用の分

析の仕方を学びます。

2. 完全競争市場における企業行動について生産量の決定の仕方を学びます。

3. 完全競争市場における競争的均衡と経済的効率性について学びます。

4. 1 企業からなる独占市場やあまり多くない企業からなる不完全競争市場における価格と産出量の決定の仕方、市場参入障壁の存在、市場均衡を学びます。

5. 2、3 の企業だけで成り立っている寡占市場における企業行動について学びます。

6. 産業組織論の基本概念的について学びます。

7～8. 企業の機能と構造について学びます。

9～10. 独占市場における企業行動とそれがもたらす経済的結果について学びます。

11. 垂直統合と垂直的制限について学びます。

12. 価格競争、数量競争などの競争の形態について学びます。

13～14. 市場への参入の経済効果について学びます。

15～16. カルテルと合併の経済的影響について学びます。

17～18. 情報の不完全性と企業行動との関係について学びます。

19～20. 生産物市場における企業の戦略的行動について学びます。

21. 技術進歩と研究開発競争、知的財産権、共同研究開発などについて学びます。

22. 貿易と直接投資の生産物市場に与える影響について学びます。

23～24. 規制と規制改革について学びます。

01 科目名	
98 科目名	産業構造論
97 科目名	産業構造論
担当者	山 越 徳

#### 講義の目標

経済の発展、成長に伴い、様々な側面の経済構造が変化することはよく知られており、またその変化がより一層の発展・成長を促す。本講義ではそれら構造変化の主たる産業構造の変動に注目し、近代的経済発展、産業社会の形成、生産技術構造、それらを支える種々の経済構造、相互依存関係を考察し、高度経済成長や重化学工業化の意味を考える。そして石油危機後の激しい構造変化、サービス経済化、ソフト化、情報化、国際化などの変動の分析を通して、新しく出てきた経済の諸問題、これまでの構造変化の指標にとってかわる指標、産業構造の捉え方をいっしょに考察していくことにする。

#### 講義概要

これらの講義や議論を一層身近かものとするために、種々のデータや資料、分析結果を用いて、短期間に後進国からトップクラスの先進国へと成長した、戦後の日本経済の事例を扱いながら、進めていくことにする。また構造分析の有力な分析道具である投入 - 産出分析の手法や産業構造を示す労働力構造とその変化に伴う労働市場問題についても考察する。

#### テキスト

『産業の経済学』（経済学入門叢書・16）第2版  
宮沢健一 東洋経済新報社

#### 参考文献

『経済成長 - 六つの講義』サイモン・クズネッツ著、  
長谷川亮一訳 巖松堂出版など  
講義を進めていく中でその都度、紹介していく

#### 評価方法

前期のレポート（産業および構造変化に関するもので、課題については授業の中で提示）、後期の試験により、双方の結果で評価。

#### 受講者への要望

現実の経済で生じている種々の変化や問題を扱っている文献、論文、事例に関心を持つとともに、読みかた考察してほしい。

#### 年間授業計画

#### 第1～2週

- ・経済成長、経済発展  
経済成長とは、経済構造の変化、工業化、高度化、多様化  
1人当り国民所得、GNP、成長の指標、労働生産性、産出規模  
近代的経済発展、産業社会、産業の概念、生産構造

#### 第3～5週

- ・経済成長と産業構造  
経済進歩の歴史過程、産業革命、三部門分類、バティの法則、AMS分類、労働力構成と所得構成  
所得弾性、成長の弾性、時系列データとクロスセクションデータ

#### 第6～7週

- ・経済成長と産業構造  
製造業内部の構造と発展、発展段階説、消費財と投資財、最終財と中間財  
輸入と国産化、輸入代替、生産規模、輸出指向型工業化、先進工業国と発展途上国雁行形態、重化学工業化

#### 第8～11週

- ・産業連関表（投入 - 産出表）とは  
製品の販路と投入、投入係数、産出係数、逆行列、中間投入、中間需要、最終需要、付加価値部門、直接および間接の生産波及、相互依存関係、産業特性、感応度係数と影響度係数  
前方連関と後方連関、投入係数の固定性と変化、商品ベースと企業ベース、輸入、輸出、スカイライン分析、貿易構造

#### 第12～15週

- ・産業連関表による分析  
構造変化の要因分析、投入係数の変化と技術変化、資本マトリックス、雇用および産職マトリックス  
生産プロセスと産業部門、部門の再配列、ブロック化、三角形化、素原材料系統の転換  
工業原材料と規模、ユニットストラクチャー、規模別I-O表、国際I-O表、公害I-O表  
国際分業

#### 第16～17週

- ・産業構造の新しい方向  
サービス化、ソフト化、情報化、国際化、多様化、高度化、複合化、構造変化の指標  
財とサービス、有形財と無形財、構造変化の流れ、投入労働と評価

#### 第18～19週

- ・産業内部の構造変化 ケース・スタディ  
3つのオートメーション、ロボットとコンピュータ、高度経済成長期の生産技術と'80年代・'90年代の生産技術、IT化、鉄鋼、電機、時計、印刷、銀行など

#### 第20～22週

- ・構造変化と就業構造  
労働力の需要と供給、人口構造、新規学卒労働力、基幹労働力と縁辺労働力、大企業と中小企業  
日本の労働市場、雇用制度、雇用慣行、労働の属性、産業と職業、雇用調整

#### 第23～24週

- ・日本の産業政策および産業と地域  
大企業と中小企業、大都市産業、地場産業、新旧産業集積、地域の取組み  
経済政策、産業政策、労働政策の流れと結びつき



01 科目名	
98 科目名	労働経済学
97 科目名	労働経済論
担当者	山 越 徳

#### 講義の目標

労働経済学 (Labour Economics, The Economics of Labour) は、多くの人々が人生においてさまざまな仕事 (労働) に従事する時間・空間的次元、いいかえると「労働市場」の構造、機能、政策を分析対象とする応用経済学である。講義では現実の複雑な事象を分析するための方法を蓄積するために理論的側面に重点を置くが、できるかぎり最近の労働市場における新しい展開も併せて紹介するようにしたい。

#### 講義概要

労働経済学は今日の応用経済学の中では、次々と新たな問題が生まれ、新しい仮説も提示されているため、最も「面白い」領域といわれている。いわば臨床医学に相当するこの分野の全体像を把握するには 1 年間の講義では十分ではないが、初歩的段階から専門文献が読めるまでの理論および実証分析のトレーニングを行いたい。そのため理論についての前提、考え方、それに基づくモデルのみならず現実の事象についても、事例や資料、データを用いて、取り上げていく。

#### テキスト

本講義の全体をカバーするテキストは使用しない。

#### 参考文献

参考文献は講義でその都度、提示する。労働経済学が扱う主要課題をあらかじめ知りたい受講者は、下記の入門文献に目を通すことを勧める。

小野 旭 『労働経済学 (第二版)』(東洋経済新報社、1995 年)

桑原靖雄 『放送大学テキスト：労使の関係』(日本放送出版協会、1995 年)

西川俊作 『労働市場』(日経文庫、1980 年)

島田晴雄 『労働経済学』(岩波書店、1988 年)  
『労働白書』

#### 評価方法

前期試験にかわるレポート (課題は講義にて提示) と後期試験による。

#### 受講者への要望

講義ではできうるかぎり、グラフィックな提示な

どを通して、平易な解説に努めるが、受講生にも参考文献を読み、問題に取り組む積極的な姿勢を期待したい。社会政策、産業構造論など関連講義の受講を勧めたい。

#### 年間授業計画

講義予定 (講義の進行は受講生の理解度を見て調整)

##### 1. 労働経済とは

研究対象、商品と労働、分析方法、最近の雇用情勢

##### 1 年間のプログラム

##### 2. 労働とは

経済学と労働、労働力の概念、定義、用語  
経済主体、労働力の属性、産業と職業、分類

##### 3. 労働統計とその見方

人口統計と労働統計、理論と調査、調査方式、賃金、労働時間、

労働条件など、諸統計における労働

##### 4. 労働市場の理論

学問的系譜、新古典派の労働市場理論

労働の供給と需要、ケインズの雇用理論

##### 5. 労働供給の理論

供給主体、個人と家計、所得と余暇選好の理論、供給曲線、有沢 = ダグラスの法則、

就業形態、労働時間と余暇、労働時間短縮

##### 6. 労働需要の理論

生産の派生需要、需要主体、需要曲線、限界生産力命題、生産関数、技術変化

##### 7. 労働市場の構造と機能

労働市場における需給調整、景気動向と雇用、失業、雇用調整、調整速度、制度的対応、

企業内対応、労働市場の分断化、充足率と失業率

##### 8. 日本の労働市場

戦後日本の雇用の推移、安定雇用と雇用調整、基幹労働力と縁辺労働力、都市と農村、

経済成長と労働供給、労働力供給源の変遷、日本の労働市場の模型、二重構造、

外部市場と内部市場、職業別労働力

##### 9. 新規学卒労働力

新規学卒就業者の推移、(学歴別、性別、産業別、職業別) 地域間労働市場、集団就職、職安法

##### 10. 性別年齢別労働力

高齢化、少子化、経済成長と産業構造、産業と職業、成長分野と衰退分野、性別年齢構成の推移、性・年齢

と雇用調整、労働力のコーホート、年齢による参入制限

##### 11. 労働市場のコーホート分析

コーホート別労働力増減状況、性別増減パターン、分

野別労働力確保状況、退出状況、中途採用、定年制、  
就業可能年齢と引退曲線、コーホート別部門シェア

#### 12. 年齢と勤続のコーホート分析

年齢と勤続、日本の雇用慣行、年功制、長期雇用、大  
企業と中小企業、学歴と性別、ホワイトカラーとブル  
ーカラー、大卒の市場

#### 13. 採用状況からみた労働市場

大企業と中小企業、ホワイトカラーとブルーカラー、  
性別、石油ショック以前と以降、  
若年労働力の比重、競合関係、バブル期の労働力不足

#### 14. 情報化、国際化と労働市場

海外直接投資、空洞化、国際労働力移動、外国人労働  
力、ソフト化、サービス化、人材育成、モノ、カネの  
移動とヒトの移動、仕事の変化

#### 15. 雇用見通しと労働市場の将来

産業別、職業別、性・年齢別雇用見通し、人口構造、  
諸政策との関係

01 科目名	
98 科目名	経営学原理
97 科目名	経営学総論
担当者	富田 忠 義

#### 講義の目標

現代社会では、企業はわれわれの日常生活のさまざまな局面で大きな影響を及ぼしているため、企業とその経営に対して無関心ではいられない。われわれにとって「企業」とはいったい何か。その「経営」はどのような種類の人間によって、どのように行われているのか。経営学科に入学してきた学生の多くが一度はこのような疑問を抱いたことがあるであろう。本講義は、この種の疑問に現代経営学の最新の研究成果を平易に概説することによって、正面から答えようとするものである。

#### 講義概要

まず経営学がいかなる学問であるかを全体的に把握するために、この学の研究対象と研究方法について考察する。以下、組織の行動を基本的に方向づけ特色を与える企業目的と経営理念、経営の担い手としての専門経営者（CEO）の機能と役割、取締役会などの最高経営機関の仕組み、経営管理機能について研究を進めてきた現代経営学の生成と発展、経営管理の過程と要素機能、計画技法とコントロール技法、組織構造と組織過程、組織の活性化などの個別テーマについて順次考察する。

#### テキスト

河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版

#### 参考文献

山城章著『経営学原理』白桃書房

森本三男著『経営学入門』同文館

森本三男著『経営学の原理』中央経済社

小椋康宏著『経営学原理』学文社

金森久雄・荒憲治郎編『有斐閣 経済辞典（3版）』

有斐閣

#### 評価方法

前期：前期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価する。定期試験の際、試験場への教科書・ノート等の持込みは認めない。

後期：後期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価する。定期試験の際、試験場への教科書・ノート等の持込みは認めない。

#### 受講者への要望

テキストを利用するが、授業中にテキストの全文を克明に解説するというのではないので、開講後できるだけ早く、テキストの全文を各自で読了しておくこと。

#### 前期授業計画

1. 年間講義計画の概要

2. (経営学方法論) 経営学の対象、マネジメント経営学の方法、実践経営学の方法

3. 同上

4. 同上

5. (経営理念論) 現代企業の目的、経営理念、経営倫理、経営社会責任

6. 同上

7. 同上

8. (経営リーダーシップ論) 最高経営機関と専門経営者の役割、株主総会、取締役会、執行役員制、CEO（最高経営責任者）とCOO（最高業務執行者）、コーポレート・ガバナンス

9. 同上

10. 同上

11. 同上

12. 前期講義まとめ

#### 後期授業計画

1. 後期講義概要

2. (経営管理学説史) 現代経営学の生成と発展、テイラーとフォード、ファヨールとフォレット、バーナードとサイモン、人間関係論、行動科学、意思決定論、コンテンジェンシー理論

3. 同上

4. 同上

5. (マネジメント技法論) マネジメント・プロセス、問題解決と意思決定、戦略策定技法、計画技法、コントロール技法

6. 同上

7. 同上

8. (経営組織論) 組織構造と組織過程、組織の類型化、経営組織の設計、権限と責任、リーダーシップ、経営組織の活性化

9. 同上

10. 同上

11. 同上

12. 年間講義のまとめ

01 科目名	
98 科目名	経営学原理
97 科目名	経営学総論
担当者	黒川文子

2. 利害関係者アプローチ
3. 企業の社会貢献活動
4. 企業と利害者集団
5. 日本企業と株式
6. 日本企業と従業員
7. 日本企業と消費者
8. 競争企業
9. 企業と政府
10. 企業と環境
11. 企業行動と意思決定
12. 企業行動と動機づけ

#### 講義の目標

経営学が他の学問領域と異なる最も基本的かつ重要な問題を中心に講義する。その上に立って、今日の問題、すなわち規制緩和、企業の国際化と空洞化、E ビジネス等をアプローチする。経営学ほど変化の激しい領域はないので、原理を把握していれば、どのような状況にもうまく対処できよう。

#### 講義概要

経営学とは何かを、まず正確に把握する。このためには、企業そのものの検討と方法論的アプローチが必要であろう。しかも、アメリカのみの経営学だけではなく、他国の経営学も考察する。

#### テキスト

なし

#### 参考文献

河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版  
河野重榮他編著『現代マネジメント』同文館

#### 評価方法

前期、後期の期末テストとレポートによって、総合的に評価する。

#### 受講者への要望

毎日出席することは言うに及ばず、レポートも期日までに提出する。

#### 前期授業計画

1. 経営学と企業理論
2. 経営経済学
3. アメリカ経営管理論
4. 企業形態
5. 企業理論と株式会社
6. 株式会社制度の基本
7. コーポレート・ガバナンス
8. M&A と買収防衛
9. 機関投資家の行動主義
10. 株式の相互持合い
11. 6大企業集団
12. 共同投資会社と役員派遣

#### 後期授業計画

1. 経営戦略論と現代企業

01 科目名	
98 科目名	企業論
97 科目名	企業論
担当者	西川純子

3. 多国籍企業	その1
4. 多国籍企業	その2
5. グローバリゼーション	その1
6. グローバリゼーション	その2
7. 企業統治	その1
8. 企業統治	その2
9. 非営利企業	その1
10. 非営利企業	その2
11. 企業と環境問題	その1
12. 企業と環境問題	その2

#### 講義の目標

企業とは何かを問いながら、企業が人間社会において果たしてきた役割とその問題点を検討してみたい。

#### 講義概要

講義は歴史的な考察と理論的な検討を2本の軸としてすすめていく予定である。

#### テキスト

特に定めない。

#### 参考文献

- ・ Th. ヴェブレン 『営利企業の理論』(1904)、『職人技本能と産業技術の発展』(1914)
- ・ J. シュンペーター 『経済発展の理論』(1908)、『経済分析の歴史』(1954)
- ・ A. チャンドラー 『経営者の時代』(1977)、『スケールとスコープ』(1990)
- ・ J. M. ケインズ 『自由放任主義の終焉』(1926)
- ・ M. ロー 『アメリカの企業統治』(1994)

#### 評価方法

筆記試験

#### 受講者への要望

質問歓迎、私語はつつしんで下さい。

#### 前期授業計画

1. 「見えざる手」と「見える手」	その1
2. 「見えざる手」と「見える手」	その2
3. 営利主義と職人的本能	その1
4. 営利主義と職人的本能	その2
5. 所有と支配	その1
6. 所有と支配	その2
7. 不在所有の制度	その1
8. 不在所有の制度	その2
9. 競争と独占	その1
10. 競争と独占	その2
11. 技術革新	その1
12. 技術革新	その2

#### 後期授業計画

1. 企業と国家	その1
2. 企業と国家	その2

01 科目名	会 計 学 a・b
98 科目名	会 計 学
97 科目名	会 計 学
担当者	内 倉 滋

#### 講義の目標

企業会計もまた 1 つの言語であるとしばしば評されるが、言語を対象とした科学の分野には、その文法を純粹形式的に明らかにしていく「構文論」と、言葉の持つ意味の解明を試みる「意味論」と、社会的制度の中での言葉の用いられ方を研究する「語用論」とがある。本講義は、簿記原理という構文論の知識を前提に、それに内容的な意味付けを試みていくところの、会計学における「意味論」に相当するものであり、その後に展開される会計学における「語用論」( = 経営分析論等の応用・専門学科目 ) への 1 つの橋渡しとなるものである。

#### 講義概要

本講義は会計という言語の意味論だと上で述べたが、そのことの意味は、たとえば「簿記原理」が「資産」を「所有する財貨および債権の総称」と説明するだけであるのに対し、そのどちらでもない「資産」が存在することを指摘した上で、"では資産の本質は何か?"といった問題を考察していく講義だ、ということである。ただし本講義では、その解決のための拠り所を、「企業会計原則」およびその解釈論に限定することとしたい。したがって本講義は、表面的には「企業会計原則」の解釈論を展開していくという形をとることとなるが、そのこと自体が目的なのではないことを忘れないでほしい。

#### テキスト

未定。

#### 参考文献

図書館に複数冊あるものを中心に、後日紹介します。

#### 評価方法

2 回に 1 回ぐらいの割合で小テストを実施し(受講生の理解度を知る目的もあります) それに前・後期末試験(レポート試験とする予定)の結果を加えて評価したい。なおその際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。

#### 受講者への要望

毎回、「私は以上のように考えますが、皆さん方は

どうですか」と問いかけて終わることになっています。それに応えてくれることが、本当に価値のあることだと思っております。

#### 前期授業計画

1. 本講義の目的.....目的 = 「制度会計」とそれを支える理論の研究、3 つの制度会計、「企業会計原則」(以下「原則」と略す) それを支える理論
2. 会計学の歴史.....欧米(複式簿記の起源、会計学の成立、ドイツの動態論、アメリカ会计学) 我が国(明治 6 年の出発点、戦前、戦後)
3. 戦後の制度会計の変遷と「原則」.....「原則」の設定(設定目的、性質、期待された機能) 3 つの制度会計による「原則」の採り入れ(証券取引法、商法、法人税法)
4. 「原則」の全体像と「一般原則」の体系.....「原則」の特徴(会計担当者に対する行為の指針の存在、具体的な処理ルール(財務諸表別規定)) 「一般原則」の体系
5. 「一般原則」の第 1 原則.....企業会計の目的観(静態論、動態論) 第 1 原則の目的観("経営成績"に力点) 「真実」性を要求(2 つの真実性、達成可能性)
6. 「一般原則」の第 2 原則.....「正規の簿記の原則」に従えとの要請(第 2 原則自体 「正規の簿記の原則」) 「正規の簿記の原則」とは(通説、少数説)
7. 「一般原則」の第 3 原則.....「正規の簿記の原則」の「少数説」に立った位置付け、第 3 原則の要請内容(前段、後段["特に"の意味])
8. 「一般原則」の第 4 原則.....3 つの要請内容、「必要な会計事実」(重要な会計方針の開示、重要な後発事象の開示) 「重要性の原則」と第 2・第 4 原則
9. 「一般原則」の第 5 原則.....要請内容(会計方針の継続性、「正当な理由」による変更の容認) 本原則の意義(相対的真実性との関係、代替ルールの無い場合)
10. 「一般原則」の第 6 原則.....意味(静態論時代の意義、意思決定のルールとしての現在の解釈) 「原則」の文理解釈、過度の保守主義
11. 「一般原則」の第 7 原則.....2 つの要請内容、「原則」は「実質的単一性」を要請してるとの解釈、そのうちの「相対的単一性」を要請してるとの解釈
12. 収益・費用の"計上額"についての基本ルール.....計上額の基本 = 収支額、損益計算書原則 1A 前段との関係、無償で固定資産を取得した時の処理(公正評価説、圧縮記帳)

#### 後期授業計画

1. 収益・費用の"認識(計上のタイミング)"の基本

ルール.....費用 = 「発生」時点（発生主義の原則）  
収益 = 「実現」時点（実現主義の原則）「実現」の  
要件

2. 実現主義の原則の位置付け.....収益認識の基本ルールとの立場、代替的ルールとの立場、「原則」も代替的ルールと考えてるとの解釈の可能性、国際会計基準の立場
3. 実現主義の原則の適用.....「原則」〔注 6〕の規定（特殊な販売契約への適用）〔注 7〕の規定（長期の請負工事への適用・非適用）
4. 実現主義の原則の適用に関する演習.....試用販売、委託販売、割賦販売等
5. 実現主義の原則の適用に関する小テスト
6. 固定資産の費用の認識.....費用認識の基本 = 「発生」、減価償却手続きの解釈、税法が残存価額を取得価額の 10%と規定していることの意義
7. 棚卸資産の費用の認識.....基本、「小売棚卸法」という特殊な方法についての各論
8. 収益・費用対応の原則.....必要性、費用を「対応」させる 2 手続き（「引当金」による見越し、発生費用の繰延べ）引当金（「原則」の態度、租税法の態度）
9. 発生費用の繰延べ.....その手続きの意義、繰延資産（種類、その後の費用化）、開発費・試験研究費についての各論（我が国の商法と国際会計基準との違い等）
10. 動的な貸借対照表観.....基本、支出と費用間のずれによる貸借対照表項目、収入と収益間のずれによる項目、収入と支出間の「ずれ」、貸借対照表シエーマ
11. 財務諸表の形式面のルール.....損益計算書について（総額主義、源泉別分類と対応表示）、貸借対照表について（貸借対照表の「区分」と各科目の「分類」等）
12. 連結財務諸表.....その作成目的、作成手続き、我が国の基準と国際会計基準等との違い

01 科目名	
98 科目名	応用統計学
97 科目名	応用統計学
担当者	本 田 勝

#### 講義の目標

この講義では「統計学」で学んだ 1 変量統計学の知識をもとにして、多変量統計解析の考え方を習得する。

#### 講義概要

多変量統計解析とは、お互いに何らかの関係を持つ多変量データを用いて、その背後にある総合特性を探り、判断あるいは評価の道具に利用することである。この解析にはコンピュータの利用が不可欠であり、本講義でも Excel や SAS などのプログラムパッケージを使用する。

#### テキスト

未定

#### 参考文献

田中 豊、脇本和昌著「多変量統計解析法」(現代数学社)

そのほか講義時にそのつど指示する。

#### 評価方法

各テーマ毎に課すレポートと毎回の出席調査による総合評価を行う。

#### 受講者への要望

「統計学」および「情報処理概論」を既習のこと。講義の中ではこれらの科目の内容は既存の知識として進めていくので、自身の力を認識して履修すること。特に、コンピュータ操作に関してはアシスタントはいない。

また毎回の出席は重視するので、いい加減な気持ちで登録しないこと。

#### 前期授業計画

1. 多変量解析とは何かについての概観を行う。
2. 統計学の基本事項についての復習をする。(平均、分散、共分散、相関係数、散布図)
3. 統計学の基本事項についての復習をする。(確率の分布、正規分布、標準化)
4. 行列および行列式についての復習をする。(行列、行列式、連立方程式の解法)
5. 行列および行列式についての復習をする。(固有値、固有ベクトル)

6. 単回帰分析について述べる。(説明変数、従属変数、最小 2 乗法)
7. 単回帰係数の評価方法について述べる。(残差、標準回帰係数、重相関係数)
8. 実例データを各自用意し、分析プログラムを用いて演習を行う。(分散分析表の見方、決定係数)
9. 重回帰分析への拡張を行う。(係数の推定と検定)
10. 実例データを用いて重回帰分析の演習をおこなう。(データの収集)
11. 重回帰分析演習(結果の解釈)
12. 回帰分析における変数選択の方法について述べる。

#### 後期授業計画

1. 2 変量データの主成分分析の考え方とその数式化を行う。(幾何学的解釈、係数の重み、主成分)
2. P 変量データの主成分分析の考え方とその数式化を行う。(ラグランジェ未定係数法、固有値、固有ベクトル)
3. 実例データをもちいて主成分分析にかける。主成分の解釈のし方について述べる。(寄与率、累積寄与率)
4. 各自データを収集し、主成分分析の演習を行う。(データの収集と入力)
5. 分析結果の解釈および検討。
6. 2 変量判別分析の考え方とその数式化を行う。(線形判別関数、マハラノビスの汎距離、誤判別率)
7. 実例データを用いて 2 変量判別分析の演習を行う。
8. P 変量判別分析の数式化を行う。
9. 実例データを用いて P 変量判別分析の演習を行い、分析結果の解釈をする。
10. 各自データを収集し、判別分析の演習を行う。(データの収集と入力)
11. 分析結果の解釈および検討。
12. クラスタ分析とはどのような方法かについて、分析の考え方を述べる。(クラスタ、デンドログラム、類似度の尺度)



01 科目名	
98 科目名	標本調査論
97 科目名	標本調査論
担当者	松 井 敬

#### 講義の目標

新聞、TV などのメディア、官庁、企業など様々な機関から私たちの生活や社会にかかわる数多くの調査結果とその分析が公表されている。そして多くの場合、それらはあたかも私たちの総意であるかのように扱われている。実際にある個人が調査の対象となることは極めて少ないにもかかわらず - である。この点に疑問や違和感を持つ人は多いのではないだろうか。本講義では抽出の方法という観点から標本調査における問題点を整理してゆきたい。

#### 講義概要

本講義は目標のところでも述べたことを念頭において出発する。調査の歴史の中には数多くの失敗があり、そんな中から調査の理論が確立されてきている。そこで、まず標本調査とはどんなことを考えたい。次に、現在行われている様々な抽出法について、その由来、推定の方法、誤差の評価、抽出法相互間の比較などを取り扱ってゆく。

本講義の特色は応用例やコンピュータによるシミュレーションの結果をできるだけ取り入れ、理解の助けとしていることである。そのため、数値計算の作業等が多いがそれらを厭わないことが大事である。現在行われている調査法についてのトピックも適宜取り上げ解説する。

#### テキスト

松井敬「標本調査論」内田老鶴園

他にプリントを適宜配布する。なお、インターネット上に教材・データその他を展開している。

#### 参考文献

抽出法について詳しく知りたいのであれば、Cochran "Sampling Techniques", J.Wiley & Sons または Scheaffer, Mendenhall, Ott "Elementary Survey Sampling", PWS-Kent Pub. Co. ; Tryfos "Sampling Methods for Applied Research", J.Wiley & Sons などが分かりやすい。調査の際の様々な技法を含めては 浅井晃「調査の技術」、日科技連；林、多賀「調査とサンプリング」、同文書院；辻、有馬「アンケート調査の方法」、朝倉書店など。

#### 評価方法

前期、後期ともに提出されたレポートを主にして評価する。このほかに、抽出法毎に行なう演習への貢献度、講義への出席を加味して評価する。出席の少ない学生については 仮にレポートを提出しても評価しない。

#### 受講者への要望

統計的な基本概念もあわせ補充するが、統計学を既習ないし並行履修が望ましい。上で述べたように演習などのこともあり、出席は厳しく評価したい。

#### 前期授業計画

1. 標本調査とは - 1 : 幾つかの具体例を通し、標本調査とは何か、その意味や方法、問題点などを考える。講義の進め方 - 方針と受講生への要請。
2. 標本調査とは - 2 : 良いサンプルとは何か、よいサンプルを得るための歴史的な試み。有意抽出法 典型法、割当法など調査法とその歴史。
3. 標本 (サンプル)、母集団 : 母集団と標本 (サンプル) の枠組み。母集団特性値 平均、総計、比率。母集団の分散、標本との関係。無作為抽出法の発想。
4. 単純無作為抽出法 - 1 : 復元抽出法と非復元抽出法 意味と方法。乱数について、その性質と使い方。単純無作為標本のつくり方。
5. 単純無作為抽出法 - 2 : 単純無作為抽出法の例、推定量。標本分布の概念 標本平均、標本中央値などの分布。推定量の特性。
6. 誤差の評価 : 推定量の分散、標準誤差。母平均と母集団総計の推定量。標本平均と標本総計の分散とその意味、その推定量。有限母集団補正。
7. 標準誤差 : 標準誤差の意味。推定量の精度 (誤差) 推定量の相互比較 (効率)。母集団比率の推定。
8. 標本の大きさ : 単純無作為抽出法で標本の大きさを決めるにはどうするか。
9. 層化無作為抽出法 - 1 : どんな抽出法か、層化抽出法における要点 (どんな点が問題となるか)。構造模型。
10. 層化無作為抽出法 - 2 : サンプルの配分、推定量とその分散。比例配分と最適配分。単純無作為抽出法との比較。
11. 層化無作為抽出法 - 3 : 層の作り方、層の数。
12. 層化無作為抽出法 - 4 : 調査項目が複数個の場合の取り扱い。サンプルの大きさの決定。

#### 後期授業計画

1. 系統抽出法 - 1 : 意味と方法。推定量、その分散。
2. 系統抽出法 - 2 : 系統抽出法が有効な場合。抽出法の例。

3. 比推定と回帰推定 - 1: 比推定の考え方と実際。  
抽出法の例。
4. 比推定と回帰推定 - 2: 回帰推定の考え方と実際。  
抽出法の例。
5. 抽出確率を変えた抽出法: 抽出単位を選出する確率が等しくない場合の考察 究極の抽出法は?
6. 1 段集落 (クラスター) 抽出法 - 1: なぜ集落抽出法を考えるか その方法。1 段目を等確率抽出した場合。幾つかの推定量 それぞれの特徴と比較。抽出法の例。
7. 1 段集落 (クラスター) 抽出法 - 2: 例を通して問題点の整理。1 段目を確率比例抽出などで抽出した場合。比率の場合。
8. 2 段集落 (クラスター) 抽出法 - 1: 2 段集落抽出法の考え方、推定量その他この抽出法にかかわる問題点の整理。構造模型。クラスターの大きさが等しい場合と異なる場合。推定量と抽出法との関係。
9. 2 段集落 (クラスター) 抽出法 - 2: 一般の場合の説明、1 段目の抽出が等確率の場合。抽出法の例。
10. 2 段集落 (クラスター) 抽出法 - 3: 一般の場合、第 2 段目の抽出が確率比例抽出などによる場合。抽出法の例。
11. 抽出法再考: 講義で扱った様々な抽出法相互の関係、意味、比較など。標本調査における問題 標本調査の実際に関わる諸問題。
12. 標本調査: Q&A、まとめ。課題。なお、Q&A によるトピックは上の講義時間の中に適宜挿入して解説する。そのため上記の順序が若干前後することがある。

01 科目名	
98 科目名	データベース論
97 科目名	情報処理論 ( 1 )
担当者	高柳敏子

#### 講義の目標

初めに、ファイルシステムの欠点を改善するために経験的に開発・改良されてきたデータベースの歴史を概観する。続いて、E. F. Codd によって提案され、現在汎用機からパソコンまで多くの専用ソフトが作られ使われている、関係データベースの基礎から構築および検索すなわち設計と管理の実際を、パソコンを使って示しつつ学習する。

関係データベースの特徴である関係代数による数学的な理論付け、二次元の表で示される単純なデータ構造、定義および操作のための専用言語 (SQL) 等については実際にデータベースを取り扱いながら理解していく。

#### 講義概要

前期は、初めにデータベースの歴史を概観する。続いて、表計算ソフト (MS - Excel) のデータベース機能を使って、最も単純な関係データベースの概要を理解する。さらにデータベースを利用するという観点から、図書館の検索等インターネット上で利用できる情報検索を紹介し、実際にそれらを利用した情報収集を試みる。

後期は、初めに関係データベースの特徴である関係代数による数学的な理論付け、二次元の表で示される単純なデータ構造、定義および操作のための専用言語 (SQL) 等について概説する。続いて関係データベース専用ソフト (MS - Access) を使って実際にデータベースを構築し操作しながら、上記関係データベースの特徴を学習する。

#### テキスト

未定

#### 参考文献

D.M.クロエンケ E 著、栗原潔訳「データベース処理」基礎・設計・実装、プレントリスホール・トッパン、1996

芝野耕司著「SQLがわかる本」オーム社、1998.

穂積・堀内・溝口・鈴木・芝野共著「データベース標準用語辞典」オーム社、1991

#### 評価方法

前期：定期試験と、3 回程度のレポート及び出席

後期：定期試験と、3 回程度のレポート及び出席

#### 受講者への要望

MS - Windows の基礎、MS - Word および、特に MS - Excel の扱いについて十分に理解していること。また欠席をしないこと。

#### 前期授業計画

1. データベースとは ( 1 )  
データベース外観
2. データベースとは ( 2 )  
ファイルシステムからデータベースへ  
データベースの 3 つの観点 (内容的、技術的、理論的)
3. データベースとは ( 3 )  
データベースの歴史、階層データベース、ネットワークデータベース、関係データベースと次世代データベース
4. データベースとは ( 4 )  
データベースの三層スキーマ構造とデータベース管理システム
5. MS - Excel によるデータベースの実際 ( 1 )  
レコード、項目、キー、フィールド
6. MS - Excel によるデータベースの実際 ( 2 )  
レコードの分類と集計
7. MS - Excel によるデータベースの実際 ( 3 )  
実習 ( 1 ): 分類と集計
8. MS - Excel によるデータベースの実際 ( 4 )  
レコードの抽出、条件検索および検索の条件設定
9. MS - Excel によるデータベースの実際 ( 5 )  
実習 ( 2 ): 条件検索
10. MS - Excel によるデータベースの実際 ( 6 )  
クロス集計
11. データベースの利用 ( 1 )  
インターネットと情報検索
12. データベースの利用 ( 2 )  
文献検索およびサーチエンジン

#### 後期授業計画

1. 関係データベース ( 1 )  
関係データモデル、タプル、アトリビュート、ドメイン、主キー
2. 関係データベース ( 2 )  
関数従属、関係の正規化
3. 関係データベース ( 3 )  
関係代数と演算：和、差、積、直積、選択、射影、結合、分割
4. MS - Access による関係データベースの実際 ( 1 ):

設計 ( 1 )

MS - Excel の表の正規化と MS - Access へのインポート

5 . MS - Access による関係データベースの実際 ( 2 ) :  
設計 ( 2 )

テーブルデザインの確認と主キーの設定、関係間の関連付け

6 . MS - Access による関係データベースの実際 ( 3 )

実習 ( 3 ) : Excel からのインポートによるデータベースの構築

7 . 関係データベース ( 4 ) : 管理 ( 1 )

クエリーの表現 : QBE と SQL

8 . MS - Access による関係データベースの実際 ( 4 ) :

管理 ( 2 )

実習 ( 4 ) : QBE による検索処理

9 . MS - Access による関係データベースの実際 ( 5 ) :

管理 ( 3 )

SQL による検索処理

10 . MS - Access による関係データベースの実際 ( 6 )

実習 ( 4 ) : SQL による検索処理

11 . 関係データベース ( 5 ) : 管理 ( 4 ) まとめ

SQL による更新処理

12 . 関係データベース ( 6 ) : 設計 ( 3 ) まとめ

SQL によるデータベース定義

01 科目名	
98 科目名	コンピュータシミュレーション論
97 科目名	情報処理論 (2)
担当者	富田 幸弘

#### 講義の目標

情報処理の応用コースとして開設されている科目である。

「情報処理概論」・「コンピュータ入門」・「情報処理」で学習した Excel をより高度に利用し、また、「プログラミング論」で学習した Visual Basic のより進んだ技法をも学習する。

さらに、経営問題の考え方とその分析方法を学習するとともに、シミュレーションの技法についても学習する。

コンピュータのより高度な利用法についても体験学習し、最後に各自の興味に従ったコンピュータシミュレーションを作成する。

#### 講義概要

出来るだけ具体的な事例などを示しながら、経営問題の考え方とその分析方法を学習するとともに、問題解決におけるコンピュータの高度な利用法を学習する。

- 1) 経営科学の必要性
- 2) シミュレーションとは
- 3) データの整理
- 4) 乱数とその発生法
- 5) 時系列データ
- 6) 経済変動と予測
- 7) 在庫管理
- 8) 日程計画
- 9) 決定理論
- 10) 待ち行列
- 11) シミュレーションモデルの作成法
- 12) ゲーミングシミュレーション

#### テキスト

講義に必要なプリントを配布する。

#### 参考文献

必要に応じて紹介する。

#### 評価方法

前期：数回のレポート提出と、各自の作成したデータ処理の内容、および、出席状況などを考慮して評価する。

後期：数回のレポート提出と、各自の作成したシミュレーションゲームの内容により評価する。

#### 受講者への要望

情報処理概論、コンピュータ入門、情報処理などを既修しているか、または、同等のコンピュータ利

用ができること (Excel の利用が不可欠)。プログラミング論を既修、または、併行履修することが望ましい (自分で技術を獲得しても良い)。

#### 前期授業計画

1. 講義の概要・年間計画・評価などについて
2. シミュレーションを必要とする経営科学の利用例
3. シミュレーションについて
4. データ処理 (基本的な代表値)
5. データ処理 (その他のパラメーター)
6. 統計的推定と仮説検定
7. 一様乱数とその発生法
8. 一様乱数の検定・その他の乱数
9. 時系列データと経済変動
10. 需要予測と時系列分析
11. 在庫管理 (種類・費用・発注)
12. 在庫管理 (ABC 分析・シミュレーション)

#### 後期授業計画

1. 前期の復習と後期の概要
2. 日程計画 (PERT)
3. 意思決定理論
4. 待ち行列
5. シミュレーションモデルの作成手順
6. シミュレーション 1 (概論)
7. シミュレーション 2 (価格戦略)
8. シミュレーション 3 (生産戦略)
9. シミュレーション 4 (販売戦略)
10. シミュレーションゲームでの競争力決定構造
11. 部門管理ゲームの例・ビジネスゲームの例
12. コンピュータシミュレーションのまとめ

01 科目名	
98 科目名	マルチメディア論
97 科目名	情報処理論 ( 3 )
担当者	立 田 ル ミ

#### 講義の目標

現在インターネット上でどのようなマルチメディアが利用され、インターネットでマルチメディア対応のプログラムを作成するためにはどのような手順が必要かを理解することを目標とする。そのために、いくつかのソフトウェアを利用して図形・画像処理・静止画・動画・音声処理に関する実習を行う。また、インターネットを用いてアメリカなどの大学にアクセスし、マルチメディアがどのような授業に使われているか、またマルチメディアがネットワークでどのように利用されているかも紹介する。また、最新のマルチメディアの動向としての図形・画像処理・静止画・動画・音声を紹介する。

#### 講義概要

前期はマルチメディアシステムがどのようなものかを、CD-ROM などを実例を挙げながら実習する。また図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、フォトレタッチなどの機能を学ぶ。さらに音声とアニメーション作成のためのソフトウェアを用いて実習する。これらで作成したファイルを、Word や Power Point で利用し、Visual Basic で統合させる。また、静止画画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについての事例を通して、色彩変換や合成方法についても学び、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても講義とデモンストレーション並びに実習すると共に、マルチメディア作品を制作する。

後期はインターネット上でマルチメディアシステムがどのようなものかを、インターネット上で実例を挙げながら講義し、それらを作成するためにいくつかのソフトウェアを用いて実習を行う。ここでは、図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、三次元空間や画像変換などの機能を学ぶ。さらに音声とアニメーション作成のためのソフトウェアや、ワイヤフレームモデルやサーフェスモデルなどのモデルレンダリングなどを実習する。また、3D やビデオ画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについての事例を通して、色彩変換や合成方法に

についても学び、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても講義とデモンストレーション並びに実習すると共に、受講生が独自の作品を制作しインターネット上に発表する。

#### テキスト

立田ルミ『教育システム情報と Visual Basic』朝倉書店

立田ルミ『コンピュータとネットワークによる情報活用』朝倉書店

#### 参考文献

各種ソフトの参考文献については、授業時に紹介する。

#### 評価方法

前期：定期試験を行い、それを 40% の評価とする。各実習でネットワーク上にレポートを提出してもらい、それを 60% の評価とする。

後期：定期試験を行い、それを 40% の評価とする。各実習でネットワーク上にレポートを提出してもらい、それを 60% の評価とする。

#### 受講者への要望

教職科目履修者を優先とする。

人数が多い場合は、実習室との関係で抽選を行う。

情報処理概論は履修済みの学生に限る。

コンピュータ基本操作に関する説明は行わない。

#### 前期授業計画

##### 1. マルチメディアの基礎：講義

受講生の決定、年間予定、授業方法についての説明。マルチメディアとは何か、マルチメディアで使う用語、マルチメディアの利用とは何か、どのコンピュータの部分でマルチメディアが重要かについての解説およびデモンストレーション。情報メディアについて。

##### 2. 画像ソフトとファイル形式：講義

マルチメディアを扱うソフトとファイル形式の解説。ドロー系ソフト、ペイント系ソフト、プレゼンテーション画像ソフト、スライドショー画像ソフト解説。解像度、画像圧縮について解説。

##### 3. 静止画の作成：実習

大学にある画像作成ソフトウェアを用い、静止画像を作成。ファイル形式と記憶容量の確認。

##### 4. スキャナー：実習

スキャナーのタイプ、解像度、カラーとグレースケールの解説。スキャナーからの画像を取り込み、加工。

##### 5. ワープロによるマルチメディアの処理：実習

ワープロで静止画、音声を扱う。ファイル形式と記

憶容量の確認。

6. プレゼンテーションツールでマルチメディアを扱う：実習  
プレゼンテーションツールで図形、静止画、アニメーションを扱う。
7. Visual Basic の初歩：実習  
各種コントロールの解説とプログラム作成。
8. Visual Basic で静止画を扱う：実習  
静止画の作成、静止画の出力。
9. Visual Basic で図形を処理する：実習  
図形の作成、図形の変更。
10. Visual Basic でアニメーションを作成：実習  
図形の作成、タイマーの設定。
11. アニメーションのソフトウェア：講義と実習  
アニメーションソフトウェアの解説と実習。
12. マルチメディア作品作成：実習  
Visual Basic でマルチメディア作品を作成する。

#### 後期授業計画

1. インターネットとマルチメディア：講義  
インターネットの概説とマルチメディアの紹介と解説。
2. オーディオプロダクションソフトウェア：実習  
オーディオファイル作成、Visual Basic で音声出力
3. オーサリングソフトウェア：実習  
プレゼンテーション向きソフトウェア、カードベースオーサリング、アイコンベースオーサリング、タイムベースオーサリング、オーサリングプログラムの紹介と解説。
4. オーサリングソフトウェア：実習  
大学にあるオーサリングソフトウェアを使って簡単なマルチメディア作品を作成する。
5. ネットワーク：実習  
ネットワーク対応のマルチメディア素材がどのように出来ているかを解説。ネットワークにあるマルチメディアのコースを探す。
6. 3D の概要：講義  
3D ソフトウェアの解説。インターネット上で 3D を用いた作品の紹介。Java、JavaScript を用いた Web ページの紹介。
7. 3D ソフトウェアの利用：実習  
3D ソフトウェアを用いて、3D 作品の作成を行う。
8. 動画処理：実習  
ビデオ標準、ビデオボード、デジタルビデオカメラの紹介と解説。Visual Basic でビデオ画像を出力する。
9. オーディオ処理：実習

オーディオ入力ボード、MIDI ハードウェアの紹介と解説。

Visual Basic で MIDI をコントロールする。

10. 作品作成：実習  
静止画、音声、3D、アニメーション、動画を統合させ、ネットワークに載せる。
11. 作品発表：実習  
受講生の作成したマルチメディア作品を発表し、ディスカッションを行う。
12. 電子出版、Web 出版：講義  
CD-ROM、DVD、インターネット対応のマルチメディアについてのまとめ、今後の課題と展望。

01 科目名	
98 科目名	プログラミング論
97 科目名	プログラミング論
担当者	高柳敏子

#### 講義の目標

本講義では、初めにコンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から概観し、続いてコンピュータに情報処理をさせるとはどのようなことを理解するために、単純なコンピュータをシミュレートするソフトを使って、コンピュータの構造、動作の仕組みおよびコンピュータ内部における情報の表現等、コンピュータの原理およびプログラミングとは何かを学習する。

コンピュータの原理が理解できたところで、高級言語によるプログラミングを通じて、コンピュータによる問題解決の方法やそのアルゴリズムを学習する。

#### 講義概要

前期は、初めにコンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から簡単に概観する。続いて、CASL シミュレータを利用して、仮想のコンピュータ COMET とそのアセンブラ言語 CASL のプログラミングを通して、ノイマン型コンピュータの構造と動作や制御の仕組み、およびコンピュータ内部における情報の表現、さらに基本的なプログラムの仕組み等コンピュータの原理を学ぶ。

後期は、一般的なプログラミング言語の 1 つであるコンパイラ言語の C++ によるプログラミングを通して基本的な情報処理のアルゴリズムをおよび問題解決の技法を学習する。

#### テキスト

随時必要な資料をファイルで配布する。

#### 参考文献

- 「CASL Programming」ITEC (情報処理技術者教育センター) 1994  
 Jamsa 著、春木・佐藤共訳「C++超入門」アスキー出版局、1994

#### 評価方法

前期の定期試験と 3 回程度のレポートおよび出席による。

後期の定期試験と 3 回程度のレポートおよび出席による。

#### 受講者への要望

MS-Windows、MS-Word、および MS-Excel の取り扱いを十分に理解していること。

また、欠席をしないこと。

#### 前期授業計画

1. コンピュータの歴史 (1): ハードウェア  
ノイマン型電子計算機、電子計算機の世代論と記憶素子
2. コンピュータの歴史 (2): ソフトウェア  
プログラミング言語、オペレーティングシステム.
3. ノイマン型コンピュータの構成  
中央処理装置、制御装置、演算装置、記憶装置、入力装置、出力装置、補助記憶装置.
4. COMET の処理装置 (1)  
語構成とビット構成、アドレスとアドレッシング、命令語、制御方式、プログラムカウンタ (PC)、レジスタ (GR, FR, XR)
5. 情報の表現 (1): 数値の内部表現  
整数と 2 の補数表記、16 進表現
6. CASL プログラミング (1)  
CASL の命令: 疑似命令、マクロ命令、機械語命令、プログラムの形式: ラベル、命令コード、オペランド、注釈
7. CASL プログラミング (2)  
CASL の命令: ロード命令とストア命令、加算命令と減算命令、定数定義と領域の確保
8. CASL シミュレータとその実行  
実習 (1): プログラムの入力、編集、アSEMBル、1 命令毎の実行、プログラムのディスクへの記憶、ディスクからの呼出し
9. CASL プログラミング (3): 乗除算処理  
シフト演算、比較演算命令および分岐命令と FR
10. CASL プログラミング (4): 繰り返し処理  
XR の効用
11. 情報の表現 (2): 文字の内部表現  
入出力命令と ASCII コード、JIS コード
12. CASL プログラミング (5)  
実習 (2): 練習問題

#### 後期授業計画

1. アセンブラとコンパイラ: プログラムの翻訳, 連係編集, 実行  
実習 (3): C++ 例題とコンパイラの操作
2. C++ 言語とは  
C++ 言語の基本事項: 文, ブロック, コメント
3. C++ プログラミング (1): 演算と演算子  
情報の表現 (3): 実数



4. C++プログラミング(2): 判断・分岐  
関係式, 関係演算子, 論理演算子
5. C++プログラミング(3): 繰り返し  
配列と文字列データ
6. C++プログラミング(4): 関数  
関数にデータの値を渡す (call by value)  
関数にデータの番地を渡す (call by reference)
7. C++プログラミング(5)  
実習(4): 練習問題
8. アルゴリズムとプログラミングの応用(1)  
数値計算と例題
9. アルゴリズムとプログラミングの応用(2)  
データ構造と整列
10. アルゴリズムとプログラミングの応用(3)  
データ構造と探索
11. アルゴリズムとプログラミングの応用(4)  
ファイル処理の例題
12. アルゴリズムとプログラミングの応用(5)  
実習(5): 応用問題

01 科目名	
98 科目名	プログラミング論
97 科目名	プログラミング論
担当者	立 田 ル ミ

#### 講義の目標

現在ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発されている。それらがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic で実際にプログラミングを行う。この中で、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらに、ネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのようなことが必要かを理解することを目的とする。

#### 講義概要

コンピュータが現在どのような使われ方をしているかを概説し、最新のソフトウェアに関してコンピュータとネットワークを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらをどのようにプログラミングすればよいかを、イベントドリブン型の言語の1つである Visual Basic を用いて例を挙げて解説し、それらの1つ1つの命令に対して講義と演習を行う。さらに最近話題になっているインターネットやマルチメディアについても解説およびデモンストレーションを行うとともに、それらをどのようにプログラミングすればよいかの講義と演習を行い、最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行う。

#### テキスト

立田ルミ"教育システム情報と Visual Basic"朝倉書店

#### 参考文献

立田ルミ "コンピュータとネットワークによる情報活用"朝倉書店

その他、Visual Basic に関する参考文献は授業中に提示する。

#### 評価方法

前期：レポート ： 60%  
ネットワーク上に提出

定期試験 ： 40%  
後期：レポート ： 60%  
ネットワーク上に提出  
定期試験 ： 40%

#### 受講者への要望

この講義は演習を伴うので、人数に制限があることに留意されたい。人数が多い場合は、講義の第1日目に抽選を行う。情報処理概論を既習または Windows に関する基礎知識のあることを前提として講義を行うので注意されたい。

#### 前期授業計画

1. 授業のガイダンスとコンピュータの概説：講義  
コンピュータ誕生までの背景、第一世代、第二世代、第三世代、第四世代のコンピュータ、ハードウェアの概略と獨協大学におけるコンピュータの構成
2. ソフトウェアの歴史と概略：講義  
ソフトウェアの分類、オペレーティングシステム、Windows95の概略、ネットワークの概略
3. 教育におけるコンピュータの役割：講義  
プログラム開発手順：自動化とコンピュータ、コンピュータと通信の結合、マルチメディアとしてのコンピュータ、教育用ソフトウェア、プログラム開発の手順と期間
4. Visual Basic の概略：講義と実習  
イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ、ツールボックス、プロジェクトウインド
5. 簡単なプログラム作成（1）：講義と実習  
アプリケーション開発手順、Visual Basic の開発環境、文字の入出力
6. 簡単なプログラム作成（2）：講義と実習  
四則演算、変数のまとめ
7. 選択のあるプログラム作成（1）：講義と実習  
アプリケーションの設計、コントロールの扱い方
8. 選択のあるプログラム作成（2）：実習  
多くの選択のあるプログラムの処理、選択ステートメントのまとめ
9. 選択のあるプログラム作成（3）：実習  
オプションボタンの利用、チェックボタンの利用
10. 選択のあるプログラム作成（4）：実習  
リストボックスの利用、ドラッグアンドドロップの利用
11. 繰り返しのあるプログラム作成：講義と実習  
If と Go To を用いた繰り返し、For Next を用いた繰り返し
12. 総合問題作成：実習  
いろいろなコントロールを用いて問題を作成する。

## 後期授業計画

1. 図形の処理 ( 1 ): 講義と実習  
直線を描く、曲線を描く
2. 図形の処理 ( 2 ): 講義と実習  
円を描く、色を塗る
3. 図形の処理 ( 3 ): 講義と実習  
Windows の画像処理ソフトを使う、タイマーを使って絵を動かす
4. 図形の処理 ( 4 ): 講義と実習  
ドラッグアンドドロップを使う
5. 音声・動画の処理 : 講義と実習  
音声を録音する、音声を再生する、動画再生のデモンストレーション
6. 配列とコントロール配列 : 講義と実習  
一次元配列、コントロール配列、二次元配列
7. ブルダウンメニュー : 実習  
コンボボックスを使う、ブルダウンメニューの作成、ブルダウンメニューの利用
8. ファイルの利用 ( 1 ): 講義と実習  
コントロールの利用、シーケンスファイルの利用、シーケンスファイルの作成、シーケンスファイルの読み込み
9. ファイルの利用 ( 2 ): 講義と実習  
ランダムファイルの利用:ランダムファイルの作成、ランダムファイルの読み込み
10. ファイルの利用 ( 2 ): 講義と実習  
アクセスファイルの利用:アクセスファイルの作成、アクセスファイルの読み込み
11. インターネットの利用 : 講義と自習  
Visual Basic とホームページとのリンク、ホームページ作成
12. まとめ : 講義と実習  
課題の説明と作成

01 科目名	
98 科目名	政治学総論
97 科目名	政治学総論
担当者	鈴木朝生

#### 講義の目標

本講義は、政治学の総論的な講義として、広く浅く基礎概念・用語法を概括的に説明し、それらに慣れ親しむことを目的とする。

#### 講義概要

日本とイギリスという、相近似した政治制度を持つ国家を、制度のみならず政治の実際をも含めて概観する。

#### テキスト

阿部齊・新藤宗幸・川人貞史著『概説 現代日本の政治』（東大出版会）の中の幾つかの章と松浦高嶺著『イギリス現代史』（いずれも山川出版社）の一部（フランス革命以降）を使う。

以上のテキストは全体を使うわけではないので、経済的余裕のない学生は、自分でコピーすること。

#### 参考文献

『現代政治学事典』（ブレーン出版）、『西洋史辞典』（東京創元社）、『政治学事典』（弘文堂）

#### 評価方法

定期試験（筆記）を行う。また、何らかの方法で出席をとりたい。

#### 受講者への要望

講義初日は必ず出席のこと。また、履修確定時期までの間も欠席は「欠席」として評価する。教室内では携帯電話、PHSのスイッチは切っておくこと。

#### 年間授業計画

1. オリエンテーリング 講義のすすめ方・試験の要領等に関する注意
2. 明治国家から現行憲法体制へ 近・現代日本の政治の枠組みと現行憲法体制
3. 国会の機能 国家の諸機能、「立法国家」から「行政国家」へ
4. 日本の立法過程 立法部としての国会における立法過程の諸特徴
5. 議院内閣制 行政部としての内閣の機能と「55年体制」
6. 福祉国家化と行政機能 福祉国家化、社会保障制度

7. 日本の官僚制 ウェーバーの官僚制概念と日本の官僚制
8. 公共支出の拡大と役割の変化  
公共支出の機能・地方公共財の供給・範囲の拡大と規模の膨張・支出構造の変化・財政赤字
9. 行革改革 行政改革の概念・歴史、行政改革と政治改革
10. 日本の政党 「55年体制」とその後の変容過程
11. イギリス政治（1） 概観（議会、内閣、政党、選挙）
12. " （2） 議会の起源と変遷
13. " （3） 内閣の起源と変遷
14. " （4） 政党の起源と変遷
15. " （5） 選挙制度の起源と変遷
16. 近代イギリス政治史（1） フランス革命とその影響、第一次選挙法改正
17. " （2） 二大政党制の成立、ディズレイリとグラッドストーン
18. " （3） 三党政治から保守・労働二政党制、イギリスと国際政治（ ）
19. 現代イギリス政治（1） コンセンサス政治体制
20. " （2） 福祉国家への道、イギリスと国際政治（ ）
21. " （3） チャーチルと「豊かな社会」
22. " （4） サッチャリズム、コンヴィクションの政治
23. " （5） プレアの政治（北アイルランド問題、地方分権他）
24. まとめ

01 科目名	
98 科目名	民 法
97 科目名	民 法
担当者	花 本 広 志

#### 講義の目標

この講義は法律学を専門としない学生を対象とするから、民法という法律および民法学、ひいては法律学に興味を抱かせることが第一の目標である。さらに、積極的に民法を勉強してみようとする受講者に対しては、独学の際に最低限必要となる基本的な知識と民法の考え方の基本を示せればと考えている。

#### 講義概要

民法とはどのような法律であるか、民法学とはどのような学問であるかを、具体的な設例をできるだけ用いて解説する。重要な制度すべてについて網羅的に説明したり、細かい解釈論上の問題に立ち入りせず、民法および民法学を理解するうえで最も基本的な制度、すなわち、契約を中心に解説する。また、民法はすでに2千年以上の歴史を有するから、民法の歴史にも時間を割く。なお、関連する他の法領域、とくに商法や民事訴訟法についても、民法との関連を中心に必要最低限で触れる予定である。

#### テキスト

特に用いない。

#### 参考文献

第1回の講義で紹介するほか、その都度、指示する。

#### 評価方法

各期末試験による。

#### 受講者への要望

六法全書を必ず持参すること。なお、上記の目標設定からして、ハウ・ツールの知識を求める者には不向きであるので注意されたい。

#### 年間授業計画

1. ガイダンス 民法の位置づけ 民法の特徴 民法の構成
2. 民法の歴史 ローマ法、中世イタリア法学、普通法
3. 民法の歴史 西洋における近代法典編纂、日本民法典の誕生～現在
4. (民事) 司法制度 裁判所の構成、民事裁判の特徴、判例とは何か

5. 契約法 契約とは何か？ 契約の種類 契約の成立 契約の効力
6. 契約法 売買(1)...債務不履行(強制履行・危険負担・損害賠償・解除)
7. 契約法 売買(2)...売主の担保責任
8. 契約法 その他の契約違反(付随義務・保護義務・安全配慮義務、契約締結上の過失)
9. 契約法 消費者保護法
10. 契約法 賃貸借(1)...対抗力
11. 契約法 賃貸借(2)...無断転貸・用法違反・賃料不払など
12. 契約法 契約が有効に成立するための前提条件(1)...権利能力、行為能力
13. 契約法 契約が有効に成立するための前提条件(2)...意思の欠缺、瑕疵ある意思表示
14. 契約法 他人による契約の締結...代理制度 「他人」を作り出す制度...法人制度
15. 物権法 物 物権と債権
16. 物権法 不動産所有権の取得、不動産登記
17. 物権法 動産所有権の取得、善意取得
18. 金融取引法 金銭債権(特徴、利息制限、消滅時効など)
19. 金融取引法 金銭債権の履行確保...物的担保とその実行手続
20. 金融取引法 金銭債権の履行確保...人的担保、その他の担保手続
21. 不法行為法 不法行為とは何か？ 過失責任主義
22. 不法行為法 不法行為に基づく損害賠償(1)...要件
23. 不法行為法 不法行為に基づく損害賠償(2)...効果
24. 不法行為法 使用者責任、危険責任(自賠法三条・製造物責任)

01 科目名	
98 科目名	商 法
97 科目名	商 法
担当者	坂 本 延 夫

#### 講義の目標

最近の重要な判例・立法・理論を通しての株式会社法の平易な理解。

#### 講義概要

商法の講義内容は会社法である。

講義は株式会社法を中心に行うが、受講生が会社法の理論と実務の双方について理解しうよう努める。

平成 5 年・6 年・9 年・11 年・12 年の改正商法にも及ぶ。

#### テキスト

山村忠平・坂本延夫・中村建編著『要説会社法』〔三訂新版〕、嵯峨野書院

#### 参考文献

追って指示する。

#### 評価方法

原則として、二度の筆記試験をもって評価する。

#### 受講者への要望

意欲的な受講を期待する。

#### 前期授業計画

1. 株式会社の経済的意義 法と経済の関連について ( )
2. 株式会社の経済的意義 法と経済の関連について ( )
3. 会社の法概念。 1.会社の社団性 2.会社の法人性 3.会社の営利性
4. 会社の権利能力について。
5. 会社の種類について。
6. 株式会社の意義( ) 1.株式 2.有限責任 3.資本
7. 株式会社の意義( ) 1.株式会社の弊害 2.社会的責任
8. 株式会社の設立( ) 1.設立規制 2.発起人・発起人組合・設立中の会社 3.発起人の権限と責任
9. 株式会社の設立( ) 1.定款 2.登記 3.設立の無効
10. 株式( ) 1.株式の意義 2.株主の権利・義務 3.自己株式(平成 9 年改正商法を含む)
11. 株式( ) 1.株券 2.株式の譲渡・担保化
12. 補講

#### 後期授業計画

1. 株式会社の機関( ) 1.機関の分化と権限の分配 2. 所有と経営・支配の分離
2. 株式会社の機関( ) 1.株主総会の意義と権限 2. 総会の運営と瑕疵
3. 株式会社の機関( ) 1.取締役 2.取締役会
4. 株式会社の機関( ) 1.代表取締役 2.表見代表取締役など
5. 株式会社の機関( ) 1.取締役の責任 2.取締役の義務
6. 株主の代表訴訟と違法行為差止権
7. 監査役制度( )
8. 監査役制度( ) 平成 5 年改正商法について。
9. 株式会社の資金調達( ) 1.新株発行 2.有利発行 3.不公正発行 4.新株発行の無効
10. 株式会社の資金調達( ) 1.社債 2.平成 5 年改正商法
11. 補講( )
12. 補講( )

01 科目名	
98 科目名	総合講座（1）
97 科目名	総合講座（1）
担当者	経済学部

#### 講義の目標

「地球の未来に挑戦する世界と日本」の総合タイトルの下で、主に学外からのさまざまな分野の研究者、専門家、実務家等を招いて、それぞれの分野の最新の知識と情報にもとづく講義をしてもらう。学生は学内に居ながらにして、激しく流動するビジネス世界の現状、日頃あまり詳しく知られていない研究分野の概観、あるいは学際的な先端の動向などをかなり詳しく知ることができる。これらの知識は、単なる学問的な知識に止まらず、学生諸君がやがて迎える卒業後の社会活動における貴重なノウハウをも会得させてくれるであろう。

#### 講義概要

毎週、講義内容が異なるため概要を詳しく述べることはできない。ただ、上記総合タイトルの性質上、従来より経済のみならず社会・政治・文化などあらゆるテーマが採り上げられてきた。それぞれの分野の研究者、専門家、実務家が長年にわたり蓄えてきた専門知識と最新情報のエッセンスを毎週聴くことができることは、得難いチャンスと言えよう。

#### テキスト

特になし。

#### 参考文献

それぞれの講師が講義内容のレジユメを準備して配布したり、参考文献を指示することがある。

#### 評価方法

前・後期にそれぞれ筆記試験を行う。なお、講義の性質上、追試験・卒業再試験は行わないので注意すること。

#### 受講者への要望

学外講師をお招きするので、必ず時間厳守で出席すること。また講義中の私語は絶対に慎むよう切に要望する。

01 科目名	特殊講義 A (経済学入門)
98 科目名	特殊講義 A (経済学入門)
97 科目名	特殊講義 A (経済学入門)
担当者	経済学部

#### 講義の目標

この特殊講義は、経済学部教員がそれぞれ 1, 2 週間を担当し、今日の経済問題や経済学研究の現状、学習体験、学習方法のアドバイスなどをお話するという実験的な講義です。受講者は、多くの先生方の個性的な講義の中から、自らの学習にとって有益なものを見出し今後の糧にして下さい。

必修科目ではありませんが、とくに経済学科の 1 年生はできるかぎり履修してください。

#### 講義概要

第 1 回目の授業で年間計画と注意事項を配布します。

#### テキスト

各教員が指定する場合があります。

#### 評価方法

前期：定期試験

後期：定期試験

なお、追試験、再試験はしませんのでご了解下さい。

#### 受講者への要望

携帯電話の電源を切り、静かに受講してください。



01 科目名	
98 科目名	特殊講義 A (情報通信ネットワーク 有線系)
97 科目名	特殊講義 A (情報通信ネットワーク 有線系)
担当者	安井直彦(前期担当)

#### 講義の目標

有線通信技術と言う側面からのアプローチによって、情報通信ネットワークが現在果たしている役割、その重要性を学生に認識してもらうことを最大の目標にしたい。非常に膨大な技術の集積として構築されている、或いはされつつあり、また非常に勢いで変化しつつある情報通信ネットワークの1面を捕らえた講義は技術のデパート的になる可能性があるので、できるだけ本質的な部分を懇切丁寧に教えて行くこととしたい。講義終了後、できるだけ多くの学生が情報通信ネットワークという技術に何か面白そうなものがありそうだ、と思うような講義をしたい。

#### 講義概要

情報通信ネットワークを構成する3要素である端末、ノード、リンクの代表的技術について実習を交え、体験をとおして3要素の技術の概要、及びそれらを相互に接続したネットワークの概要について学習する。具体的には、端末としてはパソコンを、ノードとしてはハブ、ルータを、リンクとしてはイーサネット、公衆回線を取り上げ、それぞれの技術的内容を講義すると共に、それら相互を実際に接続し、LAN、あるいはダイヤルアップネットワークを構築することによって、インターネットワーク構築方法を体験することによって、情報通信ネットワークについて概要を理解することを目的とする。

#### テキスト

指定せず(ノート講義を中心に行う予定。)

#### 参考文献

相沢、水野訳(Andrew S. Tanenbaum)「コンピュータネットワーク第3版」プレントリスホール出版、平成9年

#### 評価方法

出席点をベースに、適宜レポートまたは試験を実施する。

#### 受講者への要望

有線通信技術の概要を学ぶ意欲のある受講者を歓迎する。

#### 半期授業計画

1. オリエンテーション：受講者の確認・決定。講義予定、授業方法等の注意事項について説明。合わせて、半年間の講義の概要を述べる。
2. パソコン (3回)
  - 1 1 本体、メモリー
  - 1 2 周辺、インタフェース
  - 1 3 実習(パソコンの分解組立)
3. パソコン間通信 (2回)
  - 3 1 LAN(Ethernet)
  - 3 2 実習(パソコン間通信の実現)
4. ルーター (2回)
  - 3 1 ルータ構成、機能、プロトコル、
  - 4 2 実習(LAN間通信の実現)
5. インターネットへの接続 (3回)
  - 5 1 インターネットワーク
  - 5 2 電話網、CMTV(公衆網)
  - 5 3 実習(ダイヤルアップ接続の実現)
6. ネットワークセキュリティ (1回)

01 科目名	
98 科目名	特殊講義 A (情報通信ネットワーク 無線系)
97 科目名	特殊講義 A (情報通信ネットワーク 無線系)
担当者	三宅 真(後期担当)

#### 講義の目標

インターネットや携帯電話に代表されるように、デジタル無線通信ネットワークは私たちにとって極めて身近な存在となり、今日の社会における重要な情報通信インフラストラクチャとして定着しており、今後のマルチメディア社会においては更なる進歩・発展が展望されている。この講義では、種々の無線通信システムの実例を挙げながら、システムの構成と発展動向を解説すると共に、インターネットや携帯電話などの実際のデジタル無線通信ネットワークにおいて情報が伝達される仕組みについての基本的なことからセキュリティの観点を含めて理解していただくことを目標とする。

#### 講義概要

最初に、インターネットや携帯電話の最前線の動向に触れるとともに、実際のデジタル移動通信およびデジタル衛星通信における無線通信ネットワークの構成を紹介し、解説する。次に、デジタル無線通信ネットワークにおいて情報が伝送されるということがどのような技術に支えられて実現しているのかについて、基礎的なことから実例に則して分かり易く、実習を含めて解説する。最後に、デジタル無線通信ネットワークの今後の発展動向と技術動向を示唆するとともに、分かり易く解説する。

#### テキスト

指定せず(ノート講義を中心に行う予定。)

#### 参考文献

山本, 加藤「TDM A 通信」電子情報通信学会, 平成元年

奥村, 進上「移動通信の基礎」電子情報通信学会, 昭和 62 年

#### 評価方法

出席点をベースに、適宜レポートなどを実施する。

#### 受講者への要望

なるだけ多くの実例を挙げながら、分かり易い講義を目指す予定であり、デジタル無線通信ネットワークに興味のある一人でも多くの学生諸君に聴講していただけることを期待している。

#### 半期授業計画

1. オリエンテーション: 受講者の確認・決定。講義予定、授業方法等の注意事項について説明。合わせて、半年間の講義の概要を述べる。
2. デジタル無線通信概論(1): 無線通信システムの特徴、発展の歴史と動向について概説。
3. デジタル無線通信概論(2): 移動体通信ネットワーク/システムの種類と構成について解説。
4. デジタル無線通信概論(3): 衛星通信ネットワーク/システムの種類と構成について解説。
5. デジタル無線通信実習(1): 無線通信におけるデジタル情報伝送の基本的事項について実習を交えて解説。
6. デジタル無線通信実習(2): 同上。
7. デジタル無線通信実習(3): デジタル無線信号の変復調技術、誤り訂正技術、同期技術およびセキュリティの基本的事項について実習を交えて解説。
8. デジタル無線通信実習(4): 同上。
9. デジタル無線通信実習(5): 同上。
10. デジタル無線通信概論(4): デジタル無線ネットワーク/システムの発展動向と技術動向を解説。(スペクトル拡散通信, 周波数有効利用など)。
11. デジタル無線通信概論(5): 同上。
12. まとめ

01 科目名	
98 科目名	経営戦略論
97 科目名	
担当者	富田 忠義

#### 講義の目標

受講者が現代企業の行動を戦略的な観点から理解できるようにしたいというのが、本講義の狙いである。そこで、現代的な経営戦略理論を理解するための基礎概念、経営戦略の種類と類型、経営戦略を策定するための技法などについて概説する。経営戦略論の入門編である。

#### 講義概要

ここでは企業の戦略策定について、理論と技法の両面から学ぼうとしている。まず経営戦略とは何なるものか明確にして、戦略策定上の重要変数として、経営目標、経営環境、経営資源を取り上げて考察する。次に、多様な経営戦略を類型化して全体を把握する。個別の戦略の策定について検討する前に、経営戦略の一般的な策定法について理解する。こうした準備の後で、拡大化戦略、多角化戦略、ポートフォリオ戦略、リストラ戦略、競争力強化戦略、マーケティング戦略等について個々に考察する。

#### テキスト

車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版  
河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版

#### 参考文献

グロービス・マネジメント・インスティテュート編『MBA 経営戦略』ダイヤモンド社  
西村克巳著『よくわかる経営戦略』日本実業出版社  
波頭亮著『戦略策定概論』産能大学出版部  
M. ポーター著『競争優位の戦略』ダイヤモンド社

#### 評価方法

前期：前期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価する。定期試験の際、試験場への教科書・ノート等の持込みは認めない。

後期：後期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価する。定期試験の際、試験場への教科書・ノート等の持込みは認めない。

#### 受講者への要望

テキストを利用するが、授業中にテキストの全文

を克明に解説するというわけではないので、開講後できるだけ早く、テキストの全文を各自で読了しておくこと。

#### 前期授業計画

1. 年間講義計画の概要
2. (経営戦略の基礎) 激動する経営環境と経営戦略の重要性の増大化、環境の定義、環境に含まれる機会と脅威の発見
3. 同上
4. (経営戦略の構造) 経営戦略策定上の関連変数、経営目標、経営環境、経営資源、効果的な経営戦略の要件
5. 同上
6. (経営戦略の類型) 全社戦略、事業戦略、競争戦略、機能戦略
7. 同上
8. (経営戦略の策定過程) 業界分析、自社競合分析、市場細分化
9. 同上
10. 戦略代替案の作成と評価、アクションプラン
11. 同上
12. 前期講義まとめ

#### 後期授業計画

1. 後期講義計画の概要
2. (成長戦略の策定 拡大化か多角化か) 事業拡大化戦略
3. 事業多角化戦略
4. (製品ライフサイクル戦略) 製品ライフサイクル、成熟期に移行する業界の経営戦略
5. 同上
6. (リストラ戦略) 事業構造の再構築の必要性、リストラ戦略の策定、攻めのリストラ、守りのリストラ
7. 同上
8. (事業ポートフォリオ・マネジメント) 多産業型企業の戦略策定、事業選択戦略、戦略事業単位の識別、エクスペリアンス・カーブ効果
9. 同上
10. (ポーターの競争戦略の基本型) 競争戦略の策定、業界構造と5つの競争要因、競争優位の構築、価値連鎖
11. 同上
12. 年間講義のまとめ

01 科目名	経営管理論 a・b
98 科目名	経営管理論
97 科目名	経営管理論
担当者	黒川文子

#### 講義の目標

経営管理論ほど、時代の変化とともに進展した領域はない。古くは、単なる工場内の管理から、今日では、経営管理論は地球環境問題を含めて議論されている。アメリカでは経営学といえば経営管理論と同一視されているほど、経営学の中心領域であるので、基本的な事項を十分時間をかけて講義する。

#### 講義概要

経営管理論の歴史的展開から始めて、多国籍企業の管理や環境問題などの今日の問題までも含めて講義する。

#### テキスト

なし

#### 参考文献

河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版

河野重榮他編著『現代マネジメント』同文館

#### 評価方法

前期、後期の期末試験とレポートによって、総合的に評価する。

#### 受講者への要望

毎日出席することは言うに及ばず、レポートも期日までに提出する。

#### 前期授業計画

1. 経営管理論の対象と方法
2. 経営資源の認識と発達
3. 経営管理学説
4. 経営管理学説
5. 経営管理学説
6. 経営資源の種類
7. 経営者の役割
8. 経営の意思決定
9. 企業組織（ハード中心組織）
10. 企業組織（ソフト中心組織）
11. 経営理論
12. 日本の経営管理

#### 後期授業計画

1. 情報と経営管理
2. 生産と経営管理

3. マーケティングと経営管理
4. リエンジニアリングとリストラクチャリング
5. 経営理論と文化
6. 非営利企業管理
7. 環境経営
8. 意思決定論
9. システム論
10. 経営管理の現況
11. 経営管理の現況
12. 経営管理の将来

01 科目名	
98 科目名	経営組織論
97 科目名	
担当者	高松和幸

#### 講義の目標

この講義では、伝統的組織論から近代組織論への発展を前提として、とくに近代組織論の内容について理解を深めることを目的とする。組織論においては、組織を取り巻く環境の土台のうえに、個人と組織との関わりがもっとも重要な課題であり、こうした諸問題をとりあげて論述する。

#### 講義概要

講義では、伝統的組織論を出発点として、人間関係論におけるモチベーション理論やコンティンジェンシー理論をとりあげ、そのうえで近代組織論として、協働システムとしての組織、意思決定システムとしての組織、生存可能システムとしての組織に重点をおいて、その周辺の諸問題をとりあげて講義する。

#### テキスト

高松和幸『経営組織論講義』創成社、1999。

#### 参考文献

開講時に指示する。

#### 評価方法

期末定期試験・平常授業の課題など。

#### 前期授業計画

1. 伝統的組織論 ... 伝統的組織論は、古典的組織論ともいわれ、アメリカのテーラーや、フランスのファヨールを始祖とする。さらに、より近代化された形で経営過程学派とよばれるクーンツなどにより継承されている。こうした伝統的組織論の特徴を明らかにし、近代組織論への発展の基礎を解明する。
2. 伝統的組織論 ... フランスのファヨールやクーンツの理論をとりあげる。
3. 近代組織論 ... バーナードは近代組織論の創始者であり、その後、多くの研究者によって発展され、組織論を一新している。こうした近代組織論は、現代ではバーナード=サイモンと、その流れをくむマーチ=サイモンなどによって展開されている。ここでは近代組織論の内容を検討し、もって現代における組織論の特徴を明らかにする。
4. 近代組織論 ... マーチ=サイモン理論をとりあげ

る。

5. 経営組織モデルの発展段階... 経営組織モデルの形態的発展は、ファンクショナル組織を基本とすることで、ライン・スタッフ組織や職能部門制組織があり、また事業部制組織やマトリックス組織がある。こうした経営組織モデルの形態について検討する。
  6. 組織とモチベーション理論 ... モチベーション理論は、「人間関係論」から始まる。また組織的意思決定論と並んでモチベーション理論が取り上げられることもある。しかし両者の過去の研究成果や、その分析方法と概念体系は、かなり相互に異質のものである。こうしたモチベーション理論を取り上げて検討する。
  7. 組織とモチベーション理論 ... モチベーション理論の問題をとりあげる。
  8. 組織とコンティンジェンシー理論 ... コンティンジェンシー理論は、また条件理論、条件適合理論、構造条件適合理論などともいわれ、組織と環境との関係に目を向け、組織の環境が異なれば有効な組織は異なる、という命題の上に立っている。こうしたコンティンジェンシー理論を取り上げて検討する。
  9. 協働システムとしての組織 ... 組織は「意識的に調整された 2 人以上しそれ以上の人々の活動および勢力のシステム」として定義できる。この前提には、個人能力の限界のために生じる「協働システム」がある。つまり他人との協同によって自己の動機や目的を達成しようとする。こうした組織について検討する。
  10. 協働システムとしての組織 ... 協働システムの問題をとりあげる。
  11. 意思決定システムとしての組織 ... 組織の理解に関して、サイモンは各人が組織において活動する場合の前提となる意思決定 選択問題に注目し、さらにその意思決定の前提を問題としている。サイモンの組織観は、多様な意思決定のネットワークとして形成される。こうした意思決定のシステムとしての組織について検討する。
  12. 意思決定システムとして組織 ... 意思決定の問題をとりあげる。
- #### 後期授業計画
1. 組織均衡の理論 ... 組織均衡の理論は、近代組織論に共通した一つの中核的な理論である。組織に参加する人々に、誘因と貢献のバランスによって満足を提供する能力をもたなければ、組織は存続できないことが明らかにされている。こうした組織の均衡問題について検討し、もって組織の存続と成長の理

論を明らかにする。

2. 組織均衡の理論 ...組織均衡問題を取りあげる。
3. ゴーイング・コンサーンとしての組織 ...バーナードの組織論と重要な関係をもっているコモズのゴーイング・コンサーンの概念は、継続的企業体を意味しており、それはバーナードにおける協働システム概念に相当する。この概念によって表される多様性の広がりをもつ組織について検討する。
4. ゴーイング・コンサーンとしての組織 ...ゴーイング・コンサーンの問題を取りあげる。
5. 組織とコンフリクト...組織行動や人間行動が正常に機能しているとき、組織では様々な代替案を提供できる。ところがこの意思決定のメカニズムが停止するとどうなるか。このような状態がコンフリクトである。ここではコンフリクトの発生のメカニズムから分類・解消まで取り上げる。
6. 組織とサイバネティクス ...サイバネティクスは、ウィーナーによって創始されたもので、すべてのシステムには、制御過程を支配する一般的法則が存在することを明らかにし、その法則は究めて複雑な、いわゆる有機的機能をもつシステムに適用されることを主張している。こうしたサイバネティクスと組織との関係について検討する。
7. 組織とサイバネティクス ...組織とサイバネティクスの問題を取りあげる。
8. 生存可能システムとしての組織 ...企業組織についてピアによれば、それは平板で静的な実体ではなく、「動的で生存し続けるシステム」であるとしている。すなわち、企業の究極の目的を生存におき、生存可能な組織構造を、生存可能システムとして展開している。こうした組織に関する諸問題を取り扱う。
9. 生存可能システムとしての組織 ...生存可能システムを取りあげる。
10. 組織のカタストロフィー・モデル...カタストロフィー理論は、ルネ・トムが創始した理論で、自然界を含めて各種過程のモデルの一般論を、カタストロフィー理論として展開し、新しい世界像、自然観の建設を目指している。具体的には図形を用いて、組織サイバネティクスの立場から生存システムとの関連において取り上げる。
11. 組織と必要多様性の法則...経営組織には、多くの「多様性」が存在する。内部組織の経済学においては、不確実な要素を含むさまざまな多様性が存在することが明らかにされている。したがって経営管理は「多様性」の管理であるといわれる。こうした「多

様性」の概念を出発点として、「必要多様性」の原理と法則を解明する。

12. 組織における自律性の概念...経営組織の「自律性」の概念については、その起源をメーヨーに求めることができる。こうした「自律性」の概念を取りあげて検討する。自律性の問題は、さらに今日的な課題として、非営利集団からなる自律性の問題として展開されている。

01 科目名	
98 科目名	経営財務論
97 科目名	経営財務論
担当者	亀川雅人

#### 講義の目標

経営財務論は、企業の資本調達と運用（投資）に関する意思決定を研究対象にする。資本調達は、証券市場における株式発行や社債発行、あるいは銀行借入れなどであり、資本運用は、機械設備の購入や工場の建設、店舗の新設や商品開発、企業の買収など、企業が購入しようとするありとあらゆるものが対象となる。本講義は、資本調達と運用を結びつける資本コストの理解が中心テーマである。

#### 講義概要

前期は、財務的意思決定の基礎的知識を修得する。企業の資本を理解することから始まり、資本市場のメカニズムや株価の決まり方などを講義する。後期は、基礎的知識の応用である。日本の企業財務や、リスク管理手法としての先物やオプションなど一般にデリバティブと称されるものを講義する。

#### テキスト

亀川雅人著『新版 企業財務の物語』（中央経済社）

#### 参考文献

亀川雅人著『企業資本と利潤』（中央経済社）

亀川雅人著『日本型企業金融システム』（学文社）

#### 評価方法

定期試験、レポート、出席状況などを総合的に評価し、判断する。

#### 受講者への要望

出席すること

#### 前期授業計画

##### 経営財務論の基礎

経営財務論の研究対象  
 企業環境と企業資本の意味  
 企業資本と利子  
 企業資本と利潤  
 資本利益率の計算  
 資本利益率とリスク  
 資本コストの概念  
 減価償却と内部保留  
 投資の経済計算

企業形態と資本調達  
 株式会社と株価（創業者利得）  
 株式市場のメカニズム  
 会社四季報

#### 後期授業計画

経営財務の応用問題  
 企業の資本構成  
 企業の配当政策  
 株式所有構造と日本的経営  
 日本企業の利益率  
 日本企業の資本コスト  
 メインバンクの役割（日本企業の資本調達）  
 日本企業の資本構成  
 株式持合いの条件  
 デリバティブ（先物、オプションなど）  
 M & A  
 バブル経済の崩壊と企業財務  
 証券市場と株主重視経営

01 科目名	
98 科目名	経営労務論
97 科目名	経営労務論
担当者	仙田 幸子

#### 講義の目標

企業は従業員を資源の一つとして活用する。その方法をあつかうのが人的資源管理論である。採用、配置、育成、評価、雇用調整という経営労務の各場面を取りあげ、企業における人事労務管理の基本的な考え方・施策・問題点について学ぶ。

一律管理から個別管理へと雇用管理の原則が変化の中で、その変化の内容を雇用される側の立場から見ることで、どのような働き方をしたいのかを自分なりに考える手掛りを提供することを目的とする。

#### 講義概要

経営の効率と個人の福祉を両立させるにはどのような人的資源管理が望ましいかについて考える。

前期は人的資源管理論の基本的な理論の概括を主な内容とし、後期はその知識をもとに、企業における人的資源管理施策の実情を資料にもとづいて検討する。

#### テキスト

佐藤博樹・藤村博之・八代充史「新しい人事労務管理」有斐閣、1999。(変更の可能性あり)

#### 参考文献

- 金井壽宏 1999 『経営組織』日経文庫  
 今野浩一郎 1996 『人事管理入門』日経文庫  
 井原久光 1999 『テキスト経営学』ミネルヴァ書房

#### 評価方法

前・後期とも定期試験と授業中のレポート(随時)を100点満点に換算し、60点以上の受講者に単位を与える。レポート未提出者には定期試験を受験しても単位は与えない。

#### 受講者への要望

3年生までに履修することを推奨する。

遅刻、私語、携帯電話・PHSの使用、その他授業の妨げになることは慎むこと。

授業中のレポート(随時)を提出していない場合、定期試験を受験しても単位は与えないので留意すること。

#### 前期授業計画

1. 前期ガイダンス

2. 人事労務管理の機能
3. モティベーション管理・1
4. モティベーション管理・2
5. 採用・配置・異動
6. 雇用調整
7. 複線型雇用管理・1
8. 複線型雇用管理・2
9. 女性従業員の雇用管理
10. 昇進管理
11. 賃金管理
12. 前期のまとめ

#### 後期授業計画

1. 後期ガイダンス
2. 進路決定
3. 就職
4. キャリア発達・1
5. キャリア発達・2
6. 能力開発
7. フリーター
8. 非正規従業員
9. これからの福利厚生制度
10. 日本的雇用管理の変化
11. 個別的労使関係
12. 後期のまとめ



01 科目名	
98 科目名	国際経営論
97 科目名	国際経営論
担当者	小林 哲也

#### 講義の目標

現代経済のグローバル化の主体は、多国籍企業である。情報技術革命の時代にあつて、多国籍企業は、財の生産や販売のみならず、情報や金融の世界でもグローバル化を進めてきている。各分野における技術革新と、情報通信技術の発達により、国際分業が新たな形で再編成されつつある。本講義では、多国籍企業の国際経営活動と、世界経済の構造変化を分析してゆく。

#### 講義概要

前半では、国際化・情報化の中で新しい競争の時代を迎えた、現代企業をとらえる企業理論の流れを解説する。後半で、日本とアメリカの企業を中心に、多国籍企業の国際経営戦略の、ケース・スタディを進める。

#### テキスト

特に定めない

#### 参考文献

青木昌彦・R.ドーア編著『システムとしての日本企業』NTT出版

三輪芳郎『日本の企業と産業組織』東京大学出版会

三井逸友編著、[1999]『日本的生産システムの評価と展望 国際化と技術・労働・分業構造』ミネルヴァ書房

G.エスピノ - アンデルセン、『ポスト工業経済の社会的基礎』、桜井書店

#### 評価方法

出席などの平常点および前期/後期定期試験成績による。

#### 年間授業計画

1. 多国籍企業の歴史  
資本主義世界経済と企業活動
2. 現代経済における多国籍企業  
グローバル化と情報化
3. 現代企業の理論 巨大企業の時代  
寡占化と「豊かな」大衆消費社会
4. 現代企業の理論 コーポレートガバナンスの変

#### 貌

新しい経営者支配論

5. 現代企業の理論 生産システムの革新  
フォーディズムからトヨタイズムへ
6. 現代企業の理論  
多国籍企業の理論 輸出から直接投資へ
7. 現代企業の理論  
情報技術革命とコーポレートガバナンス
8. 多国籍企業と新しい国際分業  
技術革新と国際分業の新しい再編成
9. 日本企業の国際化  
システムとしての日本企業
10. 日本企業の海外進出  
70年代から90年代まで
11. 日本企業の海外進出  
アジアへの進出と撤退
12. 日本企業の海外進出  
アメリカの日系企業
13. 日本企業の海外進出  
ヨーロッパの日系企業
14. 日本企業の海外進出  
「ジャパナイゼーション」をめくつて
15. 情報技術革命と日米企業  
IT革命のインパクト デジタル・エコノミーの勃興
16. 情報技術革命と日米企業  
新しいビジネスモデル
17. 情報技術革命と日米企業  
GEと東芝 スピード経営革命
18. 情報技術革命と日米企業  
FMSとネットワークの新段階 自動車産業のグローバル化
19. 情報技術革命と世界的な産業の再編成  
アジアにおける新工業化
20. 情報技術革命と世界的な産業の再編成  
EUにおける産業のリストラクチャリング
21. 情報技術革命と世界的な産業の再編成  
ハイテク産業における競争の新段階
22. 情報技術革命と世界的な産業の再編成  
日本企業の課題

01 科目名	経営史 a・b
98 科目名	経営史
97 科目名	一般経営史
担当者	柳 敦

#### 講義の目標

欧米を中心とし、企業経営行動の歴史の変遷をたどる。各時期、各地域における企業行動の合理性（あるいは非合理性）を歴史的制約・文化的側面をも含めて考える。

#### 講義概要

前期においては、近代工業化以前の企業活動を概観し、次いで英国における産業革命と企業経営行動の変革を考察する。

後期には、後発工業国であるフランス、ドイツ、米国の事例を検討しながら 19 世紀における企業経営を考察し、次いで 20 世紀型企業経営の問題を考える。

#### テキスト

米倉『経営革命の構造』岩波新書 1999 年

#### 参考文献

必要に応じて紹介する。

#### 評価方法

前期：期末試験によって評価を決める。

後期：期末試験によって評価を決める。

#### 受講者への要望

とくにない

#### 前期授業計画

1. 経営史の課題と視点
2. ヨーロッパ前近代における企業と経営（1）
3. ヨーロッパ前近代における企業と経営（2）
4. ヨーロッパ前近代における企業と経営（3）
5. 重商主義とアダム・スミス
6. 資本主義とその精神
7. 英国産業革命とその特徴（1）
8. 英国産業革命とその特徴（2）
9. 英国産業革命期の企業経営（1）
10. 英国産業革命期の企業経営（2）
11. 工場制の導入と規律の変化
12. 英国産業衰退の問題

#### 後期授業計画

1. 19 世紀フランスにおける工業化とその特徴
2. 19 世紀フランス企業経営の特徴
3. 19 世紀ドイツにおける工業化とその特徴

4. 19 世紀ドイツ企業経営の特徴
5. 19 世紀からの小売業界における革新
6. 19 世紀米国における工業化とその特徴
7. 19 世紀米国企業経営の特徴
8. ビッグビジネスの展開と独占禁止法
9. 科学的管理法の展開
10. 企業組織のあり方
11. フォードと GM（自動車業界でのスケールとスコープ）
12. 産業エリートと教育

01 科目名	
98 科目名	日本経営史
97 科目名	日本経営史
担当者	郡 司 淳

#### 講義の目標

この講義は、近代日本の経営について、歴史を場として検証することを目的とする。非西欧社会で唯一日本のみが工業化に成功したのは何故か。近代の経営を支えた企業動機・経営理念とはいかなるものだったのか。さらには、それが十五年戦争期において、「産業報国」の名の下、国家と戦争に奉仕するにいたった理由はどこに求められるのだろうか。こうした問いに応えることこそが、この授業の課題なのである。大企業の経営破綻が相次ぎ、新たな経営理念が模索されている現代こそ、ともに歴史に学びたい。

#### 講義概要

講義は、歴史資料を時代に位置づけて読み解く作業を中心に展開していく。前期は、資本主義化を可能ならしめた社会基盤を問う作業として、江戸時代における国内市場の形成、近代における「国民」の創出と教育システムの問題をとりあげ、さらに産業革命が民衆世界に何をもたらしたかを考えたい。後期は、経営理念を中心に、福沢諭吉、渋沢栄一、武藤山治、黒沢貞次郎、小林一三らの言説や事業をとりあげる。受講生各人は、日本経営史に関する基礎的知識を習得するとともに、各時代を生きた先人の営みを追体験しつつ、その知恵に学んでほしい。

#### テキスト

齊藤博『民衆精神の原像』（藤原書店）

#### 参考文献

ほぼ毎時間資料プリントを配布するほか、講義の内容に則し、適宜紹介する。

#### 評価方法

各学期末に論文形式のペーパー試験を行う。講義をふまえた上で、自分の頭で考え、自分の言葉で表現しているか、論文として成り立っているかが評価の基準となる。

#### 受講者への要望

毎回授業に出席した上で、教師の板書・解説に自らの知見をも加えた自分なりのノートを作成すること。

#### 前期授業計画

1. 江戸時代 百姓の時代
2. 江戸時代 都市の発達と国内市場の形成
3. 西欧の衝撃と明治維新
4. 「国民」の創出 生活のリズム
5. 「国民」の創出 産業的身体
6. 「国民」の創出 国語国字問題
7. 「国民」の創出 教育勅語体制と「良兵良民」体制
8. 日本の産業革命 地租改正と本源的蓄積
9. 日本の産業革命 紡績業の発達
10. 女工問題をめぐり
11. 絶望の明治農村
12. 小括

#### 後期授業計画

1. 近代の経営理念 福沢諭吉の世界
2. 近代の経営理念 渋沢栄一の世界
3. 「生きた器械」 技術導入をめぐり
4. 資本家の創出
5. 専門経営者の台頭
6. 日本的経営 独占資本の形成と労働運動の高揚
7. 日本的経営 武藤山治と経営家族主義
8. 日本的経営 吾等が村（黒沢工場村）
9. サラリーマン社会の成立
10. 「より良く、より安く、より多数の人に」 阪急 小林一三の挑戦
11. 女性の職業進出
12. 総括

01 科目名	
98 科目名	マーケティング論
97 科目名	マーケティング論
担当者	大久保 貞 義

#### 講義の目標

マーケティング活動は自由主義経済の下における企業活動の基本を示すものである。マーケティングの基本原理は"人間のニーズと欲求を充足させる事をめざす人間活動"である。人間の各種の欲求は交換過程を通じて充足される。しかし、この人間の欲求は複雑多岐にわたるものであり、また、社会の環境によっても欲求そのものが変化する。したがって欲求充足をめざす人間活動は、基本的には心理学・社会心理学・社会学・文化人類学・数学のアプローチで分析されるばかりでなく、これらを総合化した隣接科学（インターディシプリナー・サイエンス Interdisciplinary Science）的な分析の理解が必要になる。

マーケティングは極めて現実的・実際の学問である。

#### 講義概要

社会は刻々と変化している。交換機能を果たす市場は変化し、人間の欲求も刻々と変動する。これに対応して企業活動もダイナミックに変革をとげている。

これらの変化を読み取り、企業活動の基本的戦略の方向を決定する上でマーケティング・サイエンスは役立つであろう。

またマーケティングという学問領域も時代と共に発展しており、その学問水準も、またその思想体系も多様性を示すようになって来た。

1940 年以降は社会科学との関連性が重視され、1960 年までこの傾向が強かったが、しだいに行動科学的概念が導入され始めた 1970 年代以降は"社会変化のためのきわめて効果的管理方法"としてビジネス分野以外にも新しい研究方法としてマーケティング概念が取り入れられた。

こうした考え方は、人間を動かす政策科学への応用、さらに現実社会の企業活動のみならず、国家政権への分野にも取り入れられ始めた。

マーケティングサイエンスの応用分野は、当初のマーケティング学者の予測を越えて、多様な分野で

極めて現実的な科学として実際社会で使われ、応用されている。

#### テキスト

授業で指示します

#### 評価方法

レポートと定期試験で評価します。

欠席 3 回以上の者は、学期末テストが受けられない場合があります。

再試験は行わないので、注意して下さい。

#### 受講者への要望

毎日、必ず新聞の経済面を読み、経済動向を追う事を特に希望したい。一つの経済問題を追うと面白味は倍になります。

#### 前期授業計画

- 1.....マーケティングとは何か（第 1 週）
  - ・人間のニーズとは。 ・欲求充足の市場の形成と交換の機能
  - ・人間は何故買うか（欲求 = 充足 = お金）
  - ・市場の形成過程
- 2.....マーケティング管理の変遷（第 2・3 週）
  - ・企業は生産中心主義からマーケティング志向へ
  - ・企業の利益中心から消費者の満足へ
  - ・利益中心主義から社会貢献主義へ
  - ・マーケティングの活用分野の拡大（ビジネス活動の分野から公共活動の分野へ）
  - ・非営利組織（大学病院・軍隊・警察・政府の各部門）も大きな関心を持ち始めた。
- 3.....社会の発展と人間欲求の変化（第 4・5 週）
  - ・農業社会・工業社会・脱工業化社会
  - ・人間欲求の変化と価値観の変動
  - ・過去 現在 未来（未来予測の方法論）
  - ・消費者動向の変化と企業の戦略形式
- 4.....消費者ニーズの調査法(第 6・7 週)
  - ・消費者の欲求をさぐりあてる
  - ・デモグラフィック・アプローチ
  - ・ライフスタイル・アプローチ
- 5.....市場調査の技法（第 8・9 週）
  - ・データの収集法
  - ・サンプリングとその実際的方法
  - ・グループインタビュー法と潜在意識調査
  - ・質問紙の作成法と技法
  - ・市場調査の分析と企業戦略
- 6.....消費者行動の分析（第 10 週）
  - ・文化的・社会的・及心理的な特性
  - ・社会階層と消費者行動
  - ・欲求の階層化と心理的ヒエラルキー
  - ・新製品の採用プロセス（認知から採用までの五段階）
- 7.....マーケティング・セグメント（第 11 週）
  - ・デモグラフィック要因とジオグラフィック要因
  - ・人口動態の変化
  - ・有望市場の発展とニューマーケット（シルバーマーケット、働く主婦層）

- 8.....製品企画とライフサイクル(第 12 週) ・アイデアとコンセプト開発 ・開発から衰退までのライフサイクル

#### 後期授業計画

- 9.....マーケティングコミュニケーション(第 13 週) ・企業の広告戦略 ・広告の技術と戦略 ・広告とセールスプロモーション
- 10.....マーケティング戦略と計画の作成(第 14・15 週) ・セールス・フォース ・セールス・プロモーション ・セールスマンの訓練と育成 ・製品の販売管理
- 11.....サービス・マーケティング(第 16 週) ・組織のマーケティング ・人材のマーケティング ・計画作成 = 組織 = コントロール機能
- 12.....非営利企業のマーケティング(第 17・18 週) ・大学のマーケティング ・軍隊・地方公共団体・市町村のマーケティング ・ハブリシティの役割
- 13.....マーケティングと企業家(第 19・20 週) ・企業のリーダーシップとマーケティング ・リーダーのタイプと時代の変化 ・企業のマネジメントとマーケティングの応用
- 14.....マーケティングと国家体制(第 21・22 週) ・資本主義社会と人間の欲望 ・社会構造と国家政策 ・人間の欲求と国家の政策
- 15.....マーケティングの新しい応用(第 23・24 週) ・人を動かすマーケティング ・民主主義の理念とマーケティング ・人間とは何か(マーケティングの視点から) ・人生の将来展望(あなたの幸福とは何か?) ・まとめ

01 科目名	
98 科目名	広告論
97 科目名	広告論
担当者	梶山 皓

#### 講義の目標

現代社会における広告の機能や役割を明らかにします。また企業の広告活動を、マーケティングとコミュニケーションの視点から解説します。

#### 講義概要

1. 企業や団体が広告をなぜ行うかについて考えます。
2. どのように広告を計画し実施するかを学びます。
3. 社会風俗や価値観、倫理・法的な面から、現代の広告現象を考えます。
4. マスコミ、メディア、広告業界の仕組みや動向を取り上げます。
5. マーケティング活動やコミュニケーション過程の原理を明らかにします。
6. ビデオや広告物を通じて、日米のコミュニケーションの違いを探ります。

#### テキスト

梶山皓『広告入門』、日経文庫 1998。

#### 参考文献

- \* 八巻俊雄・梶山皓『広告読本』東洋経済新報社、1998。
- \* 『広告に携わる人の総合講座』日経広告研究所、1999。
- \* W. Wells: Advertising, Principles and Practice, Prentice-Hall, 1997
- \* S. W. Dunn: Advertising, Its Role in Modern Marketing, Dryden Press, 1994.

#### 評価方法

前期：出席と試験。問題は4-5題。教科書・ノート等の持込不可。

後期：出席と試験。問題は4-5題。教科書・ノート等の持込不可。

#### 受講者への要望

2年生か3年生で履修してください。

#### 前期授業計画

1. 広告をなぜ学ぶか (Introduction) : 広告を学ぶと、社会の近未来が見えてくる。また社会現象のポジティブな面を的確にとらえる習慣が身に付く。
2. 広告の定義 (Ad. Definition) : 広告という言葉の語源は、古フランス語やラテン語で「振り向かせる」「注意を引く」という意味である。

3. 広告の定義 (Ad. Definition) : 広告という言葉は、しばしば PR、広報、宣伝、プロモーションなどと混同して間違った使われ方をしている。

4. 広告の機能 (Role of Ad.) : 広告には情報を伝える機能がある。このほかに人を説得する機能、広告主と受け手の関係を強化する機能がある。

5. 広告の種類 (Ad. Classification) : 広告を代表するのは、消費財広告、ビジネス広告のように商業目的に使われる広告である。

6. 広告の種類 (Ad. Classification) : 広告には、公共広告、意見広告、政治広告のように、市民の啓蒙や世論の喚起に使われるものがある。

7. 広告主 (Advertisers) : アメリカの広告費は邦貨で年間約15兆円で、世界の約半分を一国で占める。日本は世界2位で約6兆円である。

8. 広告主 (Advertisers) : 広告主は、広告活動を効果的に行うために広告活動を策定する。また企業内に広告組織を編成して実施に当たる。

9. 広告会社 (Ad. Agency) : 広告会社は、広告コミュニケーションを企画し実施する専門家集団である。日米では広告ビジネスの進め方が異なる。

10. 広告会社 (Ad. Agency) : 広告会社には色々な形態や組織がある。日本では、広告会社の収入源は媒体手数料という古い習慣に基づいている。

11. 広告メディア (Ad. Media) : 広告メディアには、マスメディアから看板やチラシまで色々な種類があり、広く活用されている。

12. 広告メディア (Ad. Media) : マルチメディア時代を迎えて、衛星放送、双方向CATV、インターネットなどの新しいメディアが広告界を揺さぶっている。

#### 後期授業計画

1. マーケティングの基本理念 (Marketing Principles) : マーケティングは消費者志向の概念である。最近は環境問題などの新しい価値観の影響を受けている。

2. 戦略企業計画 (Strategic Planning) : 戦略計画はアメリカで発達した経営理論で、マーケティングをサブシステムとする企業経営の全体計画である。

3. マーケティング・ミクス (Marketing Mix) : 企業は、製品開発、価格の設定、流通チャネルの選択、プロモーションの相乗効果によって企業間競争を進める。

4. プロモーション・ミクス (Promotion Mix) : 製品の販売は、広告、セールスマン、SP (セールスプロモーション)、PRなどの力を合体化させて行う。

5. コミュニケーションの原理 (Communication) :

広告はマスコミを手段とした社会的なコミュニケーションであり、受け手に様々な心理的影響を与える。

6. コミュニケーションの原理 (Communication) : 消費者には、マスコミによる新しい情報を受け入れる人と、従来の習慣に固執する人がいる。
7. DAGMAR の理論 (DAGMAR) : 広告効果は、売上高にではなくコミュニケーション効果に置くべきだという考え方があり、広告理論に大きな影響を与えている。
8. 広告階層モデル (Ad. Hierarchy Model) : 人々は製品の属性を調べてから買うのか、それとも買った後に調べるのか、衝動買いはなぜ起きるのかなどを考える。
9. 広告計画 (Ad. Planning) : 広告活動は、広告目標の設定、予算策定、広告表現の決定、媒体選択、効果測定という一連の過程を経て進める。
10. 広告計画 (Ad. Planning) : 広告計画の中では、広告表現の方針を決めることと、広告を運ぶメディアを選ぶことがとくに重要である。
11. 広告規制 (Ad. Regulation) : 広告は、倫理や公序良俗の面と法律の両面から規制を受けている。規制の内容は時代によって、国によって異なっている。
12. 広告の将来 (Ad. Future) : 広告はどのような方向に進むのか、これからの広告ビジネスや広告人に何が求められるかを考える。

01 科目名	
98 科目名	行動科学論
97 科目名	行動科学論
担当者	大久保 貞 義

#### 講義の目標

行動科学論という学問は、比較的新しい学問である。その学問的方法論は、心理学、社会額、文化人類学などの学問的成果を応用し、社会の問題を分析し、研究する学問である。

一般には、既成の科学 (Established Science) である自然科学や社会科学の成果を応用する学問であるから、これらの学問の基礎を知った上で、行動科学を学ぶ事が望ましいのであるが、行動科学の一端を学部時代に学ぶのも意義があるかもしれない。

#### 講義概要

まず始めに、心理学、社会額、文化人類学の基礎用語を学び、各学問のコンセプトを理解する。その上で、各学問間の特性を理解して、どのように総合化するかを学ぶ。したがって各学問を暗記するのではなく、あくまでも各学問の成果を素材として、実際の社会問題をどう分析し、解決するかという事を考える事が大切である。そこには、人間だけが持つ創造性 (C-reativity) をいかに発揮するかという事が重要になる。

従来の既成概念にとらわれる事なく、新しい考え方、新しい行動様式の問題を形成する事が大切である。このレベルまで達すると、大学院の水準にまで達する事になるが、若い時から、新しい概念、新しい考え方に接触する事は、長期的にみて役に立つであろう。

#### テキスト

授業の時に指示する

#### 評価方法

レポートと定期試験の成績で評価します。

欠席 3 回以上の者は、学期末テストが受けられない場合があります。

再試験は行わないので、注意して下さい。

#### 受講者への要望

従来の情性的思考様式からいかにぬけだすか、頭のトレーニングを積む事を要望する。

#### 年間授業計画

1. 学問の発展段階 = 先頭を切る数学の重要性。発展

の順序はどうなっているか

2. 学問の法則性とは何か = 理論の美しさ、力強さはどうして生まれるか。それは数式で表現される
3. ニュートンの力学のポイント = 見方を変えれば... ...何を表現しようとしているのか
4. = 科学の目標は何か = すべての物質の素粒子から生きている人間まで そして宇宙まですべての万物の動を統一する理論・規則性はあるか。
5. 社会学の基礎用語、文化人類学の用語、心理学、社会心理学の用語
6. 集団規範の実験 = 実験可能な法則と不可能な法則
7. 人間 = この不思議なもの
8. 人間社会の発展 = 農耕社会、工業化社会、脱工業化社会、社会を進歩させるものは.....神さま？仏さま？
9. 伝統的社会と近代的社会の対比
10. それぞれの社会の時間の概念 = 人間と時間の関係の仕方 時間の価値は、社会によって相違して来る。
11. 社会の変化に伴う価値観の変動 人間行動の規則性
12. 経済の発展と人間行動のパターン分析 経済中心の産業主義：
13. 巨大組織への参加：組織の中の人間、技術中心のイデオロギー
14. 脱工業化社会の生きる選択権の拡大：組織の中の金銭、財力、尊敬心、忠誠心、とそれに対立する人間の中の誠実さ、人間味、自己実現への願望。
15. コミュニケーションの理論 マス・コミュニケーションとパーソナルコミュニケーションの特性
16. コミュニケーションの二段の流れ その構造と機能。メッセージの特性と内容と伝播の速度
17. オピニオンリーダーの役割とその特性
18. 創造性とは何か = 二つの既知の要素の組み合わせ。その本質は"反送"である
19. 創造性開発の技法 = ブレーンストーミングのやり方とチェックポイント その他の開発法
20. 思考とパーソナリティ = 創造的人間と非創造的人間
21. 時間と人間行動、生産性・効率・労働システムと人間の時間
22. 予測の未来予測の技術 物理的現象の予測と社会的現象の予測の相違
23. 予測の面白さは、未確定要素にあり。高齢化社会、脱工業化社会、情報化社会におきる現象
24. 予測の正確さは、未来を形成する力にあり。予測したら、その方向に人間の意志の力で状況を变化



させる。行動科学は、戦略の学問でもある。

01 科目名	
98 科目名	保 険 論
97 科目名	保 険 論
担当者	岡 村 国 和

#### 講義の目標

本講義の目的は、幅広い現実の保険現象を理解し、現在進行中の保険事業を分析する能力を取得することにある。前期の目標は保険理論の理解であり、主として保険原理を講義するが、さしあたり保険をめぐる諸現象を総括的に概観することから出発する。後期は保険経営論の講義を主とする。具体的には保険業の収益構造および保険市場の構造的変化の講義である。本年度の主目的は、保険の本質的機能を十分理解した上で、近接他業との相互関係や市場再編の方向が理解でき、また保険における契約者保護の重要性を知る力をつけることである。

#### 講義概要

多くの大手生保会社が非営利の中間法人であり、主たる収益源泉が保険販売ではなく投資収入であることは以外と知られていないと思う。本年度は保険会社の競争と倒産、および契約者保護問題に力点を置いた講義を行う。前期は保険原理の学習を中心とする。純化された保険の公式は、 $P = Z$  で表されるが、この公式の他に各種の重要な原則や補助公式が存在する。後期は、複雑多様な保険現象や保険企業の行動原理、保険市場の限界や特殊性などを理解するため、保険の限界、保険業の収益構造や本質的機能について講義した上で、金融規制緩和の実体や、保険業に対する規制の特殊性および市場構造の変化などを講義する。

#### テキスト

未定

#### 参考文献

庭田範秋編『保険学』成文堂、1989年。講義中にその都度指示・紹介する。その他、補助資料などを配布する。

#### 評価方法

前期：前期末定期試験による。

後期：後期末定期試験による。

#### 受講者への要望

特に用意する必要はないが、経済学・経営学・統計学・マーケティング・法学などの基礎的な科目を

既修または平行履修するのが好ましい。

なお、適宜配付する資料で理解度の自己確認をして欲しい。

#### 前期授業計画

1. 講義の範囲、講義の進め方、保険学の学問的位置づけについて。また、昨今の保険現象のトピックを概観する。
2. 保険現象の分析方法・分析用具および保険をめぐる自由、平等、公正、公平などの規範の検討。
3. リスクの基礎理論（リスクの認知、分類、定量化、測定、処理）およびリスクと保険（保険可能リスクとダウンサイド・リスク、付保決定基準）について。
4. 応用経済学（情報経済学分野）を援用した期待効用理論に基づく保険モデルについて。
5. 保険の構造（1）：保険の理論的構造の概観、保険成立の諸要件についての検討および諸原理の検討について。
6. 保険の構造（2）：主として損害保険の主要概念の整理（「被保険利益」、「保険価額」、「保険金額」、全部保険と一部保険）、「超過保険」、「共同保険」などについて。
7. 保険の構造（3）：「危険負担の一般原則」及び「損害填補の一般原則」とその例外について。
8. 保険の構造（4）：因果関係論、保険契約者の各種義務（告知義務、通知義務、損害防止義務）について。
9. 保険各種（1）：生命保険の仕組みや機能、経済効果およびその構造、生命保険価格決定理論について。
10. 保険各論（2）：損害保険の中心的地位にある自動車保険と火災保険についての仕組みや経済機能について。
11. 保険各論（3）：社会保険・社会保障を中心とする「高齢化社会における諸問題」について。特に年金と医療に関して講義する。
12. 前期のまとめ

#### 後期授業計画

1. 後期講義の目的、内容などについて
2. 保険市場論（1）：『産業組織論』の枠組みによる保険市場の分析について。
3. 保険市場論（2）：『コンスタビリティ理論』及び『競争戦略論』、市場集中度、商品の差別化、商品に対する情報の問題、規模の経済性、範囲の経済性について。
4. 保険経営（1）：保険経営の特殊性、価値循環の転倒性、保険商品の特殊性、保険業の収益構造、保険経営の3利源（危険差益・利差・費差）などについて

て。

5. 保険経営(2): 保険の収益構造、保険料率の算定・決定とアンダーライティング、保険企業の資産運用とキャッシュ・フロー・アンダーライティングについて。
6. 保険経営(3): 保険業の金融活動および損害保険企業の行動原理に多大な影響を及ぼしかつ伝統的な損害保険の本質論の変容をももたらした「積立型保険」の特徴について。
7. 保険の限界とその拡張(1): 保険技術的限界および保険経営上の限界。
8. 保険の限界とその拡張(2): 保険経済的限界、法的限界、モラル・ハザード、アドバース・セレクションおよびレモン市場について。
9. 保険政策論: 一般の経済政策と保険固有の保険政策の共通点・相違点(保険の成長・安定・公正政策)について。
10. 保険業の規制(1): 保険業の規制と規制緩和、保険業における競争と規制の二律的均衡の理論的枠組み(CAPM理論、オプション・プライシング理論)などについて。
11. 保険業の規制(2): 金融・保険業の消費者保護、銀行業の預金保険制度(FDIC)、年金の支払保証制度(PBGC)、保険契約者の支払保証基金(GF)の比較。
12. 後期のまとめ

01 科目名	
98 科目名	貿易論
97 科目名	貿易論
担当者	米 山 昌 幸

#### 講義の目標

国際貿易や貿易政策の基礎理論を修得して、現実の国際経済のテーマを考察し、分析するための理論的根拠を得ることが、この講義の目標である。国際貿易のメカニズムやさまざまなテーマを考察するうえで理論の有用性を理解してもらいたい。

ミクロ経済学の基礎的なところから貿易論の分野へつなげるように、できるだけいねいに説明していくので、理論を学んで厳密な議論ができるようになってほしい。この講義では、単に経済事情を解説するのが目的ではなく、大学生にとって理論的な思考方法を身につけることの大切さを説いていきたい。

#### 講義概要

貿易論は、財・サービスの国際取引や資本・労働・経営資源の国際移動を分析対象とする学問分野である。

前期は、一般均衡モデルを用いて伝統的な国際貿易の基礎理論を中心に講義する。貿易論でもっとも重要な概念である比較優位を説明し、貿易パターン、貿易利益、比較優位を決める要因などを説明する。

後期は、部分均衡モデルを用いて貿易政策の基礎理論を説明したのち、個別テーマを問題接近的に講義する。幼稚産業保護論や経済統合、コメの輸入自由化、環境資源問題など個別テーマに理論を用いて考察する。

なお、貿易実務については、「ワンポイント貿易実務」として簡単に扱うにとどめる。

#### テキスト

毎回、授業で配布するプリントを用いる。

#### 参考文献

第1回目の授業で参考文献リストを配布するので、ここでは主なものを挙げておく。

ラッセル D.ロバーツ (佐々木潤訳)『寓話で学ぶ経済学』日本経済新聞社、1999年。

浦田秀次郎『国際経済学入門』日経文庫、1997年。

小田正雄・鈴木克彦・井川一宏・阿部顕三『ベシックス国際経済学』有斐閣ブックス、1989年。

P. R. クルグマン・M. オブズフェルト (石井菜穂

子他訳)『国際経済：理論と政策 国際貿易 (第3版)』新世社、1996年

池本 清 (編)『テキストブック国際経済 (新版)』有斐閣ブックス、1997年

#### 評価方法

定期試験とその練習問題によって成績評価を行う。

#### 受講者への要望

成績や単位ではなく、講義の本当の意義は別のところにあるはずですが。大切なことは、一年間受講してみて、それによって得た知識や、喚起された知的興味をもとに、自ら勉強することによって、どれだけのものがあなたに付加価値として加わったか、ということではないでしょうか。一回、一回の講義を大切に、休まないでください。

#### 前期授業計画

##### 第1週

##### イントロダクション

「貿易論」とは、授業の形式と学習方法、評価基準、参考文献の紹介

##### 第2～7週

##### 第1章 リカードの比較生産費説

1. モデルの設定 (2国2財1要素モデル)
2. 閉鎖経済の均衡相対価格の決定
3. 生産フロンティア (生産可能性曲線) の導出
4. 貿易開始後の両国の生産・貿易パターン
5. 社会的無差別曲線と貿易利益

補論：最適消費点の決定 - 無差別曲線分析 -

##### 第8～11週

##### 第2章 ヘクシャー＝オリーン理論 - 固定投入係数のケース -

1. モデルの設定 (2国2財2要素モデル)
2. 生産フロンティアの導出
3. 要素賦存量と生産構造
4. 要素賦存量と貿易構造
5. 財の相対価格と要素価格 (所得分配)

##### 第12週

##### 第3章 国際貿易の基礎理論

1. 一般的な生産フロンティアと生産点・消費点の決定
2. 閉鎖経済下と開放経済下の一般均衡
3. 比較優位と貿易パターン
4. オフファー曲線と交易条件の決定

#### 後期授業計画

##### 第1～8週

##### 第4章 貿易政策

1. 貿易政策の目的

2. 貿易政策の手段
3. 部分均衡分析による貿易利益
4. 貿易政策の効果 - 部分均衡分析 -  
補論：市場メカニズムと経済厚生 - 需要・供給曲線  
分析 -

第9週

第5章 幼稚産業保護論

1. モデル設定（2期間モデル）
2. 保護政策が正当化されるための条件
3. 幼稚産業保護論の問題点

第10週

第6章 経済統合

1. 経済統合の諸形態
2. 関税同盟の静態的效果 - 貿易創出効果と貿易転換  
効果 -
3. 関税同盟の動態的效果

第11週

第7章 コメの輸入自由化

1. 輸入数量制限と関税化
2. 関税の段階的引き下げ
3. 完全輸入自由化（関税撤廃）

第12週

第8章 環境資源問題と貿易政策

1. 国内生産に伴う外部経済と外部不経済のケース
2. 国内需要に伴う外部不経済のケース
3. 貿易に伴う外部不経済のケース
4. 食糧貿易・木材貿易と環境資源問題

01 科目名	
98 科目名	証券市場論
97 科目名	証券市場論
担当者	佐賀卓雄

#### 講義の目標

ここ数年、金融システムの変化が著しい。それらの動向を把握、理解するには、金融システムの基本的な機構、メカニズム、役割などを明らかにすることが必要である。その分析視角や方法、また課題を提起し、学生諸君の関心を喚起する。

#### 講義概要

前期は証券市場の基本的な役割・仕組みについて解説する。証券市場において生起する諸現象は一定の枠組みの下での市場参加者の行動の結果である。したがって、それらを理解するには経済学、金融理論、投資理論、有価証券法などの成果に基づいた学際的な分析が必要である。

後期は、近年の証券取引のシステム化、グローバル化、市場間競争、金融サービス業における業態融合の背景、動向について分析する。

#### テキスト

日本証券経済研究所編『詳説 現代日本の証券市場』2,500円＋税

#### 参考文献

嶋山昌一編『証券市場続本』東洋経済新報社、1997年

井手正介著『日本の企業金融システムと国際競争』東洋経済新報社、1994年

佐賀卓雄著『メリルリンチの真実』ラジオ短波、1998年

バートン・マルキール著、井手正介訳『ウォール街のランダムウォーカー』日本経済新聞社、2001年

#### 評価方法

学年末試験の成績、及びレポートの内容により評価する。試験の成績は、答案がどれだけ設問に理路整然と答えているかを基準とし、必ずしも講義内容にこだわる必要はない。

#### 受講者への要望

毎日、新聞の経済記事に目をとらし、問題意識をもつこと。主要な新聞、雑誌の記事はインターネットからダウンロード可能であるから、それを活用す

ること。

#### 前期授業計画

1. 講義概要、評価方法などについて説明
2. 証券市場の役割(1) - 金融市場と証券市場
3. 証券市場の役割(2) - 資金調達のための市場
4. 証券市場の役割(3) - 資産運用のための市場
5. 有価証券とは何か - 取引対象としての有価証券
6. 有価証券の種類(1) - 株式および関連証券
7. 有価証券の種類(2) - 公社債の種類
8. 証券の発行市場 - 発行機構と発行価格の決定
9. 証券の流通市場 - 流通市場の意義
10. 証券の価格(1) - 証券価格決定のメカニズム
11. 証券の価格(2) - 現代投資理論(MPT)
12. 証券の価格(3) - 日本の株式持合と株価形成

#### 後期授業計画

1. 市場仲介者の役割(1) - 証券会社の機能と業務
2. 市場仲介者の役割(2) - 規制の変遷
3. 市場仲介者の役割(3) - 業務の多角化
4. 市場仲介者の役割(4) - アメリカの証券会社と日本の証券会社
5. 証券取引システム(1) - 証券取引所の機構と役割
6. 証券取引システム(2) - 証券取引の電子化と多様な取引システムの登場
7. 証券取引システム(3) - 市場間競争の展開
8. 投資信託(1) - 証券市場改革と投資信託
9. 投資信託(2) - 資産管理業務の重要性
10. 金融サービス業の再編成 - インターネットによる業態融合
11. 投資家保護(1) - 預貯金者保護と投資家保護の違い
12. 投資家保護(2) - 日本版ビック版の忘れ物 = 包括的金融サービス法の必要性

01 科目名	
98 科目名	企業形態論
97 科目名	企業形態論
担当者	栗村英二

4. わが国の公企業の生成と発展。
5. 公企業の諸問題。
6. 公企業の民営化の背景。
7. 日本企業の成熟社会の対応 国際化、多角化、業  
際化等。
8. 海外現地進出の形態。
9. 資本市場の拡大と多様化。

#### 講義の目標

経済の構成単位である「企業」について、その歴史や法律上の分類としての個人企業や合名会社、合資会社、有限会社、株式会社について機能や事業規模や責任について講義する。

#### 講義概要

現代資本主義下の企業形態について講義する。

#### テキスト

車戸編『企業形態論』八千代出版

#### 評価方法

学年末の試験成績による。

#### 受講者への要望

企業の問題は日々ますます複雑になり、国際化する経済動向のなかで多様化もすすんでいるので、新聞その他のもので知識を多くすることが必要である。

#### 前期授業計画

1. 中小企業の比重が多いので、有限会社の利用が便  
益多い。経営者の意識についてもふれる。
2. 有限会社の特質や特性について。
3. 有限会社と株式会社の違いについて。
4. 有限会社の出資金は第三者に流れない。社長 - 代  
表取締役の心得について。
5. 有限会社の資本金について。
6. 現代の企業形態の展開の意義について。
7. 株式会社について 成立、機構、発展変貌、残  
されている問題。
8. 現代企業における所有と支配。危険負担と支配権。  
所有の分散と経営者支配。
9. 企業集中の要因。企業集中の形態 連合合併、企  
業集団形態。
10. 競争と規制。独占対策について。
11. 企業集団問題の所在。代表的企業集団。コンツェ  
ルンの生成発展。六大企業集団の特質。
12. 企業の集中・分割形態と企業集団。

#### 後期授業計画

1. 公企業とは何か、その実態。
2. 公企業の機能と役割。
3. 自由経済体制と公企業の役割。

01 科目名	
98 科目名	協同組合論
97 科目名	協同組合論
担当者	栗村英二

#### 講義の目標

資本主義経済活動の批判として生まれた協同組合は、全世界的な市民権を得た事業体として生き続けていることを認識してほしい。

#### 講義概要

協同組合には 150 年の歴史で創り出した協同組合の原則の理解と協同組合の原則を拡めつゝある現実を知ることにつとめる。

#### テキスト

『新協同組合とは』（財）協同組合経営研究所

#### 評価方法

学年末のテストによる。

#### 年間授業計画

1. 協同組合のあゆみ 協同組合の誕生
2. 世界に広がった協同組合 日本の協同組合のあゆみ
3. 協同組合の特徴としくみ 協同組合とは何か
4. 協同組合の原則を学ぶ 加入、脱退は一人ひとりの自由
5. 平等な議決権と主体的な参加（＝民主的運営）  
公平に出資し余剰金はみんなのために活用する  
（組合員による財産の形成と管理）
6. 他に依存したり従属してはならない（組合の自治・自立）
7. 学びあう場としての協同組合（教育、研修と広報活動の促進） 協同組合どうして手を結びあおう（協同組合間協同）
8. 環境を守り、暮らしやすい地域をつくる（地域社会への配慮）
9. 七つの原則はバラバラなものではない
10. 協同の二十一世紀へ ・現代社会はどこへ
11. ・いま、なぜ協同組合に着目するか
12. ・新しい時代を協同の力で



01 科目名	
98 科目名	会計学原理
97 科目名	会計学原理
担当者	内 倉 滋

#### 講義の目標

本講義は、"制度としての会計"の解明を目的とする。その目的のため、我が国における慣習的なルールたる「企業会計原則」(「連結財務諸表原則」等の関連する諸原則を含む。)を直接の分析対象に選び、その規定している内容と、それを支えている理論的な背景の紹介をしていきたい。なお本講義では、その"理論的な背景"として、今世紀初頭のドイツの理論、とりわけシュマーレンバッハ(ドイツの会計学者)の議論を随時取り上げることとしたい。

#### 講義概要

年間授業計画は以下に掲げるとおりであるが、おおむね前期は、複式簿記の復習の後、企業会計に関する諸規定の概要を紹介し、そして各種資産の種類別評価ルールの紹介を流動資産に関する部分まで行っていききたい。他方後期は、固定資産・繰延資産の評価ルールの紹介の後、負債・資本の計上ルールおよび収益・費用の認識ルールを取り上げ、最後に財務諸表の様式や連結財務諸表といった問題までも講義の対象としたい。

#### テキスト

平井克彦、『国税専門官受験のための 会計学』(白桃書房)

#### 参考文献

図書館に複数冊あるものを中心に、後日紹介します。

#### 評価方法

前期：テキストの章末の問題を素材に、直接あてて答えてもらったり、小テストの形式で提出してもらったり、という形でほぼ毎回平常点をカウントしていこうと考えている。そうした平常点を全体の半分程度のウェイトと考え、それに期末試験の結果を加えて評価したい。なおその際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。

後期：前期と同様

#### 受講者への要望

複式簿記の基本的知識を前提に議論を出発させますので、「簿記原理」を習得していること、または同

等の知識のあることを履修の条件とさせていただきます。

#### 前期授業計画

1. オリエンテーション
2. テキスト第1・2章：複式簿記・決算(複式簿記の復習；「決算の総合問題」 p. 36～ の演習)
3. テキスト第3章：会計の基礎(会計とは；会計の種類・目的；企業会計の理論；会計基準)
4. テキスト第4章 前半：企業会計に関する規定 その1(企業会計に係わる法令；「企業会計原則」)
5. テキスト第4章 後半：企業会計に関する規定 その2(「一般原則」「真实性の原則」「正規の簿記の原則」「資本取引・損益取引区別の原則」「明瞭性の原則」「継続性の原則」「保守主義の原則」「単一性の原則」「重要性の原則」)
6. テキスト第5章：貸借対照表(貸借対照表の作成；資産・負債の分類；重要な科目の分類表示と注記事項)
7. テキスト第6章：損益計算書(損益計算書の作成目的；営業損益計算の区分；経常損益計算の区分；純損益計算の区分；損益計算書のひな型)
8. テキスト第7章：流動資産 - 現金預金(当座資産；通貨以外の「現金」；預金；現金預金の評価)
9. テキスト第8章：流動資産 - 営業債権(売掛金；営業手形；手形の更改；不渡手形；手形の裏書・割引；貸倒引当金の設定と表示方法；荷為替の取組み；受取手形記入帳)
10. テキスト第9章：流動資産 - 有価証券(有価証券の種類・取得原価・評価・端数利息の処理・貸借；自己株式)
11. テキスト第10章：流動資産 - 棚卸資産(棚卸資産とは；棚卸資産の評価；原価時価比較低価法)
12. 前期の総復習

#### 後期授業計画

1. テキスト第11章：固定資産 - 有形固定資産(有形固定資産とは；有形固定資産の取得原価；減価償却累計額；有形固定資産の圧縮記帳)
2. テキスト第12・13章：固定資産 - 無形固定資産・投資その他の資産(無形固定資産の内容・評価 費用配分；投資その他の資産の内容・評価)
3. テキスト第14章：繰延資産(繰延資産の資産性；繰延資産の内容；繰延資産の償却)
4. テキスト第15章：負債(負債の分類；負債の内容；負債の評価；偶発債務)
5. テキスト第16章：引当金(引当金の設定要件；引当金の表示方法；引当金の内容)

6. テキスト第 17 章 前半：資本 その 1（資本 について の商法 有限会社法 規定；商法上の分類；「企業会計原則」上の分類；増減資）
7. テキスト第 17 章 後半：資本 その 2（利益剰余金；利益の処分；中間配当；配当限度額の計算；合併についての問題）
8. テキスト第 18 章 前半：利益の計算方法 その 1（財産法と損益法；費用収益対応の原則；収益の認識；特殊な商品販売その 1 未着品の販売）
9. テキスト第 18 章 後半：利益の計算方法 その 2（特殊な商品販売その 2 委託販売・試用販売・予約販売・割賦販売；収益認識の特殊問題 長期請負工事収益・生産基準・自然増価）
10. テキスト第 19 章：減価償却（減価償却とは；減価償却の計算方法；償却費の表示方法；総合償却；減耗償却）
11. テキスト第 20 章：本支店会計（人名勘定による仕訳；未達取引；内部利益の処理）
12. テキスト第 21 章：連結財務諸表（「連結財務諸表原則」の改正；連結財務諸表の作成目的；連結の範囲；連結財務諸表作成の一般原則；連結貸借対照表の作成 「部分時価評価法」・「全面時価評価法」；連結損益計算書の作成）

01 科目名	
98 科目名	会計学原理
97 科目名	会計学原理
担当者	湯田 雅夫

#### 講義の目標

本講義は会計の学習を新たに始めようとする学生諸君、さらにはより広くまたはより深く学習しようとする学生諸君を対象にして、専門的知識としての会計学ではなく、教養としての会計学に主眼を置きつつ、企業会計が如何なる仕組みを持ち、経済社会において如何なる役割を果たしているかをできるだけわかりやすく解説する。

#### 講義概要

企業会計の領域を財務会計、管理会計、社会関連会計に区分して、講義を進める。

#### テキスト

適宜指示する。

#### 参考文献

- ・小川洵『会計学』放送大学教育振興会
- ・森川八洲男・佐藤紘光・千葉準一『会計学』有斐閣
- ・津曲直躬・新井清光編『会計学を学ぶ』有斐閣

#### 評価方法

前期：前期試験期間中に実施する論述式の試験による。

後期：後期試験期間中に実施する論述式の試験による。

#### 受講者への要望

私語厳禁

#### 前期授業計画

1. 会計学とはどのような学問か / 何のために学ぶのか
2. 現代会計学の潮流
3. 会計学の今日的な基本任務
4. 企業会計の3つの領域
5. 企業会計の仕組み
6. 企業会計制度 / 法的規制
7. 財務諸表の見方 (1)
8. 財務諸表の見方 (2)
9. 財務諸表の見方 (3)
10. 財務諸表の見方 (4)
11. 財務諸表の見方 (5)

#### 12. ディスクロージャー制度の拡充

#### 後期授業計画

1. 国際会計基準の制定
2. 原価計算の役割と計算構造 (1)
3. 原価計算の役割と計算構造 (2)
4. 原価計算の役割と計算構造 (3)
5. 管理会計の意義
6. 管理会計情報の特質 / 財務会計情報との相違点
7. 意思決定会計
8. 業績評価会計
9. 物量管理と価値管理
10. 社会関連会計の役割
11. 環境マネジメント・環境監査 (1)
12. 環境マネジメント・環境監査 (2)

01 科目名	
98 科目名	財務会計論
97 科目名	財務会計論
担当者	中 村 泰 将

#### 講義の目標

本講義は、1, 2 年生で簿記を勉強し、いよいよ会計理論を勉強しようとする受講生を対象にして設けられた講座です。京セラの稲盛会長が『実学 - 経営と会計』という著書の中で「会計がわからなくて経営ができるか」と述べているように、会計の専門知識は投資家にとっても、企業のスタッフ、経営者にとっても重要な意思決定の手段となります。財務会計の課題は、どのような人々に会計情報を提供するのか？ どのような種類の会計情報を提供するのか？ その会計情報はどのように作りだすのか。の 3 つに集約されます。

#### 講義概要

上の 3 つの課題は、は、外部の利害関係者である、株主、債権者、国、従業員、さらに一般社会の人々等を対象としております。は、基本的にはストック（企業の経済的資源）とフロー（利益）並びにキャッシュ・フロー（現金および現金同等物の源泉と使途）の 3 つの情報を提供します。は、会計情報を作りだすルール（会計基準と呼びます）を学ぶことです。このルールには、国内では、商法、証券取引法、税法等の法律が要請する会計基準がありますが、国際的に経済活動する企業では「国際会計基準」や米国の SEC（証券取引委員会）が要請する米国会計基準などがあります。2001 年は、雑誌『エコノミスト』の「会計革命 . . . 」のなかで「日本型経営を変える国際会計基準」と言われるほどさまざまな改革が行われます。「連結決算」「時価会計」「キャッシュフロー計算書」「年金会計」等です。これらの点については、講義の中でその都度触れる予定です。

#### テキスト

加古宜士『財務会計概論』（第 3 版）中央経済社  
参考文献

『会計法規集』（第 15 版）中央経済社

#### 評価方法

前期：会計の専門用語、会計基準の内容等についての、×式、穴埋め、短答式問題。

後期：会計の理論的問題。それ以外にレポートの提出も加味する。

#### 受講者への要望

簿記原理を習得していた方が望ましい。

会計学に興味ある他学部の学生も歓迎する。

#### 前期授業計画

1. 会計（学）とは、どのような学問領域かを理解する。
2. (1) 企業会計の理論的構造を理解する。  
(2) 企業会計はどのような計算構造によって、計算されるかを理解する。
3. (1) 我が国における企業会計制度の仕組みを理解する。  
(2) 財務会計の基準あるいはルールである「企業会計原則」の構造を理解する。
4. 「企業会計原則」における一般原則の意味を理解する。
5. 真実性の原則とその他 6 つの一般原則との関係。
6. 資産の会計（1）イ．資産の意義・概念 ロ．資産の分類 ハ．資産の評価基準
7. 資産の会計（2）イ．流動資産の意義・分類・評価
8. 資産の会計（3）イ．当座資産の概念・分類・評価 ロ．有価証券の概念・分類・評価
9. 資産の会計（4）イ．固定資産の概念・分類・評価
10. 資産の会計（5）イ．繰延資産の概念・種類・償却
11. 負債の会計（1）イ．負債の概念・分類
12. 負債の会計（2）イ．引当金の意義 ロ．引当金の設定の目的 ハ．引当金の設定の要

#### 後期授業計画

1. 資本の会計（1）イ．資本金の意義と範囲 ロ．資本の源泉別分類と処分可能別分類
2. 資本の会計（2）イ．払込資本の概念と範囲 ロ．増資・減資の形態と会計処理
3. 資本の会計（3）イ．評価替資本の会計 ロ．受贈資本の会計
4. 資本の会計（4）イ．稼得資本の概念と範囲 ロ．商法第 288 条の利益準備金
5. 損益会計（1）イ．損益会計の意義と範囲 ロ．損益計算の区分計算
6. 損益会計（2）イ．損益計算の諸原則  
(1) 費用収益対応の原則  
(2) 費用配分の原則  
(3) 発生主義の原則

- 7. 損益会計(3)イ. 収益の認識基準
- 8. 財務諸表(1)イ. 財務諸表の意義と役割 □ .  
中間財務諸表の意義と作成
- 9. 連結財務諸表(1)イ. 連結財務諸表の意義 □ .  
連結貸借対照表の作成基準
- 10. 連結財務諸表(2)イ. 連結損益計算書の作成基  
準 □ . 連結剰余金計算書の作成基準
- 11. リース会計
- 12. 外貨換算会計

01 科目名	
98 科目名	管理会計論
97 科目名	管理会計論
担当者	香 取 徹

#### 講義の目標

企業の経営者や管理者およびこれを助ける人々が、合理的な計画管理活動を展開するためには、企業会計についての基礎知識をもって、目的にあった会計情報をうまく使いこなせる素養を身につけることが近年ますます重要になっています。この講義では、マネジメントの諸分野で生じる意思決定問題を採算性の観点から分析するための基礎的な考え方と、その分析に役立てるための会計情報の使い方を講義します。

#### 講義概要

コスト低減や利益拡大のための改善活動や管理活動をすすめるためにキャッシュフローと会計情報の計数的な分析を講義します。

前半は、キャッシュフローによる経済的な意思決定の考え方、意思決定のタイプと判断基準について、練習問題やケーススタディのプリントを配布して全員で解いていきます。

後半は、設備投資計画とキャッシュフロー利益の考え方、戦略計画における収益性の尺度の問題や会計情報のあり方などをとりあげます。実際にコンピューターを使ってキャッシュフロー計算書やシミュレーションモデルを作成して、キャッシュフロー情報と財務諸表情報とを分析します。

#### テキスト

『キャッシュフロー管理会計』伊藤・香取 中央経済社

#### 参考文献

・桜井通晴著『管理会計』同文館

#### 評価方法

定期試験のみ（教科書持込）

#### 受講者への要望

2年修了時までには授業で簿記原理を修得しているか、日商3級程度の実力のある者が望ましい。コンピューターについての知識は、初めから教えるので特別必要とはしません。

#### 前期授業計画

1. 管理会計とは？ 最近のトピックスから

2. 管理会計とは？ キャッシュフローとは？
3. 意思決定とは？ 木村さんの場合
4. テニスクラブの選び方
5. 関連原価・無関連原価 ケース・スタディ 1
6. 貢献利益とは？ 小金井工業の場合
7. 赤字製品は黒字、黒字製品は赤字？ ケース・スタディ 2
8. 減価償却費はキャッシュフロー ケース・スタディ 3
9. 手余り・手不足、Constraints の話。ケース・スタディ 4
10. KAIZEN（改善）の効果。ケース・スタディ 5
11. 意思決定の問題タイプ（1）ケース・スタディ 6 独立案ケース・スタディ 7
12. 意思決定の問題タイプ（2）排反案ケース・スタディ 8

#### 後期授業計画

1. 管理会計の最近のトピックス
2. キャッシュフローの指標（1）資金の時間価値 NPV、NAV、NFV
3. キャッシュフローの指標（2）IRR、PIC、回収期間
4. キャッシュフローの計算練習
5. Excel によるキャッシュフロー計算実習（1）基本関数
6. Excel によるキャッシュフロー計算実習（2）基本関数
7. Excel によるキャッシュフロー計算実習（3）財務諸表
8. Excel によるキャッシュフロー計算実習（4）財務諸表
9. Excel によるキャッシュフロー計算実習（5）キャッシュフロー計算書
10. Excel によるキャッシュフロー計算実習（6）キャッシュフロー計算書
11. キャッシュフローと会計上の利益
12. キャッシュフローと資源配分指標 PIC

01 科目名	
98 科目名	社会会計論
97 科目名	社会会計論
担当者	湯田雅夫

#### 講義の目標

人類の歴史上、科学技術の発達にともないエネルギー消費量が急増するのは、産業革命以降今日までの約 200 年間である。その間、人々の暮らしは大幅に向上し、人口も爆発的に増加した。現在世界人口は 60 億人となり、21 世紀後半には 100 億人に達する。環境問題は、人口問題を抜きには考えられないことがらである。

科学技術の発達、高度な経済活動、人々の生活の質と量の向上は、地球環境に多くの悪影響を及ぼすようになった。(地球温暖化、酸性雨、熱帯林の減少、種の絶滅、農耕地の侵食、砂漠化、大洋汚染、開発途上国の公害問題)

これら地球環境問題を解明するために、環境会計の視点から、講義する。

#### 講義概要

環境会計は、つぎの 4 つの領域を総称した名称である。

(1) 経済的な効率性とエコロジカルな効率性を追求するために開発された測定手段としての環境原価計算と環境負荷計算

(2) それらの測定手段を統合して企業活動に伴い発生する経済的な事象とエコロジカルな事象を分析し、計画し、統制し、管理する環境マネジメント

(3) 環境に影響を及ぼす企業実践をマネジメントコントロールし、企業の環境方針にしたがって評価する環境監査(内部環境監査、外部環境監査)

(4) 環境方針、環境計画、環境マネジエントシステム、環境パフォーマンスを公表する環境報告書(環境声明書)これらの領域を中心に、講義を進める。

#### テキスト

湯田雅夫「ドイツ環境会計論」中央経済社

#### 参考文献

・マツリアク・ゲーゲ編、今泉みね子訳「環境マネジメントによるコスト削減」白水社、1999 年

・ドイツ環境省・ドイツ環境庁編、宮崎修行訳「環境原価計算」日本能率協会、2000 年

・湯田雅夫「EU における環境情報開示の現状」セキリティハンドブック第 1 巻」日科技連出版社、1998 年

・湯田雅夫「環境マネジメント・ツールとしてのエコピランツ」小川冽先生古希記念論文集「会計情報の変革」中央経済社

#### 評価方法

前期:「レポート」提出による評価。題名およびレポートの形式と枚数、提出期限については、授業中に明らかにする。

後期:後期試験期間中に実施する論述式の試験による評価。

#### 受講者への要望

将来、主任環境審査員、環境審査員、環境審査員補、企業内の環境監査人、公認会計士、税理士、中小企業診断士などの専門職を志望するもの、さらには企業経営に従事するものは履修することが望ましい。

#### 前期授業計画

1. オリエンテーション
2. 第 1 章 ドイツ環境会計における理論と企業実態の変遷
3. 第 2 章 ドイツにおける環境政策および環境マネジメントの変遷
4. 第 3 章 環境マネジメント、環境監査における国債標準化の動向
5. 第 4 章 環境原価計算
6. 著書、新聞、雑誌から環境問題を考える(1)
7. 著書、新聞、雑誌から環境問題を考える(2)
8. 著書、新聞、雑誌から環境問題を考える(3)
9. 第 5 章 環境負荷計算 - エコピランツ -
10. 第 5 章 環境負荷計算 - エコピランツ -
11. 前期のまとめ(1)
12. 前期のまとめ(2)

#### 後期授業計画

1. 後期オリエンテーション
2. 第 6 章 環境マネジメントシステム - エココントロール - (1)
3. 第 6 章 環境マネジメントシステム - エココントロール - (2)
4. 第 7 章 E M A S に基づく環境監査
5. 第 8 章 環境マネジメントの意義および州政府による環境マネジメント導入のための方策
6. 第 9 章 ドイツ企業における環境マネジメント、

環境監査の実際（１）

7. 第9章 ドイツ企業における環境マネジメント、  
環境監査の実際（２）

8. 第10章 エコ効率性評価法

9. 第11章 制度会計に限定したドイツ環境会計の  
可能性追及

10. 第12章 環境報告書の構成と評価法

11. 第14章 環境会計における日本の現状と問題点

12. 第15章 地球環境保全の時代に問われる環境会  
計



01 科目名	
98 科目名	原価計算論
97 科目名	原価計算論
担当者	齋藤正章

#### 講義の目標

原価計算には、大きく分けて、財務会計目的と管理会計目的という2つの目的があります。財務会計目的のための原価計算を「制度原価計算」といいますが、これは財務諸表作成のために必要な原価数値を計算する手続き全般を指します。他方、管理会計目的の原価計算は、経営管理のための原価計算で、企業の生産システム、製造技術、情報技術などの進歩や市場環境の変化に伴い、従来のシステムからの変革を迫られています。本講義は、この2つの視点から企業における原価計算の役割や手続きについて理解を深めることを目標としています。

#### 講義概要

「原価計算基準」にもとづく原価計算制度の枠内の実際原価計算と標準原価計算、枠外の直接原価計算を中心に講義を行います。とりわけ、実際原価計算における費用別計算から部門別計算、製品別計算までの流れと各段階における計算の考え方や手続きの習得には練習問題を解くなどして十分な時間を割いて解説します。基本をしっかりとマスターすることによって、従来の原価計算システムの長所と短所が身をもって理解できるようになり、ひいては新しい議論の展開に対しても素早い理解が可能となることでしょう。

#### テキスト

『原価計算の考え方・すすめ方』(渋谷武夫著)中央経済社、3,300円(税別)

#### 参考文献

辞書的に使用するには『原価計算』(岡本清著)国元書房がよいと思います。分厚い本です。

#### 評価方法

定期試験の結果で評価します。

#### 受講者への要望

電卓を持参してください。

簿記や会計学関係の知識があると、本講義をより早く理解できると思いますので、これらの科目を未履修の人は同時に履修されることをお勧めします。

#### 前期授業計画

1. 原価計算総説 - インTRODクシヨン。原価計算論とはどういう学問か会計学の周辺領域との関係について解説。
2. 原価とは何か - 原価計算における原価の本質、諸概念について解説。
3. 原価計算の基礎手続き - 原価計算の基本的な流れに関する解説。財務会計との有機的結合について説明。
4. 原価の費用別計算(1) - 材料費の計算について解説。
5. 原価の費用別計算(2) - 労務費の計算について解説。
6. 原価の費用別計算(3) - 経費の計算についての解説と費用別計算のまとめ。
7. 原価の部門別計算(1) - 原価部門、部門費の分類、部門共通費の配賦について解説。
8. 原価の部門別計算(2) - 補助部門費の配賦について解説。
9. 原価の部門別計算(3) - 前回の続きおよび製造部門費の配賦についての解説。部門別計算のまとめ。
10. 個別原価計算(1) - 今回から原価の製品別計算の解説に入る。個別原価計算の意義、手続について解説。
11. 個別原価計算(2) - 原価計算表の作成、原価計算表と製造勘定の関係について解説。
12. 個別原価計算(3) - 仕損費の計算と処理、作業屑の処理について解説。個別原価計算のまとめ。

#### 後期授業計画

1. 総合原価計算(1) - 総合原価計算の意義、手続について個別原価計算と対比しながら解説。単純総合原価計算における期末仕掛品原価の評価に関する解説。
2. 総合原価計算(2) - 前回の続きおよび仕損、減損の処理について解説。
3. 総合原価計算(3) - 工程別総合原価計算、加工費工程別総合原価計算に関する解説。
4. 総合原価計算(4) - 組別総合原価計算、等級別総合原価計算に関する解説。
5. 総合原価計算(5) - 連産品の処理と副産物の処理について解説。総合原価計算のまとめ。
6. 標準原価計算(1) - 標準原価計算の意義と手続に関する解説。および原価差異の算定と差異分析の方法について解説。
7. 標準原価計算(2) - 前回の続きと標準原価計算の記帳方法について解説。
8. 直接原価計算(1) - 直接原価計算の意義を全部

原価計算のそれと対比しながら解説。あわせて直接原価計算の手続について解説。

9. 直接原価計算(2) - 損益分岐点と損益分岐点分析に関する解説。
10. 特殊原価調査(1) - 特殊原価調査の意義と特殊原価概念とその利用方法(意思決定)について解説。
11. 特殊原価調査(2) - 前回の続きと特殊原価調査のまとめ。
12. 原価計算の新展開 - これまで学んだ原価計算技法を振り返り、近年どのような原価計算技法が開発されてきたかについて解説する。

01 科目名	
98 科目名	会計監査論
97 科目名	会計監査論
担当者	五十嵐 則 夫

#### 講義の目標

企業、財務情報のディスクロージャー制度の適切な運営は、適正な会計基準の存在、適正な会計基準により作成された財務諸表の監査、証券市場監督規制当局の適切な監督が必要である。

こうした財務情報の適切なディスクロージャー制度を支えている財務諸表の監査について、企業の実際の財務諸表を利用し、実際に採用されている監査業務ケースの説明を通し日本及び米国の監査基準及び監査手続を理解することとする。

#### 講義概要

会計監査の講義はテキストを中心に実施するが、会計監査の理論は監査実務と密接に関連しているので、できるだけ実際に監査実務で実施されている例を説明し監査手続き及び監査基準の理解を深めることにする。

また、会計監査のアプローチは米国で開発されたアプローチが最新と考えられるので、米国での監査リスクとそのアプローチも説明し、日本及び米国での監査の主要な相違も説明することとする。

#### テキスト

開講時に指定

#### 参考文献

開講時に指定

#### 評価方法

前期及び後期において試験またはレポート提出により総合的に評価する。

#### 受講者への要望

財務会計論や会計学原理などを履修し、企業の財務諸表の内容を理解していることが望ましい。

#### 前期授業計画

1. 財務諸表のディスクロージャー制度と会計監査
2. 監査対象会社及び監査人と会社経営者（監査役も含む）との関係
3. 監査リスクと監査のプロセス
4. 一般に認められた監査基準とは何か
5. 財務諸表に対する監査報告書 - (1)  
適正, 限定, 不適正, 意見差控など

6. 財務諸表に対する監査報告書 - (2)  
ゴーイングコンサーンなど
7. 報告基準 - (1)  
- 「適正表示」の意味など
8. 報告基準 - (2)  
- コンピレーションとレビューなど
9. 監査報告書における監査人の責任
10. 監査の実施における監査リスクと重要性
11. 監査サンプリング
12. 財務諸表監査における内部統制組織の検討 - (1) 内部統制組織の構成要素など

#### 後期授業計画

1. 財務諸表監査における内部統制組織の検討 - (2) 内部監査との関係, 発見事項のコミュニケーションなど
2. 実証的監査手続 - (1)  
- 監査証拠, 分析的手続など
3. 実証的監査手続 - (2)  
- 監査調書, 弁護士などに対する督促状など
4. 監査報告書発行後の手続
5. 監査計画
6. 誤謬, 不正および違法行為に対する監査人の責任
7. 監査役会及び監査委員会とのコミュニケーション
8. 事業体の継続, 企業として存続する能力についての監査人の検討
9. セグメント情報の監査
10. システム監査
11. 中間財務諸表監査
12. 総括

01 科目名	
98 科目名	税務会計論
97 科目名	税務会計論
担当者	山田浩一

#### 講義の目標

近年とみに会計理論と税務の取扱いの乖離が拡大し、それぞれの正確な把握なしには企業会計の実践が成立しない状況下にある。そこで本講義では、次の諸点の理解を深めることに努めたい。その上で、制度のあるべき姿につき受講者とともに考察したい。

- 1、法人税法の趣旨と計算構造の理解
- 2、会計的思考と税務的思考の相違の把握
- 3、法人税法等の会計に与えるインパクトの検討
- 4、諸外国の税務・会計制度との比較検討

#### 講義概要

本講義では、会計及び税務が対象とする個々の経済事象がいかなるものかについての理解の形成につとめた上で、現行制度上、企業利益や課税所得の計算において、それら経済事象がどのように取扱われていくのかを把握していくこととする。さらに、必要に応じて現行制度についての批判的検討を加えることとなる。

すなわち、確定決算主義、損金経理要件といった税務理念が、企業会計実践に少なからぬ影響を与え、真実公正な会計の実現を阻害している面があるということ、また、国家単位の税務規制と国際的共通性の強い会計基準との調整が重要な課題となりつつあるといった点を取り扱いたい。

#### テキスト

「税務会計要論」 中田信正 著（同文館）

#### 参考文献

- ・「会計法規集」(中央経済社)
  - ・「法人税法規集」(中央経済社)
  - ・「法人税取扱通達集」(中央経済社)
  - ・「総説税務会計」 鈴木明男・鈴木豊 共著(税務経理協会)
  - ・「税務会計論」 井上久彌 著(中央経済社)
  - ・「法人税法精説」 武田隆二 著(森山書店)
- その他に法人税・税務会計関係書籍が参考となる。

#### 評価方法

前期及び後期 2 回の定期試験における成績を基礎

として評価する予定である。また、授業時間内に簡易な小テスト等を行い、理解を確認していきたい。

#### 受講者への要望

本講義の履修にあたっては会計学原理、財務会計論、財政学等の関連科目の履修が有用であるが、特に簿記については基礎知識として把握しておいてもらいたい。

#### 前期授業計画

##### 1. 税務会計論の対象と方法

年間講義概要の説明を行い、税務会計論の対象及び税務会計論研究のアプローチ方法を取り扱う。

##### 2. 租税制度

租税の意義、租税制度の沿革、租税の根拠、租税の目的、租税の分類、法規制の体系、租税原則といった項目について概括的にふれる。

##### 3. 制度会計の構造

制度会計の意義、制度会計におけるいわゆるトライアングル体制、そして税務会計の位置づけをみる。

##### 4. 法人税法上の課税所得の計算

企業利益と課税所得の関係、その構成要素である収益と益金、費用と損金との関係を把握する。

##### 5. 公正会計処理基準

法人税法第 22 条 4 項にいう公正会計処理基準の意義を考え、会計理論の GAAP 等との関連を考えていく。

##### 6. 税務会計判断の特性

税務判断の特徴的な考え方を、実質主義原理、確定決算主義、債務確定主義、同族会社規定等の概念を通じて確認する。

##### 7. 売上収益と金銭債権

販売収益計上の一般原則、特殊販売の収益計上、債権の計上とその評価といった項目を扱う。

##### 8. 有価証券と受取配当

有価証券の意義、分類、認識と測定、評価に触れた後、受取配当の益金不算入についてふれたい。

##### 9. 売上原価と棚卸資産

売上原価と棚卸資産評価の関係、棚卸資産の取得から期末評価までの一連の考え方をみていく。

##### 10. 有形固定資産・減価償却・リース

有形固定資産の意義、取得原価の決定、資本的支出と修繕費の関係、減価償却の意義と方法、固定資産の除売却、リース取引等を扱う。

##### 11. 圧縮記帳

圧縮記帳の考え方、処理の態様、圧縮記帳処理の会計上の問題点等を扱う。

##### 12. 無形固定資産・借地権

無形固定資産の意義、種類、借地権の考え方と税務上の取扱いといった項目を扱う。

#### 後期授業計画

##### 13. 繰延資産

繰延資産の意義、商法上の繰延資産とその他の繰延資産の内容・償却方法等に対する税務上の取扱いを概観する。

##### 14. 引当金・準備金

会計上の引当金、商法上の引当金、税法上の引当金を概観する。準備金と引当金の相違点を説明する。

##### 15. 自己資本

資本等取引における税務上の取扱いを中心とし、欠損金の繰越控除制度を概観する。

##### 16. 給与・報酬・源泉徴収

役員と従業員における人件費用の取扱いの相違、及び源泉所得税等の控除項目の取扱いをみる。

##### 17. 交際費・寄付金

交際費課税の趣旨、交際費損金不算入の計算、寄付金の制限の趣旨、寄付金の損金不算入の計算等にふれる。

##### 18. 租税公課

企業をめぐる租税公課の種類を概観するとともに、会計上の取扱いと、税法上の取扱いの相違点をみていく。

##### 19. 消費税と経理方法

消費税の性格、非課税取引と課税取引、税額計算、経理方式とその評価といった項目を扱う。

##### 20. 税効果会計

税効果会計の意義、個別財務諸表及び連結財務諸表における税効果、国際会計基準、アメリカの会計実務における税効果会計等を概観する。

##### 21. 申告・納税制度の概要・連結納税制度

税務会計上の実務的な流れとしての各種申告制度の概要、及び連結納税制度の動向についてみる。

##### 22. 合併・分割・解散

企業活動のうち、特殊な取引内容であるといえる、合併・分割・解散等の意義、会計上税務上の考え方を扱う。

##### 23. 国際課税

企業の国際活動に伴って派生する、外国税額控除、タックスハイブン、移転価格税制といった問題を取り扱う。

##### 24. 非営利法人の税務

公益法人、学校法人等の非営利法人における、法人税その他租税の取扱を概観する。

01 科目名	
98 科目名	経営分析論
97 科目名	経営分析論
担当者	百瀬 房徳

#### 講義の目標

経営分析は財務諸表分析として発展してきた。このためには統一した財務諸表の作成方法の発展を促進させてきた。これによって作成された財務諸表の分析の始まりは金融機関が貸付金の返済能力を判定したところにある。その後証券市場では収益性の分析を発展させてきた。現在では特定の实体（たとえば企業）の評価または診断、当該実体の属する産業の動向、国民経済の動向を分析するまでに発展してきている。本講ではこの全体像の理解を深めることにする。

#### 講義概要

前期においては歴史的発展過程をふまえたかたちで、経済環境と技法の二面より考察し、後期においては代表的な企業の財務諸表を資料とし、体系的に分析しながら、分析値が何を意味するかを考察する。この分析はテーマごとにレポートを完成させて、提出してもらうことにする。

#### テキスト

・前林著「経営分析」森山書店

#### 参考文献

無し

#### 評価方法

前期：テスト

後期：レポートを中心に評価するが、レポートが理解されているかテストする。

#### 受講者への要望

講義のあった日に必ず復習すること。

#### 前期授業計画

1. 一年間の講義内容の説明
2. 米国の経済環境における手形市場の形成過程
3. 手形市場、特に卸売商人の銀行での手形の割引における銀行からみた信用分析の形成過程
4. 信用分析の側面からみた財務諸表、特に貸借対照表を中心に
5. 信用分析における 2 対 1 の原則から体系的な分析への過程
6. 信用分析のケース・スタディ ケース - ウォー

ル、ケース - ブリス、ケース - シュルター

7. 信用分析のケース・スタディ ケース - ギルマン、ケース - ウォール、ケース - シュマルツ
8. 収益性の分析およびその他の分析への発展
9. 経営分析の意義とその限界
10. 経営分析の主体と目的
11. 経営分析の種類
12. 経営分析の体系

#### 後期授業計画

1. 安全性の分析(1)...比率分析 新日鉄の有価証券総覧を用いて分析をし、レポート提出
2. 安全性の分析(2)...資金運用表の作成 レポート提出
3. 安全性の分析(3)...資金移動表の作成 レポート提出
4. 収益性の分析(1)...各種資本利益率
5. 収益性の分析(2)...売上高利益率と資本回転率、収益性分析(1)とまとめて レポート提出
6. 収益性の分析(3)...利益増減の原因分析 レポート提出
7. 生産性の分析(1)...付加価値の意義
8. 生産性の分析(2)...付加価値の計算と数値の意味
9. 生産性の分析(3)...付加価値の計算 レポート提出
10. 損益分岐点分析(1)...損益分岐点の意義
11. 損益分岐点分析(2)...損益分岐点の計算と数値の意味
12. 損益分岐点分析(3)...損益分岐点の計算 レポート提出

01 科目名	上級簿記(工業) a・b
98 科目名	上級簿記
97 科目名	上級簿記
担当者	香 取 徹

#### 講義の目標

この上級簿記論は、日商簿記検定 2 級の試験範囲のうち工業簿記を 1 年間かけて完全に制覇することを目的としています。日商簿記検定の 2 級の試験は、商業簿記と工業簿記の 2 種類の簿記の検定試験です。工業簿記は製造業で行われる簿記のことで、原価計算や管理会計論の基礎として重要な技術であるので、ぜひ習得してほしいと思います。

#### 講義概要

簿記は難しいものではありませんが、技術ですから、身につけるためには、練習が必要です。そのため、毎回の講義では、一つずつ項目を説明し例題の解説をしてから講義に合わせてプリントを配布して練習します。講義中に練習しながら質問を受けていきますし、プリントでも意見や質問を書いて下さい。また、ワークブックも自宅での練習に利用してください。

時間がある限り、日経新聞で会計に関するトピックを毎回コピーして簡単な解説をします。

#### テキスト

New Concept 日商簿記検定試験 工業簿記 2 級  
税務経理協会

同 工業簿記 2 級ワークブック 税務経理協会

#### 評価方法

前期・後期とも定期試験とプリントで評価します。

#### 受講者への要望

検定試験にどんどんトライして下さい。合格したら試験の点数に加算します。

#### 前期授業計画

1. 工業簿記の特質と構造
2. 材料費の計算(1) 購入
3. 材料費の計算(2) 消費
4. 材料費の計算(3) 予定消費
5. 労務費の計算(1) 賃金の支払と消費
6. 労務費の計算(2) 予定消費
7. 製造間接費の配賦(1)
8. 製造間接費の配賦(2)
9. 部門費の計算(1)

10. 部門費の計算(2)

11. 答案練習

12. 線上試験

#### 後期授業計画

1. 個別原価計算

2. 仕損費と作業屑

3. 総合原価計算、期末仕掛品の評価

4. 仕損・減損・副産物

5. 組別・工程別総合原価計算

6. 等級別総合原価計算

7. 標準原価計算(1)

8. 標準原価計算(2)

9. 直接原価計算(1)

10. 直接原価計算(2)

11. 工業会計

12. 線上試験

01 科目名	上級簿記（商業）a・b
98 科目名	上級簿記
97 科目名	上級簿記
担当者	内 倉 滋

#### 講義の目標

企業会計は、しばしば「事業の言語」であると言われる。言葉にはすべて文法があるように、企業会計という1つの言語にも「文法」に相当するもの（＝複式簿記）がある。その基本的な原理の習得者（＝「簿記原理」修得者等）を対象に、複式簿記、とりわけ商業簿記に関するさらに高度の知識・技術の習得を目指した講義を、本講義では行っていく。

#### 講義概要

会計という言葉は、今日では1つの世界共通語である。それゆえその「文法」に相当するもの（＝複式簿記）も、基本的な部分に関してはだいたいにおいて共通的なものである。しかしながら、それを越えた部分、すなわち本講義が対象とすべき部分の中身は、力点の置き方によりかなり変わってくるものと言える。本講義では、その“どこに力点を置くか”の判断に際し、日本商工会議所簿記検定試験の2級商業簿記の出題範囲を、明確に意識していきたいと考えている。

#### テキスト

- 1：現代会計教育研究会編、「簿記練習帳 2級商業簿記」、第3版、多賀出版
- 2：井上達雄他編、「検定簿記講義 2級商業簿記」、中央経済社

#### 参考文献

特に必要とはいたしません。

#### 評価方法

前期：受講生の理解度を知る目的から、しばしば小テストを実施し、そうした平常点を全体の半分程度のウェイトと考え、それに期末試験の結果を加えて評価したい。なおその際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。

後期：前期と同様

#### 受講者への要望

検定試験類に、どしどしチャレンジしてみてください。合格した場合は、平常点に加味いたします。それよりも何よりも、自分の一生の道を見つけ出すことができるかもしれません。

#### 前期授業計画

1. 現金・預金.....銀行勘定調整表に力点を
2. 有価証券.....端数利息の処理に力点を；なお期末評価（時価評価）の問題にも言及
3. 貸倒引当金.....その設定対象債権と設定方法（租税法の取扱いにも言及）
4. 手形.....裏書（割引）に伴う偶発債務の処理に力点を
5. 商品の払出し価格の決定.....総平均法と後入先出法を中心に
6. 商品の期末評価.....各種の評価基準、商品評価損、棚卸減耗費
7. 未着品・委託・受託販売.....荷為替の取組みにも言及
8. 割賦販売.....原則的基準、例外的基準
9. 試用販売・予約販売.....本テーマに関しては、日商1級会計学の過去問も演習
10. 有形固定資産.....買換え、改良と修繕、建設仮勘定、火災未決算、といった問題をを中心に
11. 無形固定資産・投資等・租税.....1年決算法人の法人税の中間申告・納付とその決算時・確定申告時の処理にも言及
12. 前期の総復習

#### 後期授業計画

1. 株式会社会計その1：資本.....授權資本（株式数）、株式発行による流入資金額の会計処理、新株発行の手続き、合併の処理、といった問題をを中心に
2. 株式会社会計その2：利益処分.....個人企業との違い、設例による説明
3. 株式会社会計その3：損失処理.....考え方の基本、設例による説明
4. 株式会社会計その4：繰延資産・社債.....社債関係の2つの繰延資産の処理にも言及
5. 本支店会計その1：基本原理.....支店間取引についての支店分散計算制度と本店集中計算制度の違い、等に力点を
6. 本支店会計その2：本支店財務諸表の合併.....できれば、棚卸減耗に含まれる未実現利益の処理にも言及
7. 特殊仕訳帳.....その機能と記帳の仕方
8. 伝票.....3伝票制度と5伝票制度、仕訳日計表の作成と総勘定元帳への転記
9. 精算表.....株式会社の場合の精算表の特徴点等
10. 損益計算書.....損益計算書の形式についての「企業会計原則」の規定と、それに関する演習
11. 貸借対照表.....貸借対照表の形式についての「企



業会計原則」の規定と、それに関する演習

12．後期の総復習

01 科目名	経営数学 a・b
98 科目名	経営数学
97 科目名	経営数学
担当者	前田 功雄

#### 講義の目標

本講義では線形代数の基礎的事項を解説するが、授業を進めるに当たって基本概念の視覚化を計るためコンピュータを利用する。先ず、前期では、 $n$ 次元実ユークリッド空間の基本概念の導入とそれらの視覚的理解の為にコンピュータ・グラフィックスを利用する。最後の数週間で、経営科学で広く応用をもつ線形計画法の理論と Dantiz によるシンプレックス法の紹介とプログラム実習を行う。

#### 講義概要

本講義では、線形代数の基本事項である空間概念、点、実数、ベクトル、ベクトル空間等について学び、 $n$ 次元空間のコンピュータを用いた視覚的な表現をみる。講義は出来るだけコンピュータを用いて分かりやすくする。コンピュータに対する基礎知識、例えば EXCEL などが必要である。

#### テキスト

必要に応じてプリント配布。

#### 参考文献

授業中に述べる。

#### 評価方法

レポート提出。

#### 受講者への要望

コンピュータに関する科目を履修のこと。

#### 前期授業計画

1. ベクトルとその演算、 $n$ 次元ベクトル空間
2. 内積、距離、距離空間
3. コンピュータ・スクリーンによる表現、直交、平行、直線・平面の方程式
4. 線分と直線のベクトル表現、三角形・平行四辺形の表現
5. 写像と変換、一次変換
6. 一次変換の行列表現
7. 行列について - 定義、和、差、積 -
8. 逆行列の定義
9. 連立方程式の解放 - ガウスの解法 -
10. 連理方程式の解放 - ガウス・サイデルの解法 -
11. 逆行列のコンピュータによる解法

#### 12. 連立方程式のコンピュータによる解法

#### 後期授業計画

1. 計画問題 - 線型計画その 1 -
2. 計画問題 - 線型計画その 2 -
3. 線型計画の解法 - 罰金法 -
4. 線型計画の解法 - コンピュータによる解法 -
5. 線型計画の解法 - シンプレックス法 -
6. 線型計画の解法 - コンピュータによる解法 -
7. 整数線型計画問題について
8. 整数計画問題の例 - ナップザック問題 -
9. ナップザック問題 - コンピュータによる解法 -
10. 線型代数と経済問題
11. レオンチェフの投入算出行列について
12. 後期レポートの作成

01 科目名	
98 科目名	情報検索論
97 科目名	情報検索論
担当者	福田 求

#### 講義の目標

必要な情報を効果的に選択・入手する行為としての情報検索について理解を深める。特に、コンピュータ技術に基づく情報[検索]システムの知識を、解説および実習を通して体得する。

#### 講義概要

本講義ではまず、情報検索に関する基礎的な概念について解説し、情報検索を取り巻くシステムの仕組み（設計／管理／運用方法等）を概観する。そしてその知識を踏まえた上で、実際の情報検索技術に慣れ、習熟するために、CD-ROM による情報検索の実習を行う。次に、情報検索のサービスについて説明し、さらにオンラインの情報検索サービスの実際の利用を通して、情報検索の理解を深める。そして最後に、新たな情報検索の場としてインターネットを取り上げ、これについて実習を行う。実習では可能なかぎり、受講者が今後の調査／研究活動で利用できるような情報源（CD-ROM，オンライン）を紹介する。

#### テキスト

使用しない。

#### 参考文献

適宜指示する。

#### 評価方法

前期：定期試験。これに平常点(実習への参加態度等)を加味する。

後期：定期試験。これに平常点(実習への参加態度等)を加味する。

#### 受講者への要望

受講者の抽選を行うので、第一回の授業には「必ず」出席すること。

#### 前期授業計画

1. オリエンテーション：受講者の確認・決定。年間予定、授業方法等の注意事項について説明。
2. 情報検索概論(1)：情報検索の定義、種類、歴史について解説。
3. 情報検索概論(2)：データベースの定義、意義、構成要素について解説。

4. 情報検索概論(3)：データベースの種類、歴史について解説。
5. 情報検索概論(4)：第7回以降の実習で用いる索引言語について解説。
6. 情報検索概論(5)：第7回以降の実習で用いる検索式について解説。
7. CD-ROM 検索(1)：実習
8. CD-ROM 検索(2)：実習
9. CD-ROM 検索(3)：実習
10. CD-ROM 検索(4)：実習
11. CD-ROM 検索(5)：実習
12. まとめ

#### 後期授業計画

1. オリエンテーション。情報検索サービス(1)：情報検索サービスの定義、意義、歴史、種類について解説。
2. 情報検索サービス(2)：情報検索サービスの利用について解説。
3. オンライン検索(1)：実習
4. オンライン検索(2)：実習
5. オンライン検索(3)：実習
6. オンライン検索(4)：実習
7. 新しい情報検索の動向：インターネットなど新たな情報検索の領域を紹介。
8. インターネットによる情報検索(1)：実習
9. インターネットによる情報検索(2)：実習
10. インターネットによる情報検索(3)：実習
11. インターネットによる情報検索(4)：実習
12. まとめ

01 科目名	
98 科目名	情報システム論
97 科目名	情報システム論
担当者	前田 功雄

#### 講義の目標

情報システムは、今日、コンピュータサイエンス・コンピュータネットワーク・インターネットなどの情報通信技術の応用・企業や社会の中の情報システム利活用という形で進化している。情報システムが有効に利用できるように、その設計思想や理論並びに運用方法を学習する。

講義では、情報システムの実例を通して、情報システム化の技法・ソフトウェアの開発など、具体的には本学の入試事務システムの辿ってきた経路を遡り、その中で生まれた情報管理の技術や方法を学習する。学内の情報管理システムは、すべてこの入試事務の情報化によって始められた。今から四半世紀以上前のことである。

ここでは状態遷移、データフロー、オブジェクト指向、データベース、情報検索、ソフトウェアのライフサイクル、情報システムの設計と管理・運用といった言葉がすべて含まれた生々しい実例をみるであろう。現在のパソコンを使ったSQLなどの設計や運用利用の方法のいくつかを学習する。さらに、情報システム内でのエラー制御の問題を考える〈含む実習〉。最後に、コンピュータネットワークからのSQLなどの取得と情報検索について学習することで、基礎的な知識と応用力を身につけることを目的とする。

#### 講義概要

コンピュータサイエンス・コンピュータネットワーク・インターネットなどの情報通信技術の応用・企業や社会の中の情報システム利活用という概念や理論・方法論の基本的なことを理解することになる。

情報システムの開発・設計・運用並びにDBの具体例として本学の大学入試システムについて解説し、当時（昭和45年頃）DB用のソフトもなかった時代を省みながら、その設計思想、管理・運用を実例として述べる。

既存のソフト（たとえば表計算ソフトやDB専用ソフト）を使ったSQLなどの情報検索システムの開発・運用実習を行う。つぎに、自分の興味あるデ

ータを利用してソフトウェアの開発から運用までの実習を行う。本講義では、これら実習をつうじて情報システムの設計と運用並びに管理について生きた知識をえることを目的とする。

テキスト

未定

評価方法

10 回程度の課題提出による。

受講者への要望

しっかり授業に出ること。

年間授業計画

1. オリエンテーション：受講者の確認・決定。年間予定、授業方法等についての説明。
2. 情報システムの概要と方法論
3. システムの設計と運用－入試データベースのケース
4. 入試データベースのシステムの設計と運用（1）：実習
5. 入試データベースのシステムの設計と運用（2）：実習
6. 入試データベースのシステムの設計と運用（3）：実習
7. 入試データベースと情報検索（1）：実習
8. 入試データベースと情報検索（2）：実習
9. 入試データベースと情報検索（3）：実習
10. SQLなどのソフトウェア利用
11. 前期のまとめ
12. 入試情報システム開発のためのシステム設計と運用の概要
13. 学籍番号と暗号システム
14. 暗号システムの開発・設計・運用（1）：実習
15. 暗号システムの開発・設計・運用（2）：実習
16. 暗号システムの開発・設計・運用（3）：実習
17. 暗号システムの開発・設計・運用（4）：実習
18. 入試情報システムの運用と管理のシステム概要
19. 大学情報システムの事務システム上の入試概要
20. ネットワーク上の入試データシステムの開発と設計（1）：実習
21. ネットワーク上の入試データシステムの開発と設計（2）：実習
22. コンピュータネットワークからの入試情報検索システム（1）：実習
23. コンピュータネットワークからの入試情報検索システム（2）：実習
24. まとめ

01 科目名	コンピュータアーキテクチャ (前期)
98 科目名	
97 科目名	
担当者	前田 功雄

#### 講義の目標

学生の学習生活上、基盤となる知識を提済するために、ハードウェアの基礎・応用とコンピュータの利用形態を学習することを目的に、コンピュータのアーキテクチャを学ぶ。

今日のコンピュータは、性能の差や構造の差はあっても、存在するコンピュータのほとんどがノイマン型と呼ばれる。この形式のコンピュータの中心は、いうまでもなく CPU (中央処理装置) である。この CPU について、具体的に内部構造 (アーキテクチャ) と基本的な動作の仕組みを理解することで、CAD を利用したコンピュータのデザインなども学習することになる。

#### 講義概要

マルチメディア教材の実習を通して、上記講義目的を達成する。CPU について、それを取り巻くハードウェア (内部構成や動作) とソフトウェア (機械語の命令や構成) を学習することは、コンピュータに関連するさまざまな概念の根本を理解することに通じる。コンピュータの本質を理解することも重要である。

#### テキスト

講義の際に指示する。

#### 評価方法

原則として、試験およびレポートを中心に評価する。

#### 半期授業計画

1. 計算機の構成とノイマン型計算機
2. CPU の内部構成 : CPU の組み立てなどの実習
3. 機械語 (命令) を実行する様子 : 実習
4. 機械語 (命令) を実行する様子 : 実習
5. 機械語 (命令) を実行する様子 : 実習
6. 機械語命令の種類と構成 : 実習
7. アドレッシングモード
8. 機械語とアセンブラ : 実習
9. 機械語とアセンブラ : 実習
10. CPU の実行速度 : 測定
11. CPU の設計 : CAD 利用による実習

01 科目名	情報と職業 a
98 科目名	
97 科目名	
担当者	富田 幸弘

12. 望ましい情報化社会とそこに関わる職業人としてのあり方・「情報と職業」のまとめ

講義の目標

情報化社会の急激な進展と、その社会の中で働くということについて学習する。情報を獲得したり、利用したりする職業についての関わり方について学習するとともに、情報に関わる職業人としての勤労観・倫理観などについても学習する。

講義概要

出来るだけ具体的な事例を示しながら、情報化社会とその職業についての関わり、そこでの職業観・勤労観について学習する。

また、社会で利用されている代表的な情報システムを理解し、高度情報化が社会におよぼす影響を認識し、それに対応できる考え方やあり方を学習する。

テキスト

講義に必要なプリントを配布する。

参考文献

必要に応じて紹介する。

評価方法

毎回の簡単なレポートの提出と、グループ研究の発表内容、および、定期試験の結果による。また、出席状況も考慮する。

受講者への要望

高等学校教諭（情報科）の教員免許取得に必要な法定科目であるので、その心構えを持っている学生の参加が望ましい。

半期授業計画

1. 講義の概要・講義の目標・評価などについて
2. 情報化社会の発展とその影響
3. 社会で利用されている情報システムの種類と特性
4. 社会で利用されている情報システムの信頼性と影響
5. 情報開示の実態と保護
6. 情報の収集・発信に伴う問題点と個人の責任
7. 情報化社会の企業・団体とそこで働く人々
8. インターネットを活用して情報社会の現象を収集
9. インターネットで収集した情報の分析と活用
10. グループ代表者による発表と討議（1）
11. グループ代表者による発表と討議（2）

01 科目名	情報と職業b (情報とビジネスモデル)
98 科目名	
97 科目名	
担当者	小林 哲也

#### 講義の目標

現代社会における情報および情報技術の意味と役割を理解し、「情報と職業」に関する基礎的な知識を身につけること。

#### 講義概要

現在、コンピュータとネットワークを融合させた新しい情報技術の波が、世界をおおっている。この情報技術革命ともいわれる事態は、経済の仕組みや企業経営に大きな影響を与えるだけでなく、私たちの生活・職業・教育などのあり方にも大きな変化を迫ってきている。本講義では、1990年代以降の情報技術革命の推移とそのインパクトを、世界経済の構造変化（グローバリゼーション）と企業のビジネスモデルの変化（IT革命）を中心に解説していく。

#### テキスト

特に定めず、適宜講義中に指示する。

#### 参考文献

池田信夫『インターネット資本主義革命』NTT出版

立花隆『インターネットはグローバルブレイン』講談社など

米国商務省『デジタル・エコノミー2000』  
室田康弘編訳、東洋経済新報社

#### 評価方法

出席および定期試験による。

#### 受講者への要望

特になし。

#### 半期授業計画

1. 序論：情報と職業 情報技術革命のインパクト
2. IT革命とグローバリゼーション：世界経済の構造変化 新工業化と新たな格差
3. IT革命と企業経営の変化
4. 日本的経営とIT革命
5. IT革命と企業構造：コーポレートガバナンスの革新
6. IT革命後のビジネス環境：知的所有権ビジネスの発展
7. 実践編：新しいIT空間を体験しよう

8. 新しいビジネスモデルの登場

9. 国境を超えたIT空間 人材開発・モノ作り・流通・マーケティングの国際化情報化

10. 20世紀の工業化・21世紀の工業化：市場化と智場化

11. 勤勉と創造性：グローバル化の中での日本の位置

12. 「智場」社会での職業とビジネスモデル

01 科目名	
98 科目名	オペレーションズ・リサーチ
97 科目名	オペレーションズ・リサーチ
担当者	本田 勝

#### 講義の目標

オペレーションズ・リサーチ(OR)の技法とは、組織(システム)を運営していく際に遭遇する様々な意思決定の問題を、科学的方法によってアプローチし、その解を求め、運用していく技術である。システムと名の付くものは我々の周りには多岐にわたって存在するから、ORの応用される分野も幅広い。この講義では、これらの手法を習得し、経済や経営の問題へどのように適用していくかを実例を通して理解することを目的とする。

#### 講義概要

オペレーションズ・リサーチの基本的な手法について述べていく。線形計画法や輸送問題などの数理計画法の部類に属するものについて述べたあと、ゲーム理論や在庫管理の問題など確率モデルに関するものを続けて述べていく。

#### テキスト

未定

#### 参考文献

講義時にそのつど指示

#### 評価方法

各テーマ毎に課すレポートと毎回の出席調査による総合評価を行う。

#### 受講者への要望

コンピュータを用いた演習を行なうので、「情報処理概論」以上の知識が必要である。また確率的扱いの部分もあるので、「統計学」の知識も必要である。

特に、コンピュータ操作に関してはアシスタントはいない。また毎回の出席は重視するので、いい加減な気持ちで登録しないこと。

#### 前期授業計画

1. ORとは何かについての概観を行う。
2. 線形計画法(LP)の定式化と幾何学的解法について述べる。(決定変数、目的変数、制約条件式、目的関数)
3. シンプレックス法(単体法)の考え方について述べる。(スラック変数、基底解、実行可能解)
4. 単体表による変換のアルゴリズムについて述べる。

(ピボット、人工変数、2段階シンプレックス法)

5. パソコンによる演習を行う。
6. LPの双対性、双対問題について述べる。(双対定理)
7. パソコンによる演習を行う。双対問題の経済的解釈について述べる。
8. LPの感度分析について述べ、パソコンによる演習を行なう。
9. 輸送問題とLPとの関連について述べる。
10. 輸送問題の解法について述べる。(ポテンシャル法、解の退化、-摂動法)
11. 輸送問題のパソコンによる演習を行う。
12. LPおよび輸送問題について総合的演習を行う。

#### 後期授業計画

1. AHP(ゲーム感覚意思決定法)とは。一対比較と重みの計算法について述べる。
2. パソコンによる演習を行う。総合評価値と整合性について述べる。
3. 整合性を含めたパソコンによる演習を行う。
4. 動的計画法(DP)の考え方について述べる。(多段階決定法、最適性の原理)
5. DPのいろいろの応用例を述べる。(資源配分問題、最短経路問題、Knapsack問題)
6. DPのパソコンによる演習を行う。
7. PERTについて述べる。(ネットワーク、クリティカル・パス)
8. PERTとCPMの違いについて述べ、パソコンによる演習を行う。PERTの確率的評価について述べる。(3点推定)
9. 在庫管理の考え方について述べる。(発注点、発注量、調達期間、安全在庫)
10. 在庫管理の考え方について述べる。(定期発注法定量発注法)
11. 在庫管理のパソコン・モデルによる演習を行う。
12. 一年間の総まとめをおこなう。



01 科目名	
98 科目名	システムズ・エンジニアリング
97 科目名	システムズ・エンジニアリング
担当者	天 笠 美知夫

#### 講義の目標

経営・経済システムや社会システムなどの大規模・複雑で、かつ唆味性をもつシステムの本質を把握し、設計・開発するにあたり、主要な学問であるシステムズ・エンジニアリングの役割と具体的な方法論、ならびに情報システムとその効果的な活用法について理解と意識を深めることを目的とする。

#### 講義概要

本講義は概ね次に示す6つの部分から構成される。

システムズ・エンジニアリングの基本概念 システムズエンジニアリング方法論 情報システムの活用 統計的な手法による構造化と SPSS による事例演習（データベース、情報検索システムの活用）システムの評価と意思決定 スケジューリングや予測における情報システムの活用  
尚、前後期を通して、理論を実証する意味で適宜情報システムを活用しながら事例演習を行い、その報告書を作成させる。本講義を受講するために前提となる必修科目はない。

#### テキスト

授業開始前に各章ごとに資料を配布する。

#### 参考文献

- ・天笠美知夫『システム構成論』森山書店 1986
- ・寺野寿郎『システム工学入門』共立出版 1985
- ・天笠美知夫編著『情報処理の基礎』朝倉書店 1991
- ・Wayne C Turner et. al.; *Introduction to Industrial and Systems Engineering*, Prentice-Hall 1978

#### 評価方法

成績評価は、情報システムの活用や事例演習、およびレポートと出席ならびに期末試験の結果を考慮して総合的に決定する。

#### 受講者への要望

授業に出席し、積極的に質疑応答して欲しい。

#### 前期授業計画

1. オリエンテーション：受講者の確認・決定 年間予定、授業方法等の注意事項についての説明

2. システムズエンジニアリングの基本概念（1）：システムズエンジニアリングの発達とその背景、システムの定義と特徴、システム思考
3. システムズエンジニアリングの基本概念（2）：システム環境、サブシステム、システムの巨視的特性、自然システムと人工システム
4. システムズエンジニアリング方法論（1）：問題の設定、目標の設定、システム合成、システム解析、システムの評価と選定
5. システムズエンジニアリング方法論（2）：システム開発の手順と組織
6. システムズエンジニアリング方法論（3）：問題の発見とシステムの構造化
7. システムズエンジニアリング方法論（4）：構造モデルとグラフ理論
8. 情報システムの活用（1）：ISM法
9. 情報システムの活用（2）：FSM法
10. 情報システムの活用（3）：KJ法
11. 情報システムの総合設計実習（1）
12. 情報システムの総合設計実習（2）

#### 後期授業計画

1. 統計的手法による構造化（その1）
2. 統計的手法による構造化（その2）
3. 統計計算ソフトSPSSによる事例演習1（データベース、情報検索システム活用）
4. 統計計算ソフトSPSSによる事例演習2（データベース、情報検索システム活用）
5. システムの評価と意思決定（1）：評価の基礎、価値と評価、効用理論（その1）
6. システムの評価と意思決定（2）：価値と評価、効用理論（その2）
7. 統計的手法による数量化、数量化理論（その1）
8. 統計的手法による数量化、数量化理論（その2）
9. スケジューリング：PERT, CPM
10. 予測：デルファイ法とファジィデルファイ法
11. 情報システムの活用（スケジューリング問題）
12. 情報システムの活用（予測問題）

01 科目名	
98 科目名	管理工学
97 科目名	管理工学
担当者	日下 泰夫

#### 講義の目標

経営を取り巻く外部環境が激しく変化するなかで、管理工学（経営システム工学）は今大きく変貌しつつある。時代の潮流を的確につかみ、何が大切かを明確に認識し、問題解決・意思決定能力を高めることが、今ほど要求されている時代はない。本講義は、管理工学を初めて学ぶ人を対象にその体系の理解と、実社会で役立つ考え方と技法の修得をはかることを目的としている。文科系の皆さんが理解できるように、出来るだけ具体的、平易な説明を心がけたい。

#### 講義概要

前期は、外部環境変化と経営システムの課題、管理工学の役割と概念などの基本的な内容を説明し、併せて、企業活動における最近の動向を紹介する。ついで、問題解決・意思決定における諸技法のうち、現場における品質管理（QC）技法、オペレーションズ・リサーチ（OR）の最適化技法を概説する。後期は、経済的な意思決定技法 経済性工学（EE）と、定性的・多目標的かつ実践的な意思決定技法 階層分析法（AHP）を取りあげる。これらの諸技法の理解を前提に、問題解決法を構造的に把握し管理工学の役割を考察する。最後に、情報化時代と管理工学、21世紀の管理工学像についての見解を述べる。プレゼンテーション、表計算、最適化、シミュレーションなどでパソコンを用いたデモンストレーションや演習・実習を行う。また、最新の経営トピックスも紹介する。

#### テキスト

日下泰夫：「経営工学概論」、中央経済社、1997。

#### 参考文献

開講時に紹介する。

#### 評価方法

前・後期末に実施する計2回の試験を中心に、出席状況、レポートなどを加味して評価する。

#### 前期授業計画

##### 外部環境変化と管理工学

1. オープンシステムと経営、外部環境変化と経営の課題、管理工学の役割、管理工学の概念

2. 企業活動の諸側面：生産過程的・管理過程的・管理特性的・経営資源的諸側面、経営活動の立体構造による把握
3. 企業活動の新動向 その1：情報ネットワーク サプライチェーン・マネジメント（SCM）
4. 企業活動の新動向 その2：環境保全 自動車産業における環境経営
5. 意思決定、管理工学とは

##### 管理工学における典型的な問題解決技法

6. 問題解決技法の外観、品質管理の問題解決技法 パレート図と層別
7. モデルの例、モデルとは、数式モデル、定式化
8. 在庫管理モデルの定式化、最適化とシミュレーション
9. OR 技法 線形計画法（LP）その1：線形計画問題とは、単体法（アルゴリズム）の基本的考え方
10. OR 技法 線形計画法（LP）その2：単体法の幾何学的解釈（グラフによる解法）、表計算ソフトによる解法
11. OR 技法 動的計画法（DP）その1：多段決定問題、最適性の原理、定式化
12. OR 技法 動的計画法（DP）その2：手計算による解法、プログラミングによる解法と感度分析

#### 後期授業計画

##### 管理工学における典型的な問題解決技法

1. 経済性工学（EE）その1：経済性工学の説明、投資分析の基礎手法 - 利子率を用いた時間換算の諸公式 -
2. 経済性工学（EE）その2：投資分析の基礎手法 - 利子率を用いた時間換算の諸公式 -
3. 経済性工学（EE）その3：住宅ローンと設備投資問題における経済的意思決定
4. 階層分析法（AHP）その1：階層分析法の概念と技法の説明
5. 階層分析法（AHP）その2：自動車の購入、海外旅行先の選択問題における意思決定
6. 階層分析法（AHP）その3：表計算ソフトを用いたグラフ化と結果の考察

##### 問題解決法と管理工学

7. 問題解決法の重要性、外部環境変化とパラダイムの役割、従来の問題解決法の概要と特徴
8. 問題解決の構造的な分析、問題解決法の考え方と管理工学の役割

##### 情報化・創造化時代と管理工学

9. 情報・情報化・創造化時代とは、意思決定と情報創造

10. 情報ネットワーク時代におけるビジネスモデル
11. 情報化・創造化時代における管理工学の役割、文科系出身者の役割
12. 21世紀の管理工学：問題解決能力の向上をめざした教育への取り組み  
管理工学を学ぶ人へのメッセージ

01 科目名	
98 科目名	
97 科目名	国 際 法
担当者	廣 部 和 也

#### 講義の目標

国際社会の法である国際法の基礎的知識及び国際社会において法がどのように機能しているかを学ぶ。

#### 講義概要

国際法の全般を学ぶ予定であるが、1年間ですべてをカバーすることは無理があり、基礎理論、及び現在国際関係法で実際に問題となっているようなことが中心となる。

#### テキスト

- (1) 導入対話による国際法講義 (広部和也・荒木教夫著)(不磨書房)
- (2) 解説条約集・第9版 (石本泰雄・小田滋編) (三省堂)

#### 評価方法

試験による。(中間試験を行う予定である)

#### 受講者への要望

関心を持って学ぶこと

#### 年間授業計画

1. 講義全般に関する注意。
  - ・ 国際法の意義・国際法主体 (国家、国際組織、個人)
2. 国際法の歴史 (国際法はどのように成立し、どのように発展してきたか。)
3. 国際法の法源 (国際法はどのような形で存在するか、それは、また、どのように形成されるか。)
4. 国際法と国内法 (両者の法はどのように異なり、どのような関係にあるのか。)
5. 国家の成立 (国際法上、国家とはどのように定義され、どのようにして国際法上の存在となるのか。)
6. 国家の基本権 (国際法上、国家はどのような権利を持つのか。特にその基本となる主権を中心にその権利がどう行使されるか。)
7. 外交使節 (国家は対外関係をどのように維持するか。外交官及び領事の地位、特権免除)
8. 国家責任 (国際法上の違法行為と国家の責任、損害賠償などの責任の解除)
9. 国際社会の組織化 1 (国際組織とは何か。その形成過程、どのような国際組織があるか。)

10. 国際社会の組織化 2 (国際連合を基本に表決制度や決議の効力がどのようにになっているのか。)
11. 個人の地位 (国籍、外交保護権、など)
12. 人権の国際的保護 (世界人権規約や国際人権規約などによる基本的人権の保護とその保障措置)
13. 国際犯罪 (個人の国際犯罪とその処罰、犯罪人引渡し制度)
14. 国家領域 1 (国家領域とはどのように構成され、国家はどのように取得するか。)
15. 国家領域 2 (領海制度と無害通航権)
16. 公海制度と船舶の通航 (公海、船舶の地位、海域その他の船舶の取締り)
17. 大陸棚、排他的経済水域 (大陸棚や排他的経済水域とはどのようなものか。)
18. 深海底 (深海底とその資源の法的地位及び開発)
19. 航空機の地位 (航空機の地位及び国際的飛行はどのように行なわれるか。)
20. 宇宙法 (宇宙の法的地位、宇宙開発、人工衛星の地位)
21. 国際環境の保護 (人間環境宣言を初めとする国際的環境問題の法的側面)
22. 国際紛争の平和的解決 (国際紛争の解決方法にはどのような方法あるのか)
23. 国際裁判 (国際仲裁裁判と国際司法裁判)
24. 安全保障制度 (国連による集団安全保障体制)

01 科目名	情報社会論 a・b
98 科目名	
97 科目名	
担当者	柴 崎 信 三

#### 講義の目標

現代社会が情報の働きでどのような秩序の変化や価値を体験しているかを、情報の歴史や情報産業の現場の具体的な例証をもとに考察し、多様な情報機能の検証によって高度情報社会における人間と社会のかかわりを問う。情報の取り扱いにおける私益と公共性、デジタルデバイド（情報格差）や倫理問題など、IT（情報技術）革命のもとの送り手と受け手の両面にわたる情報の功罪を考察することで、新たな市民社会を指導する人材の基盤形成をはかる。

#### 講義概要

情報社会の形成を歴史的にたどるとともに、活字、映像、電波、コンピューターなどメディアの多様な広がりをもたらした文化の広がりや混乱をさまざまな角度から問い直す。通信ツールの独占と自由化を巡る葛藤、報道の自由と人権のかかわり、著作権思想の変容、オリジナリティーとコピーの問題、情報公開法と個人情報保護など、矛盾をはらんだ情報社会のありようを問うなかで、民主主義と市場経済の根幹というべき情報の流れの秩序を探る。

#### テキスト

特に指定せず、各種メディアの記事、論説、報告、番組をそのときどきに応じて教材とする。

#### 参考文献

『新メディア社会の誕生』（日本経済新聞社編、同社）

『情報社会という神話』（ジョアンナ・ヌーマン、柏書房）

#### 評価方法

定期試験に出席状況を加味して判定する

#### 受講者への要望

情報社会の動向に常に興味を持ち、新しい社会の流れに創造的に参加しようとする意欲や態度を持って受講することを希望する。

#### 前期授業計画

1. 序論 情報社会の意味
2. 情報独占と市場 その1（米国新通信法とNTT問題など）

3. 情報独占と市場 その2
4. 情報独占と市場 その3
5. 情報独占と市場 その4
6. 情報と公共性 その1（マスメディアの代理人機能はどこへ）
7. 情報と公共性 その2
8. 情報と公共性 その3
9. 情報と公共性 その4
10. 著作権の変容 その1（IT、電子商取引に対応した新著作権思想）
11. 著作権の変容 その2
12. 著作権の変容 その3
13. 著作権の変容 その4

#### 後期授業計画

1. オリジナリティーの神話 その1（コピーは文化か）
2. オリジナリティーの神話 その2
3. オリジナリティーの神話 その3
4. オリジナリティーの神話 その4
5. 情報を巡る自由と倫理 その1（表現の自由と人権、名誉毀損など）
6. 情報を巡る自由と倫理 その2
7. 情報を巡る自由と倫理 その3
8. 情報を巡る自由と倫理 その4
9. メディアの揺らぎ その1（客観報道からメール暴力まで）
10. メディアの揺らぎ その2
11. メディアの揺らぎ その3
12. まとめ

01 科目名	コンピュータネットワーク（後期）
98 科目名	
97 科目名	
担当者	富澤儀一

#### 講義の目標

ここでは情報ネットワークについて、インターネットと特定範囲のネットワーク、LAN（ローカル・エリア・ネットワーク）や VAN（付加価値情報ネットワーク）、POS（販売時点情報管理）システムなどのネットワークの種類、伝送の手段と接続方式などを取り上げ、その特性やコミュニケーションと情報処理について学習する。

#### 講義概要

上記の講義目的を達成するには、LAN や WAN の接続形態や利用実態を学習する上で、施設見学などを行う。インターネット/イントラネットの能力・利点・制限などを含め、グローバルスタンダードなネットワーキングについて学習する。

#### テキスト

小野著『コンピュータ通信』オーム社

#### 評価方法

原則として、試験およびレポートを中心に評価する。

#### 後期授業計画

1. 情報理論の基礎
2. コンピュータネットワークの目的と構成
3. コンピュータネットワークの基本技術：交換方式・パケット交換・回線交換
4. ネットワークアーキテクチャとプロトコル：国際標準化と OSI 参照モデル
5. ネットワークの種類：LAN・VAN・POS などの定義、要件・構成要素・特性
6. LAN・VAN の基本概念
7. LAN の構築とその構成：通信回線サービス（専用回線・ISDN など）
8. VAN の構築とその構成：ネットワーク設計概念（専用回線・ISDN など）
9. WAN の構築とその構成：ネットワーク分析・設計など
10. 施設見学
11. 施設見学
12. 施設見学